4,000.-

昭和二年六月廿五日印刷
昭和二年七月五日發行

全五巻
定價 四拾圓

惠心僧都全集
第壹巻

編纂 比叡山專修院
同 叡山學院
滋賀縣滋賀郡坂本村大字坂本千七百十八番地

發行人 柿花仁之助
大阪市東成區舍利寺町六番地ノ一

印刷人 田中伊三郎
大阪市北區天神橋筋六丁目三拾七番地

印刷所 貫文印刷株式會社
大阪市北區天神橋筋六丁目三拾七番地

發行所 比叡山圖書刊行所
滋賀縣滋賀郡坂本村大字坂本千六百七十三番地
振替大阪七五九九五番

元祿六癸酉歳仲春中院寫之　東西軒

原本　稱名庵藏寫本全一卷

僧都綸詞傳卷上に曰く、二十五三昧の過去帳は、長和二年七月十八日より記しはじめられて、結衆の人命終せらるれば、その人の名を記し、一期の行狀をも記し留られたる過去帳なりしを、惜むべし、いまは殘缺して全本を得ざる事こそ遺憾なれ。

首楞嚴院二十五三昧結縁過去帳　終

都無他念。父母之使。日日到來。隨宜報之。命終之日。早且使來。爲彼示云。雖存孝志。命既不堪。當生淨土。奉報恩德。云云其後高聲念佛。傍有祈病之人。病者以手推去。傍有念佛之人。彼又以手引寄。（尋常時。相語伴人云。我身若受病。朋友得意。必祈息災歟。上人爲我偏勸念佛。故以彼人爲最後之善友也。）即告看病云。早可擊磬。云云仍即擊之。其音不高。病者云。磬音應高。云云即大擊磬。其時病者頭北面西。右脇而臥。合掌對佛。高聲唱南無阿彌陀佛。看病相共。加聲十許反了。云云可停念佛。云云停念佛聲了。合掌無聲。瞻仰佛像。寂而命終。凡其病中。氣色用意。勇猛堅固之相。更非世間之人。看病諸人。悲喜交至。流涕戀慕。其命終時。源信僧都爲彼亡者被修諷誦。其願文云。爲令繫念尊靈。得値遇大善知識。所請如件。云云即被示本意。云云我披善財童子善知識之文。知善和識。爲大因緣。今憐忽赴冥路。無伴獨行。故欲令彼値大善知識。云云其後有人夢云。遇善知識。不迷於道。我名爲適意菩薩。云云此似被彼一念之引攝接也。又經數日。尋得平生隨身書卷。其中有血佛血經。其外題云。南無十方三世諸如來。命終決定往生極樂。云云見者悲泣。感其深意。即彼遺骸上。立一率堵婆。奉安置件佛經也。噫年少用心。尙以如此。何戴頭上之霜雪。强求眼前之榮花乎。

多病死人恐寫倒合作病死人多

緣衆跡也。東方一路。唯有一跡。是餘跡也。云云此夢雖不云相助往生。彼死去後。即有此夢。仍於此記之。

花山法皇　寛弘五年二月八日崩御生年四十一

捨金輪位。作沙門形。忝以至尊之容質。暫爲一結之等侶。彼時結衆。擇一勝地。各立率都婆。以占墳墓之處。降綸旨云。現世昇沈。上下雖隔。菩提依正。彼此何異。我與汝等。欲同事矣。即依宣旨。廿五中心立御願率都婆了。今依遺詔。以御骨奉安置彼處也。爰仙骨俗骨。共契東山之暮雲。聖靈凡聖。同期西方之曉月。御願之旨。深以隨喜。抑聖靈歸花城而遷化。御臨終事難知。和光同塵。形迹不定。示善現惡。凡情叵測。大權方便。不可輕議者也。

良範大德　長保三年五月十四日命終生年二十

齡少壯。容貌端正。心性柔和。不逆師友。由此自有　世有疫難。多病死人。見此無常。偸發道心。閑居念佛。　即以隨身珍玩之物。奉供養件佛經了。受病之後。都不惜。

深病自只求早死。即云早生極樂。當度衆生。何惜身命。逗留苦界。云云仍偏念佛。

能救二字恐合有時下

當問。云云又自餘事。隨問示之。能伺其最後。以軟語問之。云云然人不知其時。誰問要事乎。爲人爲法。悲歎無極。爰僧都弟子能救。年來居住近江國甲可郡石倉寺。去年十月到來。陳云。年齡老邁。不能行步奉拜大師。是最後也。陳了。即歸。其後僧都送書云。明年春夏間。欲必相會。云云而自然有障難。遂本意之間。去六月十日寅時。夢見能救到僧都室。僧都欲遠行。其路左右。諸僧陳列。有四童子。形服甚美。左右相哉。列僧而立。大途似横川迎講儀式。僧都示云。以小童爲先。以大童爲次。云云依命調立已了。向西步行。能救夢中思惟。從地步行。此事恠哉。即時漸上。履空而行。口唱云。超度三界。超度三界。再三唱之。向西而去。夢覺已後。語僧法救尼賢妙等了。彼此共云。僧都入滅歟。十八日横川僧壽算來著。即問其由。答今月十日人滅已了。夢想有實。諸人驚感。又有一僧。與僧都有師弟之契。入滅後。欲知生處。數月祈念。夢見僧都。問云生極樂乎。答可言生。亦可言不生。問何故云爾。答纔免苦故云爾。問此言不明。實往生歟。答然。問既遂本意。爲大喜乎。答最爲大喜。問若既得生。何故前云亦可言不生乎。答 聖衆雲集。圍繞佛時。我在最外。故亦言不生也。又問自事云。我可生淨土不。答不可生。問有何過。不可生。答汝怠慢也。問終不可生乎。答汝雖怠慢。有成佛願。此事善哉。譬如有人禁固深屋。若有

陀佛下繪傳有觀音勢至諸菩薩清淨大海衆十二字

非常。既免寂後之苦痛。心是明了。不亂臨終之正念。因茲再三語人云。十五惡死既免了。是久所祈也。免十五惡死。得十五善生。出千手經文。持此呪。備祈此事。故云爾 從六月二日。令不受飲食。同五日示云。夢見一僧來。傍有人問云。此僧何人乎。僧答云。我來欲令正念也。云云 是臨終之相歟。云云 同九日早旦。以縷著彌陀佛手。自執其末。從法門中撰出二偈。自誦教人誦云。清淨慈門刹塵數。共生如來一妙相。一一諸相莫不然。是故見者無厭足。又誦云。面善圓淨如滿月。威光猶如千日月。聲如天鼓俱翅羅。故我頂禮彌陀佛。又唱云。南無西方極樂世界。微妙淨土。大慈大悲阿彌陀佛。云云 然後禮佛。以縷置佛前了。次自食如常。又勸人令食了。問云。見我氣色。免十五惡死不。人人答云。身無苦痛。容顏如常。無惡死相。即示之然也。次掃除住處之塵穢。洗淨身衣之垢染觸事。似有用心。同十日朝。飲食如常。即拔鼻毛。淨身口了。執佛手縷。念佛然後如眠。給使之人。雖在其側。只謂休息。都無用意。良久無音。仍尋見之。頭北面西。右脇而臥。入滅已了。面色稍美。容顏似咲。手執佛縷。幷念珠。兩手相合少參差也。日來數誡門弟云。我臨終時。可問要事。生善惡起。如實示之。又九日偷示親昵僧云。我有所見。不語於人。年少僧等。數類來坐。或三人爲一類。或五人爲一類。容貌端正。衣服美麗。如此等事。閉目則見。若具言之。恐似狂言。最後

乏以浮盃未審

明義理恐剰

習右脇原作右習脇今依繪傳改之

勤身意。恒念西方。王上之師友。臣下之歸依。一方之三寶興隆。全由巨力。余恨无羽翼。乏以浮盃。但望日邊。遙相瞻羨。已上兩朝佛法。前代未聞。誠是傳灯之師。豈非如來之使。又往年有人偷問云。和上智行。世無等倫。所修行法。以何爲宗。答念佛爲宗。又問諸行之中。以理爲勝。念佛之時。觀法身不。答只唱名號。又問何不觀理。答往生之業。稱名可足。本存此念。故不觀理。但欲觀之。亦不爲難。我觀理時。心明通達。无有障碍。云云見其意氣。所解似深。今靜念之。一念實相。萬緣遮心。誰觀理時。明了無碍乎。是末代希有之事也。蛇能知蛇足。智者自可知。抑僧都心無諂誑。言不過實。故仰信之。又有時問云。和上何意不學眞言。答性非聰敏。亦專念佛。故難兼功。雖不爲業非不貴也。迦樓羅法門之喩。深以信歸。又久持千手陀羅尼。後更加尊勝陀羅尼。滅罪之計。只於斯。云云又近臨終。有人問回明義理。僧都示云。我本業在決擇。志學如此法門誤事也。不可問之。速疾成佛道。不如我宗教門。不深修學。追悔無益。云云先哲一言。後人知之。從去長和年中。受病不堪起居。然猶正念不亂。念佛不退。身分逐日枯竭。智力逐日增長。比及寬仁元年正月中旬。種種苦痛。皆悉平癒。但久習右脇。都不餘臥。多年雖在病床。攝身令不自恣。故五躰曲向右。不得餘威儀。凡厥身躰有而若亡。唯有赤心堅固不動也。身雖

(原)私云長和二年僧都七十二歲也四年過寬仁元年六月七十六歲示寂

以恙商人未審

有所得物。撰貴贈母。母泣報云。所送之物。雖非不喜。遁世修道。我所願也。即隨母言。永絕萬緣。隱居山谷。修淨土業。長和二年正月一日。所著願文云。生前所修行法。今畧錄之。念佛二十俱胝遍。奉讀大乘經。五萬五千五百卷。法花經八千卷阿彌陀經一萬卷般若經三千餘卷等也。奉念大咒百萬反。千手咒七十萬遍。尊勝咒三十萬反。幷彌陀。不動。光明。佛眼等咒少少也。云云 其後所作。亦有別記。此外又有一卷十餘紙書記。一生所作善根。其中或造佛像。或書經卷。或行布施。或助他善。如此大小事理。種種功德。不能具記。又念佛餘暇。所撰法門。有數部數十卷。往生要集三卷。一乘要決三卷。大乘對俱舍抄十四卷。因明四相違疏注釋三卷。同義斷纂要注釋一卷等也。具在別錄。件法門當朝盛用之。亦多送大宋。寂照上人。前三河守入道名也 從宋送書云。往生要集。現在國淸寺。弘之。敎主宗昱。相逢示之。又遣雙林迪和尚一封牋付便李送了。又義目一卷。逢天台有識。令決了。追可獻。又遣法相宗因明等。從五臺能歸。相訪其人。可傳付之。云云 又行迪和尚送書云。大宋國婺州雲黃山七佛道場。住持沙門。行迪書附日本國天台首楞嚴修西方淨土淨業源信大師侍者。行迪自己丑去歲。於當府楊都綱處。傾得大師製作往生要集一部三卷。披閱先美義味衍廣。以恙商人。心皎秋月。行潔氷霜。承佛記於像末。宏敎乘於遠邦。軌範法門。提携四衆。精

首楞嚴院廿五三昧結緣過去帳

長和二年七月十八日始記

前權少僧都源信

寛仁元年六月十日入滅生年七十六

僧都本是大和國葛木下郡人也。父占部正親。母清原氏。家有一男四女。父雖無道心。性甚質直也。母是善女。有大道心。出家入道修西方業。有時夢見我五子中。一男三女。天人來下。迎接而去。云云覺後解云。此四子。俱可成聖人。云云其三女同出家入道。欣求淨土。第一女臨終正念。念佛命終。第二女命終之時。異香滿室。第三女現在是極善人也。書寫法華經。恭敬頂戴矣。河內國有一尼。往年借之。時時拜見。所住草菴。遭火燒亡。隨身資具。皆成灰燼。唯此經一部在灰中獨存。彼一男者。僧都是也。其母求子。祈請郡內靈驗伽藍。高尾寺觀音。夢見有住持僧。以一珠與之。云云不久懷姙。即生男子。少年修年三齋戒之間。於彼高尾寺。夢見堂中有藏。其中有種種鏡。或大或小。或明或暗。爰有一僧。取一小暗鏡與之。少兒陳云。此小暗鏡。中何用乎。欲得彼大明鏡。云云僧答云。彼非汝分。汝分是也。持至橫川。可加磨瑩。云云于時。不知橫川是何處也。後有事緣。自來於此出家受戒。住山修學。學業既成。爲佛道英雄。論義決擇。世稱絕倫。時赴公請。

二十五三昧根本結緣衆過去帳 終

沙彌華如　　法眼淸圓
法橋定隆　　僧有眞
比丘尼観性　　權少僧都維眞
僧善如　　比丘尼法如
比丘尼淨戒　　僧範全
沙彌淨救　　比丘尼善也
僧增淳　　阿闍梨俊遍
權少僧都観祐　　僧道圓
阿闍梨宗慶　　僧淨照

延寶九辛酉歲秋八月下絃月於般若谷學窓以飯室谷山本房惠照所持
之古本令書寫之
　良嶽横川都率谷　雞頭陀圓朗

原本　近江比叡山大林院今出川氏所藏藏本

法眼祐增

小野赤子丸

比丘尼戒法

阿闍梨賴圓

小野鶴王丸

僧信範

比丘尼戒心

沙彌聖緣

比丘尼沙阿

比丘尼性阿

比丘尼善戒

沙彌行佛

比丘尼善戒

比丘尼性善

法印實言

小野氏女

權律師重祐

沙彌性忍

沙彌戒緣

比丘尼助阿

比丘尼善阿

沙彌順意

比丘尼善阿

法印仲舉

法眼尊嚴

比丘尼蓮阿

法眼信玄

比丘尼淸淨

沙彌觀實
沙彌定蓮
沙彌行宗
小野貞淸
沙彌行意
小野氏女
沙彌蓮性
比丘尼性善
小野若王丸
紀氏女
小野鶴夜及丸
僧維惠
比丘尼印阿
比丘尼蓮心

比丘尼心妙
比丘尼◇◇
小野貞◇
沙彌宗圓
沙彌行緣
小野氏女
比丘尼蓮念
比丘尼如性
紀氏女
紀氏女
沙彌玄惠
沙彌蓮法
藤原末貞
比丘尼圓法

相助大德
花山禪定法皇
惠心院前權少僧都源信
妙空大德
明會(クワイ)大德
道朝大德
念照大德
良範大德
聖金(シヤウキン)阿闍梨
康審大德
盛源大德
文永座主前大僧正御房
法印圓遍
法印信增

巳上[二十五人イ]根本結衆[發起衆イ]
花山前權大僧都嚴久
橐源大德
住好大德
明普阿闍梨
良運阿闍梨
良陳阿闍梨
仁讃大德
禪珍大德
仁宗大德
巳上[最初イ]根本結緣衆
永仁座主前大僧正御房
權少僧都賢圓
法橋仁玄

二十五三昧根本結緣衆過去帳

禪滿大德
祥連大德
仁尋大德
仁靜大德
亘熙大德
康諫(謙イ)大德
嚴功大德
源純大德
信厚大德
梵照阿闍梨
盛晨大德
嚴誓大德

元凱大德
仁澍大德
明善大德
戒緣大德
神勢大德
法運(蓮イ)大德
嚴連(運イ)大德
圓孝大德
都率前權少僧都覺超
貞久大德
清榮大德
法源大德

原本　慶應二丙寅年六月刻成沂本全一冊

對校本

一本　天台霞標所錄。註云宗淵僧都所藏之本。作無邊晋乃尺八波四無段一如乃調奈利。本按。無邊身者。地藏菩薩異名也。本願經云於睡夢中具見地藏菩薩現無邊身於是人處授灌頂水。

二十五菩薩和讃　終

無邊身等の二句に付一本下記の註あり

日照王の羯鼓は　四土寂光ごうち鳴す
三昧王の天華は　虚空海會に散亂す
定自在王の太鼓は　平等大會のひゞきあり
大自在王の華幢は　畢竟空ごさしそびゆ
白象王の寶幢は　第一義天に翻へす
大威德王の曼珠には　無漏說法圓なり
無邊身の燒香は　如來に供養し奉る
たゞねがはくば彌陀如來　弘誓の中の我等なり
五濁悪世につみふかし　あはれ超世の悲願にて
臨終正念親たり　來迎引接なし給へ
其佛本願力　聞名欲往生
皆悉到彼國　自致不退轉

獅子吼菩薩の亂拍子　下化衆生を踏たまふ
陀羅尼菩薩の舞の袖　上求菩提をすゝむなり
虚空藏の腰鼓　能滿福智のおごと高し
德藏菩薩の笙の音　十八不共のひゞきあり
寶藏菩薩の笛の聲　三解脫門の風すゞし
金藏菩薩の箏の琴　三十七尊顯現す
金剛藏のことの絃　十界一如さひゞくなり
光明王の琵琶の撥　無明のまよひを驚かす
山海慧の箜篌の緒　寂靜眞如の理を示す
華嚴王の鉦のおと　唯心法界澄わたる
衆寶王の撃鐃は　一佛乘を讃嘆す
月光王のふりつゞみ　十方世界を響かせり

普賢等の二句一本藥上等の二句の下にあり

は一作にはに作る

二十五菩薩和讃

叡山横川惠心僧都御作

歸命頂禮極樂の　五々の菩薩の御ちかひ
念佛受持のともがらを　臨命終に至てぞ
音樂異香の瑞をなし　むかへ給ぞ賴もしや
觀音薩埵の蓮臺は　我等衆生を乘給ふ
勢至菩薩の合掌は　定慧不二の表示なり
普賢菩薩の幡蓋は　恒順衆生と指掛る
藥王菩薩の幢旛は　不老不死と翻がへす
藥上菩薩の玉旛は　住行向地の階位あり
法自在王の華鬘は　攝取不捨の功德あり

來迎和讚終

大悲の誓願あやまたず　來迎引接たれたまへ
ねがはくば此功德を　普く衆生に施して
同じく心をおこしつゝ、安樂國に往生せむ

回向

願以此功德　平等施一切
同發菩提心　往生安樂國

原本　文政十二年龍集已丑六月刻成折本全一冊

對校本

イ本　淨業和讃所錄

ロ本　天台霞標所錄

編者曰。昔波大悲乃利益半以下二十四句。別行而稱名二大悲利益和讃一。繁重故今不二別出一。

ねがはくば等の四句イ本になし

回向文ロ本上來功德回施法界自他平等滅罪生善臨命終時面見彼佛共生極樂速証菩提の四字八句の偈に作る

すなはち乃至安養淨土の四句イ本に無し

しかるに乃至利益の十二句イ本に無し、但し「わが身は業障重くして戒光きえて暗ふかし。佛日はるかに照さずば。彌々長夜に迷はまし」の四句あり

意ロ本心に作る

願くはイ本觀音の下にあり又この一句彌陀觀音大勢至に作るものありと註せり

憫念イ本照見に作りロ本愍念に作る

輪廻生死のふるき里　このときながくへだゝりぬ
すなはち金蓮臺にのり　佛のうしろに隨ひて
須臾の間をふる程に　安養淨土に往生す
むかしは大悲の利益を　纔に傳へてきゝしかど
今は彌陀の引接を　心のまゝにかうぶれり
しかるに彌陀の淨土は　快樂不退の所にて
壽命も無量に長ければ　樂みつくる事ぞなき
三十二相そなはりて　莊嚴端正殊妙なり
六通三明さとりゐて　意のごとく自在なり
上は有頂の雲のうへ　下は無間の底までも
苦海の群類ことごとく　利益あまねく施せり
願くは彌陀觀世音　行者の誓ひを憫念し

棚引ロ本靉靆に作る
立廻ロ本起旋に作る
遂ロ本終に作る

みゝにきこゆる法の聲　歡喜の心いくばくぞ
すなはち紫雲棚引て　柴の戸ぼそに立廻り
恒沙の衆會諸共に　前後左右におり給ふ
庵の上には諸化佛　星をつらねて影向し
苔の庭には諸聖衆　光を並べて長跪せり
伎樂の菩薩も此時に　踊躍歡喜やすからず
糸竹のしらべ雲を分け　徘徊よそほひ地を照す
ときに大悲觀世音　やうやくあゆみちかづきて
紫磨金の身をまげて　蓮臺かたぶけよせ給ふ
次に勢至大薩埵　聖衆同時に讃嘆し
大定智悲の手をのべて　行者のかうべをなでたまふ
遂に引接し給ひて　金蓮臺にのせたまふ

此ロ本是に作る
してロ本つゝに作る
すイ本せむに作る
尊ロ本如來に作る
花ロ本華に作る
れイ本しに作る
行者イ本われに作る

みれば緑の山のはに　光雲はるかにかゞやけり
此時身心安くして　念佛三昧現前し
毫光わが身を照して　無始罪障消滅す
光雲漸くちかづきて　瞻仰すれば彌陀尊
相好圓滿し給ひて　金山王のごとくなり
鳥瑟たかくあらはれて　晴の空にみどりなり
白毫右にめぐりて　眉の間にかゞやけり
管絃歌舞の菩薩は　雲に袖をひるがへし
持幡供花の莊嚴は　風にまかせて亂れたり
觀音勢至諸薩埵　ひかりの中にみちみてり
おの／＼威德顯はれて　聲々行者をほめ給ふ
眼にみてる慈悲の色　おつる涙もとゞまらず

攝取乃至いよ〳〵の十六句イ本に無し

界をばロ本界をに作る

來迎和讃

惠心僧都御作

攝取不捨の光明は　念ずる所を照すなり
觀音勢至の來迎は　聲を尋ねてむかふなり
娑婆界をばいとふべし　いとはゞ苦海を渡りなむ
安養界をばねがふべし　ねがはゞ淨土に生るべし
草の庵しづかにて　八功德池にこゝろすみ
ゆふべの嵐音なくて　七重寶樹にわたるなり
臨命終の時いたり　正念たがはで西にむき
頭をかたぶけ手を合せ　いよ〳〵淨土を欣求せん
きけば西方界の空　伎樂歌詠ほのかなり

十樂和讚終

引接寺現住稱念院阿法暢和南

原本　伊勢引接寺稱名庵經藏所藏一卷與六時和讃傳敎大師和讃合本

彌陀大悲の本願の　利生に更に異ならず
凡夫たゞちに入ることは　佛願に託する故なれば
報土の因果こと〴〵く　誓願力と仰ぐべし
佛祖の御恩廣大に　受し我身と知るならば
寢ても覺ても隔てなく　南無阿彌陀佛を稱ふべし
淨土の莊嚴無量なり　あに十樂に盡さんや
大海水のひとしづく　ほめ奉るばかりなり

卷末曰
右十樂和讚傳敎大師和讚惠心僧都の御作として法道和尚の手記中にあり茲に淨寫して稱名庵經藏にをさむ
大正十五年十一月廿四日

諸佛の御恩深ければ　飲食衣服さま〳〵に
心のまゝに供養して　十方佛土に問めぐり
佛を禮し法をきゝ　暫しの間にかへるなり
茲に居ながら極樂の　菩薩聖衆の數に入る
彼土の六時を其儘に　寫して晝夜に勤むべし

第十增進佛道樂

五濁惡世の悲しさは
菩提の心ある人も　成就する事いと難し
庵摩羅果の花おほく　木實を結ぶは少しと
又魚の子の多けれど　生長するは稀らなり
かの極樂の聖衆は　多くの因緣ある故に
皆之不退の身と成て　たゞ佛道を增進す
五濁惡世に立かへり　衆生を引接する事は

十方三世の事を議し　度生の方便回らせり
大慈大悲の觀世音　誓ひの海の深きゆゑ
衆生にかはる大悲身　地藏の炎に入りたまふ
勢至菩薩の威神力　十方國土を震動し
衆生に無常を知しめて　後生の道にぞ入しむる
水鳥樹林も法を說く　此の故きかんとする所
自然に聞てのこりなく　法樂さらに類ひなし
無量の化佛目に餘り　無上の妙法耳にみつ
歡喜のこゝろ並なく　踊躍の涙ながれけり
第九に隨心供佛樂　彼土の聖衆は二六時に
種々の妙華を手に持て　無量壽佛を供養せり
此世にありし古へを　思ひまはせば十方の

菩薩達すら尚然り　いかに況んや凡夫をや
舎衛城九億の家あれど　僅か三億ほとけを見
又三億はきゝしのみ　餘の三億は見ず聞ず
罪業深き衆生は　僧祇劫にも尚聞かず
然るに彼土の聖衆は　常に見佛聞法を
極樂界の菩提樹は　形相莊嚴たぐひなし
風もし枝葉を動せば　聲妙法をあらはせり
うゐきの許に寶座あり　その莊嚴無量なり
佛この寶座に座し給ひ　相好更に無邊なり
或は大身を示現し　又丈六の身ともなり
樹下池上に在まして　隨機說法したまへり
觀勢二菩薩侍し給ひ　三尊常に列座して

他心通には一切の　衆生の心を知りつくし
宿命通は恩をしり　善巧方便なさしめて
同く淨土に引接し　倶會一處の樂をうく
第七に聖衆倶會樂は　普賢文殊地藏尊
つねに佛會を莊嚴し　彌陀世尊を圍繞せり
是等の大士は朧げの　緣にて名をも聞難し
況や百千萬劫にも　誰か相見る事を得む
然るに彼土の聖衆は　つねに一處に集りて
言葉をまじへ問訊し　近づきつかへ奉まつる
第八見佛聞法樂　娑婆に有ては佛を見
法を聞くこと難ければ　盲龜の浮木に喩へたり
儒童は半偈に身を捨つ　常啼般若に肝をさく

心におもふ儘なれば　愛別離苦もなかりき
慈眼ひとしく見る故に　怨憎會苦のうらみなし
功德成就の國なれば　求不得苦もなかりき
金剛不壞の身に成れば　五陰盛苦も更になし
一度華臺に託すれば　永く苦界に別れたり

第六引接結緣樂　人間世界の有樣は
もとむる處すべて皆　心にまかすことぞなき
静かならんとする樹にも　吹風更にやまばこそ
子は養はんと思へども　其親またず世を去りぬ
かの極樂に生るれば　智慧の光明明らかに
また神通も他に勝ぐれ　世々の恩所を導けり
天眼生處を皆しりぬ　天耳は言音聞わくる

悲疑喜

互に相見る事をゐて　一子の如く憐れめり
共に瑠璃地に經行し　悲しく栴檀林に入る
宮殿林池に往來し　遊戲する事自在なり
或は空にのぼりつゝ　神通を現ずる聖衆あり
他方の大士に從ひて　迎へておくる人もあり
寶池の邊りに至りつゝ　各々蓮華の上に坐し
互に宿命の事を語り　具に往生の因を説く
七寶の山に遊びては　無量の世界を眺めやり
八功德池に浴しては　無垢清淨の身を淸む
斯くの如くの遊樂は　果も限りもなかりけり
處は不退の國なれば　ながく三途の恐れなし
命は無量なるゆゑに　つひに生老病死なし

二百一十億の土の　妙事をこゝに攝在す
不可思議尊に歸しぬれば　無量億劫の罪きえて
此世の命をはるとき　必ず淨土に往生す
第五に快樂無退樂　今此娑婆の有さまは
輪王位たかけれど　七寶久しく止まらず
天上樂み多けれど　五衰はやく現じける
乃至有頂も輪廻なり　況や餘の世人をや
昨日は富て今日貧し　朝に生れて暮に死す
出る息は入るいきを　待たずと經に說れたり
たゞ眼前に樂さりて　悲み來るのみならず
命終のとき罪により　又苦の中に落ち沈む
西方たのしみ限りなし　人天こも〲迎へつゝ

燭原本作觸今私改

應報妙服自然にて　洗ひそゝぎの勞もなし
光明世界に充々て　日月燈燭をもからず
冷暖つねに整のひて　春秋冬夏もなかり鳬
晨朝毎にさま〳〵の　妙なる花を吹きちらし
普ねく佛土にみち〳〵て　香ばしき事限りなし
その花柔輭なる事は　倚兜羅綿の如くにて
足にて上を踏むときは　くぼみ入ること四寸なり
足を上ぐるに從がひて　却へりもとの如くなり
晨朝すぐれば其花は　皆地の中に入りにけり
是等の五種の妙境は　身心適悦せしむれど
更に貪着の念もなく　殊勝の功德を增長す
十方佛國の其中に　極樂の德第一なり

自然の德風吹きくれば　妙法の音あらはせり
絶なる天華亂れおち　寶衣嚴具の降るごと
鳥の空より飛ぶごとく　如來に供散し奉まつる
又諸々の樂器あり　虛空に懸りうたねども
自ら響をあらはして　みな妙法を說きのべり
地より虛空に至るまで　あらゆる萬物悉々く
無量の雜寶百千の　香ひをもちて合成す
其香あまねく十方の　無量世界に薰じつゝ
菩薩きくことある時は　皆佛行を修するなり
聖衆食せんと思ふとき　七寶の机あらはれて
百味飮食鉢にみつ　味ひ人天に比類なし
衣服を得んと思ふとき　即ち念にしたがひて

微妙の聲を現はして　三寶の德を讃歎す
聖衆いけに浴すれば　淺深念にしたがひぬ
心の垢をとろかして　さも潔よく澄みわたる
洗浴すでに終るとき　空中樹下に安座して
讀經諷誦するもあり　或は坐禪し經行す
和風來りて樹を吹けば　羅網動きて妙華おつ
風に隨がひ香ひつゝ　水に交はり香を傳ふ
況や妙音いたしつゝ　宮商和して百千の
伎樂を同時になす如く　聞くもの三寶を念ずなる
寶樹世界に周遍し　妙華輭草處々にあり
いと柔かに香ばしく　降れば樂を生すなり
衆寶の羅網空にみち　種々の寶鈴掛りつゝ

また白金の浴地には　黄金の砂そこにあり
水精の池瑠璃の花　珊瑚琥珀硨磲紫金
白玉等にいたるまで　互にいろへて莊嚴す
八功德水なかに滿ち　味ひ甘露の如くにて
寶のいさご透きとほり　深きを見ざる事ぞなき
四邊の階道こと〴〵く　衆寶をもちて合成す
種々微妙の寶蓮華　色にしたがふ光あり
一々の花のその中に　各々菩薩ゐたまへり
又一々のひかりには　諸々の化佛在ませり
この界一人念佛し　既に一蓮ありてまつ
そよと涼風吹きくれば　小波ぞ立て法を說く
百寶色の靈鳥は　晝夜六時に懈怠なく

浄土は所有の萬物も　微妙奇麗を極めたり
目にみる所は是眞色　耳に聞るは解脱の聲
香味觸の境もまた　一々法性に隨順す
瑠璃の大悲は平かに　金繩道をさかひつゝ
妙衣を普く地に敷きて　天人これをふみて行く
衆寶の宮殿樓閣も　高下こゝろに隨ひて
廣狹念に應じつゝ　寶座に妙衣を延布り
七重の欄楯圍みつゝ　また百億の華幢あり
たまの瓔珞永くたれ　寶の幡蓋たかくかく
宮殿樓閣ながければ　無量の天人常にゐて
同じく伎樂を奏しつゝ　如來を歌歎し給へり
黄金の池を眺むれば　そこに白金の砂あり

宿命の事を知る事も　今見る處のごとくなり
六道衆生の心をも　鏡の影の如くしる
無央數の佛國も　須臾の間に往來す
いまこの界の衆生は　一相一通だにも得ず
燈日行歩に依らざれば　照して至ることかたし
一紙と雖も他をみず　一念の後もしり難し
生死の火宅を出ざれば　事々皆障りばかりなり
百大劫の修行にて　三十二相を身に備へ
四禪靜慮の力にて　五神通をばうると聞く
一善修する力にて　一行なさぬ此身にて
通力自在の身と成るは　皆是彼土の果報なり
第四に五妙境界樂　四十八願莊嚴の

撫つ擦りつ手をとりて　喜び給ふそのときは
心にあまる嬉しさに　何と答んかたもなく
むせぶ涙は柔輭の　玉の衣をうるほせり
むかし娑婆に有し時　僅に文をよみてしる
いま佛界に面のあたり　見喜びはいくばくぞ

第三に身相神通樂

安養界に生るれば
眞金色の身となりて　かれこれ互にあひ照す
三十二相を具足して　顔容世間に類ひなし
第六天主に比する時　乞人帝王の如くなり
皆々五通を備へつゝ　妙用はかる事を得ず
十方界の色境も　心のまゝにこれを見る
一切衆生の聲もみな　居ながら即これを聞く

金山王のごとくにて　寳蓮華上に坐し給ふ
二菩薩の威儀尊重に　佛の左右に侍し給ひ
無量の聖衆圍繞して　星の如くにつらなれり
觀音勢至もろともに　行者の前に來りつゝ
種々に慰めたまふれば　頭面に禮し奉まつる
漸く菩薩に隨ひて　如來の身元に至りつゝ
七寶の階に跪まづき　萬德の尊容を拜見す
大慈大悲の彌陀世尊　御顔ばせもうるはしく
微妙の聲を顯はして　行者につげて宣はく
汝しらずや十劫の　正覺なりし昔より
今日や昨日と待兼ねて　恨むと告げし事もあり
直ちに百福莊嚴の　御手をのべて頂きて

大悲物憂き事なくて　常に此身を照すなり
第二に蓮華初開樂　我身はすでに金色の
自然の寶衣備りて　歡喜は先にいく倍ぞ
天眼自在の身と成りて　極樂淨土を眺むれば
虚空のかざり目に餘り　御法の聲は國にみつ
樓殿林池は表裏なく　同く照しかゞやけり
鳬雁鴛鴦の寶鳥は　花の林にあそぶなり
玉の林のあけぼのは　旭のかげにひかり添へ
金の池のゆうぐれは　月の光にいく倍ぞ
十方界の衆生は　驟雨の如くに來生し
無數の佛土の聖衆は　恒沙のごと〳〵往詣す
漸く眸めづらしと　遙に如來を瞻望す

十樂和讃

惠心御作

第一聖衆來迎樂
音樂空にきこゆれば
心に恩愛うちわすれ
必ず歡喜の心生ず
觀音蓮臺さゝげつゝ
勢至は聖衆と讃嘆す
草庵に目合すれば
華臺にあなうら結ぶなり
佛の後へにしたがいて
菩薩聖衆の中に入り
たゞ一念の間にぞ
極樂世界に生ずなる
六欲四禪の樂みも
いまだ輪廻を免れず
永く苦海をこはすぐれ
其よろこびは述難し
信心眞にうるひとは
攝取の光明見ざれ共

六時和讃終

大正十五年十一月十九日

稱念院唯阿法暢

原本　伊勢引接寺稱名庵經藏所藏寫本與十樂和讃傳敎大師和讃合本

在々所々に尋ねつゝ　護り教へ利益せむ
乃至怨親一切衆　無數の方便施して
近くは拔苦與樂し　遂には淨土に引接せむ
國土豐かに民あつく　佛法さらに盛りにて
樂しき事をうたひ言　安穩無垢の界ならむ
乃至彌勒樓至まで　出世に必ず値遇せむ
念佛一つのちからにて　是等の事を成ずべし
萬の事を投げ捨てゝ　彌陀をねんじ奉らむ

本末曰

此六時讚惠心先德の御作として先師法道和尚の手記中にあれば今爰
に抄出して淨寫し
稱名庵寶藏におさむ

後夜和讚

あかつき至て波の音　黄金の岸に寄るほど
明なむとすれば風の音　たまの簾垂を過る間
後夜の時分來りては　佛法僧を念ず可し
所有の行狀悉く　初夜の如く知る可し
斯のごとき六時の行　大途を言へばしかなり
別緣有らむ時には　ほしき儘に行すべし
また有加被を蒙りて　急ぎて娑婆に來りつゝ
釋迦の遺法紹隆し　受苦の衆生を拔濟せむ
顯密修學興隆し　了因佛性結ばしめ
堂塔尊像修治して　緣因佛性種ゑしめむ
父母師長恩施者　伴侶知識結緣者

十力無畏三念住　大慈大悲不共法
或は孔雀鸚鵡等　法門唱ふる所あり
五根五力七覺支　六度四攝無量法
住所に歸り到りては　樂み希有のこと現せむ
或は寶樹寶蓋に　釋迦の一化を見を得
高山頓説華嚴敎　入法界會までに至り
善財大士の善知識　文殊海童功德雲
明智寶髻毗目舍　具足慈行婆須蜜
勝熱無厭妙月等　是等の大士に親近せり
或る時は現ずべし　鹿野苑の轉法輪
麁弊垢穢の能化の相　客作窮子の所化の行
乃至靈山法華會　阿難尊者の如くせむ

寶樹寶池宮殿等　これ等の間の境界に
念佛念法念僧等　是等の功德增進せむ
多百間のたからの廊　坊々ごとに廻れり
無數の天人賢聖衆　內外に寶座を列ねたり
或は伎樂歌詠し　或は說法決擇し
或は寂然宴嘿し　隨意の所行これ多し
あるひは寶の樓の上　獨りの大聖坐まさむ
或は二三十二十　多少この身に任せり
我等ともに至りつゝ　禮拜恭敬尊重し
菩薩道を習ふこと　善財童子の如くせむ
いさごの堤玉の橋　所々に衆鳥和鳴す
或は伽陵頻伽等　佛事を謠ふ處あり

思へば心行及ばれず　瞻れば眼路も極まらず
はちすの絲を大千に　かけたるが如くなれ
時に悲喜まじはりて　落つる涙も止まらず
すなはち禮讃終りては　やう／＼途に歸るべし
たがひに前の事を云ひ　同く踊躍歡喜せむ
昔娑婆にありし時　師子吼の偈を聞き
我等無數百千劫　修四無量三解脱
今見大聖牟尼尊　猶如盲龜値浮木
思ひき佛を見む事は　優曇花にも過ぎたりと
知らず我等往昔に　如何なる因縁有てかは
一世の念佛力により　無量光に會へりと
歸る途の左右には　怪しく妙なること多し

聲をぼ立てず心中に　佛の功德を讃嘆せむ
烏瑟みどり濃かに　空界遙かに連れり
白毫ひかりまどかにて　月輪高く懸かりたり
眼睛青蓮あざやかに　面門頻婆麗はしく
寂靜安樂解脫の　體相神德時々に
色々八萬四千の　相好光明ほがらかに
十方界の念佛は　光のなかに攝取せり
大慈大悲これ無緣　衆生則ち一子なり
大定大智これ無際　辨說即ち微妙なり
普現色身無邊に　六通自在無碍なり
法報應化圓滿し　佛種法界具足せり
自なく他なく一異無　是非言說遠離せり

佛刹塵數の大菩薩　重々恭敬圍繞せり
百法明門悟らずば　此の地を踏者有がたし
次に廻りて寶地あり　地前賢聖天人等
百千佛刹微塵の　外眷屬衆圍繞せり
見佛聞法緣無くば　此地を踏む事有がたし
所有の色には遍ねく　圓融法界相現じ
所有の聲には悉々く　甚深妙法宣說せむ
三聚淨戒香薰じ　三解脫門風すゞし
此の時心境自然に　寂滅眞如ひとつなり
坊々莊嚴妙なれど　佛の御前に臨むれば
喜現宮と日月と　比べて見るが如くなり
既に御前に到りては　合掌恭敬瞻仰せむ

一々の珠には悉々く　千の光明照らせり
知るべし八萬四千の　大千界の日輪を
集めたるが如くして　無漏の萬德莊嚴す
如來此座の上にして　大寂定に入りたまひ
相好圓滿したまひて　金山王の如くなり
左右の二つの寶座には　觀音勢至ましまさむ
佛の加被に非ずんば　此地を踏む者有がたし
次に廻りて寶地あり　普賢文殊虛空藏
彌勒除蓋金剛手　地藏千手觀世音
等覺無垢の大眷屬　恒沙の衆會圍繞し
一生補處にあらずば　此地を踏む者有がたし
次に廻りて寶地あり　四十一地の內眷屬

拘隣等の如くし　阿難尊者の如くせむ

同　補説

夜の境ひしづかにて　閻浮の昔の日に似たり
漸く佛所に近かづきて　目を擧げ見廻らせば
中臺高廣寶縵等　無数の莊嚴具足せり
寶帳寶網寶幡蓋　寶鐸寶鈴寶瓔珞
これ等を廻りて億千の　宮殿樓閣莊嚴具
上下四方重々に　光明照らしかゞやけり
中央最上地の上に　大寶蓮華王の座あり
毘楞伽寶臺を爲し　百寶色相葉に具せり
八萬四千葉ありて　無量の妙寶具はれり
葉々ごとに百億の　大寶摩尼を飾れり

六瑞記別終りては　多寶出現證明せむ
三變淨土莊嚴し　十方分身集會せむ
地涌禮讃するあいだ　五十小劫經歷し
久遠成道聞くときに　利益供養希有ならむ
神力囑累したまふに　頭を傾け聽受せむ
妙音觀音普賢等　各々佛化を助成せむ
乃至常住佛性敎　一會の儀式皆現せむ
或は一つの寶坊に　是等の事を示現せむ
淨飯王の都より　拔提雙樹に至るまで
誕生童子の時より　八十年を盡すべし
昔の所有の情非情　境界一つも誤らず
ときに我等釋尊に　隨逐給仕せむ事は

或る時には觀世音　大悲法門說き給はむ
かくの如く大聖衆　常に來りて慰誘せむ

中夜和讃

夜のさかひ寂然にて　漸く中夜に至る程
三五の人々共に出て　金繩階道歩みつゝ
衆寶國土の境界の　寂靜安樂なるを見む
ひかりも聲も靜にて　晝の境ひに異ならず
琪樹の茂れる間には　宮殿ひかり明らけし
瑤池の澄める底には　金銀沙照らせり
洲鶴睡眠りて春の水　娑婆の故き里に同じ
塞鴻鳴きて秋のかぜ　閻浮の昔の日に似たり
乃至靈山法華會　見る事在世の如くせむ

初は佛の所有の徳　大定智悲神通等
無數の佛事を想ふ事　德雲比丘の如くせむ
次には甚深般若の理　讀誦思惟修習し
畢竟空を照らす事　善現比丘の如くせむ
後には觀音大悲主　三昧月輪現前し
衆生利益すること　海童比丘の如くせむ
佛の威神加被にて　大悲般若相應し
無數の光明身より出て　十方國土に周遍せむ
光の中にはあまねく　一切色身變現し
所有の色身悉々く　一切衆生利益せむ
或る時には大勢至　念佛三昧說き玉はむ
ある時には金剛手　般若理趣說き玉はむ

或は極樂界を見て　吾土若し然むと願はむ
正士大悲觀世音　所作得益同じからむ

初夜和讃

見佛聞法ここをへて　もとの坊に還るべし
あるひは金蓮華の中　金色淨土の如くなり
あるひは瑠璃閣の中　淨瑠璃淨土の如くなり
或は衆寶樓の上　七寶淨土の如くなり
寶帳臥具莊嚴等　意の如く具足し
多少願ひにしたがひて　天の童子給仕せむ
前後左右に無量の　天人聖衆多けれと
互に一子の如くして　心に逆ふる事ぞ無き
漸く初夜になる程に　佛法僧を念ずべし

善哉久しく聞つる　是等の大士を今日見るこ
爾時化主彌陀尊　大寶蓮華の上にして
萬德恒沙由旬の　身量眼も及ばれず
眉のあいだの白毫は　五つの須彌を集めたり
眼のうちの青蓮は　四大海をたゞへたり
頭を旋れる圓光は　百億三千界の程
無數の化佛菩薩衆　光りのなかに盈滿てり
身光無量無數にて　十方界を照らせり
億千萬の日月を　和合せるにも過ぎたり
一切菩薩大聖等　相好光明具せんこも
佛の御前にいたれば　なほし聚墨の如くなり
こきに大衆一心に　佛の御顏を瞻仰せむ

娑疑沙

驚き出てゝ見た時に　一人の老人行歩つゝ
頭に蓮華の冠りし　身には赤き裘を着
手には白拂取持ちて　一人の天人従へり
人々尊重すること　普賢文殊に異ならず
こきに我等是をみて　禮讃すること前に同じ
かくのごとく除蓋障　藥王藥上跋陀婆羅
抉掘花聚山海悪　十方恒娑の大菩薩
威儀形相任意にて　佛の御前に雲集し
自界塵數の賢聖も　同じく倶に集會せむ
或は行路の間にも　或は集會の中にても
自土他方諸聖衆　互に相見て恭敬せむ
所有の名稱德行を　語ひ會ひて白さまく

乃至かみは色究竟　一つの大海水と見ゆ
但し所有の一切事　衆生作業往來等
皆亦もこの如くして　嬈害すること全くなし
聞けば下方莊嚴國　海智神通如來の
海惠菩薩大薩埵　無數の大士と來至すと
あるひは國界悉々く　希有の神變示現す
須彌を芥子の中に入れ　大千界を遠く投げ
恒沙の佛土を近く見ゆ　是等の希有の事多し
所有の聲には同じく　上求下化を讚て曰く
雖知諸佛國及與衆生空　而常修淨土敎化於群生
聞けば娑婆世界の　南瞻浮洲中天竺
毘舍離城に住せりし　維摩居士來至すと

現作種々身爲衆生説法　具足施功德悲愍諸衆生
聞けば地藏大薩埵　無數の眷屬諸ともに
聲聞出家の形にて　今又こゝに來至すと
あるひは國界悉々く　虛空界のごとくなり
たゞし佛の所住の　大寶莊嚴堂のほか
宮殿林池情非情　一切色相みな空し
所有の聲には同じく　畢竟空を説きて曰く
陰入諸界如幻化　三界皆如水中月
衆生虛僞性如夢　以智分別説是法
聞けば西方香集界　勝花敷藏如來の
大虛空藏大薩埵　無數の大士と來至すと
或は國界ことごとく　大水普く盈滿し

見れば塵數の大菩薩　天龍八部圍繞し
無數の華香供養し　無數の伎樂奉奏す
所有威光儀式等　眼界はるかに隔れり
即ち禮讃すること　前の如く知るべし
あるひは國界悉々く　無數の光明照り滿り
所有の聲には同じく　一生補處の行を讃む
聞けば人々みないはく　娑婆世界兜率天
四十九重摩尼殿　一生補處の慈氏尊
塵數の菩薩天人衆　前後に率ひて來至すこと
或は國界こと〴〵く　無數の大雲遍滿し
一切人々自然に　如意寶珠を手に持てり
所有の聲には同じく　大士の行を讃めて曰く

面善圓淨如滿月　威光猶如千日月
聲如天鼓俱翅羅　故我頂禮彌陀尊
是等の無數の偈を以て　佛を讚じ奉まつらむ
すなはち時に自然に　無數の妙花みだれ散り
一切天人こと〳〵く　妙なる音樂奉奏せむ
所有の熙怡快樂等　ことばを以て陳難し
我等も共に一座にて　所作得益同じからむ

日沒和讚　補說

遊行すること終りては　涙は雨の如く降らむ
或は國界こと〳〵く　白銀光りなかりけり
所有の聲には同じく　普賢行を讚嘆せむ
聞けばひと〳〵皆曰く　普賢大士來至すと

句々に順ひ數行し　涙は雨の如く降らむ
正士大悲觀世音　座より起て言さまく
今此大會の恒沙の衆　深きこゝろに渴仰せむ
たゞしほとけ大悲尊　大法雨を降り給へ
ほとけ時を知しめし　無數の法門說玉はむ
華嚴法界廣大敎　隨機差別方等敎
般若佛母實相敎　平等大會一乘敎
是等の法を說き玉ひ　乃至記して宣まはく
十方來正士吾悉知彼願　志求嚴淨土受決當作佛
通達諸法性一切空無我　專求淨佛土必成如是刹
時に大衆法を聞きて　彌々歡喜瞻仰せむ
目暫くも捨てずして　伽陀を說て言さまく

時に世界こと〴〵く　黄金ひかり新たなり
所有の聲には同じく　伽陀を説ひて讃めて云く
妙智清淨月大悲無垢輪　一切悉施安願垂照祭我
是等を怪み思ふほど　きけば人々皆云はく
東方不動智佛の　金色世界の文殊師利
十佛世界微塵の　菩薩ともに來至すと
出でて遙に見やれば　金色相好圓滿し
塵數の菩薩眷屬は　其數邊際見ねがたし
こゑ〴〵天の樂奏し　いろ〴〵寶の華供す
ときに我等禮拜し　合掌讃嘆して云く
往昔在於娑婆國　遙聞大士大名稱
今見清淨功德身　是故一心歸命禮

(四)提歟薩歟不明

或は一の寶地あり　一生補處の大菩薩
菩薩大衆圍繞し　法性不二の理を説くに
自界他方所有の　自身他身情非情
乃至草木樹林等　一切みな是れ佛なり
相好具して法を説き　其餘の色像目に見ねず
すなはち知ぬ諸法は　もとより即ち幻化なり
さきに空に聲ありて　伽陀を説きて白さまく
法界體性無差別　森羅萬象即佛身
不見菩提外有法　是故我禮一切塵
或ひは一の寶地あり　無上道に增進せむ

日沒和讃

遊行すること己りては　晡時に住所に還るべし

衆人問訊歷誘して　勸めて法を聞かしめむ
なほ彼の七寶世界に　到る時の如くならむ
或る地は專ら金にて、寶樹寶池宮殿等
所有の境界悉々く　こがねの光り照滿てり
一生補處の大菩薩　羅漢聖衆圍繞し
四諦十六行の法　願ひに從ひ宣說せむ
尙彼の黃金世界に　到る時の如くならむ
或る地は專ら白銀の　鮮白無垢の光りあり
頗梨雪山と云ふとも　例とせむ事得べからず
一生補處の大菩薩　支佛大衆圍繞し
十二緣起の法門を　願ひに從ひ宣說せむ
尙彼の白銀世界に　到れる時の如くならむ

志疑士

或地は七寶合成せり　寶樹寶池宮殿等
所有の境界悉々く　無數の光明輝けり
大寶殿の中にして　百の樓觀具足せり
樓觀ごとに百の臺　臺閣毎に七つの坊
坊室毎に七菩薩　菩薩ごとに七眷屬
この外人物また多し　幾何なりと知り難し
大寶殿のうちにて　一生補處の大薩埵
百千萬の菩薩衆　前後左右に圍繞し
晝夜につねに大乘の　不退轉の行を說かむ
水鳥樹林羅網等　其聲同じく調べ說かむ
我等は大士を頂禮し　無數の功德を讚嘆せむ
大志は我等を慈愍し　無數の輭語を宣暢せむ

或はそらに經行し　讀誦思惟演説せむ
天人恭敬爲ること　善住比丘の如くせむ
或は林池の間だにて　菩薩集會に相交り
神通説法禪定等　所有の事々に供奉せむ
或は無數の賢聖等　ともに漸く遊行せむ
むかふ方には億千歳　かへ踏事も忘られぬ
かくの如く處々に　遊戯快樂することを
遙に互に相見つゝ　いよいよ歡喜欣悦せむ
むかしは無常苦空を　われも人も憂ふべき
今は常樂我淨を　近くも遠くも受けたり
次にやうやく坊々に　願ひに隨ひ至りつゝ
菩薩大士の種々に　佛事を爲を見聞せむ

向疑空

あるひは天人聖衆に　交りて伎樂歌詠せむ
香山大樹緊那羅の　瑠璃の琴に倣へて
管絃歌舞の曲には　法性眞如を稱ふべし
一切諸法向寂滅　無生無滅無毀壞
寂靜安樂無所得　如是白法令顯現
若法非法無妄想　推求諸法無所有
覺了名色如實性　彼行於世無染着
或は飛梯にてもあれ　或は高樓にてもあれ
これらの音樂調つゝ　無漏の境に娯樂せむ
天冠大樹迦葉等　時々來りて證誠せむ
あるひは砂に戯れて　神通智慧を顯現し
三世の法を悟ること　自在童子の如くせむ

多は少しも己が志々　處々に徘徊遊戯せむ
七重寶樹の風には　一實相の理を調べむ
貪欲瞋恚及愚痴　空無相願悉平等
生死涅槃無差別　佛法僧寶亦無二
貪欲即是道恚痴亦復然　如此三事中無量諸佛道
八功德池の浪には　無生滅の義を唱へむ
一切諸法本性淨　去來現在亦復然
若觀諸法無生滅　是人即得眞實智
諸法不自生亦不從他生　不共不無因是故說無生
黃金の濱より步めば　鳧雁鴛鴦馴れたり
玉のうてなに赴けば　孔雀鸚鵡したがへり
あるひは宮殿樓閣に　登りて他方界を見む

故能分身遍法界　悉現菩提樹王下
或は一つの寶地あり　一切補處の大薩埵
大小衆會圍繞して　大小法門演説せむ
坊々ごとの所有の　宮殿樓閣人數等
七寶坊になぞらへて　多少儀式知るべし
これらの五百億の坊　一つの界地に列らむ
是らの百千無數の界　極樂國に滿みてらむ
かくの如く處々を經　大菩薩に親近し
無數の佛法修學し　無上道に增進せむ

日中和讃　補説

他方界より歸りては　是等の大士を朋とせむ
飯食すでに終りては　座より立ちて經行し

十方佛土に名聞は　無量劫にも遇ひ難し
一子の慈悲平等に　他の利益嫉まず
法師の過を顯はさず　深法空を愛樂し
他の敬恭ねがはず　是等の功德具へたり
晝夜に常に相見ねつ　是等の大士を友させむ
或は一つの寶池あり　一生補處の大薩埵
菩薩衆會圍繞し　念佛三昧さく時に
彌陀佛の所分身　十方界に遍滿し
一切十方諸佛の　所有の分身又おなじ
此法信樂爲すものは　近く三途の苦を離る
時に空に聲ありて　伽陀を說きて言さまく
往昔勤修多劫海　能轉衆生深重障

さきに彼會の人天等　佛の加被を蒙りて
極樂淨土に往詣し　彌陀佛を供養せむ
我等見聞く事終りて　淚を流して歡喜せむ
ほとけを百千匝廻り　禮を爲して去るべし
藥師瑠璃光佛の　普賢行願修習せむ

日中和讃

他方界より還りては　つぎに飮食經行せむ
或は己が坊にまれ　或は衆會の堂にまれ
七寶床座をならべ敷　百味餚饍出現せむ
迦葉尊者の室にも　未だ見ざる臥具敷き
賢護長者の家にも　有事稀なる飯食せむ
上下に列なる人は皆　阿鞞跋致の大菩薩

ほとけ告げて宣はく
衆生三障重くして
たいし釋迦大悲尊
釋迦は滅し給ひにき
凡そ難化を度すこと
乃至名字を聞ものは
彼時阿闍と云ひしは
彼の日の文殊等は又
時に大衆之を聞きて
善哉善哉大牟尼
所化利益無窮盡
善哉汝等衆隨順如來敎

娑婆は穢悪の國土也
難化の衆生充滿てり
彼等を敎化し玉へり
所化は十方佛所に有
彼ほとけには及ばず
必ず阿鞞跋致を得
わが身即ちこれなり
今我此會の中にあり
大いに歡喜して曰く
難化能化大聖衆
大悲方便不可量
永離穢悪土往生安樂國

ときに佛のたまはく
則ち爲に法をとき
波會の大衆皆言はく
何の國より來れるぞ
佛告げてのたまはく
西方極樂世界の
佛我等に告げ玉はむ
則ち佛に言さまく
所說經法受持せり
即ち今日受持する
ときに大衆歡喜して
娑婆は何如なる國土ぞ

善哉善哉汝等と
示敎利喜し玉はむ
いま見る是等の菩薩は
彼國如何なる國土ぞ
汝等知ずや此ひとは
阿彌陀佛の弟子也と
極樂淨土の相說けと
我等が本師釋迦牟尼の
彼を聞かば知なむと
阿彌陀經を誦すべし
意に思ひくちに曰はく
釋迦は在すや如何にと

今見清淨功德身　是故一心歸命禮
句々に順がひ數行の　淚は雨の如く降らす
菩薩即ち我を引き　阿閦佛所に到らしむ
即ち所持の花を以て　如來大會に供散せむ
五體を地に投げ頂禮し　佛を讚めて言さまく
敬禮天人大覺尊　恒沙福智皆圓滿
因緣果滿成正覺　住壽凝然無去來
衆生沒在生死海　身回五趣無出期
善逝恒爲妙法船　能截愛流超彼岸
願於來世恒沙劫　念々不捨天人師
如影隨形不暫離　晝夜勤修於種智
是等のおほく偈を以て　佛の功德を讚嘆せむ

我等天の華を持て　佛の御上に供養せむ
空のなかに充滿ちて　普く大會に及ぼさむ
つぎに加被を蒙りて　十方諸佛供養せむ
あるひは五六十二十　乃至百千結緣者
虛空界を飛び過ぎて　歡喜國を指して往かむ
さきに空に聲有りて　彌陀佛を稱念せむ
かしこに到り已りては　寶地を歩みて進み行む
道の間だの左右には　寶樹寶池宮殿等
無數の寶を莊嚴し　人天充滿往來せむ
まづは香象白香象　是らの大士に値遇せむ
頭を傾け手をあざゑ　禮拜讃嘆して言はく
往昔在於娑婆國　遙聞大士大名稱

朝たに定より出る程　朗かに天の樂聞けば
十方諸佛如來の　所有の功德を讃歎せむ
定より出でゝ見遣れば　たからの蓮空に降る
黄金瑠璃の庭に出て　人々共に華を取る
まづは教主世尊の　御前に參りて候へば
始めて定より起ち玉ひ　體相威儀美くしく
紫磨金の尊容は　あさの月の曇りなく
無數の光明新にて　國家あまねく明けし
宮殿樓閣よろづの色　互に照し映やけり
旦の日の雲を出て　遙に照すが如くなり
左右の觀音大勢至　無數の恒沙の大菩薩
一切聲聞賢聖衆　尊く御貌を瞻仰せむ

須彌妙音無量聲　淨華宿王寶威德
須彌燈王不動智　吉祥普光妙藏佛
是等の十萬億土にも　阿閦佛土の如くせむ
第二日には東南方　乃至十日上方界
光明國には持法炬　衆香國には無垢稱
梵音樹王廣衆德　十萬億佛また同じ
淨光界には師子吼　照明界には師子意
衆蓮華には善住惠　雲雷音には常嗁等
金剛堅固觀喜佛　乃至賢德如來等
世界塵數の國土にも　普賢行願修習せむ

同

往生極樂こゝばには　百方明門悟るべし

つひに引接し給ひて　金蓮臺に坐せしめて
則ち佛後に随從ひて　安養淨土に往生せむ
一日一夜に華ひらけ　一七日にほさけを見
三七日に了々に　見佛聞法具足せむ
則ち本誓願により　六時に佛事を勤修せむ
三小劫を經てのちに　百法明門悟るべし
藥師瑠璃光佛の　淨瑠璃淨土に到りては
まづは日光月光の　二人の大士に値遇せむ
善德尊の國土には　寶月童子に値遇せむ
普賢尊の國土には　無盡意に値遇せむ
蓮華尊の國土には　止蓋大士に値遇せむ
滿月尊の國土には　瑠璃光に値遇せむ

六時和讃

恵心僧都作

晨朝和讃

往生極樂ことばには　云へども心は留らず
自から心地に願はしき　こゝに思ひをかくべし
臨命終の時いたり　西方界の虚空を
はるかに見れば大光雲　山の如くして起るらむ
彌陀如來諸化佛　觀音勢至諸薩埵
無數の賢聖天人衆　光りの中に充滿てり
ゆふべの影の東に　漸く覆ふが如くなり
光雲漸く近づきて　聲々我を讃め給はむ

者ノヒカン息ニ念佛ナ中ヘシ。モシ終ノ息ニ全ク出ハ。四重五逆等ノ罪ヲホロホシ。必ス極樂世界ニ往生スルナリ。

原本　京都帝國大學藏寫本全一卷。

編者曰　別有臨終行儀一卷。即往生要集中（大文第六別時念佛下）臨終行儀之別行也。

臨終行儀終

原本儀下有集字

デ心ヲトリオフセデ後ニ念コロニイフヘシ。悪キコトナレハトテキヲリニ制シ。無口ニイ、恥シムヘカラス。善コトナレハトテキヲリモシラス。心ツキナケニ勸ムレハ。是ヲ返縁ヲナスコトハアレトモ。善キ心ヲオコスコトナシ。モシ攀縁ヲコルコトアレハ。必ス正念ヲ失ナリ。正念ウセヌレハ更ニ念佛ヲマフサス。往生イカ、トケンヤ。往生ヲトケスンハ生死ニカヘルヘシ。返縁ヲヲコサシメテ生死ニカヘラシメン。知識往生ヲネカフ人ノ爲ニハ。ナニノ悪キコトカアラン。故ニ知識ヲハ善キニ隨ヒチキルヘシ。臨終ノ正念ハオホロケノ縁ニアラス。知識ノ用意此ノコトニアルヘシ。念佛ノ音タカ、ラス。病者ノ耳ニキコエンホト。ハカラヒテマフスヘキナリ。ハヤカラスヲソカラス。病

テ。要ヲ取テ勸ムヘシ。阿彌陀觀音勢至無量ノ聖衆ト共ニ來テ蓮臺ヲカタムケテ。唯今我ヲムカヘタマフト思テ。彌陀ノ名號ヲトナフヘシ。

五。正ク終ラントミエン時ニハイフヘシ。汝ナシルヤイナヤ。唯今ハ是最後ノ心ナリ。臨終ノ一念ハ百年ノ功ニ勝タリ。若此刹那ヲ過ナハ生所サタマルヘシ。一心ニ念佛シテ。決定シテ西方極樂世界ノ微妙ノ淨土。八功德池ノナカ。七寶蓮華ノウヘニ往生スヘシ。如來ノ本願ハ一毫モアヤマタス。願クハ佛我ヲ引接シタマヘト思テ。心ヲト丶メテ南無阿彌陀佛トマフスヘシ。

此十ケ條アラ〳〵如是。タヽ詮スル處。善惡ノ二ニヲキテ病者ノ心ニ違フマシキコトヲイフトモ。一往ハ隨ヒモヨホシ

二。阿彌陀如來ハ無量無邊ノソコハクノ光ヲ放テ十方世界ノ念佛ノ衆生ヲ攝取シテ捨タマハス。故ニ攝取ノ光ハサタメテ唯今我頭ヘヲ照シタマハントオモフテ。彌陀ノ名號ヲトナフヘシ。

三。如來ハタヽ光ヲ以テ照シタマフノミニアラス往生セシメタマフノミニアラス。觀音勢至無量ノ聖衆ト共ニ來テ。蓮臺ヲカタムケ。唯今我ヲ引接シタマハント思テ。心ヲシツカニシテ念佛ヲマフスヘシ。法性ノ山ヲ動シ。生死ノ海ニ入タマヘリ。煩惱ノ眼ヲサヘテ。ミタテマツラストイヘトモ。本願アヤマリナシ。サタメテ此所ニ來臨シタマフラント。心ヲシツメテ口ニ彌陀ノ名號ヲトナフヘシ。

四病者氣色ヤウヤクヨハクミエン時ハ。言ハオホクセスシ

生スルコトアランヤ。故ニヨクヨクハケマスヘキハ最後ノ知識期スル處ハ命終ノ念佛ナリ。今ステニ病ノユカニフセリ。是ヲ最期トオモフヘシ。サイハイニ知識ニアヘリ。ナンソ念佛ヲマフサヽランヤ。故ニ目ヲトヂ掌ヲ合セ佛ノ相好ヲオモフヘシ。餘ノ色ヲミルコトナカレ。法音ニアラスヨリハ餘ノ音ヲキクコトナカレ。心ハ常ニ聖衆來迎ノヨソヲイヲオモヒ。口ニハツネニ彌陀ノ本願ノ名號ヲトナフヘシ。ソノ本願ハ說我得佛十方衆生至心信樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺トイヘリ。ツラ〳〵來迎引接ノ化色ヲヽモヘハ。念佛行者ノイノリナリ。故ニ九品往生アヤマタス。來迎引接シタマヘト。ヒトスヂニ心ヲシヅメテ。彌陀ノ名ヲトナフヘシ。

次ニ往生ヲ勸ニ五アリ。

一。汝ナツラ〳〵ヲモヘハ。三界ハ幻ノ如シ。一ツトシテ樂ムヘカラス。ナニ、フケルヘキコトアリテ生死ヲイトハサル。ムカシイトハサルユヘニ。イマタ此界ヲ離レス。カタク信スヘシ。信セスハ生來モ又悲シムヘシ。シカルニ極樂ハ諸ノ苦アルコトナシ。唯諸ノ樂ノミヲウケテ。メツラシキ蓮ノ上ニ生テ。ナツカシキ菩薩ノナカニマシハリ。佛ノ說法ヲキヽ、迷ヲタチ證ヲヒラク。誰カ心アラン人ネカハサランヤ。ムカシネカハサルユヘニ未タ證ラ。若ハケマスハ當來モ亦ナニヲマタンヤ。タマ〳〵ウケカタキ人身ヲウケテ。サイハヒニ又アイカタキ佛敎ニアヘリ。此度往生セスハ。三途八難ノウナニ墮テ。煩惱ノナハヲキリカタシ。況ヤ往

リ。故ニ鬼神ヲマツラン者ヲ以テ彌陀ニ供養シタテマツルヘキナリ。

五。病者ノアタリニ人ヲアツメテヲクヘカラス。其故ハ一人ハ心ヲスマシテ念佛ヲハケメトモ傍ラニハヒタヒヲ合テ物語ヲハシムレハ。音々思々ニナリテ。或ハ立居立入ニ物ノサハカシキコト限リナシ。故ニ志ヲ三業ニ等クセヨトイヽテ。善知識ハサタメテ五人ニハスグヘカラス。三人ハ善キ佛ナリ。一人ハ枕ニ居テ念佛ヲスヽメ。一人ハカタ〱ニ居テ其心ニ隨ヘシ。一人ハハシ近ニ居テ雑事ヲイヒツクヘシ。此外ニ人更ニナニノ用アランヤ。ユメ〱餘事ヲ耳ノホトリニキカスヘカラス。悪縁門ノ内ニイレヘカラサルナリ。

呪經ニイハク。佛ニ供シ法ニ供シ僧ヲ供養スル者ハ。三十六部ノ神王。萬德恒沙ノ鬼神ヲ眷屬トシテ此人ヲ守ル。シカレハ鬼神ノタヽリヲナサン病ナリトモ。佛ニ歸シテ念佛センニイカナル鬼神カタヽリヲナサンヤ。念佛ノ力ハ能無始ノ罪障ヲ滅ス。極樂ニ往生スルホトノ大事ヲ。タニトケサセタマフ。此世ニ於テタヽリヲナサン鬼神ノサマタケヲ除テ。イクハクナラヌ命ヲノフルホトノ力マシマササランヤ。善導和尚ノ觀念法門ニ無量壽經ヲヒラキテイハク。阿彌陀無量無數ノ身ヲ儲ケ觀音勢至二十五菩薩ト共ニ。念佛ノ行者ヲ圍繞シテ。惡魔ノ難ヲハハラヒタマフトイヘリ。然ハ命終ノ時ニ極樂往生スルノミニアラス。惡魔ヲ退テ病ヲイヤスニモ念佛ニ過タルコトハナキナ

コトヲイハ、シルシヲキ。後ノ人是ヲミテ發心スヘキユヘナリ。善惡トモニ善知識ナラン人ニハ。カタルヘキモノ也。

四。マツリハヲヒヲシ。ミコカンナキヲヨヒ。スヘテミタリニタスカランコトヲ思フヘカラス。

限リアリテ死ナン命ヲハ。ヨロツノコトニ自在ヲエタル佛タニモ。ナヲ命ヲノヘタマハス。イカニ況ヤ惡業煩惱ノ形ヲエタルモノハ。我身ヲタニモ心ニマカセスシテ。限リアリテ死ナントセン人ノ命ヲタスクヘキヤ。若イノリニヨリテイクヘキ命ナラハ。誰ノ人カ一人トシテ死スルモノ、アランヤ。モシ又非期ノ命ニテモノ、力ニヨリテタスカルヘクハ。佛ノ力ニ過タルコトヤアルヘキ。故ニ灌身

惡疑善

ハ下疑脱ケ

ユカヲカサルヘシ。若ユカノホトリニケカラハシキモノアラハトキヲスコサス。アランニ随テハラヒノクヘシ。

二物ノ肉ヲ食シ酒ヲノミ。カラヒルヲクヒスル人ヲ。高キ賤ヲキラハス。シタシキヲアラハス。チカツクヘカラス。其クサクケカラハシキ便ニ。悪鬼ミタレイリテ正念ヲ失ヒ必ス三悪道ニ堕ト釋セリ。故ニ五辛肉食等カタク制禁スヘキモノナリ。

三夢ニモサメテモ善悪トモニ目ニミエンコトアラハ。善知識ニカタルヘシ。病者モシ思ヒホレテカタラスハ。心得テ何コトカミエツルト。常ニ問ヘシ。若悪コトヲカタラハ心ヲイタシテモロトモニ念佛シテ。罪ヲ懺悔スヘシ。若シ悪キコトヲカタラハイヨ〱心ヲハマスヘシ。貴トカラン

ニ往生ノ心ヲス、メテ念佛ヲトナヘシムヘシ。初メ家ノ内ノコトヲコシラフルニ五ケ條アリ。

一祇薗精舍無常院ニシテ病ヲウケテ。其日ヨリヒコロノスミカヲアラタメテ。別所ヲシツラヒヲクヘシ。人ノ心ハ物ニ随テウツリヤスシ。所モシ常ノ所ナラハ心モ亦常ノ心ナルヘシ。スミカヲヒコロニカヘテ。心ヲウツシアラタムヘシ。目ニタチ心ニトトマリヌランモノヲハ。ユメ〳〵病者ノアタリニハヲクヘカラス。物ニフレテツタナキ心。死スルマテモアルナリ。其所ニハ金色ノ阿彌陀ノ像ニ向テ。佛ヲ東ニ向テ。光ノ手ニ五色ノハタヲカクヘシ。病者ヲシテ其ハタヲトラヘシメテ。北枕ニ西向ニフシテ佛ノ来迎シタマフ思ナルヘシ。常ヨリ香ヲタキ花ヲナラシテ病ノ

臨終行儀

慧心御作

ソレ世ヲアルニ。タレカ死スルコトヲマヌカレン。ヒトヘニ目ノ前ノコトヲノミイトナミ。ナカク身ノ終ヲカヘリミス。シカモ冣期ノ妄念ハ輪廻ノ縁ヲイテサルナリ。コレ人コトニヲコシヤスシ。臨終往生ノシルヘナリ。専ラ善知識ノ勸ニシタカフヘシ。故ニ一人ノ僧ヲカタラヒテ。冣後ノコトヲチキルヘシ。人ノ命ハサタメナシ。誰カ出息入息ヲマタン。ツヽカナキトキナヲタノミカタシ。況ヤ病ヲウケテノチヲヤ。故ニフシタラン其日ヨリ。タチサラストモニコシラヘツトムヘシ。マツ家ノ中ノコトヲコシラフルニ悪縁ヲハ退ケヨ。次

尾題原本無順他加

決定往生緣起終

原本末曰

寫本云、文永三年九月十二日書同十四日一校畢

應永第九五月十八日於比叡山本院北谷草庵志所所如形書之畢、同日

一校畢

于時寛年三年壬午卯月八日辰剋、於比叡山西塔南尾洪泉院東向部屋

書之訖、祛此界臻淨土事不可過此十念縁起、任此掟行住坐臥觀念不怠

者、臨終正念不可有疑穴賢々々

天正七年三月九日於萬木鄕令書寫之訖

求法沙門慶秀法印

原　本　眞如藏寫本全一卷

對校本

一　本　元和五年六月廿一日養典比丘書寫本

況世間名利。非樂亦不實。愚人妄計樂。迷者空執有。
如愚獸小蟲。愛厠下晁穢。似狂兒渴鹿。逐野中陽焰。
於天龍恭敬。猶以不爲喜。況君臣歸依。何苟可生著。
設自帝何益。況彼仕慢擧。天仙彈指辱。聖賢割心悲。
心諸菩薩佛。觀我等悲啼。哀一切衆生。在世無懺悔。
受難受人器。値難値法輪。今若不精勤。後必可憂悔。
不如拋萬事。發趣於一覺。修必入悉地。入定證菩提。
佛昔在因位。精進既得果。我今居凡地。勤修盍成佛。
唯願迷途流。一求覺道源。精修三密行。早歸五智都。
十念往生願。滿數讓紫毫。一念薰修力。證位顯丹誠。
口唱彌陀稱。娑婆緣佛故。思繫本覺理。諸生含容故。
白雲聳蒼天。露命嘆在近。紅葉滿山林。地下思未幾。

南無阿彌陀佛三反

諸佛悟三等。住萬德眞城。衆生迷一如。跰四相幻野。
三等皆是苦。九界悉非常。聖猶墮無常。凡何遁必滅。
一生既如夢。百年何異電。風葉身難持。露霜命易消。
毒箭已入體。法藥未薰心。無常嵐一扇。有待身四散。
不拔去燃石。何能免泥梨。謬一沈黃泉。恐永別白法。
古賢猶能怖。今愚何不愼。爲速離生死。必先厭名利。
名官譬詐怨。榮樂彰甘毒。愚迷醉愛死。賢智覺厭捨。
生死本無常。尊卑何有定。昔樂今既無。今榮後寧有。
三界六道報。生々感萬々。天主人主位。世々經幾干。
名官有何珍。望十號尊位。財利亦其舊。求萬德法樂。
誰耽一旦樂。無顧多世苦。何爲永劫榮。不忍暫時衰。

下果疑剰

界與九界同。名法界阿彌陀佛。大日法界。大悲九界。其體共中道一如。而從衆生無始起一念妄執。緣普賢身。計我々所。起幻化心。作幻化業。成幻化果。觀此心。既非從自生。非從他生。非自他共生。非無因生。求三世無心。心既無。業依何有。業既無。果依何有。果。依之經曰。我身自空。罪福無主。觀心無心。法不住法。故妄情前。雖十界各別覺悟時。一體不二。猶翻妄情。自心即佛心。所以經曰。心佛及衆生。是三無差別。依之十界共云法界阿彌陀佛。故後々九界觀念。准佛界可觀。抑此念佛數返。雖十念。十念中有無量無數念佛。十界更互具故成百返。百界各有十如。故成千返。五陰世間國土世間。衆生世間。故成三千返。三千世間。各有無量數故。成無數念佛。十念猶如成往生業。況無量無數念佛耶。經曰。我不愛身命。但惜無上道。又云。一心欲見佛。不自惜身命。

斷疑類

無明。入妙覺智海。證果位萬德時。無始本有五智此顯。與妙覺智海成一體不二。初緣眞如一實理。理智冥合。冥合。前佛後佛體皆同。自受法樂無間斷。唯佛與佛境界。等覺已還非所知。依之經云。自受用身。諸相好一一遍滿十方刹。自受法樂無間斷。前佛後佛體皆同。此即名自受用身如來。他受用身者。爲十地菩薩。現十重盧舍那身。說心地法門。依之經曰。爲化十地諸菩薩。一佛現於十種身。此即名他受用身如來。三應身者。隨斷機前。現八相成道。說法斷疑。是名應身如來。此三佛同遍法界。離有爲生滅相。無爲常住體。十界具之。三身相即。眞言意。立四佛。共名佛法身。一自性身。即理法身。二他受用身。報身中自受用身。三變化身。他受身應化身。四等流身。九界身。眞言意。以前九界身。名等流身。大日如來。天台意。以九界身名普賢菩薩。雖名言異。其體即一。是則名佛。此佛

諦。往生淨土。三諦相即。無一異。三觀具足。無缺滅。即阿彌陀義也。
五佛者。法身。報身。應身。此三身名佛。一法身者。衆生本有五智如
來。名法身。名佛性。名法性。名實相。名眞如。名中道。法身者。此如來。
衆生本有性。常住無變易。故云法身。佛性者。一切衆生。皆具此性。
可成佛故。云佛性。法性者。十法界性故。云法性。實相者。十界十如。
一一相海。皆常住不變。離有爲生滅相。故云實相。中道者。百界千
如。一一相海。皆離有無相。故云中道。眞如者。其相如虛空。無能障
所障。故云眞如。依之經云。法身體遍。諸衆生萬德凝然。性常住。無
生無滅。無去來。非一非異。非斷常。又經云。毘盧遮那淸淨。三界五
趣體皆同。由妄念故沈生死。由實智故證菩提。此即名法身如來。
二報身者。修因感果。故云報身。就此自受用身他受用身分。自受
用身者。三世諸佛。十方如來。修因位萬行。斷盡第八阿賴耶元品

下一念故云佛法々界。四阿彌陀者。空假中三諦。阿者即空義。十界十如依正。依妄情所執。有體有礙。因緣故有。隨聖智智見。無障無礙。如虛空空。故云空。依止觀故。斷八十八使見惑。盡八十一品思惟惑。惑盡故。界內業盡。界內業盡故。離分段生死。彌者即假義。十界十如依正。依二乘但空觀。雖體性都無。隨聖智眞如觀。自性本有也。依此觀故。斷界內界外塵沙惑。陀者。即中義。十界十如依正。妄想戲論法。如無體性。非都無。因緣所生法。如體性假有。非有。其體一如。非有非無。因緣法。非大非小。非同非異。無生無滅。無來無去也。故云中。依此觀故。斷四十二品無明。無明盡故。界外業盡。界外業盡故。離變易生死。三惑頓盡。二死永除。往生淨土。得菩提果。依之經云。一念彌陀佛。即滅無量罪。念阿彌陀佛。即滅無量罪。又經云。若有重業障。無生淨土。因乘彌陀願力。即往安樂國。此即念三

三平等性智者。緣所現色像皆照眞如實性。故名平等性智。四妙觀察智者。緣所現色像眞如一如。照共相故空。照自性故有。共相故空者。界如三千諸相一々如虛空。雜能障所障。融通無量故。共相故云空。自性故有者。一々諸相。雖如虛空。界如三千宛然有。故自性故云有。照此空有相。名妙觀察智。五成所作智者。覺三諦理現四悉隨緣說法斷疑。此名成所作智。此五智名五佛。此五佛有九界。名胎藏界五佛。有佛界名金剛界五佛。法者。此五智如來。本有常住。離有爲生滅相。自體軌則無變改。故云法。三法界者。大悲隨衆生現九界形。示同隨類時。大智大悲。同眞如理故。融通無礙。無隔別故。佛界具九界。九界具佛界。理智不二。無一異。十界更互無缺減故。佛界名法界。隨衆生妄情。十界各別。依佛智見。十界一如。依之大師釋云。阿鼻依正全處極聖自心。毘盧身土。更不踰凡

圓融之念佛也之文爲完結南無佛法以下文一本無

有疑在

南無佛法界阿彌陀佛者釋此念佛有五意。一南無二佛法。三法界。四阿彌陀。五佛。一南無者。歸命義。歸敬三世佛。又翻度我。十方如來云度我也。二佛法者。佛名大智。智有五。一法界體性智。二大圓鏡智。三平等性智。四妙觀察智。五成所作智。一法界體性智者。十法界性故。言法界體性。智名了智簡擇。即心名智。此心即大日。此大日有九界埋衆生妄想。不起本覺智用。此時名理大日。妄想盡畢。有佛界起本覺智用。此時名智大日。依之經云。心王大日遍照尊。心數恒沙諸如來文依之。即心名大日。又經云。一切衆生悉有佛性。如來常住無有變易。文即大日名佛性。佛性即法界體性故。名法界體性智。其形如月輪。自體明淨。一切色像。悉現其中。依之。即明心名月輪。二大圓鏡智者。法界體性智。心月輪中。十界十如依正。皆悉顯現。明緣無有謬誤。如見現鏡面形。故名大圓鏡智。

原阿上一本有
南無二字以下
同
原地獄法界乃
至佛下一本有
心性不動南無
阿彌陀佛亡泯
三千南無阿彌
陀佛假立假號
南無阿彌陀佛
法性寂然南無
阿彌陀佛寂而
常照南無阿彌
陀佛妙法蓮華
南無阿彌陀佛
念々步々南無
阿彌陀佛之句
畢一本作已
午一作牛
亂下一本有之
字
陀下一本有之
字
跏一本作緣
原矣下一本
有異域眇茫涉
百萬里之洋辛
苦勤勞見羈旅
行之蜜莫忘失
每日十遍念佛
此是決定往生

念。故必就寢時。可唱此十念。持此念佛人。可決定往生。故名決定往生臨終十念矣。

南無佛法界阿彌陀佛　南無菩薩法界阿彌陀佛
南無緣覺法界阿彌陀佛　南無聲聞法界阿彌陀佛
南無天道法界阿彌陀佛　南無人道法界阿彌陀佛
南無修羅法界阿彌陀佛　南無畜生法界阿彌陀佛
南無餓鬼法界阿彌陀佛　南無地獄法界阿彌陀佛

此念佛時。先入此觀念佛畢。後住迴向心。朝起表生也。停午之日西傾。夕臥擬死也。臨終期已至。依之以每夜就寢時。爲今生終焉之剋。專一心不亂。思唱十界彌陀名號。更期聖衆之來迎。忽儲蓮臺之結跏。願以此功德。普及於一切。自他臨終時。共生安樂國矣。

決定往生臨終十念觀念

水下一本有元字
題一本作現
之一本無
期一本作形
皆一本無
念下一本有也字

一念菩提心功德。勝百千造塔善根。故菩提心爲所依。所唱十念。雖一生十念。從十念後所起貪瞋癡等。更不成障礙。例如造五逆。謗大乘等罪人。起懺悔意。讀經念佛。自非無生懺悔。順次生定業無轉。況依託殊勝菩提心。所唱十念功德耶。故一生十念。成決定往生業也。就此念佛。有信者解者。共可往生。滿月光明。遍照耀濁水。上不浮。諸佛慈悲。無偏頗。不信之前不顯。有情有心。大聖必通。信心堅固往生無疑。水精珠。有淸濁水。用淨信人。有出生死德。例如舍衞恒沙水深信者前不越踝。起圓信生圓解。不斷煩惱。不離五欲。即離生死。往生淨土也。依之天台意。起作佛往生意。上盡現生。一期。下至臨終十念。決定往生人。必知一切法皆是佛法。可往生也。彼人即預彌陀來迎時。觀音擎金蓮臺。勢至說深妙法。令發菩提心。即引攝給也。故儲十界念佛。爲結緣勸進。猶欲擬臨終十

界下此字一本無
正念一本作此心
勸一本作勸又往作利
就一本作付
俱一本作共
如一本無

界。發菩提心者生。不起菩提心。無生彼土。依之先期往生者。可知一切法。皆是佛法。一切法者。即十界此也。此十界皆佛身。知三諦相即。三身圓滿。翻無始迷倒。云發菩提心也。仍住正念。唱十念。十念中兼行願。擬決定往生業。故修十界念佛。勸自他往生。就此又有二一生十念。臨終十念。此二俱決定往生。順次生業也。其所以何者。知一切法。皆是佛法。唱十念後。雖起貪瞋癡三業。不成往生障也。是有二義。一者知一切法。皆是佛法者。知生死即涅槃。覺悟生死果縛身。即涅槃寂靜體。能緣煩惱。即成菩提。更非往生障。貪瞋癡體忽空。即成佛得道。故惱煩即云菩提也。喩如於株起人見。種々邪推。知非人邪推即空。於涅槃計生死。起貪瞋癡惑。知非生死。貪瞋癡即空。煩惱即空。業果隨空。暗室挑燈。如暗更無。於涅槃計生死。知非生死。貪瞋癡更無。依之一生十念。成決定往生業也。二

之字一本無

間一本無

業下一本有也字

後一本作來

期一本作生

菩提二字一本無

但現二字一本無

欲一本作思

宗一本無

而大以下三十七字一本無

片輪缺無馳地能。如鳥二羽。片羽折無翔空用。行願相具。可往生也。願者世自在王如來御所。寶藏比丘御坐時。發四十八願中。來迎引接之願也。來迎引接者。一生間作十惡五逆之罪。破身三口四意三之戒。臨終之時。値善知識。仰彌陀願力。十念間。來必迎極樂也。十念有二。一一生之間十念。二臨終之十念也。一生十念。往生不定業。從十念以後。起貪等三業故。臨終十念。往生決定業。十念以後。不起貪等三業故。現生一期。念佛不懈決定業也。又無所得菩提心。決定業但現也。而如我等者。懈怠猶預心拙。缺盡期念佛。妄想薫習思深。無觀心念佛。依何方便。可遂往生。先途。期終焉。念佛。如寂漠求聲。思宿善在無。似虛空尋有。哀哉哀哉。悲哉悲哉。入寶山空手還。依之旁廻愚意。修十界念佛。欲期往生先途矣。

抑十界念佛意趣者。天台宗意。知一切法。皆是佛法。而大乘善根

下往一本作利　中往一本無　往一本作利　生下一本有人字　念佛二字一本無　業一作三毒二字　人下一本有也字　定下一本有也字　願下一本有也字

發菩提心修念佛行也。就菩提心雖有多種。且依諸大乘經意。有二種菩提心。一作佛往生菩提心。二無所往得菩提心。就作佛往生菩提心。決定往生有二類。一盡現生一形。捨利養名譽。修念佛人。二在生間雖破戒作惡。臨終爲時遇善知識。翻心歸佛苦唱十念。堅期往生。念佛從十念以後。不起貪瞋癡業。人。餘行不定。或修念佛讀經卷。雖期往生。不起猛利心。不修純淨善。宿惑厚難迴。罪障重難轉。如是之人。輒依間斷猶預念佛依讀經散善功德。順次生。必不可往生。若宿善厚。根惑易轉。罪障輕。菩提至期。依散善力。又可往生。仍發作佛往生菩提心人。除二類。餘行不定。二無所得菩提心者。修空觀。不著名利。觀眞如。不起妄想。觀念成就。決定往生。此發菩提心人。猶不斷煩惱。不轉罪障已前。自非彌陀願力。輒不可往生。仍凡夫往生。必可依菩提心行。阿彌陀願。喩如車二輪。

決定往生緣起

源信僧都造

禮拜三身懺悔罪　從無始來所犯罪
貪瞋癡等我慢罪　邪見放逸不信罪
住穢破壞伽藍　正教同宿所作罪
殺盜婬妄飮酒罪　自讚毀他謗三寶
師長父母不孝罪　生々世々更不作
一念發起菩提心　勝於造立百千塔
寶塔破壞成微塵　菩提心熟即成佛

決定往生臨終十念緣起

夫凡夫往生極樂。雖行々不同。必依菩提心行。阿彌陀佛願行者。

下偈文一本無

藍下疑脫罪字

往下生字原本無今依一本加之

行一本無

一心不亂專持名　以稱名故　諸罪消滅　即是多善根　福德因緣　其人臨命終

多善根之文秘故是切拔世本無之

原　本　東六條平井氏版行本仝一卷

對校本

一　本　眞如藏所藏寫本仝一卷

自行念佛問答終

月縁下原本有縁依一本削

私言二字一本無

世原本無依一本加

本月在空中本有故也。已上終。

私云。右此一冊本意。只問答成佛不成佛也。云云

知法華意信人成佛也。不信者不成佛。夫法華眼目者摩訶止觀也。殊策五卷。一念三千心地直載此書。其三千觀者。介爾有心即具三千文也。經此說如來祕密。佛在世利根故。又說法妙故聞法當座得脫。不及踏心地。所以佛世教法爲正。滅後無佛故以心佛爲教主。信之觀之。謂祕密三身也。云云

所願。令法久住利益衆生。殊月峯體意。空山道智。法室貞壽。光室妙金。速成妙果。佛子爲臨終正念。決定往生極樂。見佛聞法。頓證菩提。書寫點添。依爲古本。文字消失。妄字可亘。後見聖德改斯。

寬文九歲七月五日　小比丘某甲謹白

一本末曰（但此文在私云前）

本云。建久九年十一月三日。夢見樣。三諦坊覺僧。黑染衣着。此書寫。導念思樣イカテ此書寫耶思間彼僧導念在處來云樣此抄名□法□抄也云云

弘決云雖假聖應即以衆生爲因聖人爲緣者衆生善根微弱聖人敎逼即以聖應爲因衆生爲緣云云

大品。何權不開。故開彼權。還入彼實。即是法華開權意本實矣。若得此心。觀經等所說十六想觀。九品階位。即法華說。三略說者。先德傳云。天竺一億八萬八千三百八十餘卷。文字百億恆沙三千四百六十五字也。品數七萬六百五品也。梵本如此。然今法華一部八卷。文字六萬九千三百八十四字也。然藥王品中言如說修行。即往安樂世界矣。此略說也。汝以管見至此難問。依因緣己心顯佛矣。文相最信之。但我愚鈍未知其因緣。何爲因何爲緣耶。答弘決云。若衆生發心勇猛以聖應即爲因。聖人爲緣。若衆生善根微弱。聖人敢逼。即以聖應爲因。聖衆爲緣。故因緣不定也。問我尙未悟。依因緣感見己心佛。唯願爲我以譬示給。爲後世爲貧根答。順汝願演一喩。譬水中本來有月性。雖然十五夜月不緣已前。不見其月。然彼空中月緣時見水月。此月不思議月觀。何以故。水中

土下一本有現
雖一本作雜
也下一本有念佛
問原本無依一本加
何下一本有念佛
也一本作之
門難解難一本無

壽佛。若於淨妙佛國土。成佛身。住雖深五濁世界。爲觀自在菩薩矣。妙樂大師言。自非證得法華三昧不思議身。安能現於三十三身矣。爰以觀音品中。偏說觀音功德。不說法華功德。觀音即法華經故也。問。法華即阿彌陀佛者。法華經阿彌陀佛依正二報。委細可說。何心不說之如何。答。此有三義。一別不說。二全說。三略說也。一別不說者。法華即阿彌陀佛。故讚法華。即讚彌陀佛也。謂釋迦佛也。我所得智慧。微妙最第一矣。又諸佛智慧。甚深無量。其智慧門難解難入矣。然唯識論所說。妙觀察智。遍於三身矣若得此心。談阿彌陀佛功德。全是法華故。別無可說。二全說者。法華開會心。爾前諸經。法華一乘開出。然今十方佛土中。唯有一乘法。開會爾前諸經併法華經也。故止觀六云。雖示種々道。其實爲一乘矣。若得此心。終日分別。無所分別也。弘決云。既引法華開諸經已。淨名

區疑遙
矣下一本有念佛
何下一本有念佛
我原本無依一本加
也下一本有念佛
何下一本有念佛
佛爲本尊下一本有念佛
何下一本有念佛

介爾有心即具三千。有持不殺生戒心者。是名字即萬德。一心稱念。是觀行即萬德。蓮臺託生後。相似萬德。百法明門後分眞萬德。乃至究竟。是以即故有分益。六故不墮增上慢也。妙樂大師言。極樂雖區即故有分矣。問。既可念己心阿彌陀如何。答。雙觀經言。通達諸法性空無我。專求淨佛土矣。又維摩經云。雖知諸佛國及與衆生空。而修淨土教化群生矣。是以設雖知己心阿彌陀佛。必緣西方彌陀佛。以己心阿彌陀可顯也。故言己心彌陀故不可念西方人。失甚也。不知摠諸佛本意也。四種三昧行人非不知己心彌陀。雖然本尊阿彌陀也。論方必向西方矣。問。四種三昧行人必以彌陀爲本尊。須西方心如何。答。彌陀。法華。觀音。一體三寶異名也。故修行法華成佛者。必成阿彌陀佛。故爲本尊。問。其文證如何。答。弘法大師云。妙法蓮華經者。斯乃觀自在密號也。則此佛名無量

觀下一本有機
以時乃至厚薄義記云不以時多少特由用心厚薄一本亦同但無特字
可利益乃至如何一本作九界利益可然佛法界何利益妙覺功德滿足爾者如何
如何下一本有念佛耶
下一本有念佛
難信一本作有不信三字
現益下一本有念佛

無生法忍。證得法忍。故我身得觀三昧。隨順衆生機根。說無量法門。引導無量壽國也。如此自行圓滿。實依此念。若如是不念者。不可生無量壽國。故小阿彌陀經云。不可以少善根福德因緣。得生彼國矣。天台大師釋此文云。以時日非爲多少時。由用心厚薄。此心也。問。今就利益十法界衆生。可利益九界。若言利益十法界者。何利益妙覺功德滿足。如何。答。此有二。一經云。一切衆生受異苦。悉是如來一人苦。故一衆生得解脫。如來成脫苦。豈非益佛耶。二常平等故。迷悟無差別。常差別日。非無迷悟。故一衆生成佛。佛界增加。豈非利益耶。問。我愚鈍故。尚難信。一切衆生悉具三千。知何有現益。答。豈不云。不知此理者。功德少。若利根知此理。故現身成佛。中根順次往生極樂。又彼修行。下根者。二生三生內。往生極樂。修行成佛。亦知此理者。不造十惡五逆。十重禁戒。自然成就。謂知

不得道下一本有念佛

耶下一本有念佛

所修止觀作他所

財上己一本無

歳一本作年

矣下一本有念佛

耶下一本有念佛

勝。速疾得道。何得全倚他也矣。此文心常平等。日不論修不修。全得同一體。故。常差別。日。修不修異。故修者得道。不修者不得道。問。若言修者。得道者不知此十界互具者。修可得法界功德耶。答。此有二心。一得。二不得。不得者。大乘止觀云。若但自修。不知所修作是己有者。復不得他益。即如窮子。不知父是己父。財是己財。故二十餘歲。更受貧窮苦。止宿草菴。即其義也。二得者。法界功德。悉我身全得也。雖然。我愚癡而不知。如日月普照法界。有眼者即見。無眼即不見。雖不見。不可云不照。故南岳懺法云。十方諸佛。常放淨光。照觸一切我身罪重障故不覺矣。問。若爾。修一善。何可想耶。答。此可存隨緣不變二義。謂不變隨緣故。一善施法界。可想普利十界衆生也。隨緣不變故。可想法界衆善。接我一身。故得無量功德。得功德。故遊行諸佛淨土。以無量供養。供養諸佛。以此功德。護得

事可原本作不依一本改

也一本作聞

天下一本有人

矣下一本有念

佛何下一本有念

佛若下一本有爾

覔原本作不見依止觀及一本改

答。圓教心。事理不二。故理遍許。事可遍也。但迷情理遍。悟前事遍也。故弘決引佛藏經云。佛見一切衆生。身中皆有如來結跏趺坐。已具佛界。餘界亦然。是故下地雖具因果。但是理性矣。又云佛果已滿。從事而說。初住分具十界。乃至凡夫但是理具也。此文明悟前事具也。問。若如此十界互遍許。其功德實得歟。答。實得也。故大乘止觀引經云。菩薩。若知諸佛所有功德即是己功德者。是爲奇特之法。又復經言。與一切菩薩同一善根藏也。是故行者當知。諸菩薩二乘聖人・凡夫天等所作。皆己之功德。是故應當隨喜矣。問。若爾者。一切凡夫皆應自然成佛。如何。答。大乘止觀答此難云。若此眞心。唯有同義者。可不須修行藉他得道。又亦即無自他身相之別。眞如既有異性義。故得有自他之殊者。寧須一向倚他覔道耶。但可自修功德。復知他之所修即是己德。故相迭助成。乃能殊

矣下一本有念佛
將上一本有將正報正報互遍歟八字
二一本無
鑒下一本有法界也三字
矣一本作知
知及歟下一本有念佛

彼言三千互遍亦爾矣。問。互遍者言依報依報互遍歟。將正報依報互遍歟。答。慈覺大師云依正三二論互遍。法界融通無礙雖融雖遍。身土不亂。雖身雖土三諦不異。故互遍者。佛果佛果互遍。乃至地獄地獄互遍。依報亦爾。淨土淨土互遍。乃至鐵城依報。亦地獄依報。互遍全不亂。故佛十法界機鑒。法界以法界機鑒。乃至佛界所具地獄界。以地獄界機鑒。故妙樂大師云。佛無權智不名正遍矣。取意 大乘義章言。佛本不斷性惡德。故普現色身。若斷從何而立矣。爰以衆生念佛。以衆生所具性德佛界。念修德佛也。衆生内心無佛界性。設雖佛說法教化衆生念佛心不可起故衆生起念佛心。必内心備其性。故弘決四言。自非内薫。何能得悟。故知。生悟力在眞如矣。又大乘止觀引經言。若有衆生。無佛性者。縱使修道。不得成佛矣。佛界尚爾。餘界准知。問。如上十界互遍者。理遍歟。

二一本作一

可得道。二百比丘。聞之得阿羅漢。王及夫人。方乃不疑。此偈乃對極鈍者說矣。此其明證也。問。既所開悟成佛。信爾者。其一句爲我細分別。先三千者。何數耶。答。三千者大別有三。一衆生世間。二五陰世間。三國土世間。又分別此有二。謂依正二報。上二正報。次一依報也。次委分別。衆生世間千。五陰千。國土千也。謂一衆生有法界。二法界具十法界百法界也。百法界各具十如是。成千如。次一五陰具十法界。五陰其十法界。亦具十法界五陰百五陰。此亦各具十如。故千如也。次一國土具十國土。十國土亦具十國土。故百國土也。此亦各具十如。故成千如。摠論者三千世間也。問。此一念三千。但限我一念。遍法界。答。弘決五云。當知身土一念三千。故成道時乃至。一身一念。遍於法界矣。問。若爾者。我一念遍於法界。法界亦不遍我否。答。弘決五云。縱知內心具三千法。不知我心遍彼三千。

人也下一本有念佛

如何下一本有念佛

可疑下一本有念佛

解疑益

答。龍女即其明證人也。問。龍女佛在世人也。佛滅後可示如何。答。不見經文致此疑。經云。於我滅度後。應受持此經。是人於佛道。決定無有疑。聞此文理。猶生疑惑者。汝即當墮惡道。故經云。若有於此經生疑不信者。即當墮惡道。已上努力不可疑。問。我等愚鈍。猶疑難改。所以。龍女智惠利根。多聞廣學。我等愚癡暗鈍。豈以彼比我耶。今我一句文字。何以此少智。忽成佛如何。答。汝不見經文至此疑也。經云。一偈一句乃至一念隨喜者。我皆與授記阿耨菩提。已上 加之弘決二引槃特因緣釋云。匿王請佛及諸比丘於正殿坐。佛欲試其神力。令其取盆來。至王門。守門者不許其前。其於門外。申手送盆。王驚問佛。其誰手耶。佛言。槃特。王問。但誦一偈。云何乃爾。佛言。雖誦千章。不義何益。不如一要聞可滅意。雖誦千章。不義何益。不如一要聞行得度。雖誦千章。不解何解。不如。一句法聞

心也下一本有念佛

理也下一本有念佛

云々一本無而有念佛

尙積。名大罪人。爲是等說。還增謗罪。則有損無益矣。此心也。問。旣聞此法信仰者。宿習有知。若爾。聞者一向可信。而或少年信仰。歲積不信者。少年雖不信。年漸積後生信者。此等差別如何。答。此亦宿習也。弘決八云。因於前世前念善惡。故後世後念善惡得起。並名習因。此即因果必然法門。法爾道理也。問。一切衆生同備佛性。同具三德祕藏無差別。若爾者。同等無差別。何由有利鈍差別。結緣厚薄耶。答。起信論問答心也。彼論答此難云。眞如本一。而有無量無邊無明。從本以來自性差別。厚薄不同。故過恒河沙等上煩惱。依無明起。差別我見愛染煩惱。依無明起。差別如是。一切煩惱。依無明所起。前後無量差別。唯如來能知矣。此答心者。一切諸法。如此差別。凡夫非可知。唯如來知給云云問。我旣聞上諸文理。而生信心。但尙有所疑。誰人修行法華。現身成佛。聞其證人彌增信。

信下一本有念佛
當一本作曾
習聞下一本有念佛
曾一本作宿
作下知一本無
信知下一本有念佛
聞下一本有念佛
或勸原本無依一本加

法生一念信。答。經云。佛告藥王。又如來滅度之後。若有人。聞妙法華乃至一偈一句。一念隨喜者。我亦與授阿耨菩提記。藥王當知。是諸人等。已當供養十方佛。於諸佛所成就大願。愍衆生故生人間矣。又疏云。故知。末代一時得聞聞而生信事須宿種矣。如是等文。必宿習聞。問。聞此法不信仰者。曾何處來人乎。答。無量清淨覺經。若有善男子善女人聞說淨土法門。心生歡喜。身毛竪如拔出者。當知。此人過去宿命已作。知此佛道來也。若人聞淨土法門都不信樂者。當知。此人始從三惡道來。殃咎未盡。我說。此人未可得解脫矣。此文可信知。問。若爾者。如是惡人。雖不信仰此法強可勸聞。答。此二意。或勸或不勸。先勸者。知不輕喜根。故涅槃經云。如來常住無有變易矣。釋。若信。若不信。暫聞常住字。決定不墮惡趣即生不動國。已上次不勸者。弘決五云。宿謗大乘。故行解全闕。餘殃

故下一本有念佛
何下一本有念佛
智一本作知

以故。發菩提心希故。如首楞嚴中。佛告堅意。佛滅度後。五百歲。多有比丘。爲利養故發心出家。以輕戲心聞是三昧。發菩提心。我知。是心亦得作於菩提遠緣。況清淨發心。故知。若非正境。縱無妄僞。亦不成種矣。又云。世人多以坐禪安心名爲此人都未識所緣境。無所期果。全無上求。不識大悲。全無下化。是故發心從大悲起矣。此等文明證也。惣一代聖教中。無智成佛。未曾有之。所以。佛者梵語也。此云覺者。謂覺一念三千故。問。若爾者。此一念三千。設雖住凡夫心。一念發心功德如何。答。止觀引華嚴經云。菩薩於生死。最初發心時。一向求菩提。堅固不可動。彼一念功德。深廣無崖際。如來分別。窮劫不能盡。已上弘決。生死者。擧極下位薄地。初心。若不爾者云何能顯圓頓功。深理極事遍。不爲所動。非謂不退爲不動也。此文其明證。問。既凡夫發此心智。若爾。此人昔幾種善根。聞此

耶下一本有念佛
也下一本有念佛
厭離者一本作厭欣善處者
稱疑秤
愚癡無識一本作愚癡無也
如何下一本有念佛
智下一本有人
惡一本作要

近阿耨菩提。皆屬此經矣。此其明文也。問。設雖知法華心。但語不行者。可有成佛義耶。答。論遠因者。如前所引善住天子經。若論近因。無思惟修習者。法華悟不可開。故弘決云。理性雖具。若不觀之。但言觀心。則不稱理矣。惣聖教大旨。必具目足。說此意也。問。若但雖知一念三千理。不修習者。又雖不知一念三千理。但任世間道理。娑婆穢惡處厭離者。此二何近佛道耶。答。我今凡夫。未得鑑機三昧。故其人佛道近遠難辨。宗家智同如來。乃能稱量釋。謂雖惡人成佛。如央掘。雖善人墮獄。如四禪比丘。或極樂往生人。現雖造十惡五逆。臨終十念成就。彌陀佛引接。全簡愚癡無識。此等難定。問。實爾。今所論。非宿習有無。但問聖教大旨。如何。答。任聖教大旨。設雖不修習一念三千。知一念三千人。勝無智。何以故。弘決一云。初心行人甚惡。甚惡縱使發心不眞實者。緣於正境功德猶多。何

何下一本有念佛

說一本作見
何下一本有念
佛下故下一本有
說時二字
佛故下一本有
題
私此答不答疑
寫誤一本作答
一字且一本注
此答不シン也

證也。問。文證雖然。未知誰人一生中入妙覺位。如何。答。龍女即此其人也。問。龍女成道。弘決六。玄文第五。判爲初住。龍女亦爾矣。此釋心。全不聞妙覺位。如何。答。法華得益。本迹二門各別也。提婆品。迹門故釋初住。論本門實義時。可言妙覺成道也。問。其文證如何。答。提婆品。爲散智積菩薩。舍利弗疑龍女以寶珠獻世尊。納受。此即表龍女始覺寶珠。歸釋尊本覺也。故宗家。釋龍女寶珠。表圓因叶圓果也。此即其明證。問。爾前經中。敎面擧妙覺益。本門壽量經文。雖擧一生補處得益。全不說妙覺益。其心如何。答。爾前經心說己心外有佛。故從佛開悟。故擧妙覺益也。然今本門實義。說己心即佛。故由他不悟。故妙覺內證。敎門不說。爰以不擧也。問。其文證如何。私此答不答。終不成佛。指妙覺。故經云。若未聞未能修習是法華經。當知。是人去阿耨菩提尚遠。若得聞解思惟修習必知得

約一本作論
耶下一本有念佛
此下一本有轉
經一本無
言一本作存

談也。今約佛。故但約能居。若爾者。但二千。何取所居土。言三千耶。答。我今所存佛者。如上所明身土一念三千故成道時。能觀觀智。觀達煩惱業苦三道。法身般若解脫也。時父母所生身。轉三德秘藏理顯。能居身如此。所居國土草木。轉七重寶樹。瓦礫土。轉瑠璃土也。故依報成佛正報成佛。正報成佛依報成佛。此名成佛。若觀念成就。娑婆即極樂也。爰以。觀經云。阿彌陀佛國。去此不遠矣。又疏云。豈離伽耶。別求常寂光。非寂光外。別有娑婆矣。又法華經云。又見此娑婆世界。其地瑠璃。坦然平正。閻浮檀金。以界八道。寶樹行列矣。此法華經。達淨穢不二故也。問。如此通達成佛者。初住妙覺中何。答。可言迹門心初住。本門心妙覺。問。如上所說。觀達成佛者。初住妙覺成道中何。答。觀心成道故。可妙覺。問。其文證如何。答。上所引金錍論文也。修禪院大師。六即智斷。一生究竟文。此其明

此殺下一本有有情爲殺

上業下一本有不造惡

想原本作相依一本改

言一本無

分一本無

我心。他人心。又復如是觀者。於自他境界。全無惡緣。思他人順我。
彌陀順我。思他人遠我彌陀佛違我。常如此念。念々功積。漸々德
累。自成阿彌陀也。況往生極樂無疑。又己他能觀心限耶。所居淨
土草木。併彌陀佛也。謂阿彌陀三字。空假中三諦也。其三諦者。遍
法界。釋籤一云。三諦無非遍一切處。文止觀一云。造境即中。一色
一香。無非中道。文若得此心。一切諸法。無非阿彌陀佛。故先德云。
若好此皆佛。故違此殺三千佛。爰以。不輕菩薩。昔信一切衆生佛。
今成教主釋尊。我等。從昔不知此理。故今猶凡夫也。大論云。如泥
木等。無有功德。因發佛想。無量德。何況於人矣。故一切有情佛念。
今生不造惡業。故無生死業。無生死業。何由受生死身。故離生死
證菩提。在只知此理與不知。自今已後。於一切衆生發佛想。敢不
輕。問言。殺一衆生。成殺三千佛者。未分明。三千者。合依報正報而

佛止觀作作

而一本無得一本作見

自下一本有不

下想疑相或通用歟

想疑相或通用歟

倶原本作但依一本改

是妄想佛作如是執者。雖見釋迦如來亦不識也矣。若得此心我等今所見畫像木像佛實應身也已心感見佛故。問。此二義中。就先義。諸佛雖遍法界。而不得者。何人可見彼佛。答。法華經云。柔和質直者。則皆見我身矣。華嚴經云。若有信解離憍發心。即得見如來。若有諂誑不淨心。億劫尋求莫值遇矣。大論云。身口意惡不悔欲見佛。無有是處。文 此等文心。止散亂心。正性清淨自見佛。例。如水清淨。浮日月影。故菩薩處胎經云。菩薩清冷月。猶如畢竟空。衆生心水淨。影現於其中矣。問。就上言。我等恆所起第六識阿彌陀也。若爾者。常如何可思耶。答。天台大師云。歩々聲々念々。唯在阿彌陀矣。故行想時。可念已心阿彌陀佛行想。又坐思時。可念已心彌陀佛坐想也。語嘿作々。遠緣順緣。行住坐臥。恆與阿彌陀佛。共坐臥可念。傅大士觀心偈云。夜々懷佛眠。朝々還倶起。已上何但

木像下一本有佛

現下一本有應

可見一本作不可云見

內止觀作自諸一本無我既止觀作義故一本亦同

了了止觀作聲聞

外下止有觀實字

是也。其故。西方阿彌陀佛。六十萬億那由他身者。衆生心所感得也。何以故。若佛自行內證。全無際限。不可有九品階位。此從衆生心性。利鈍不同起。又畫像木像。從衆生心出生。同因緣所生。以靑黃赤白色而莊嚴。故全不異心生。是以天台大師。釋應身如來云。如水銀和眞金。能塗諸色像。功德和法身。處々應現往。八相成道。轉妙法輪。即應身如來。已上若得此心。我等所見畫像木像。眞實應身如來也。不知此旨者。設佛在世。見釋迦佛。尙可見彼佛。謂已心外佛。故大乘止觀云。佛在世。所有衆生。現前所見佛者。亦是衆生內心作也。故經云。心造諸如來。以此我既即時。心想作佛。則與彼現前見佛一也。又復乃勝二乘現見佛者。何以故。妄想曲見。謂從外來。非是心作故。即是顚倒。不稱心性緣起義。故經云。了了曲見已上。又云。若不解此義故。謂釋迦如來是心外佛也。心想佛者

也下一本有念佛

就下一本有有

其可謂一本作爾者

下心一本有說

問上一本有念佛

是下一本有念佛

見不上疑脫答字

本有四德爲所依修德四德爲能依矣此心也。問。就上三身阿彌陀。其可謂三身彌陀。共遍法界。利衆生耶答。圓教心。三身共遍。故弘決一云。三身相即無暫離時。既許法身遍一切處。報應未嘗離於法身。法身若遍。尙具三身。何獨法身。問。文理雖然。尙有疑。法報二身遍法界。應身對機說法。形丈六身。何遍法界。答爲汝以一譬可明此義。譬如滿月方尺。遍一切處。丈六身遍一切處。道理又如是。問。言共遍。尙有疑。其故。法身報身唯佛與佛境界也。等覺菩薩尙不知。他受用身佛爲地前未斷惑凡夫所現身也若應身遍法界。我等何不見彼佛。見不見二義。一雖不見佛。而遍法界。我等無明病盲故不見也。故法華經云。令顚倒衆生。雖近而不見。已上南岳大師云。十方諸佛。常住不滅。我濁惡眼障故不見。文又懺悔文云。衆生雖不見。實在諸佛前矣。二見佛也。但我等所見畫像木像

也下一本有又云蓮華心來迎也八字
邊一本作方

下無一本無

論下原本有文今削

心中現此諸佛是故所見佛不在外唯是眞心之想。此釋心實西方彌陀。來迎指心來迎也。又蓮華三昧經云。還我頂禮心諸佛矣。此心也。二於己心常平等。常差別二義。常平等邊。如所難無去來。常差別故有去來。可知。三無量劫癡惑所覆。未知己心即阿彌陀也。然今大乘經論。教己心外不可求阿彌陀佛。故己心即阿彌陀佛也。聞我身即阿彌陀也。開覺始覺智惠。初生來也此始覺智惠。非初成阿彌陀佛。達有無始無終阿彌陀佛。是言始覺還歸迎本覺也。此起信論心也大圓覺經云。始知衆生本來成佛。生死涅槃猶如昨夢矣。此心也。次會無能所難。雖上粗顯。然委分別。又有三義。一常平等。常差別。如上所說。二於己心有十法界。其中己心菩薩界大悲觀音。哀己心六道衆生。從己心淨土來娑婆世界。己心觀音乘蓮臺引接己心淨土也。華嚴經云云。三約性德修德記云。

耳一本無
故下一本有念佛
故一本作事也
達一本無
然一本無
見一本作是

智成法身。平等性智成報身。成所作智成化身。妙觀察智遍於三身。爰以。智惠者。運載義也。故餘佛不可有此義。爰以。無量清淨覺經云。阿彌陀。與觀世音。大勢至。乘大願船。浮生死海。就此娑婆世界。叫喚衆生。令上大願船。送著西方。若衆生。失糧生死曠海。應以智惠。而爲船筏。文此等文即阿彌陀耳。聞餘佛無來迎引接願。阿彌陀者・一切智德故。問。此等文理實然。但上所擧四重阿彌陀中。餘三佛來迎引接可然。於其中觀心阿彌陀。來迎義不可有。謂來迎者。彼此相望論之故。然觀心。觀達我己心即阿彌陀。己心即西方淨土也。豈有來迎義。爰以。心地觀經中。己心佛說無生無滅無來無去矣。又於己心全無能所。然謂西方往生者。乘觀音蓮臺矣。此既有能所義。如何。答。先會來迎難。此有三義。一大乘止觀云。我今所見諸佛。雖見想心所作但即是矣。能知由我想念薰眞心故

上有一本作在
佛一本無
佛各下一本有在字
又所上一本有在
陀下佛一本無
也下一本有念佛

耶。答。約位分別。有無量阿彌陀佛。先惣分別。有十二阿彌陀佛。所謂爾前圓敎。五十二位。彌陀。迹門。本門。各五十二位。就觀心六即。有六六三十六。彌陀佛。故成百九十二。又百九十二彌陀。各有三身。三身又有三身。此一佛各三千阿彌陀。此三千阿彌陀佛。又所具三千阿彌陀佛。如是委分別。實有無量無邊阿彌陀佛。故阿彌陀佛讚偈云。光中化佛無數億。化菩薩衆亦無邊矣。問。如此阿彌陀佛。各有來迎引接願耶。答。唱阿彌陀佛者。必皆有來迎引接願也。問。若爾。餘佛無來迎引接願歟。答。此有三義。一圓敎意。一佛一切佛。一切佛一佛。一行一切行。一切行一行。一願一切願。一切願一願也。故彌陀一佛願。一切佛願。二依群疑論心。一切佛各有四十八願。但今且擧阿彌陀也。取意 三實除彌陀。餘佛無來迎引接願也。以何故。謂阿彌陀佛者。一切諸佛智惠故。唯識論云。大圓鏡

也下挾注一本爲本文而其下有念佛
別一本無
觀心下一本有優劣判三字
不違一本作具
不述下一本有念佛
不下一有可
是下一本有念佛
本門下一本有心

故有信之徒。多願往生也又安樂世界。既是淨土初門也。即此方與境。次相接。往生甚便。何不云耶。文是則竪土心也。已上宿縁甚厚覚問云。如是爾前。迹門。本門。觀心別事。答。汝心非起。出玄文。細可見彼文。不違述。問。爾前。迹門。本門。觀心。同號阿彌陀佛。然阿彌陀梵語。此云無量壽。爾者。同無量壽。於佛壽者不有際限。如是。答。既於佛有四重差別。於壽命亦可有優劣。故天台大師云。如阿彌陀佛。實有期限。人天莫數。有是有量之無量矣。又釋籤七云。無邊者。身實有量。而名無量。若壽無量。如何得有觀音補處。此則爾前無量壽釋。以此准知。有始者必有終。故爾前經心。謂阿彌陀佛成佛已來十劫。或十小劫矣。法華迹門。宣大通以來。經三千塵點矣。本門。謂經五百塵點矣。此皆有始。觀心阿彌陀佛者。無始。無終。無近。無遠佛也。此則眞實無量壽佛。問。四種阿彌陀佛。約位論幾阿彌陀佛

雖一本無
先一本無
往一本無
設疑說
土下一本有事
知一本無
心歟下一本有
不字
者一本無者下
一本有不可云
三字
幢世界下一本
有為

往生者。談必發菩提心。尤有其由。西方既菩提心方也。故往生人。何不發彼心。爰以四十八願中。第十九。阿彌陀佛引接娑婆衆生願云。發菩提心。修諸功德矣。故諸經論中。不說雖不發菩提心。而往生淨土。先自他宗先德。存此義故也又設不發菩提心往生淨土者。須得心。知或為勸衆生歟。或別時意趣心歟。發菩提心往生淨土者。諸說其道理必然故也。

唯佛 寂光土

但菩薩 實報土

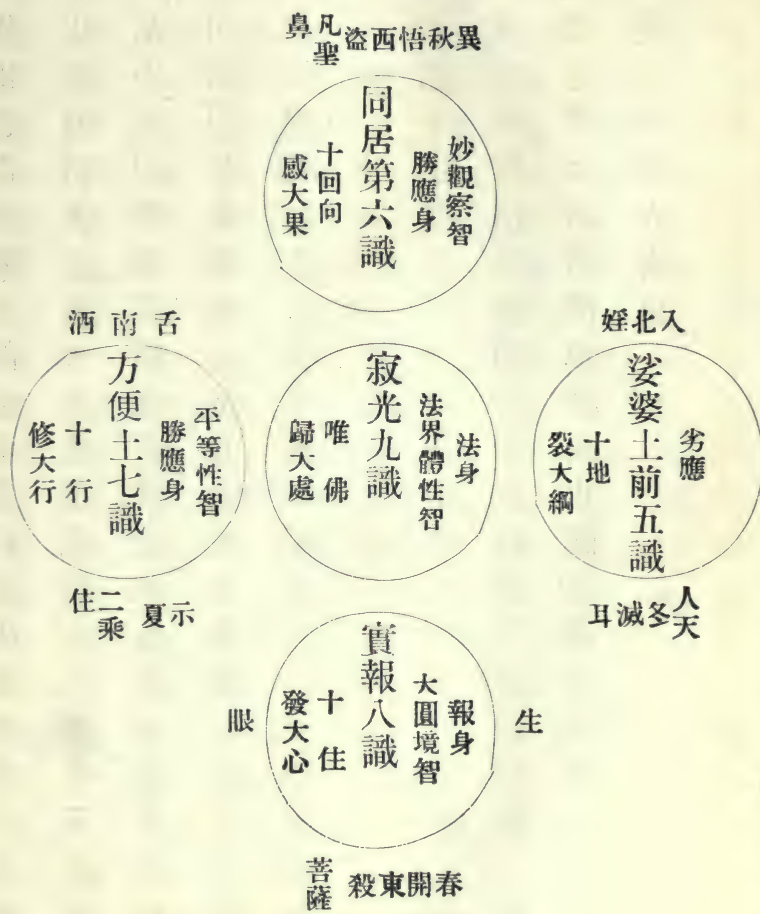
但二乘 方便土

凡聖雜 同居土

但人天 娑婆穢土

安樂集。引華嚴經云。娑婆世界一劫。當極樂世界一日一夜。極樂世界一劫。當袈裟幢世界一日一夜。如是優劣相望。乃有十阿僧祇。故知。為淨土初門。是故諸佛偏勸。餘方佛國。都不如此丁寧。是

舌四一本作等
五謂一本作智



開示悟入、四位。眼耳鼻舌、四根。生住異滅、四相等。也天台宗。ニ謂フ淨土、

異下一本有名
之下因疑曰
也下一本有念
說一本作見
愜一本無
佛下一本有事
愜一本作恆
也下一本有念
佛
法相宗立下五
本作四
性下智一本作
無
尋下一本有念
佛
給下一本無
給下一本有念
佛
殺原本作敎依
一本改

十六方子表大經所說十六分佛性也。但是因果異也。雖然。於佛全非異佛。爰以。妙樂大師云。但住因之因。果性名因。在果之時。攬因名果。雖互得其法恆如矣。或眞言敎十六大菩薩又是也。問。化城喩品。不說以釋迦爲愜北方佛如何。答。此論議。先德所尋也。今輙不可辨。但於此異義不同也。含如此義。故經愜不說也。問。立五智在眞言敎。顯宗但立四智。今何心立五智耶。答。此義非私所立慈覺大師云。玄文智妙釋。法相宗立五智。眞言天台立五智。法界體性智。約中道遮照境。若欲論義。彼大師釋可尋問。我愚鈍。雖聞上所說。分明難悟。唯願。圖書示我給。答實爾。此橫竪二義。圖之。五戒殺盜婬欲妄語飮酒也。摩訶止觀大意五略。發大心。修大行。感大果。裂大網。歸大處也。

也下一本有念佛云一本無正覺及作佛下一本有念佛

我等分齊所以未斷惑凡夫我等所起第六意識。妙觀察智。妙觀察智。西方阿彌陀佛是也。存此道理。謂一切衆生。初發菩薩心成佛者。皆謂阿彌陀佛也。爰以教主釋尊。一代聖教中。對娑婆世界未斷惑機。偏讃阿彌陀佛也。妙樂大師云。諸教所讃。多在彌陀。故以西方而爲一准矣。故前五識釋迦佛教。依第六識阿彌陀佛淨土生。可思之也。天台大師云。東方釋迦生物善。西方彌陀除衆惑。文 又善導和尚云。釋迦。此土撥遣。彌陀彼土來迎。彼呼。此遣。何不生矣。先德存此理。作如是釋也。故可念除釋迦。全無拔濟娑婆衆生者。故經云。唯我一人。能爲救濟矣。此理元有由。故娑婆世界我等衆生。本尊釋迦彌陀二佛。偏可憑也。問云。於己心佛如是。東西佛當於何處正覺。答。化城喩品。大通佛十六王子。出八方作佛。問。彼大通佛十六王子。已未己心佛如何。答。諸佛教説。必有所表彼

中下一本有立
濁一本作淨
約智上一本有此
也一本無
土一本作等
此一本無
是一本無

尊既爾。阿彌陀亦復如是。故經云。諸佛如來法皆如是。已上此心也。此本門說宿緣厚也。第四觀心阿彌陀宿緣厚者。一家天台心者。一切衆生心中本有九識。名謂庵摩羅識。此云濁識 中央也。此約智法界體性智。約佛法身如來。約機唯佛與佛境界。約土寂光土。次第八識阿梨耶識。東方也。此云藏識 約智大圓鏡智。約佛報身如來。名阿閦佛。約機菩薩所見。約土實報土。次第七摩耶識。南方也。此云執我識 約智平等性智。約佛應身如來。名虛空住佛。約機斷見思聲聞所見。約土方便土。次第六識。西方也。此云別識 約智妙觀察智。約佛勝應身。名阿彌陀佛。約機凡聖雜居。凡夫爲正聖人爲傍 約土同居淨土。次前五識。北方。約智成所作智。約佛名應身。名釋迦牟尼。約機未斷惑凡夫。約土娑婆世界也。今案之。上三淨土。雖妙非我土分。斷惑人生處故。娑婆世界。今我等所厭。故不願生。此故自是同居淨土。相當

前下一本有阿

華原本作化依一本改

陀下一本有佛

宿一本無

者上一本有厚

又下云一本無

又云。玄文云。本從此佛初發道心。亦從此佛住不退地。已上此其證文也。次皆成阿彌陀佛義者。娑婆世界衆生。於阿彌陀佛宿緣深重故也。今謂此宿緣。就四種彌陀義別。一爾前彌陀宿緣。二法華迹門彌陀宿緣。三本門彌陀宿緣。四觀心彌陀宿緣也。第一爾前彌陀宿緣者。悲華經等心。說阿彌陀佛。昔爲此國王。遇寶藏佛。初發菩提心。起菩薩行。修行圓滿成佛。故特此國衆生宿緣厚也。第二法華迹門阿彌陀者。昔大通佛。興出此國。其佛未出家時。有十六王子。於此土出家爲沙門。起菩薩行。今現在八方。各得成正覺。其中第九王子者。阿彌陀是也。故此土衆生宿緣厚也。第三本門阿彌陀宿緣者迹門尙說。始於此國起菩薩行。今西方成佛也。況本門心。然我實成佛已來。久遠若斯。但以方便敎化衆生。令入佛道。作如是說。已上又云。我常在此娑婆世界。說法敎化。已上釋

意疑剩

耶下一本有念佛

何下一本有念佛
衆上疑脫二字
何下一本有念佛

量無數劫。聞是法亦難。已上汝既具足如是不思議。豈非大幸。雖然。汝元惑心所覆。故謂法華經非我分。而不信受。從冥入冥。永不聞佛名。是以自今已後。靜想發法華經意。意。弘決一云。圓頓教法。溢藏盈函。不暫思惟。便至瞑目。徒生徒死。一何痛哉。已上弘決四云。若於人天。不修業者。百年佛出。終不得道。已上汝不見如是等文理。煩至問答。此無道所至。問。若爾者。不發法華經心者。不成佛耶。答。法華云。佛智無師智。已上華嚴經云。證不由他悟。已上摩訶止觀云。我行無師保。已上弘決云在因必藉。果滿稱爲獨悟。已上此其明證也。問云。既如此。一切衆生妙。佛劫國名號如何。答。此有二義。一初發心時。衆生初結緣時。雖何佛號。云爾名。問。其證文如何。答。先初義者。今教主釋尊。昔遇彌勒佛發心。故當來作佛。亦名彌勒佛。故疏記云。初從此佛菩薩結緣。還於此佛菩薩成就。已上

耶下一本有念佛

聞利益末世利益虛耶。問。若爾者。一切凡夫。未斷煩惱皆在名聞利養心。而末世凡夫。非法華現益機。但限聖者可修之如何。答。汝不知教主釋尊本意至此難。若法華經。爲聖者說。居實報寂光。可說此經。何心來至娑婆。頓說法華。故妙樂大師云。然圓頓教。本被凡夫一心。在凡即可修習。已上既云本被凡夫。釋尊出世本意。偏爲我等。況經既說後五百歲濁惡中。豈非爲近來我等衆生說耶。惣汝不知正教旨。至此疑難也。今爲汝分別。大經云。生人趣者如瓜上土。墮三途者。如十方土。已上又云。生世爲人難。值佛難生信。猶如大海中盲龜遇木孔。亦如針鋒豎閻浮提。以介子從忉利天投閻浮提。何由可得貫針鋒。已上佛去世後非無。而依衆生薄德。何由可值。然汝受人身。豈非不思議。況亦既值佛教。設亦值佛教。於其中值法華經亦難。故經云。諸佛興出世。懸遠值遇難。乃至無

下本下一本有念佛

也下及何下一本有念佛

耶下一本有念佛

失。釋籤云。法既本妙。麤由物情。故知。但開其情理自復本。問。所言如說修行者。其相如何。答。法華經云。入如來室。著如來衣。坐如來座。如來室者。一切衆生中。大慈悲心是。如來衣者。柔和忍辱心是。如來座者。一切法空是。安住是中。然後以不懈怠心。爲諸菩薩及四衆。廣說是法華經。此文即說其如說修行相也。問。若不如是。但爲名利名聞。如何。答。今如所論即身成佛義。爲名利者。成佛義難有。故弘決四云。能修四安樂行。一生得入六根淨。極大遲者。不出三生。若爲名聞利養。則累劫不得。已上問。若爾者。終無益耶。答。今釋。對一生得入者。遠益云累劫不得也。若遠益。論其功德無量也。如善住天子經云。聞法生謗。墮於地獄。勝於供養恆沙佛者。雖墮地獄。出還得聞法。此以供佛不聞法者。而爲校量。而生謗尚爲遠種。況聞思惟。勤修習耶。謗者尚有利益。況受持讀誦者。設雖云名

起一本作立
也下及何下一本有念佛
也下一有念佛
何下一本有念佛

有四種衆生說成佛也。謂藏通別圓也。三藏敎意。成佛者。說始起菩薩行後經三僧祇百大劫成佛也。通敎意。成佛者。說有衆生。始起菩薩行後動逾塵劫成佛也。別敎意。成佛者。說有衆生。始起菩薩行經無量阿僧祇劫後成佛也。然今摩訶止觀心。謂但我初一念心即佛。全二念不隔。故成佛事速疾也。問云。不逾一念矣。文證如何。答云。豈不言耶。介爾有心。即具三千矣。是也。加之。金錍論云。阿鼻依正。全處極聖自身毘盧身土。不逾凡下一念。已上修禪院大師云。不經三祇頓滿薩埵行。不逾一念直至遮那果。已上此即其明文證也。問。若如是者。見世間受持讀誦解說書寫法華經人其數無量。而未見即身成佛人一人。爾者如何。答。於如來說敎一不可疑。但無如說修行人現身成佛者難也。雖然。於敎不可疑値此敎。現身不成佛。我失也。故山王院大師云。以我懈怠。莫佛敎

實要下一本有中要之文下一本有念佛

下迹疑本

敎面下疑脫尙不二字而猶有脫誤歟

問上一本有念佛

何下一本有念佛

問上一本有念佛

何下一本有念佛

我願如實要也。但我愚鈍不知此文心細示之文。答。此文心者。以凡夫愚意。輒不可辨。所以一代敎主釋迦。出世本懷。四十餘歲。未顯眞實法也。然至法華。尙有本迹二門差別。迹門意。彌勒三請唯願說之。我當信受佛語。佛言。汝等諦聽如來祕密。本門敎面顯露書顯。名摩訶止觀。云云故止觀一云。天台智者。說己心中所行法門。已上故衆生介爾一念。三千性相歷歷備焉事。法華本門尙不顯。況迹門乎。何況爾前諸經乎故今文意。四種釋中第四觀心意也。三妙心法妙心也。問云。敎門顯露不說心如何。答。敎上聖蒙下位名也。故衆生外別論佛也。而今此文心說衆生即佛也。衆生外。不可求佛也。故淨名經云。如來解脫。當於衆生心行中求。已上衆生即菩提也。此敎不相應。故敎面不顯說也。問。今既知己心即佛雖然猶不明。設雖知己心即佛。速疾成佛義如何。答。一家天台意。

不遑一本作具不
最下一本有念佛
勝及何下一本有念佛
觀也下一本有念佛
本下一本有意
我下一本有念
義下一本有念佛
念下一本有心

來常住。無有變易。已上如是等經文不遑述之。此等經文。於汝心何爲最。答。此等經文。併佛鑑衆生機根說置。故愚昧取捨難及。法華經云。我爲佛道。於無量土。從始至今。廣說諸經。而於其中。此經第一矣。又藥王。今告汝。我所說諸經。而於此經中。法華最第一。已上佛說如此。一家天台。判一代諸經中法華勝。問云。所言法華心者。其意如何。答。法華意者。摩訶止觀也。問云。摩訶止觀者本書。弘決二十餘卷。愚鈍者不堪學。願其要略示我。答。實爾也。其中。止觀第五卷。能々學自衆生成佛義。問。豈不言耶。愚鈍者。廣學不堪。略中略說授我給。答。止觀文言。何不疎。汝既好略說。擧其要文示。止觀云。一心具十法界。百法界即具三千種世間。此三千在一念。若心無而已。介爾有心。即具三千。已上弘決云。言介爾者。謂剎那心。無間相續。未曾斷絕。纔一剎那。三千具足。已上此即其要文也。問云。

故一作事
正一作生
向一本作問
乎下一本有念佛
常下一本有習
自一本作白
挾注乃至一本無

一念起惡。受一生惡身。十念起惡。得十生惡身。乃至頌云。若人一日中。八億四千念。念々中所作。皆是三途業矣。若有道心者。何故想淨土業因也。故止觀云。央掘摩羅。彌殺彌慈。乃至提婆達多。邪見即正矣。故一切善惡。隨人心不定也。故邪正難辨。

問云。實爾也。但於汝心定有執文。願爲我示之。答。何文不辨。雖然大悲三昧經文。我染心覺向。汝所執實妙也。但彼文。既云我身有如來。爾者。汝依何教理觀乎。答。諸大乘經。常說一切衆生。有佛性也。謂華嚴經云。一切衆生。皆如來藏。普賢菩薩。自體遍故。已上或三界唯一心。乃至是三無差別矣。淨名經云。如來解脫。當於衆生心行中求。衆生即菩提。已上大圓覺經云。始知衆生本來成佛。生死涅槃。猶如昨夢矣。菩薩處胎經云。法性如大海。不說有是非。凡夫賢聖人。平等無高下矣。法華經云。一切衆生。悉有佛性。已上如

銀一作飽

文也下一有念佛正耶下亦然

答云。其由者。諸經文非一。但今且略引其要文。法華云。諸苦所因。貪欲爲本矣。又云。破法不信故。墜於三惡道矣。又云。放逸著五欲。墮於惡道中矣。十往生經云。佛告阿難。世間衆生。不得解脫。何以故。一切衆生。由多虛少實。無一正念。以是因緣。地獄者多。解脫者少。譬如有人。於自父母及師僧。外現孝順。內懷不孝。外現精進。內懷不實。如是惡人。無有正念。不得解脫矣。銀色女經云。毘盧遮那性清淨。乃至由妄念故沈生死。由實智故證菩提矣。大悲三昧經云。法身體遍。諸衆生客塵煩惱爲覆藏。不知此身者如來。流轉生死。無出期矣。此其文也 問云。此等經文。何文爲正耶。答。諸佛說教。隨機不定。或多貪者。說貪欲生死因。多瞋者。說瞋恚生死因。如是四悉檀。說無定。故傍正難辨。然實無道心者。何事想生死業因也。故安樂集。引淨土菩提經云。人生人間。具經一日夜。有八億四千萬念。

問下一有云字
尋一有悲下
之下一有徹字
子下一有故字
安樂集三字原
作大字今依一
作注
得一作云字
如何下一有南
無阿彌陀佛六
字（以下略云
念佛）

自行念佛問答 有七十六問答

首楞嚴院沙門 源信撰

南無阿彌陀佛

問。尋諸佛菩薩大悲。華嚴經云。一一地獄中。經於無量劫。爲度衆生故。而能忍是苦。已上華嚴合論云。菩薩念衆生。愛之骨髓。恒時欲利益。猶如一子。已上法華經云。每自作是念。乃至速成就佛身矣。然我等衆生。漏如是大悲。無量劫以來。流轉生死。未預得益。而一劫中生死事。涅槃經說云。取三千大千世界草木。截爲四寸籌。數一劫中取受身。父母頭數。猶不澌。或云。一劫中所飲母乳。多於四大海。已上安樂集。一劫猶爾。何況無量。如是無量生死之中。徒死徒生。于今不得脫。何由可得乎。如何。

ナハタレカ渡サン。ト候ヘハ。急敷往生ノ出立ニハアヲスヤ。寐覺テモ立テモ

居起臥スニモ思ヒ不レ忘レシハ決定往生ス。云云

南無阿彌陀佛敬白

原本　槇尾藏天文二十年九月七日寫本筆者未詳全一卷

編者曰　右敬白念佛勸進外題敬白二字無

敬自念佛勸進　終

シ。何事我スキヌト等ク思心候。下慢餘人上我下劣也トヘリ下心也。無慢人色々樣々慢アレモ我身少慢心無思亦慢心也。能々用心可有候。人間化事風前燈。身芭蕉葉風撲如。朝世路誇。夕鳥邊野趣習。有爲轉變在樣末露本雫後前立態。高イヤシキモ露身受ヨリ生死無常計誰是遁。只萬事捨念佛修行心懸。往生素懷遂給。哀哉適人間界生受出離惡路求空三途古鄕還事此度少結緣無何生可期。是併罪業薰集スル處。譬蚰三毒踞菩薩六道衢。十惡五逆者成刹那六字唱。彌陀來迎無疑。如何况至信心乎。見花本尊念。聞松風無常觀。觀行ノカケタル也。春花無常嵐散。秋月寂滅雲隱。悉我等眞如佛性上有。此等趣不知鬼畜木石異ラス。迷心外有。悟心内有。此等趣。能々心中納。我身可助事肝要也。去如來御歌。イソケ人御法ノ船ノ出ヌマニ乘後

人中咲草也。若此一遍嚔引。自界他界授。功德林花光遍十方世界照。念佛衆生攝取捨不給。然者念佛往生付。四決定。四不定義有。自力念佛往生不定。假名念佛往生不定。惡見念佛往生不定。慢心念佛往生不定是也。安心決定念佛申。自力他力翻。假名眞實成。惡見正見成。慢心直心。決定往生念佛也。先自力他力翻云。我身誠凡夫愚縛身。阿彌陀佛參教任極樂往生偏阿彌陀懸。無他事申念佛也。亦假名眞實ナスト云ハ。名ヲハ念佛ニカリ。心ハ妄念ニナカサレ。誠無心アラタメテ。深彌陀誓信。如此唱易名號我等與給何往生素懷ヲトクヘキヤト深賴入申念佛也。亦惡見正見ナスト云。念佛床指向心深懺悔誠阿彌陀奉逢心成嬉思餘念無申念佛也。亦慢心直心云慢四有。上慢我上アラシト思人無シロニスル心也。等慢智行我勝人我身同事ソカ

念不留。無相相不着。佛本願任悅南無阿彌陀佛唱。十萬億土行
遠路。唯除五逆闕守不畏。九品常樂法座登。謗誹正法留難不可
逢。去念佛其軆用云。譬六字六角如意寶珠如。衆生望隨其價直
論如。一遍三界盛滿金銀珠玉。人用盡。如此難有寶號流布代。何
一裹寶珠買取往生粮。何重欲之輩。業力代一遍書寫功德莫大
也。會法久住得有云。弘通利生利益若書寫方便無。西天佛法何
東土渡。文字恩光借。爭古佛法燈末代挑。悲哉。今生欲深。後生欲
淺。人必無間地獄焰咽。賴敷哉。現世欲淺。後生欲深人功德池蓮
生事可知。我身我身不助者我身我身責事是有。去蜘蛛糸引。家
作。身命助。諸鳥從身出羽飛廻求餌。其得自在也虫類猶如此。人
間何我身不助。可愼可驚。諸佛世々善巧皆悉爲衆生也。衆生造
惡何他人爲。所言處。愚癡昧劣救方便。狂言倚語書聚。草木緣起

醐珍膳忍辱妙衣。無智口難入。愚鈍膚難隱。亦眞言秘密甘露利
愍法衣。劣機口難嘗。無戒身難纒。所詮念佛者。下劣口味易。行住
坐臥時所諸緣不嫌。持戒破戒不撰。貴賤緇素經論聖教。不覺戒
律。戒行不守無緣孤獨爲。寂相應物也。依之彌陀如來五劫思惟。
六八別願發。稱名修行立給。所以者何。花嚴經六十卷以南字作。
大品經不動經大集經以無字作。涅槃法華經以阿字作。方等經
維摩經以彌字作。大般若經六百卷以陀字作。去八萬諸聖教皆
是阿彌陀佛。不論不淨。不論心亂。但念彌陀即得往生。大悲方便。
深心不知。愚癡無智類。一往殊勝片端聞。吾能大乘至極法得心
慢。吾教外餘教無思。適一遍念佛申諸經謗。諸宗毀。自業地獄構。
往生不往生有無緣信不信正念邪念差別。譬一爐穴香燒。魚肉
如燒。誠淨土生願。自力他力是非不論。諸宗諸立異義不嫌。一念

敬白念佛勸進

惠心御作

竊案世間事相。寂可恥者草木也。寂可畏者罪業也。鬱々春梢法性朗然花開。眞如實相果結。生死淤泥水蓮。諸佛道場臺嚴。法華一乘理。生老病死色。眼前見。有爲無常開落化儀催。只偏愚者人間也。無作出息口。如來金言不唱。言妄語綺語花咲。心四重五逆種萠。狂惑世間巧廻自滅他害劒礪。從冥入冥從苦苦沈。此等衆生助爲。諸佛種々之方便以。一切有情佛果至欲。凡法萬法有。行萬行有。亦小乘大乘。權敎實敎有之。然諸宗肩並。諸乘分々理明。彼聞是窺。凡夫愚縛身難解亦難入。雖然只願可欣大乘法。行可行化他利益也。取分法花極難値遇妙法。衆生入理直路也。然醒

應一作常

奉預法華經　日夜應禮拜　所授三種願　須臾不廢忘
奉教彌陀名　念々應稱念　所讓小字經　刹那不離身
闕念佛之暇　結勸進偈者　正勸安樂國　傍謝生育恩
以惡業因緣　不信智識語　死墮火血刀　是亦誰過乎
願依勸進力　一類皆往生　修行具足道　增進大覺位
見聞覺知者　同此願海矣　歸命彌陀尊　證明我心願

原本　天鷲寺藏惠空師寫本全一卷書寫年月不詳
對校本
一本　惠心僧都繪詞傳卷上所錄但延書也

往生極樂偈終

樂一作求

昔原作生今依一改

樂一作求

滅除乃至鬼中十字及滅除乃至難生十字原本互前後今依一及霞標改之

十方諸如來　任意皆供養　三有衆生苦　隨思悉拔濟
和光同塵行　由四生類起　八相成道法　隨三世佛學
乃至成佛時　菩提行不退　如是無量樂　誰人不欣樂
若廣說安樂　依正功德事　如來尚不盡　何況凡夫者
彌陀佛本願　不捨諸女人　釋迦文所說　兼於五逆者
往昔清信女　修行已往生　近世隨學人　現皆亦往生
唯願我悲母　承引勸進文　厭捨垢穢身　欣樂清淨體
行住坐臥所　繫緣西方界　語點作々時　一念彌陀佛
若厭離女身　欲生安樂國　念々中稱念　彌陀佛名號
滅除破戒罪　不墮地獄中　欲生安樂國　應念彌陀佛
滅除慳貪罪　不墮餓鬼中　欲生安樂國　應念彌陀佛
滅除諸障罪　不受八難生　欲生安樂國　應念彌陀佛

戲一作化

鴛原作怨今依一改

放原作於今依一改

洗浴八德池　蕩滌無明垢　遊戲七寶階　證得中道理
入于寶講堂　問學第一義　登於珠樓臺　思惟一實相
經行華林中　歌詠佛功德　往來寶樹下　宣說深法義
行步瑠璃地　足蹈於青蓮　坐禪摩尼殿　寶床承於體
迦陵頻伽鳥　囀五根五力　鳧雁鴛鴦等　歌六度四攝
白鵠孔雀鳥　唱七覺八正　鸚鵡舍利等　說十力無畏
七寶清淨池　金剛爲底沙　衆寶莊嚴樹　眞珠爲羅網
波洗黃金岸　聞苦空無常　風吹寶樹枝　悟常樂我淨
天雨曼陀花　地涌栴檀香　華幢放珠光　旛蓋出妙色
衣稱體莊嚴　食隨時現見　宮殿瑩珠寶　掛具織玉絲
晝夜六時中　供養彌陀佛　眼見萬億身　耳聞三諦理
徹骨髓歡喜　流涕歸本所　如是無量劫　相續不斷絕

坐一作座　音一作念

心原作身今依一改

出離最要路　不如念佛門　所以佛菩薩　經論共讃歎
無量壽如來　常於無邊光　照耀十方界　攝取念佛者
觀音大勢至　左右常對坐　護念遍法界　念佛諸衆生
十方恒沙佛　日夜垂護念　二十五菩薩　念々加守護
若人至純心　稱念彌陀佛　念々中消滅　八十億劫罪
臨終心不亂　成就十念者　決定見彌陀　坐觀音掌中
一念中超越　十萬億佛土　即生安樂國　更不受女身
華開敷見佛　聞法悟無生　不退菩薩衆　常以爲同學
阿彌陀如來　摩頂常愍念　十方界諸佛　放光共讃歎
普賢等菩薩　竝肩與於膝　觀音等大士　對坐交於語
紫磨金色身　具三十二相　十方無障礙　作一切佛事
無垢清淨心　獲得五神通　三世得自在　供佛化衆生

令原本作命今依一改
施原作於今依一改
初一作生
制原作判今依一改
永一作長
果一作菓
作一作造
惡一作要

男女所受境　猶如羅刹鬼　動妄心行婬　令墮大地獄
眷屬施面目　不異地獄卒　日夜常勸進　引入洞然火
從無始無初　生死不斷絕　由妄心妄境　須能制心境
惡業最下品　尙經五百生　何況中上者　數劫受重苦
受如來禁戒　破壞毀犯者　經歷諸地獄　永無昇出期
無慚無愧身　受檀那一果　人畜償施主　又墮阿鼻獄
須臾起慳貪　流浪餓鬼道　百千萬劫中　不能得屎尿
若具說娑婆　依正苦惱事　世尊尙不究　何況底下人
三世十方佛　呵嘖女人失　云何聞此說　深愛蛇毒身
爲愛子造罪　交刀劍火聚　雖男女愛子　誰人相救者
自恣作惡業　隨洞然火中　雖呼天扣地　更有何益乎
唯願我悲母　觀生死由來　早抛世間務　速隨出惡道

題名原作惠心僧都送母公勸進往生偈今依通稱改之

爲一作或

謂一作思

斯一作之

往生極樂偈

悲母生育故　長生得爲人　爲報此恩德　奉獻勸進偈
三界皆苦惱　如鳥被攀籠　於苦謂樂故　久流轉生死
女身極垢穢　不異狗死屍　誰有智慧者　不樂捨此身
人命極無常　幼少人尚死　何況衰老者　云何不發心
念々中惡業　冥官皆注記　聞說多惡者　馳遣地獄中
過去無始罪　唯待命終時　現在無際過　更爭受生處
智人勤修善　猶如救頭燃　不知者增惡　似山頂積上
財是燒身火　身亦菩提怨　爲貯此養彼　何結永苦因
好衣莊嚴體　因斯著熱網　美食養肥身　依彼飲鐵丸
舍宅雖嚴好　招往猛火城　臥具雖微妙　催臥熱鐵牀

謀和光同塵結緣。通達三世構八相成道當機。已上受見羅刹。破浮囊流苦海。名利毒蟲。侵佛種留凡夫。眷屬怨鳥。枯極樂檀林枝。我執黑雲。隔彌陀圓滿月質。止今生刹那榮耀。期將來永劫面目。出娑婆有容火宅。遊安樂無苦冷殿云云。

地樹池鳥風雲樂宅服食。

原本　山家雜詮所錄

正修觀記卷下

攢疑撐

恭疑參

正修觀記卷下　附彌陀正報

世自在尊古。發四十八種誓願。西方極樂。今備八萬四千相好摩尼輪。身量六十萬億那由他恆河沙由旬。金剛不朽壽量一百千萬億那由他阿僧祇劫。八萬四千妙相具九億六萬隨形好。一々妙相好放七百五億六百萬光明。一千六百八十萬里白毫。如向大雪山。三萬六千由旬紺目。似見大海水。境智冥合眞身如來住第一義諦常安穩。都眞善妙有應身如來。居大寂無爲金剛藏內。稱無量光佛。十方界諸佛致擁護。念無量壽尊。二十五菩薩垂冥助。震惡攢必能伏威。拂四魔怨。施難化必能化德。迎五逆類。十念樞前。面拜彌陀影向金容。九品臺上。親承觀音勢至慰引。恭講堂砌。彌見妙覺高貴教主。聞法輪聲。都登初住下品寂光。周遍十方

爲二大乘善根一。其意在レ斯。長舌證誠。誰不レ生レ信。

正修觀記卷中

生淨土。此無量壽者法華本門。是故壽命無數劫。久修業所得。汝等有智者。勿於此生疑。已上又觀彌陀名字體用。阿字無。故諸法空寂。彌字量。故萬像森然。陀字壽。故中道實相。此三諦中攝一切法。是故佛音。以三諦攝一切法。不出三諦。已上當知彌陀名號三字。具備二千三百九十五卷大乘經。六百八十卷小乘經。五千五卷大乘律。四百四十一卷小乘律。五百十五卷大乘論。六百九十五卷小乘論。五百九十三卷賢聖集法門。亦具金剛界一千四百五尊。胎藏界五百三尊。蘇悉地七十三尊。故唱阿彌陀三字。即唱一萬三百二十四卷一切聖教。亦唱一千九百八十一體一切聖衆。念阿字時即滅四十二品無明同體見思煩惱。成報身佛。念彌字時。即滅四十二種塵勞煩惱三土惡業。成應身佛。念陀字滅四十二位根本無明煩惱。死苦果。成法身佛。阿彌陀云執持名號。

竟實智。即此實智。法華序分無量義經。是故經云。欲得種無量義者。應當觀察一切諸法矣。亦蘇悉地修行方軌。法身體非有非無。報身智惠第一義空。應身福德眞善妙有。三身融通。倶體倶用。應身慈悲納法身。函覆報身蓋。隨用出現。仁王經云。大家無爲金剛藏一切報盡無極悲。云云自行三身住常寂光土。法身常土報身光土。應身寂土。新成久成雖前後。身土不二。化他身住於三土。他受用身居實報土。勝應身佛居方便土。劣應身佛居同居土。然我等所欣依正。四土不二同居極樂。三身相即劣應彌陀。遂往生後當觀界外。已上又阿彌陀。此東土翻名無量光。七百五胝六百萬光明。横遍十方。照念佛者攝取不捨。此無量光。法華迹門。是故經云。今佛放光明。助發實相義。諸人今當知。合掌一心待。已上又阿彌陀名無量壽。百千萬億阿僧祇劫壽命。竪恆三世。助念佛者令

正修觀記卷中　附彌陀攝八宗

彌陀如來具足三身。所謂法身報身應身也。三身一々三重義門。所謂道前。道中道後。道前法身在纏眞如。我等苦果正因佛性。道中法身出纏眞如。觀音等分證法身。道後法身出纏眞如。阿彌陀等究竟妙覺。即此妙覺。法華結成普賢經。是故經云。毘盧遮那遍一切處。〇名常寂光。已上亦胎藏界理曼陀羅。道前報身在纏報佛。即我等了因佛性。道中報身出纏報佛。觀音等分證報佛。道後報佛出纏報佛。阿彌陀等究竟實智。卽此實智法華佛惠。是故經云。說佛智惠故。諸佛出於世。唯此一事實。餘二則非眞矣。亦金剛界智曼陀羅。道前應身在纏應佛。我等惡業緣因佛性。道中應身出纏應佛。觀世音等分證權智。道後應身出纏應佛。阿彌陀等究

瓔珞玉垂秋露。彼形有興。柔和善順衣。不求自懸身。解脱幢相服。不尋常降空。三聚淨戒衣服。鎊外凡內凡姿。四十二位瓔珞繫分眞究竟膚。已上服也 百味肴膳。臨時自來前。入味池水。任好常用此。聞轉妙法音聲。誇法喜食。入無相寂滅三昧。勇禪悅食。眼見如來萬德色。耳聞世尊八音聲。鼻臭五分法身香。舌嘗一實醍醐味。身觸體外隨緣光。意覺體內不變法。已上食也 淨土擯出衆生。皆聚聲聞來迎引攝誓願。獨在彌陀。十方淨土莊嚴。悉集極樂。三世如來功德。全收彌陀。云云。已上

正修観記卷上

色指吹橫笛出四弘聲捧黃金桴擊大鼓響六度音搯鼓揭鼓調增上求菩提心臺鼓搖鼓曲添下化衆生念一越調拍子始一實中道儛盤涉調々子詠萬德空假歌太平樂笛聲彰極樂淨土名稱萬歲樂鼓音讚無量壽佛功德漕龍頭船共天諸童子調琴棹鷁首船與迦陵頻伽詠歌高樓上橫笛聲醒二種生死眠重閣內大鼓聲動三身常住膽已上樂也

宮殿研鏡建立東西寶地樓閣綺玉結構南北金庭坊室鏤金銀耀前後左右對廊吐光明奕四面八方珠簾錦帳裏坐禪入定聖衆并肩寶床臥具表說法敎化菩薩通眼講堂高妙插第一義天上鐘樓嚴淨構法性空雲外彌陀重閣講堂稍同釋迦普光明殿極樂大寶宮殿猶勝兜率摩尼宮殿前栽籬內名華軟草交色南庭欄間泉水々門異流已上宅也

瓔珞莊嚴衣定數重袂靑黃赤白服交色調妻寶衣色染春華其姿面白

轉變。已上池上 凫鴈鴛鴦遊於浪。常浮沈。孔雀鸚鵡戲於華鎭上下。鷺鷺鵝鶴跛渕溟囀法門。金利白鵠浮水滐唱正教。迦陵頻伽。廣於翼歌佛法。共命鳥。劒於舌詠妙法。百寶色相鳥狎人天遊戲。七寶華嚴鳥眠聖衆留連。已上鳥也 風輿樹儛。見人開滅罪壓。風擊波鼓。聞者叩生善胸。風飜萎華。發無上助道悟。風扇大虛。出衆寶羅網聲。輭搖聖衆瓔珞。增黃金白銀光。風條動寶樹枝葉。飛青華紅葉姿。起浪風音。唱空假中道。行願風靡林聲。訓法報應化菩薩。已上虛風也 空衆寶羅網交光明々。大虛衆鼓伎樂。雙聲寂々。自紫雲上香雲亂墜。從晴天中衣服瓔珞來下。華鬘寶蓋吐光滿虛空間。天人聖衆。現通遊虛空。空中六時雨曼茶羅珠纂。雲間三世薫栴檀沈水香匂。已上雲也 七寶階下。奏簫笛琴箜篌樂。三尊庭前。調琵琶鐃銅鈦曲。雲上天人。作伎樂歌詠延年。樹下聖衆。致絲竹管絃興宴。發金

正修觀記卷上 附極樂依報

源信

紺瑠璃之地間。金繩界道。都羅綿之庭面。寶衣敷上。吠瑠璃地明
徹。摸。十方淨土姿。金繩界道曠。集九品淨樂衆。四面八方地形。任
好建立。四衢八道遠近。隨願顯現。紫磨黃金之地平。常涌光。衆寶
所成之庭姝。鎭布華焉 已上地也 赤栴檀寶樹羅網覆枝。黃金色之本
末。徹風說法。七重行樹。內外往復無礙。七寶華菓。開落相續。琪樹
映徹。浮十方寶刹影。妙華芬馥。吐三身萬德句。已上樹也 八功德盈滿
池。浮龍頭鷁首船。七寶莊嚴蓮。宿自報金色仁。梵摩尼水。尋構樹
上下浮。池底砂。放大光明照耀。池上蓮華。青黃赤白交色。浪間衆
鳥黑紫翠綠綺姿。池之淺深。隨衆生願而增減。水冷煗。任機好乃

眞如觀終

ヨクヨク心ウベシ。

原　本　元錄五壬申歲孟春吉日栗山氏開版本全二卷

編者曰。右眞如觀。有二畧抄一卷一。奥書云。右此文雖二廣多一。存二畧拔書一云云。其假名遣。及敷衍之所。不レ同二元錄本一。厭レ煩不レ校。賢者諒レ之

即大日ト思フテ信ヲ失ハズ信ズレバ即身成佛也。一切ノ振舞ガ。聽テ眞如印ニテ有ル也。其故。舌相言語皆是眞言。身相擧動皆是密印。念相憶知皆是本尊。妄相思念皆是密觀ト云ヘリ。此心ヲワスレズ。心ニカケタレバ。即身成佛ニテアル也。我則眞如也ト思フモ。我則大日也ト思フモ。タヾ同ジコトナリ。カヤウニテ念佛ヲモ申シ。經ヲモ讀ミ奉リテ。一切有情ニ廻向シ。有緣無緣ヲトフラハン。我人ヘダテナケレバ。皆悉ク離苦得脫スベシ。一心ヒガメバ。萬法イタヅラニ朽ヌト云フ事。ヨクヨク心ウベシ。何事ヲストモ。タヾ心ヒトツノ事ニテ有ルベキ也。南無阿彌陀佛ト申シテ。一念十念ニ往生スルト云フモ。我則眞如也ト思フモ。念ウシナハズ。心ニカケルマデニテコソアレ。トカク我執偏執ヲ以テ難ヲイタス事。イハレナシ

ト云フベキ也。大乘觀ニ。此難ヲ會シテ云ク。若シ此心唯有ニ同義一ノミ者。自ラ修行セズシテ。他ニ依テ得道スベシ。眞如既ニ眞如ノ義アル故ニ。自他ノ功德互ニ相助シ。速ニ得性ストイヘリ。次ニ龍樹ノ智論幷ニ宗家ノ釋ニ云ク。修因ノ福ヲバ他人ニアタヘズト云フニ至リテハ。智論ニ般若經ヲノブ。般若經ハ。法華已前ノ經ニテ。權ヲ帶シテ眞如ヲ顯ハサズ。未ダ同體ノ慈悲ヲ明サズ。故ニ更ニ修因ノ福ヲ他人ニアタヘズト云フ也。宗家ノ釋ハ。大論ノ釋ヲ中シノベタリ。故ニ難トスベカラズ。凡ソ諸經論ノ文ハ。人ノ信ニヨリ。意樂ニヨツテ。樣々ノ會釋ヲノブル者也。然ドモ一スヂニ我等則眞如ノ體。其レト思ヒテ。夜ヒル行住坐臥ニ。ワスレズニ心ニ懸ケタレバ。則身即佛ナル事疑フベカラズ。サレバ眞言宗ノ說ニモ。タヾ我

ノ不二義ノ敎ニ依リテ難ヲマウケタリ。純圓醍醐ノ說ニツイテ。同體ノ慈悲ヲユルス。其自業自得果トハ。權敎ニ明ス處也。同體ノ慈悲ハ法華宗ト眞言宗ト。眞如ノ理ヲ詮ズル故ニ是ヲユルス。サレバ前三敎ノ佛ハ。皆修因感果ノ佛也。今經ノ心ハ我則眞如ナリトシル時是佛也。スデニ因果ヲ離レテ。法然ニ本有ノ三身ヲ顯ス刹那ニ則佛。何ゾ修因感果ノ義カ有ラム。サレバ蓮華三昧經云歸命本覺心法身。常住妙法心蓮臺。本來具足三身德。三十七尊住心城。普門塵數諸三昧。遠離因果法然具無邊德海本圓滿。還我頂禮心諸佛トイヘリ。但シ佛菩薩ノ同體ノ慈悲ニ依リテ。一切衆生。自ラ一分ノ善根無クトモ。自成佛スベシト云フニ至テハ。誰一分ノ善根ナキ衆生。ヒトヘニ佛菩薩ノ同體ノ慈悲ニアヅカリテ。離苦得脫スレバ

夫ナレドモ。眞如ヲ觀ズル者ハ。一切衆生ノタメニ。一燈ヲカヽゲテ。一花一香ヲ三寶ニ供養シ。或ハ佛ノ名號ヲ一度唱フレバ。ソレニ依リテ一切衆生離苦得樂スト云フ事。イハレヌ事也。先ヅ自業自得果トイヒテ。自ノ業因ニ依リテ因果ヲ招ク。若シ初心ノ凡夫ノ一花一香一善ニ依リテ。一切衆生離苦得樂證大菩提ノ善アラバ。マシテ十方世界ノ一切佛。無邊ノ善根ニ依リテ。一切衆生ノ一分善根ナキ者モ自然ニ成佛シナム。何ゾワヅラハシク善根ヲ修セン。又一切衆生皆一體ナレバ。一衆生ノ成佛セン時。一切衆生同時ニ成佛シナン。龍樹ノ智論幷ニ宗家ノ所釋。修因ノ福ヲ衆生ニアタヘストイヘルヲヤ。

今答テ云ク。問フ處キハメテ愚癡ナリ。汝ハ法華已前ノ帶權

謂下疑脫ハン二字

性ニ約シテ佛ト名ケ或ハ眞因開發シテ後。法身ノ本ヲ得ルヨリ佛ノ名ヲウル也。我等スデニ三諦ノ名字ヲ聞キ。我則眞如ナリト知レリ。六即ノ中ニ是ヲオサメハ。名字即ノ位ニアタレリ。何ゾ謂ニ已均ㇾ佛ノ我有。亦未得謂得增上慢ノ者ニ非ズヤト。未分證究竟佛ニ非レバ。三十二相ヲ具シ。神通ヲモ得ズ。分證究竟ノ二ノ佛。相好具足。神通自在ナル也。又汝只相好神通ヲ貴ンデ。内證ノ功德。本有理性ナイルカセニスル事。愚癡無智ノ至ス處也。輪王ノ三十二相ヲ具シ。外道神通ヲ現ズル。是ハ此在世ノ二乘。法花ノ時ニ至ツテ初住ノ悟ヲ開クニ勝レタリト云ハンヤ。現金剛般若經云。若以ㇾ色見ㇾ我。以二音聲一求ㇾ我。是人行二邪道一。不ㇾ能ㇾ見二如來一。彼如來妙體。則法身諸佛。文

又問テ云ク。汝云ク同體ノ慈悲ヲ心エズ。汝ガ樣ハ初心ノ凡

除キ二字疑得一字

或ハ善知識ニアヒ。或ハ經卷ヲ開キ見テ。眞如ノ名ヲキヽ。我則眞如ナリト知ルヲ名字即ノ佛ト名ク。止觀云。或從二知識一或從二經卷一聞二上所レ說一實菩提。於二名字中一通達解了。知二一切法皆是佛法一。名字即菩提トイヘリ。三ニ觀行即佛ハ。眞如觀ヒマナク。彌明ラカナルヲ。觀行即ノ佛ト名ク。止觀ノ文ハ。ワヅラハシケレバ畧シテ書セス。四ニ相似中道顯レテ。六根淸淨ヲ除キテ。父母所生ノ眼根ヲモテ。上有頂天ニ至ルマデ。諸ノ須彌鐵圍。大海江河。及一切衆生皆悉見。耳ニ三千界ノ內外ノ諸ノ音聲ヲ聞キ乃至三千界有情非情ノ事。悉ク身中ニ現ズル也。但シ。唯獨自明了。餘人所レ不レ見。相似即ノ佛也。初住ノ位ヨリ等覺ノ位マデ。八相成道ヲ唱ヘ衆生ヲ敎化スルヲ。分身即ノ佛ト名ク。妙覺ノ位ハ究竟即ノ位也。此等ノ六即ノ中ニハ。或ハ理

モ上疑脱智慧二字

即下疑脱觀行即相似即分證即究竟即之十二字

義アラン。亦凡ソ汝云事自相違シテ有ル時ニハ一切衆生皆佛也トイ、或時ニハ我則眞如也ト知ラザル者佛ニ非ズトイ、汝ガ如クナラバ一切衆生前ノ三教ノ菩薩マデハ皆佛ニ非ズ。自佛也ト名ノレ共三十二相ヲモ具セズ神通モ未獲得モナクシテ増シテ上慢ヲ起スヲ佛ノ智トス。其罪無量無邊也。此等ノ難ヲ何カン遮スベキ。今答テ云ク。汝一家圓宗ノ意ヲ知ズ。偏ニ權教ノ門ヲ執シテ妄リニ此難ヲイタス。我師天台大師。六即佛ヲタテ玉ヘリ、所謂理即名字即也。一ニ理即ノ佛トハ、一切衆生本ヨリ眞如性理ヲ備ヘタリ。サレバ理性ノ佛ナレドモ。未聞三諦名。我身則眞如ナリト知ラズ。是ヲ理即ノ佛ト名ク。止觀第一云。理雖即是日用不知。以未聞三諦。全不識佛法。如牛羊眼不礙方隅トイヘリ。二ニ名字即ノ佛トハ。

求メバ。大聖文殊智慧ヲ授ケン。乃至魔障非人ニ惱サレジト思ハヾ。不動明王是ヲ降伏シテム。其中ニ魔事ヲ對治スル事。眞如ニ過ギタル物ナシ。魔界如。佛界如。一如ニシテ二如無シト觀ズルヲ。殊勝ノ對治トスル也。如ト者眞如ナリ。魔界モ佛界モタヾ一ノ眞如ヲ體トスト思ヘバ。更ニ魔異リナシ。魔界佛界其體一也。自體遍ジテ障ト成ル也。自此下ハ問答料簡也。有人問テ云。我等皆差別モナク佛也ト云フ事心エズ。本ヨリ云フガ如ク。佛トハ三十二相ヲ具シ。神通モ智慧モ一切ノ者ニ勝レテ。世ニイツクシクヤムゴトナキヲ佛ト申スコソ。カタジケナクオボユレ。亦世ノ人モサコソ思ヒ習ハル物ヲ。汝獨一切ノ犬烏蟻ケラニ至ルマデ皆佛也トイハヾ。誰信ゼントスル。亦佛ヲバ覺者ト翻ズル也。蟻ケラ如キハ何ゾ覺者ノ

バ下疑脫病則止ラン五字

ヲ發ス。何事ト名ケム。但シ根性ノ勝劣ニ隨フニ。觀行熟スル事。遲速不同ナレバ。或ハ一日二日。一月二月。一年乃至一生ニ悟ヲ開ク者アリ。妙樂大師ノ解釋中ニハ。漸次止觀ヲ修スル者。或ハ一日一月一生修之可獲トイヘリ。漸次止觀者。七方便ノ行ヲ立レバ。初刹那ニ則佛ニ成ル者無キ也。眞如ト心性トノ二ツノ觀ノ功德利益。劫ヲ經テ說ゲドモ盡スベカラズ。餘ノ中道實相法界。亦是ニ准ヘテ說クベシ。是ラ皆眞如ノ理。同體ノ異名ナレバ。或則法界。或則實相ト等シク觀ルニ。皆成リ難キ佛ニダニモ速ニ成ル。マシテ自餘ノ世間ノ願。何事カカナハザランヤ。病ヲ止メント思ハバ。眞如則藥師如來ナレバ。萬病消滅シテ命ヲ延ント思ハヾ。眞如則延命ノ菩薩ナレバ命延ビテンズ。福ヲ求メバ。毘沙門天大福ヲアタヘテン。智慧ヲ

相疑遇

作行。無量生ニアタレリ。其故ハ我體ニアラザルハナシ。ソレヨリ先則眞如ナリト知ラザリシ時ハ。只一人ガ我ト思ヒシカバ。一人ガ所作ノ行ハ。無量劫ヲ經レ共。法界ニ遍ジテ佛ニ成ルベカラズト思ヒキ。佛ハ我等トハ遙ニ遠ク隔タリト思ヒキ。サレバ佛モ衆生モ一念ノ中ニ有リ。昨日マデハ。無始ノ惡業煩惱ヲ身中ニ具足シテ未來ヲ盡ストモ。生死流轉絶ツベカラザル衆生ナレ共。今日ハ妄想ノ夢サメテ。本覺ノ理ニ歸ル。サレバ龍女ガ如キ最上利根ノ者ハ。我則眞如ナリト思フ刹那ニ。則佛ニ成ルコト。鈍根ノ者ハ始ノ刹那ニハ我則眞如ナリト思ヘ共。次ノ刹那ニハ。無始ノ習ナレバ色ヲ見。聲ヲ聞クニ隨ヒ。心外境ニ移リテ。可意ノ境ニ相テハ。貪煩惱ヲ起シ。不可意ノ境ニアヒテハ。瞋煩惱ヲ起ス。已ニ貪瞋等ノ煩惱

但シ空觀幷ニ假觀ハ別紙ニ有ルベシ。念ヲ此度頓證菩提ノ道ヲ知ル時ダニモ。夜モ晝モ心ヲハゲマスベシ。我則眞如ノ理ト思ハム計リ。極テ安キ事也。權敎ノ中ニハ。無量劫ノ間骨髓ヲ摧キ。難行苦行シテ。佛ニ成ルト說クヲ聞キテダニモコソ。心ヲハゲマシテ彼修行ヲ企ツレ。此一世ノ間計リハ。難行苦行スレ共。何ノ苦ム事アラム。況ヤ帶トイテ臥シナガラ。心ノ中ニ眞如ヲ觀ゼム。極メテ安ラカニタノシキ事ニ非ズヤ。予ガ如キ。人ト成リテヨリ四十餘年ノ間。時々ニ法華經ヲ讀誦シ奉リキトイヘドモ。サセル利益アリ共オボヘデ。生年六十ニ餘リキ。靜ニ彌陀ノ寶號ヲ唱ヘシ時。法華經廣大ノ恩德ニ依リテ。我則眞如ナリト知リシカバ。我等一切衆生。皆一ツ眞如ノ理ナレバ。佛モ我モ皆一體無二也ト思ヲヘテ。一世ノ

界ニ遍シ佛ニ成ルヘカラズ。我人ノ計ヒスルガ故ニ。遍シテ未來無窮ノ生死ヲ增長シテ。永ク生死ヲ離ルベカラズ。故ニ我等本覺ノ眞如ヲ忘レンヨリ後。只一有情ト思ヒシガ故ニ。無量無邊ノ煩惱惡業ヲ起シ。久シク生死界ニ流轉シテ。今マデ生死ヲバ離レザリツル也。我若シ今ヨリ後。眞如ノ理ヲ成ズト思フ一念ニ。無邊ノ功德ヲ滿足スベシ。サラ〳〵亦一有情ヲ我ト思ヒ。無窮生死ヲ增長スル事ナカレ。但シ一衆生ヲ我ト思フ事ハ。無始ヨリ習ナレバ。念々ニ常ニ發ツテ留ル事ナシ。眞如ノ觀ハ。今始タル事ナレバ。緣ニヒカレ。境ニ對シテ退シヤスク。相續シ難シ。イカナル能治ノ方便ヲ說キテカ。本習ノ妄念ヲ留メテ。眞如ノ實理ヲアラハサン。此故ニ先ヅ空觀ヲ修シテ生死ノ有執ヲ驚カシテハ。自ラ眞如ノ理ヲ顯ス。

養シ。衆生ヲ利益スル也。又我所作一切善根ハ。一切衆生ト共也ト思フベシ。我ト一切衆生トハ。皆同ク佛ノ御名ヲ稱スルヲ感ズ。行ハ一人ガ身ノ頂ヨリアナウラマデハ一體ナレバ。一指損惱スレバ。一身トモニ病苦。衰損スルガ如シ。餘ノ一切行ノ菩薩モ。又此レ一切共也ト思ヘバ。小善ナレドモ。法界ニ周遍シ。又只我身眞如ナリト思ヘバ。眞如法界ニ遍ズレバ。我所作ノ善根。亦法界ニ遍ジヌ。又眞如常ナレバ。所作行業未來際マデ盡セヌ故ニ。法界性論云。我身法性也ト思ヘバ。所作ノ善法界ニ遍ズ。法性常ナレバ。所作善盡キセズトイヘリ。サレバ我身法性眞如ト等シト思ヘバ。所作ノ善根。六度萬行等モ。須臾ニ法界ニ遍ジテ。則周遍法法ノ佛也。但一有情ヲ我ト思ヘ。餘ハ我ニ非ズト思ヘバ。一人ノ所作ハ。未來際ヲ盡ス共。法

リ。眞如ノ一理ヲ離レタル者ナキガ故也。サレバ我本極樂ヲ欣フ。幷ニ彼土ノ彌陀如來一切聖衆菩薩モ。皆悉ク我身中ニ坐マス故ニ。遠ク極樂世界ニ行カズ。サレ共此土ニ有リナガラ極樂ニ生レタリトイヘ共。眞如ノ理ヲ知ラザレバ。我身彌陀如來ト其體不二也ト。知ザレバカヒナシ。

或ハ中品ノ三生ノ如キハ。小果ニ住シテ劫ヲ經テ始テ羅漢果ヲ證シ。下品ノ三生ノ如キハ。極樂ニ生ズトイヘ共。是凡夫ニシテ小劫ヲ經テ後チ蓮開ケ。或ハ十二劫ヲ經テ後チ蓮開ケザル時ハ。蓮花ニツヽマレテ佛ヲモ見ズ。十方世界ニ遊ビテ佛ヲ供養シ。衆生ヲ利益セズ。但眞如ヲ觀ゼバ。或ハ法身ノ身無生ヲ證シ。或ハ則身ニ無生忍ヲ修セザレ共。此身ヲ捨テ。上品ノ三生トゾ須臾ニ蓮開ケテ。十方佛土ニ遊ビテ。佛ヲ供

則一切衆生ノ功德ト成リ。一切衆生ノ功德則我身ニ成就シ。互ニ自行化他ノ功德具足シテ。俱ニ周遍法界ノ佛トナリヌト觀ズベシ。眞如法界我體ト觀ズル本意ハ。タヾ此ニ有リ。又娑婆世界ノ人ハ。必極樂ヲ願フベシ。有緣ノ國ナルガ故也。サレバ我モ口ニハ彌陀ノ名號ヲ唄ヘ。一心ニ眞如ノ理ヲ思ヘバ須臾ノ間ニ佛ニ成ル。況ヤ彌陀ノ寶號ヲ唱フレバ。念々ニ八十億劫ノ生死ノ罪ヲ滅シ。十念成就スレバ。決定シテ極樂ニ生ル。殊勝ノ功德ニカネテ眞如ヲ觀ゼムハ云フ限リニ非ズ。往生極樂ノ修因ハ。別紙ニ書クベシ。

心且本ヨリ極樂ヲ欣テ眞如觀ヲ修セン者。兼テ口ニ彌陀ノ寶號ヲ唱フベキ樣ヲ知ルベシ。所謂我則眞如ナレバ。十方諸佛モ一切菩薩モ。法界衆生モ皆我身中ニ法然トシテ具足セ

也。唯識論云。未レ得ニ眞覺。恆處ニ夢中。故佛說爲ニ生死長夜。今云フ處ノ生死流轉ノ根源。タヾ心セバク。我ニアラハ我ニ非ズト思ヒシヨリ發レリ。其我人ノ計スル心ヲ飜シテ。廣ク法界ニ遍ゼル眞如ヲ我ト思ヒテ。萬法皆我體ニシテ。我外ニ別ノ法ナシト思フヲ菩提ニ至ル道トス。此大旨ヲ知リヌレバ。佛果菩提ニ至ル事。掌ヲ返ス如シ。サレバ事ノ詮ハ。タヾ物ノ一ガ。其體廣ク法界ニ遍シテ。萬法ノ體ト成リテ。此ヨリ外ニ餘ノ物ナシ。我體ヲ思ヒ。亦我モ佛モ一切衆生モ。皆一體ナリト思ヒテ。自行化他ノ無邊ノ功德ヲ我ガ功德ト思ヒ。我所爲ノ善根ヲモ。一切衆生ノ善根ナリト思ハヾ。萬法ニ自性ナシ。亦心ガ思ヒナスニ隨ヒテ。トモカウモ成ル也。煩惱ヲ菩提ナリト思ヘバ則菩提ナリ。我ヲ眞如ト思ヘバ眞如ナリ。佛ナリ。我功德

クテ。十地菩薩尙其始ヲ知ズ。我等無明ノネムリサメテ。五道生死ハ夢ノ中也。サレ共夢トモ知ズシテ。妄ニ實佛ト思フガ故ニ。今日マデ生死界ヲ離レザリケル也。我等今日ヨリ前ニ。未ダ我則眞如ナリト知ザリシ間ハ。生死流轉ノ衆生ニシテ。未來無窮ノ生死盡ル期有ルベカラザリケルニ。今知識經卷ノ教ニヨリテ。我則眞如也ト知リヌレバ。無明ノ睡サメテ。妄想ノ夢停リヌ。此則九界妄想ノ夢サメテ。本覺眞如ノ理ニカヘリヌル也。此則前ニ無明ノ睡未起ザリシ時ハ。本ヨリサメタレバ。本覺眞如ヲ理ト名クル也。中比流轉生死ノ始ヨリ。分段輪廻ノ今ニ至ル迄。九界妄想ノ夢未ダサメザル間也。今法華經ノ教ニヨテ。我則眞如ナリト知リヌレバ。本覺ノ理ニ通ヘル也。佛ヲ覺者トナヅクル事ハ。無明ノ睡已ニ覺メ玉フ故

說ク也。實ニ萬法ハ。亦心ガ所作也。所謂煩惱即菩提ナリト思ヘバ則菩提也。生死即涅槃ト思ヘハ則涅槃也。サレバ萬法ハ。亦心ガ造レバ也。亦本ハ一實眞如ノ理ニシテ。九界ノ差別ナカリケルヲ。此本覺眞如ノ理ニ背キテ。生死界ニ迷ヒ出デシ始ノ心。生死界ヲ作レル也。法華經ノ敎ニヨテ。我則眞如ナリト知レバ。則心ガ佛界ヲ作ル也。抑生死界モ心ガ作ル也トハ。何ニガ衆生界ヲ作リ。何ニガ佛界ヲ作レリト尋レバ本是一實眞如ノ理ニシテ。地獄鬼畜等ノ九界ノ差別ハナシトイヘ共。流來生死ノ始。無明ノネムリ一度發ルヨリ。本無明ノ眠リ起ラザリシ時ノ心ニカハ知ル。妄念ノ起リ始メテ流來生死ノ始トス。其ヨリ後生死ノ夜ノ闇ヲ除テ無明ノネムリサメザレバ。妄想ノ里ニ迷ヒ出テ。分段輪廻ノ今日ニ至テ流轉年久

命本覺心法身。常住妙法心蓮臺。本來具足三身德。三十七尊住心城。普門塵數諸三昧。遠離因果法然具。無邊德海本圓滿。還我頂禮心諸佛。法華經ノミニ實相眞如ヲ詮ズレバ。本有三身萬德ノ佛。法然具足シテ三十七尊ヲ顯セル也。法華已前ニハ。眞如ノ理ヲ知ラザレバ。理性ノ佛ヲ明サズ。權教ヲ帶セルガ故ニ。九界ヲ捨テ佛界ヲ得ルト明ス。天台眞言宗ヲ除テ餘宗ハ。爾前ノ諸經ニ順ズレハ。理性ノ佛ヲ辯ゼザル也。亦心則萬法ノ體ナルノミニ非ズ。心亦萬法ヲ作ル。サレバ華嚴經云。若人欲了知三世一切佛。應當如是觀。心造諸如來ト。此文ノ心ハ。三世十方諸佛ハ。心ガ造ナリトイヘリ。華嚴經云。心如工畫師。造種々五陰。一切世界中。無法而不造ト云ヘリ。此文ノ心ハ。人ノ諸如來ヲ造ルノミニ非ズ。凡テ萬法ハ悉ク心ガ造レル也ト

解脱ヲ得ルト明セバ。オボロケノ者ノ至ルベカラズ。此世ノ人ノ中ニ何人カ斷ジヤスキ。欲界ノ煩惱ヲ斷ジテ。無色空ヲ發セル況ヤ摠テ三界ノ見思ノ惑ヲ斷ジテ。二乘ノ果ヲ執レル昔ダニモナシ。況ヤ恆沙ノ惑ハ。俗諦恆沙法門ノ障リナレバ。一々ノ位ニ多クノ修行ヲ運デ。究竟難斷ノ無明ヲ斷ジテ。分段變易ノ二種ノ生死ヲ過ギテ菩薩ニハ至ルニ。今我等。法華經ノ教ニヨリテ我則眞如ナリト知ヌレバ。煩惱即菩提也。生死即涅槃ナレバ。煩惱ヲ斷ジ。生死ヲ離レムト思フ煩モナシ。彌陀藥師等ノ諸佛。遙ニ十萬億ノ十方恆沙ノ世界ヲ過ギテ尋ネザレドモ。我ガ胸ノ間ニマシマスト知リヌ。無數劫ノ修行ヲ運バザレドモ。大日釋迦等ノ妙覺究竟ノ如來。本ヨリ法然トシテ具足シ玉ヘリ。又蓮華三昧ヲ明ス。無障礙經ニ云。歸ニ

此說見エタル。一代聖教無盡ナレ共。亦法華首題ノ名字ノ中ニ。妙法蓮花ノ四字ニ。此義顯レタリ。妙法ト者十界十如因果ノ理。蓮華界ハ或ハ喩ヲ花草ニ假リ。一切衆生ノ身中ノ眞如佛性ノ理ニ喩ヘタリ。或ハ法華三昧ノ當體註名ナリ。此レ則一切衆生ノ胸ノ間ノ心蓮花臺ハ。兩部諸尊ノ所依ニシテ。無始ヨリ以來。我身ノ胸ノ間ニ住シ玉ヒケル。今法花經ノ敎ニ依リテ。我心中ニ尋ネヱ奉ル也。南無平等大會一乘妙法蓮華經。生々世々値遇頂戴。我等法花經ニアヒ奉ラザリセバ。兩界諸尊。我ガ身ノ中ニマシマスト知ザラマシ。今經中諸法實相ト云フ一句義ヲ悟ラマシカバ。我身眞如也ト知リテ。我及一切衆生。悉具佛性ナリトシラザラマン。帶權方便說ノ中ニハ。權機ニ憚テ顯サザレバ。煩惱ヲ斷ジ菩提ヲ得。生死ヲ離レテ

カ上疑脱委シ
ク三字
ス疑ゾ

八部。天魔外道。魍魎鬼神モ佛也ト知ラズシテ。遠ク別ノ佛ヲ求ムル也。サレバ華嚴經云。手遍指二十方一求二成佛一不レ知二身心本成佛一。往昔精進捨二生死一。不レ知ト二生死即涅槃一云リ。大圓覺經云。始知二衆生本來成佛一。生死涅槃猶如二昨夢一ト。又天台眞言宗。倶ニ蓮華三昧ノ義ヲ許シテ。一切衆生ノ胸ノ間ニ。八分肉團有リ。八葉ノ蓮花ニ形ヲ取レリ。此ヲ心蓮華ト名ク。此蓮花ノ上ニ。胎臟界ニハ・八葉九尊マシマス。金剛界ニハ三十七尊住シ給ヘリ。カスウレバ。胎臟界ニハ四百十七尊。金剛界ニハ五百餘尊マシマス。是レ則十方界ノ無盡無餘一切諸尊。此兩界ノ諸尊ニヲサメ盡サズト云フ事ナシ。抑兩界ノ諸尊ハ。何レノ世界。何レノ所ニ在ゾト尋ヌレバ。遠ク餘所ニ求ベキニ非ズ。タダ我身ノ胸ノ間ニマシマス也。又一代聖教ノ中ニハ。何レノ經ニカ。

九恐十

ス。聲聞緣覺乃至地獄餓鬼ニハ。一切ノ地獄ノ有情ヲ皆納盡シツ。此十界ニ。各九界ヲ具足スレバ百界也。此百界ニ各十如有バ千如ナリ。此百界千如ニ皆空假中ノ三諦アリ。如トハ空ナリ。是トハ中ナリ。相性トハ假ナリ。此三諦ハ。法報應ノ三如來也。此千如ニ。三種ノ世間アレバ。三千世間也。此ハ依正ノ二報也。依トハ所居處也。正トハ。能居ノ身也。此三千世間ハ。一切衆生ノ一念芥爾ノ心中ニ。皆具足シテ闕ル事ナシ。亦眞如ト云フ名ヲ聞ク時ニハ。何ナル物ニカ有ルラン。佛ノミ具足シ玉ヒテ。我身ニハ具足セズモヤ有ルラン。オボツカナクオボユルニ。心性ト云フ名ヲ聞ク時ニハ。他人ノ說ヲ聞ザレ共。萬ノ人ハ。皆一切有情ニ悉ク心有ルト知レリ。其心ガ性ヲ佛ト名ク。サレバ蟲蟻ケラ。皆心有レバ佛也ト聞ヘヌ。サレバ天龍

セリ。是レ則諸法ハ唯性ノミニテ相ハナシト悟ルヲ佛ト名ク。實ニ於無相一實ノ理。妄相アリト思ヘ共。夢ニ見ル事。實事ニアラザルガ如シ。一イ佛性ニ妄性顛倒ノ心ナルガ故也。外相ニバカサレテ。此ハ馬。此ハ牛。此ハ人ト思ヒナシテ。心ニ無量ノ差別ヲシテ作リ出ス也。外相ハ夢ノ如クニシテ實ノ佛ニ非ズ。實ニハコレ一ノ佛性ナリト知テ。相ナシト思ヘバ。此則佛也。サレバ華嚴經ニハ。一切法無相。是則佛眞體トイヘリ。或ハ天台宗ニハ。十界ノ法相。倶ニ無始理具ノ法ニシテ。百界千如三千世間。一切衆生ノ一念。芥爾ノ中ニ有ト許ス。其三千世間トハ。十界十如ノ依正也。十界トハ。地獄餓鬼畜生修羅人天聲聞緣覺菩薩佛界也。佛界トハ。十方無盡無餘ノ世界ノ中ノ一切佛。一佛モ殘ル事ナシ。菩薩界ニ亦一切ノ菩薩納盡

心性疑剩

法。心ガ所爲ナレバ。彼ノ思フ所眞如ニシテ空シカラズ。サレバ一切ハ唯我ガ心也。法界ニ遍ゼル眞如ヲ。我ト思フニ隨テ。周遍法界ノ佛ト成リヌ。心セバク。唯一有情ヲ我ト思ヘバ。漸々ニツヅマリモテ行テ。蟻ケラ乃至カノマツ毛ニ。スヲクウ(蟭螟)ナル。セウレウト云フ鳥ニモ成ヌ。此等ミナ唯心ガ所爲也。次ニ心性ト云フ名ニヨセテ。眞如ノ理ヲ釋セバ。心性スデニ眞如ノ異名ナリ。心性。眞如。法界ニ遍シテ萬法ノ體ナリ。心性亦爾ナリ。藏通二教ノ心ハ。心ガ外ニ別ノ心性ト云フ物無シ。別圓二教ニハ心性ヲ明ス。則此ノ眞如理ノ心ガ性ナルヲ。心性ト名ク。佛性ナルヲ佛性ト名ク。總シテ一切法ノ性ナルヲ。方法性ト云フ也。達磨宗ハ。諸法ハ。タダ性ノミアリ相ハ無シト云フ。サレバ達磨和尙。破相論ヲ作リ。諸法相ヲ破シテ性ヲ見

レ我也。眞如即我也。我ガ體ナリト知レバ。現在十方ノ佛菩薩
眞如也。我又眞如ナレバ一體也。異佛マシマサズ。サレバ教時
義第一云。（引義釋也）一事ト〆眞如不虛。所謂我則法界。我則毘盧遮
那。我則普門身。此事不謬。何以故。一切有情。色心實相。從本以來。
大日如來。平等心地。非是成正覺時。强空諸法。令成法界。故今行
人隨觀。我則法界。法界海會。顯現自身。證有前後。體相一如。是故
行者。作此觀已。則名爲佛。一切行願。一念具足。一切所作。同等諸
佛。一切世間。敬如諸佛。若眞言行者。常觀行行住坐臥。與海會俱。
檀波羅蜜。一生滿足。則以此身。遍滿法界云ヘリ。或ハ又我心則
眞如ナレバ。法界ニ遍シテ十法國土ニ遍ゼザル處ナシ。而ル
ニ此處ニテハ佛トナリ。此處ニテハ菩薩トナリ。或ハ緣覺ト
ナリ。或ハ聲聞トナリ。或ハ人トナリ。天トナルコト思ヘバ萬

養スル功德如レ是。十方亦爾也。一花一香等モ皆眞如ナレバ。法界ニ遍ゼルガ故也。故ハ亦蟻ケラ如キノ一切有情モ皆眞如ナレバ。蟲ノ身中ニモ。十方世界佛菩薩乃至百界千如三千世間皆備ヘタリ。其等ヲ供養スル功德モ皆サキニ准ジテ思フベシ。傳敎大師云。眞如ハ百界千如三千性相。法爾具足シテ闕クル事ナシ。又萬法則眞如ナルガ故ニ。一々三千具足ス。爾ル故ハ眞如法爾三千具足スルガ故ナリト云ヘリ。サレバ我又既ニ眞如ナレバ。三千世間ヲ具スレバ。自他ノ三千互ニ具足シテ闕タル事ナシ。サレバ弘決第五云。又復學者縱知三內心具二三千法一。不レ知三我心遍二彼三千一。彼々三千互ニ慈悲有ルベカラズ。又イタヅラニ仰ギ居テモ。覆シテモ常ニ思フベキ樣ハ。現在彌陀藥師等ノ諸佛。普賢文殊觀音彌勒等ノ一切ノ菩薩。皆是

方世界。一切佛菩薩在マス。又普賢十願ニ云ク。十方三世刹土ノ所有極微塵數ノ佛マシマスト云ヘリ。又不思議境界經ニ云ク。虚空ノ一毛端ノ處ニ。若干ノ一切佛ノ刹微塵等ノ諸佛世界ノ一切ノ菩薩八相成道ストイヘリ。又花嚴經ニ云ク。開見一塵。具足一切衆生。生死流轉。三世諸佛。發心成道ニ。一切諸佛。復在ニ一切衆生毛孔中現ズト云ヘリ。凡ソ此等ノ觀心ヲ思フニ。萬法皆眞如ナレバ。一塵モ則眞如。三世十方ノ諸佛。乃至一切衆生。皆此レ塵中ニアリ。若シ人。此思ヲ成シテ。一燈一房ノ花ヲ捧テ。一捻ノ香ヲ燃テ供養ヲノブルニ。供養スル人ハ。縦ヒ凡夫ニシテ肉眼ナレバ是ヲミズ。供養セラレ玉フ佛菩薩ハ。明ニ受用シ玉フ。サレバ供養スル人ノ果報ノ福德不可思議也。我目ノ前ノ一塵ノ中。及ビ虚空中ノ一塵計リノ處ノ佛菩薩ヲ供

一切ノ有情。皆眞如ナレバ則佛也。サレバ草木瓦礫。山河大地。大海虛空。皆是レ眞如ナレバ。佛ニアラザル物ナシ。虛空ニ向テハ。虛空則佛也。大地ニ向テハ。大地則佛也。東方ニ向テハ東方則佛也。南西北。四維上下。亦此ニ同ジ。サレバ南岳大師法華懺法云。釋迦牟尼。名毘盧遮那遍一切處。當知一切諸佛悉是佛法。妄想分別，受諸熱惱。是則於菩提中見不淸淨。於解脫中而起纏。文此文ノ心ハ。釋迦如來ヲビルサナト名ケ奉ル。一切處ニ遍ジテ釋迦如來ノ體ニアラザル處ナシ。釋迦如來。三身具足シ給ヘリ。毘ルサナトハ法身也。法身スデニ法界ニ遍ゼリ。報應ノ二身。亦法界ニ遍ゼリ。故ニ玄義第七云。毘盧遮那。遍一切處。舍那釋迦成。亦遍一切處トイヘリ。釋迦三身。スデニ法界ニ遍ゼザル處ナシ。サレバ我目ノ前ノ一微塵計リノ中ニ。十

ニ疑剩

萬德也。此レ則究竟轉依ノ菩薩。果地圓極ノ如來也。又有情類ノ眞如ノミニ非ズ。非情草木等ニモ眞如ナレバ。一房ノ花ヲ捧ゲ。一捻ノ香ヲ燃テ。一佛ニ供養スル時。一色一香中道ニ非ストト云フ事ナキガ故ニ。此一花一香。則眞如ナレバ。法界ニ周遍シテ。一佛則眞如ナレバ。一佛一切佛ニシテ。十方法界無量無餘ノ諸佛。同時ニ此供養ヲウケ玉フガ故。眞言宗ノ秘々中ノ甚秘ノ釋ニ云ク。我今所獻諸供具。一々諸塵皆實相也。實相ナレバ周ニ遍法界海。法界ハ則是諸妙供ナレバ。供養自他四法身。三世常住恆沙供具トイヘリ。一香一花ノ微少ノ供養スラ。眞如ヲ觀ズレバ。功德如是。況ヤ一度佛ノ御名ヲ唱ヘ。一句一偈ノ經ヲ讀ミ奉リ。又書キ奉リ。一々文字。則眞如ノ理ト成ルト思ハン功德ハ。サラニ說キ盡スベカラズ。如是凡ソ自他身

ランズルヤ凡ソ萬事ニツケテ眞如ヲ觀ズベキ樣ヲシルベシ。道俗男女ヲキラハズ。皆觀ズベシ。妻子眷屬ヲヤシナイ。或ハ牛馬等ノ六畜ニ食ヲアタヘンニモ。萬法ハ皆眞如ナレバ。彼等則チ眞如也ト思ハヾ。十方三世ノ佛菩薩。一切衆生ヲ一ツトシテ殘リナク供養スルニ成ル。皆眞如ノ一理ノ外ナル物アラザル故也。乃至萬ノ蟻ケラ如キ。皆眞如ナレバ。蟻ノ子一ニ食ヲアタヘタルモ十方諸佛ヲ供養スル功德トホム。他身ヲ供養スルノミニアラズ。我等身モ則眞如ナレバ。我身ノ中ニ十方ノ諸佛。一切菩薩。乃至百界千如。三千世間。備エテ闕タル事モナケレバ。自ラ食スル時。此觀ヲナセバ。檀バラ蜜ノ功德刹那須臾ニ法界ニ滿ツ。又一行一切行ナレバ。檀バラ蜜ノ一行。則諸ハラ蜜也。因果不二ノ故。因位ノ萬行。則チ果地ノ

皆此レ名聞ニ非ズト云フ事ナシ。皆コト者ハ何トモ思ハネドモ。ヲノガ心ニハ。イミジト思ヘリ。況ヤ利養ヲヤ。輪廻生死ノタエザル事。此二ノ事ニヨレル也。抑何トシテカ此名利ヲ離ルベキ。唯空假中ノ三觀ヲ修シテ此ヲ離ルベキ也。此ノ三觀ノ中ニハ。中道勝レタレバ前ニ此ヲ示シツトイヘ共。出ル事ナシトイヒツルハ。未ダ眞如觀ヲ知ザル時ノ事也。正ク眞如ヲ觀ズル時ニハ。百千ノ名聞利養モ障トナラズ。凡テ一切ノ事ノ中ノ佛ニ成ル計リ大切ノ事ハナシ。佛ニトク成ル事ハ眞如ヲ觀ズルヨリ外ニ。餘事ナカリケリト知ヌ。萬ノ善惡ノ事。皆眞如ノ障ト成ル事ナシトシリヌ。サレバ行(アリ)カン時モ。立テラン時モ。居モ臥モ。諸ノ行セン時ニモ。我身則チ眞如ナリト思ハバ。其コソヤガテ佛ナレ。モノ思フ障トハ何事カナ

死ノ中ニ沈ミテ。今迄出デザリケム事ハ。只是レ眞如ヲ我身ナリト知ズシテ。遂ノ我身ニアラザリケル。カリソメノ一身ヲ計ヒシテ我身トセルガ故也。クヤシキ哉。我等有ル時ニハ。蟻ケラヲ。我身ト思フ時モアリケン。或ハ夜叉羅刹ノミニクキ形ヲ我身トヲフ時モ有ケン。凡ソ地獄鬼畜修羅人天。何物カ昔我身ニアラザル者アラン。サレバ。流轉生死ノ間。我等ガ皆經タル道ナレバ。又珍シキ事モナシ。人間國王大臣トモ成リ。或ハ梵王帝釋トモ成リケム。世ノ中ノ名聞ハ。ソレニテモ有リヌベシ。サレドモ其梵王帝釋モ。劫盡キヌレバ。地獄ニ墮ヌ。蟻ケラトモナリヌレバ。其ノ名聞モ益モナシ。又分々ニ付テ。貴賤上下。乃至ハウ蟲ニ至ルマデ。名聞離レタル者ナシ。犬ノウナ毛ヲイカラカシ。カ、ニノ大ヅメヲ。アラケヌルガ如シ。

間ニ億千ノ蟻ハイアツマリ。又其中ニミエタル蟻ハ少シ。ミエヌ蟻ハ數モシラズ。蟻ノ世ニ多キノミニ非ズ。凡ソヤウヤウノ異類ノ蟲共無量無邊ニシテ。心モ言モ及ズ。一人ガ家ヲ作テ住スル所ニ。其人ノ身中ノ戸蟲ダニモ。人數ニ八萬億アリ。況ヤ八萬戸蟲ノ外ノ目ニ見ヘザル蟲。無量無邊也況ヤ人モ住セズ。廣野山林大地ノ上ノ蟲類ハ。或ハ水ノタマル所ノ蟲類。乃至江河大海ノ中ノ一切ノウロクヅ。其數邊際ナシ。是レ何レノ時ニカ生死ヲハナルベキ。人身ヲ受テ善惡ノ因果ヲ辨ヘタルニダニモ。五戒十善ヲ修シテ。人中天上ニ生ルベキ者ハ有リガタシ。増シテ愚癡ノ故ニ畜生道ニ墮テ。魚蟲禽獸ト成リナバ。無量劫ヲ經テモ。功德善根ト云フ事モ知ズ。何ニヨリテカ生死ヲ離レン。カヽリケレバ。我等始モ無ケン。生

ノ業。既ニ如ㇾ是。況ヤ一生ノ間ノ所ㇾ作ノ三惡趣ノ業ハ。無量劫ノ間。說ケドモ說キ盡スベカラズ。惡ノ業ヲ眞如ノ理ト觀ズレバ。衆罪ハ霜露ノ日ノ光ニ當ルガ如シ。速ニ消ヘ失セヌ。普賢經ニ云ク。一切業障海。皆從㆓妄想㆒生。若欲㆓解脫㆒者。端坐思㆓實相㆒。文實相ト者眞如ノ異名也。衆罪ハ霜露ノ如クシテ。慧日能ク消除ス。生死ノ中ノ微少ノ身ヲ受ル事ハ心セバク一衆生ヲ自心ト思ヒテ。自餘ヲバ皆他身ド思ヒ隔ツル故也。廣ク眞如ノ理ヲ我ト思ヘバ。生死ノ少身ヲ受ズシテ。周遍法界ノ法身ノ理ヲ顯シテ。化用ヲ法界ニ施ス也。微細ノ身。畜生ノ中ニ多シ。畜生ノ中ニ。三十四億ノ類アリ。摠ジテ魚蟲禽獸。四ツノ類ニ過ギズ。其內ニ蟲類ハ無量無邊ナリ。人一人ノ中ニ。八萬四千ノ毛ノアナノ蟲アリ。ミミズ一ツ死シタル所ニハ須臾。ノ

ニ。實ニ我ニアラザル者ヲ。妄ニ我ト思フニヨリ。我ニソムク者ヲバ瞋恚ヲ發シテノリウナ。或ハ殺害シテ輪廻生死ヲ斷ツコトナシ。我ニ隨フ者ニハ貪愛ヲ起シテ。生々世々互ニ恩愛ノキヅナト成リヌ。又流轉タユル事ナシ。此レ則生死界ニ廻ル事ハ。唯眞如ヲ我ト知ズ。妄ニ自他彼此ノ差別ヲ計スルガ至ス處也。若シ眞如ヲ我ガ體也ト思ヘバ。一切我ニアラザル者ナシ。何ニヨリテカ自他不同アラン。自他ノ不同ナクバ。誰カ煩惱惡業ヲヲコシテ生死流轉セン。善惡ノ業ニヨテ六道ニ輪廻スル中ニ。善業作シガタケレバ。人中天上ニ生ル事。キハメテカタシ。惡業作シヤスケレバ。三惡趣ニ生ル者ハ。キハメテ多シ。有ル所ニ云ク。若シ人一日ノ中ニ八億四千念アリ。念々ノ中ニ所作皆是三途ノ業也。一人一日ノ中ノ三惡道

不上疑脱可意ノ境ヲ縁シテハ貪欲ノ煩惱ヲ起シ之十七字

シ。神通智慧。一切ノ者ニ勝レテ自在ナルヲ佛ト申ス。ソレコソ又忝ク貴ケレ。蟻螻犬烏如キノ物。何事ニカ貴クシテ佛ト云ベキ。

今答テ云ク。我モ人モ。本ハコレ一實眞如ノ理ニシテ。地獄畜生ノ不同無カリキ。雖然。無明發シテ後。無分別ノ理ノ中ヨリ種々ノ分別ヲ起シ。廣ク眞如法界ヲ我ト思ヒテ。自他彼此ノ差別ヲ辨ヘ。五陰六塵ノ煩惱ヲ起シ。不可意ノ境ヲ縁シテ瞋恚ノ煩惱ヲ起シ。中庸ノ境ヲ縁ジテハ愚癡ノ煩惱ヲ起シ。此貪瞋癡ノ三毒ヲ根本トシテ。八萬四千ノ煩惱ヲ起ス。此等ノ種々煩惱ニヨリテ種々ノ業ヲ作リテ善業ニヨリテハ。人天修羅ノ三善道ノ報ヲ感ジ。惡業ニヨリテハ。地獄鬼畜ノ三惡道ノ報ヲマネク。如是六道ノ依正出來セリ。此六趣輪廻ノ間

ヲ疑レ

身也。是ヲ煩惱即菩提。生死即涅槃ノ明ナル心ニ非ヤ。況ヤ十界十如ノ依正。三千世間ノ法門。則空假中ノ三諦。一諦。非三非一。不思議圓融ノ至極ノ法門也。權教權門ノ隔別不融ノ心ヲ以テ。圓融至極ノ理ヲ難ズベカラズ。

有人問テ云ク。一切衆生。皆本ヨリ佛ナリト云フ事心得ズ。若シ一切衆生本ヨリ佛ナラバ。衆生ノ難行苦行シテ始テ佛ニ成ント願フベカラズ。又地獄餓鬼畜生修羅人天ト云フ六道ノ差別有ベカラズ。サレドモ佛モ常ニ六道ノ衆生有ト說キ玉ヒキ。マヅ法華經ノ中ニ。見二六道衆生一。貧窮無二福慧一等ト說ケリ。諸法モ現量ニ過ズ。現ニ人馬牛狗鳥乃至蟻螻ト云フ物共アリ。何ヅ一切衆生ハ本ヨリ皆佛ナリト云フ。又世ノ人ノ思ヒナラハセルヤウモ。佛ト申ス事ハ。三十二相八十種好ヲ具

者。十界ニ遍ズ。實相ト者。此レ眞如ノ異名ナリ。是レ則地獄モ眞如也。餓鬼モ畜生モ眞如也。眞如ヲ實相ノ佛ト名クレバ。十界本ヨリ佛ナリト云フ事明ラカ也。地獄スデニ眞如也。眞如ハ萬法ノ體ナレバ。佛界及ビ九界。此ノ眞如ノ中ニ具足ス。餓鬼道モ眞如ナレバ。佛界及ビ餘ノ九界モ亦具足。如レ是シテ十界ニ各餘ノ九界ヲ具足スレバ百トナル。百界。一々各十如アレバ千如トナル。此ノ千如ニ。一々各三種ノ世間アリ。所謂五陰世間。衆生世間。器世間也。此等ヲ三千世間トス。此ノ三千世間我ガ一念ノ心中ニ備ヘテ。一モ闕ル事ナシ。此ヲ具足道ト名ク。又六道ノ十如ノ中ノ如是因ハ則業道也。如是縁ハ則煩惱道也。如是報ハ則チ苦道也。今經ハ眞如理ヲ詮ズレバ。此ノ煩惱業苦ノ三道。則法身般若懈脫ノ三德。又是レ法報應ノ三

法界ハ我ガ功德ト成ル。自行化他ノ功德。オノヅカラ法界ニ遍ジテ則チ佛ナリ。又法華經ニハ。眞如實相德理ヲ詮ズレバ。須臾ニ佛ニ成ルト明スノミニアラズ又一切衆生。本ヨリ佛ナリト說ク。

有人問テ云ク。法華經ノ何レノ文ニカ。正シク一切衆生皆本ヨリ佛ナリト明シ。又何レノ文ニカ。煩惱即菩提生死即涅槃ト說ケルヤ。

答テ云ク。法華經ノ品々ノ中ニ明ニ此ヲ明セリ。且ク正宗ノ初ノ方便品ノ文ニ。唯佛與レ佛。乃能究ニ盡諸法實相ニ。所謂諸法如是ト云フ文ニ。明ニ煩惱即菩提。生死即涅槃ノ道理。及ビ一切衆生悉皆成佛ト云フ事明ニ見ヘタリ。但シ諸法實相ト云フ一句ニ。萬法眞如ナリト明スナリ。天台大師ノ釋ニ云。諸法ト

玉フ事ハ。一切衆生ヲ皆佛ニ成サシメント云フ事ハ別事モナシ。只一切衆生ヲシテ。眞如ヲ我ナリト知ラシメントナリ。サレバ事ノ詮ハ。只一切衆生ニ。我即眞如ナリト令レ知ルヲ法花經ト名ク。三世ノ諸佛ノ大事因緣。出世ノ本懷トスルナリ。其ノ流來生死ノ始。眞如ノ理ヲ忘レシヨリ後。實ノ我身ニ有ザリケル地獄餓鬼畜生。修羅人天。聲聞緣覺權敎ノ菩薩。此等ノ九界ノ有情ヲ。妄ニ我身ト思ヒテ。廣ク法界ヲ體トスル眞如ノ理ヲ。全ク我ト思ハズシテ。心セバク只一有情バカリヲシテ。我ト思フハ。我ガ一人ガ所作ノ行業ハ。無量劫ヲ經トモ。法界ニハ滿ツベカラズ。若シ自行化他ノ功德。法界ニ遍ゼザルハ佛ニアラズ。サレバ廣ク眞如法界ヲ我ト觀ズル時ニハ。我ト法界トノ一切。體一ツナレバ。我功德。法界ノ功德トナリ。

ヌカ下疑脱レ字

ヲ知ル人ハ須臾ニ佛ニ成ル。何レモ何レモ佛ニ成ル道極テ大切ナリ。覓バ。我悪世ニシテ多劫ノ間ニ。刀山ニ骨ヲクダキ。猛火ニ身ヲ焦シテ。ナリ計ノ益モナシ。無量ノ苦患ヲ忍ビデダニモコソ過ダル。況ヤ無上菩提ノタメニ骨髄ヲクダカム。何ノ苦ルシキ事カ有ント思ヒテ。無量劫ノ間。極テ堪ヘガタキ苦ヲ。忍ンデダニモ菩提ヲバ求ムレ。今我等ハ骨モクダカズ。命ヲモ捨ズシテ。只我眞如ナリト思フ計リノ事ニヨリテ。須臾ニ佛ニ成ルト云フ。安ラカル教ヲ聞キナガラ。信用セズシテ。無間獄ノ底ニ沈ミナン。誰カ過ヲマヌカム。凡ソ十方三世ノ諸佛ノ世ニ出デ玉ヒケル事。何ノ折ニ何事ヲ本懐トシテ出デ給ヒ覓ゾト尋ヌレバ。早ク一切衆生ニ。眞如ノ理ヲ知シメンガタメ也。サレバ方便品ニ。十方三世ノ佛ノ世ニ出デ

華ノ先ノ諸經ト。勝劣遙ニシテ。天ト地トノ如シ。カヽリケレバ釋迦如來世ニ出デ。四十餘年ノ間。佛心ニカクシテ。顯ニ説キ玉ハズシテ。法華ニ始テ顯シ給ヒケル實相眞如ノ理ト云フ如來ノ祕藏。已證ノ法門ヲ。我濁世末代ニ。日本ト云フ邊地ニ生ジテ聞キタテマツル。我身即チ佛ナリケリト知ル計リノ。生々世々ノ悦。何事カハ有ベキ。人間ニハ國王大臣ト成ルヲ。世人ハ究竟ノ悦ト思ヘリ。天上ニハ梵王帝釋ト成ルニ勝リタル悦ナシ。サレ共此等ノ悦ハ。未離生死。輪廻ノキハ無ケレバ。大切共オボエズ。只佛ニ成ル道ヲ知ラン計リ。生々世々ノ悦バシキ事。爭デカアラン。佛ニ成ル道ニツイテモ。眞如觀ヲ知ラザル權敎ノ菩薩ハ。無量劫ノ間。身命ヲ惜ズ。難行苦行シテ佛ニ成ル。コレ實ノ佛ニアラズ。夢ノ内ノ權果也。眞如觀

相ノ詞。及五佛開權ヲ聞テ。內證。初住ノ悟ヲ開クト云ヘ共。昔
與物結緣無ケレバ。未來無數劫ヲ經テ。外用八相ヲバ唱ヘタ
リ。中根四大聲聞。下根千二百等ニハ。譬喩ヲ說キ。因緣ヲ說ク。
我眞如ナリト知ラシメテ。內證ノ悟ヲ開カシメタリ。智積菩
薩ハ別敎ヲ執シテ。龍女ガ頓證ヲ疑ヒキ。其語云。我見二釋迦如
來一。於二無量劫一。難行苦行。積レ功累レ德。求二菩薩道一。未二曾止息一。觀二三千大
千世界一。乃至無レ有下如二芥子一許上。非二是菩薩捨二身命一處上。爲二衆生一故。然後
乃得レ成二菩提道一。不レ信下此女於二須臾頃一便成中正覺上。文此レ則龍女ハ
初心凡夫也。亦畜生ノ身ナレ共。法華經ノ諸法實相ノ一句ヲ
聞テ。我身則眞如也ト悟ル。須臾ノ間ニ佛ニ成ル。智積菩薩ハ。
實位隣レ共。權敎ノ菩薩ニシテ。頓證菩提ノ旨ヲ知ラズ。サレ
バ須臾ニ佛ニ成ト明ス法華經ト。無量劫ニ佛ニ成ト說ク。法

レ疑ル
レ疑ル

妙法ト名ク。此レ則法華已前ニハ。次第ノ三諦ヲ明ス。法華ノ時ニハ。會入スルヲ圓融ノ三諦ト名ク。釋ニ云ク。始自二華嚴一終至二般若一。雖二多不一レ同。但爲二次第三諦所攝一。今經會レ實。方曰二圓融一。文今眞如ノ理ハ。只法華經ノ中ニ明スト云フ也。圓融ノ三諦ヲ眞如ノ理ト名ル故也。此文ニ亦十界則實相ナリト明セリ。我身眞如ナリト明ス也。我則十界ノ中ニ有ル故也。我則眞如ナレバ我佛也。眞如ヲ實ノ佛トスル故也。サレバ龍女ハ最上利根ノ者ニテ。文殊龍宮ニシテ此經ヲ弘メ玉ヒシ時。諸法實相ト云フ詞ノ下ニ。我則眞如ナリ。我佛ナリト悟レハ。內證ノ佛也。故ニ此ノ身ヲ不レ捨シテ。無垢世界ニ往テ。八相成道ヲ唱レハ。外用ノ成道ナリ。亦舍利弗。是上根ノ者ナレバ。法華ノ前ニハ。自度ノ執深シテ。永不成佛ノ思ヲ成シキト云ヘドモ。諸法實

相不相ヲ名テ實相ト云ヘリ。實相トハ眞如ノ實名ナリ。次ニ亦今經ノ中ニ。三草二木皆一地ヨリ生ジテ。終ニ眞如ノ大地ニ歸スル事ヲ明セリ。此レ則四十餘年未顯眞實ノ昔ハ。未明從一出多從多歸一ノ旨ヲ。故ニ妙樂大師ノ釋ニ云。法華已前ニハ。非但未論會多歸一。亦未曾説從一出多。文鷲峯開顯ノ今ハ。三草二木ノ五乘七方便ノ輩。皆一實眞如ノ一地ヨリ生ジテ。還テ眞如ノ大地ニ歸スト明セリ。此レ則チ一切衆生。我心則チ眞如ナリト知シメ玉フ事ハ。佛。世ニ出テ。四十餘年。佛心ニ祕シテ顯ニ説キ玉ハズシテ。法華ノ時。始テ顯シ玉フ也。又諸法實相者。眞如ノ異名ナリ。十界皆眞如ナレハ。各萬法ヲ具ヘテ。百界千如三千世間ト成ル。此三千ニ各三諦ヲ具足ス。此ヲ圓融ノ三諦ト名ケ。隔歷ノ三諦ハ麤法也。圓融ノ三諦ハ

目連迦葉阿難等ノ諸賢ニウマレ。華嚴阿含方等般若。乃至八萬法藏十二部經。此等ノ人法ヲ。悉ク和合シ融通シテ。乃至一切ノ非情。草木山河。大海虛空。皆眞如ノ外ノ物ニアラズ。此等皆眞如ナレバ。皆眞如ハ佛也。眞如ヲ實ノ佛トスルガ故也。亦佛。一切衆生ニ。我身心則眞如ナリト知シメ玉フ事。法華經ノ中ニ此ヲ明セリ。法華已前ノ諸經ハ。帶權趣機ノ説ニシテ。未ダ開三顯一ノ旨ヲ不レ明。無始ヨリ五性格別ナリト明シテ。一切衆生皆本覺眞如ノ理ヨリ出タリト説カズ。サレバ法華ノ序分ノ無量義經ノ中ニ。四十餘年未顯眞實ト云ヘリ。此レ法華已前。四十餘年ノ説ノ中ニハ。無量義經ノ道理ヲ明サザルヲ未顯眞實ト云也。經ノ次下ノ文ニ。今無量義經ノ中。眞實ヲ顯ス事ヲ説ク文ニ云ク。無相不相ノ一法ヨリ。萬法流出ス。無

又下疑脫佛則二字

頓菩提ノ道ヲシラシメ畢ヌ。
此ヨリ下ハ。眞如ノ有樣ヲ委ク令レ知。又法華ノ大旨ヲ明メント也。眞如ノ理ト云ハ。廣ク法界ニ遍シテ。至ラヌ處ナク。一切ノ法ハ。其數無量無邊ナレ共。眞如ノ理ヲ離タル者ナシ。亦萬法ヲ融通シテ一切トナセバ。萬法一如ノ理ト名ク。サレバ煩惱モ即菩提也。生死モ則法身也。惡業モ則解脫也。サレバ我等ガ一切衆生ノ身ノ中ノ。煩惱業苦ノ三道。此モ佛ノ法身般若解脫ノ三德也。亦是法報應ノ三身也。我等ガ身ノ中。三道既ニ三身ナレバ。我等則佛也。三身則三道ナレバ。又我等衆生也。如レ是互ニ具足シテ。融通無礙ナル。此レ則眞如ノ理萬法一如ノ道理也。凡ソカカル相即不二ノ道理ハ。皆是レ眞如ノ功能也。サレバ大日釋迦彌陀觀音彌勒等ノ一切菩薩ニ生レ。亦身子

我等ハ是レ未斷惑ノ凡夫也。佛ハ無量劫ノ間。難行苦行シ。自行化他無量ノ功德圓滿シ玉ヘリ。我等ハ佛ノ御六度萬行ノ中ニ。何ノ功德カ具タル。唯此生ニモ。骨ヲクダキ。命ヲ捨タル事ヤハアル。況ヤ無量劫ヲヤ。只無始ノ習ヒナレバ。世間ノ名聞利養ノミ大切ニ思テ。此藺彼寺社ニ望ミ。世ノ樂ミ榮ヲワシリ求テ。往生極樂モ。大切ナル佛果菩提モ。望タエテ。我等此生ハ徒ラニ過ヌ。後生ハ定テ三惡道ノ底ニシヅミナムト思ヒツルハ。只是未ダ眞如ノ觀ヲ知ラザリツル日ノ迷ノ心也。今日ヨリ後ハ。我心コソ眞如ナリトシリ。惡業煩惱モ障ナラズ。名聞利養。返テ佛果菩提ノ資糧トナリツレバ。只破戒無慙ナリ。懈怠懶惰ナリ共。常ニ眞如ヲ觀ジテ。ワスル丶事無クバ。惡業煩惱。往生極樂ノ障ト思フ事ナカレ。略シテ往生極樂。證

上身下疑脱賤字

ザリケル眞如ノ名ヲ聞ムヤ。悦シキ哉。我等此度流來生死ノ始。本覺眞如ノ理ヲ忘レテ後。イマダ昔聞カザリケル眞如ノ理ヲ。今ワヅカニ其名ヲ耳ニ經レツルダニモ。生々世々ノ悦ナルニ。忝ナクモ。此一實眞如ノ理ヲ。我身ナリト知リヌル。此則本覺眞如ノ理ニ歸スル也。八歲ノ龍女ハ。最上利根ノ者ニテ。此身ヲ不レ捨シテ。三十二相八十隨好ヲ備テ。無垢世界ニ往テ。八相成道ヲ唱タリ。我等ハ。龍女ニノゾムレバ。鈍根ナレバ。此身ヲ捨テ極樂ニ生テ。三十二相ヲ具シテ神通自在ニシテ。十方世界ニ遊ビ。佛ヲ供養シ。衆生ヲ敎化シ。娑婆ノ古鄕ニ返テ。最初ニ有緣無緣ヲ利益セン事極テ近キナリ。サレバ我等ハ此身シキ身ニハアラズ。亦我心則眞如ノ理ナリト知ザリシ時。佛ト我等ト遙ニ違ヒ。遠クヘダテタリト思ヒキ。其故ハ。

身ノ疑身ヲ

如ノ觀ヲ知ザル權敎ノ菩薩ハ。無量劫ノ間ニ。骨髓ヲ摧キ。身命ヲ捨テ刹那須臾モオコタル事モナク。難行苦行シテダニモコソ。佛ニ成ル道ハ大切ナレバ。此ヲ企ツレ。先ヅ我大師釋迦如來モ。昔無量劫ノ間。芥子計モ身命ヲ捨ザル所ナク。難行苦行シテコソ。佛ニハ成リ玉ヒケレ。我等ハ。カヽル無量劫ノ苦行ヲセズ。六度ヲモ修行セズシテ。只且クノ間。我身ノ眞如ナリト思フ計リノ。一念ノ心ニ依テ。佛ニ成リ。極樂ニ生ズル道ヲ知ル。返々世ノ中ニ有ガタキ希有ナル事也。哀レ此受ガタキ人身ヲ受ケ。遇ガタキ佛敎ニアヘリ。一期生涯盡テ。眼閉ム時。五戒十善ヲ持タヌ身ナレバ。人中天上ニハ生ジガタシ。只三惡趣ノ底ニシヅミナム後ハ。無量劫ヲ經ル共。何レノ時ニカ三寶ノ御名ヲ聞ン。況ヤ流來生死ノ後。未全ク耳ニフレ

獄ニ下疑脱ヨリテ三字

阿鼻獄ニ落テ。千劫ノ間苦ヲ受タリ。哀哉。我等無間地獄ニ墮セン事モ極樂世界ニ生ゼン事モ。唯此度ノ心ニ任セタリト。我等則眞如ナリ。信ゼズバ決定シテ地獄ニヲチナム。深ク信ジテ疑ズバ極樂ニ生レナム。既ニ極樂ニ生ジ。地獄ニヲチン事。眞如ヲ信ジ。不信ト。不同ニヨルベシ。アヂキナキ哉。眞如觀ノ力ニ極樂ニ生ズル事ヲ信ゼズシテ。無間地獄ニ墮テ。無數劫ノ苦ヲ受ンヨリハ。唯深ク信ジテ極樂ニ生ジテ。無數劫盡セヌ樂ニアヅカツテ。我キミ〳〵必ズ能ク只此眞如觀ヲ信ズベシ。カヽル安ラカニ佛ニ成テ。極樂ニ生ズル道ヲ。此生ニ知ラスル事。生々ノ悅ヤハ有ル。タトヒ破戒無慙ナリ共。懈怠ヲダニセズバ。帶ヲセズ臥シナガラモ。只須臾ノ間モ。我身眞如ナリト思ハン計ヒヲ。極テ安ク憑シキ事ヤハアル。此眞

命盡テ。亦同地獄ニ生レ返テ。無數劫ノ間。無量ノ苦ヲウケ。後ニ畜生道ニ落テ。種々ノ苦ヲ受ケ。マレニ人身ヲ受テハ。盲聾瘂ト成リ。貧窮ニシテ人ノ奴婢僕從トナリ。常ニ又疥癩ト云フ病ヲシ。凡テ人ノ見惡ムベキ事ハ。皆我身一ニ備ヘタリ。此等皆昔法華經ヲソシリ奉ルガ故也。カヽル究竟至極ノ法ハ。賞罪共ニアラタニシテ。其功德不思議ニシテ。忽ニ佛果菩提ニ至ル。又信ゼザレバ罪限リナクシテ。無數劫地獄ノ果報ヲ招ク。不輕品ニ幷テ。信ズル者ノ功德ト。ソシル者ノ罪トヲ說テ云ク。不輕菩薩。一切衆生身中ニ佛性アリト信シテ禮拜シテ。讃歎セシカバ。現ニ六根ヲ淨メ。後生ニハ無生忍ヲエタリ。此ヲ信ゼザリシ多クノ衆生ハ。千劫於阿鼻獄ニシテ。大苦惱ヲ得タリ。佛性トハ。眞如ノ異名ナリ。サレバ眞如ヲ信ゼヌハ。

ハ其無間城ノ中多百由膳那ノタケキ炎ノ中ニシテ五體身分炎トナリヌアナウラヨリ焦通リテ頂ニイタリ肉ヲコガシ骨ニイタリ髓ヲトヲラン時ノ苦ハ餘所ノ事ニテ云バコソ何トモ思ヒヱネ我身ノ上ニ來ラン時ハ刹那須臾モタフベキ樣モナクコソオボユラメ人間ノ火ニ入レバ等活地獄ノ罪人ニノゾメバ第三禪ノ樂ニスギタリ其レヲ世ノ人間ノ火ノ中ニ入ルハ則死スレバ亦刹那ノ間ノ苦也等活地獄ノ中ニハキリサキ殺サルレドモスヾシキ風且（シハラ）ク吹バ活ル事本ノ如シ阿鼻大城ノ底ニ入ヌレバ苦ノ切ニタヘガタケレバ刹那ノ間ニモ滅シウセテヤミナバヤト思ヘドモ命ノ遙ニ長クシテ一劫ノ間ヤケ共焦セ共死スル事ナシ灰ト成テナリ失セモセデ苦ヲ受ク若シ法華經ヲ罵ル人ハ一劫ノ

ニ十方ノ佛及ビ法華經ヲソシリ奉ル者。無間地獄ニヲチテ出ル事ナケン。譬喩品ニ。法華經ヲソシル罪ノ果報ヲ說テ云。其人命終シテ。入阿鼻獄。具足一劫。劫盡テ更ニ生ゼム。如是展轉シ。無數劫ニ至ルトイヘリ。阿鼻獄トハ。無間地獄也。八ノ大地獄アリ。一ニハ等活地獄。二ニハ黑繩地獄。三ニハ衆合地獄。四ニハ叫喚地獄。五ニハ大叫喚地獄。六ニハ炎熱地獄。七ニハ極熱地獄。八ニハ無間地獄也。初ノ等活地獄ノ火ヲ。人間ノ火ニノゾムルニ。人間ノ火ハ雪ノ如シ。如是次第ニ。前々ノ地獄ノ火ハ雪ノ如シ。第八ノ無間地獄ニ至テハ。一切地獄ノ苦ヲ皆合セタリトモ。無間地獄ノ苦ノ一分ニ及ブベカラズ。無間地獄ノ苦ヲバ說キ盡シ玉ハズ。千分ガ中ノ一分ヲモ說キ玉ハズ。說バ聞カン者。血ヲハキテ死スベケン。法華經ヲソシル者

故下疑脱也字

トイフ。八歳龍女ガ法華經ノ萬法一如ノ理ヲ聞テ。刹那ノ間ニ菩提心ヲ發シ。須臾ノ間ニ即チ正覺ヲ成ゼシガ如ク也。又眞如ヲ観ゼン者。極樂ニ生レント思ハヾ。心ニ任セテ決定シテ生レム事疑ナシ。其故ハ。佛ニ成ン事ハ極テ難シ。自行化他ノ無量ノ功德。法界ニ滿テ。佛ニ成ガ故也。極樂ニ生レム事極テ易シ。惡業ヲ作ル者モ。命終ノ時。心ヲ至シテ。一一ニ十度南無阿彌陀佛ト唱レバ必ズ生ル故。而ルニ眞如ヲ観ズレバ。成リ難キ佛ニダニモ。トク成ル況ヤ生ジ易キ極樂ニ生レム事。決定シテ疑ナシ。サレバ必ズ生ゼント思ハン者ハ。只眞如ヲ観ズベシ。サレバ百人ハ百人ナガラ。定テ極樂ニ生ズル事。決定シテ疑ナシ。若不信ナラバ。此レ即十方三世諸佛ヲソシリ奉ル也。十方ノ諸佛モ。法華經モ。皆眞如ヲ體トシ給フ故也。既

此下疑脱身字

成ヲント思ヒ必ズ極樂ニ生ント思ハヾ我心即眞如ノ理也ト思フベシ。法界ニ遍ズル眞如ヲ我體ト思ハヾ。即チ我レ法界ニテ。此外ニコトモノト思フベカラズ。悟レバ。十方法界ノ諸佛。一切ノ菩薩モ。皆我ガ身ノ中ニマシマス。我身ヲ離レテ外ニ。別ノ佛ヲ求メムハ。我身即眞如ナリト知ザル時ノ事也。眞如ト我トツ物也ト知ヌレバ。釋迦彌陀藥師等ノ十方諸佛モ。普賢文殊觀音彌勒等ノ諸菩薩モ。皆我身ヲハナレ玉ヘル物ニアラズ。或ハ法華經等ノ八萬法藏十二部經。乃至佛菩薩。因位萬行。果地萬德。凡自行化他ノ無邊功德。何物カ我身ノ中ニ備ヘザラン。此思ヲ成ス時。萬法ハ心ガ所作ナリケレバ。萬行ヲ一心ニ具シ。一念ニ一切ノ法ヲシル。此ヲ坐道場トス。此ヲ成正覺ト云也。此ヲ捨ズシテ佛ニ成レバ。此ヲ卽身成佛

本書具名存畧觀心實相眞如觀

眞如觀

天台首楞嚴院沙門　源信　述

菩提要集云。見事易。議事易カラントテ。假名字ヲ加テ所註ナリトイヘリ。今是ニ准ズ

空假中ノ三觀大體ヲ可示。止觀第一云。一色一香無非中道。已界及佛界衆生界亦然。文已界者。行者ノ自信ナリ。佛界者十方ノ諸佛ナリ。衆生ハ。一切衆生ナリ。一色一香ハ。草木瓦礫。山河大地。大海虛空等ノ一切非情類ナリ。是ラノ萬物。皆是無非中道。異名一ニアラズ。或ハ眞如。實相。法界。法身。法性。如來。第一義トナヅク。此等ノ多ノ名ノ中ニ。且ク眞如ト云フ名ニヨセテ。諸經論ノ中ニ多ク明セル中道觀ノ義ヲ明スベシ。疾ク佛ニ

觀無量壽經疏顯要記破文下

記云。決定不生者。即此土四種聲聞。一定性。二退菩提。三應化。四佛道已上問。法華論有四種聲聞。謂決定。上慢。退大。應化。今家更加佛道爲五。今何改上慢加佛道爲四耶。

原　本　天和二年三月開板本全一卷
對校本　一本比叡山眞如藏古寫本全一卷

況下云疑剩

必一本作心

燈燃恐寫倒合作燃燈

知下一本有今字

加下一本有三字

實相。既云為說實相。豈不由於宿種根利耶。又觀現當人。不能自悔。既遇知識。必為廣懺積罪。是人定起仰賴之心。亦同自悔之義。況云志心稱念。令聲不絕。具足十念。設以不能觀想。既云稱念十聲不絕。必无間雜。還同定心。乃云於念々中除八十億劫生死之罪。如斯十念。豈與彼同。良由彼无此等勝緣。雖云十念。不能除滅重罪已上。今謂。彼經畧故但云十念。何言定無此等勝緣。又推果驗因。此亦未信。如求度人八萬劫中。雖无脩因。以燈燃時。久遠發心。為緣脫緣。大小雖異。因果意同。何以觀音為須實相。而驗臨終時根利耶已上異本此後解釋甚有意趣。若專前釋。散善下根永絕望矣。上品中生。疏云現前受記者。四種受記一往現前也。記云四記者劫國无生已知未知。云一往現前。即直記當得菩提。故云一往已上今謂一往現前者。疏意首楞嚴經有四種記。未發心。適發心。密記。現前。今經現前授記。一往當彼經第四記也。何故出劫國等四。而言直記當得菩提。故一往等耶。　記云三明亦名三達。達三世也。且天眼耳他心也。更加為六通耳已上。問通途。天眼。宿住。漏盡為三明。那忽云天眼耳他心耶。　疏云。釋論明實不生者。決定不生。此中明生。退菩提心得生。至彼處无漏道熟。即證第四果。大論亦然。

判下一本有爲字
重一本作量
佛一本無
志疑至
相一本作想
必一字一本無
此一字一本無

彼實無小種。今謂。此經及大本。小阿彌陀經。寶積經等諸處。但說彼有聲聞。言不涉大。那忽判大乘聲聞耶。若云神智洞達。故。是大乘者。亦不必然。彼土衆生神通无礙。豈況聲聞无此堪能耶。 疏問。大本五逆謗法不得生。此經逆罪得生。釋有兩義。約人造罪有上有下。上者如世王造逆必有每悔令罪消薄。容得生。下人造逆多。无重悔。故不得生。大本約行。行有定散。觀佛三昧名定。脩餘善業。說以爲散。以善力微不能滅除五逆。不得往生。大本就此。故言不生。此經明觀佛。故得生。記問。若云悔力及定力得生者。如下品但云臨終遇善知識教令念佛。其爲苦逼不遑觀念。知識復教。但稱彼佛之名十聲而已。何曾觀悔。與彼十念。應无有別。答。是義不然。今尋二經。文意稍別。應如疏會。何者。彼經但云衆生志心信樂欲生我國。乃至十念。若不生者。不取正覺。唯除逆謗不生。明知。彼但通論信樂欲生之心。若稱十念皆生我國。故云除於逆謗。豈非不論觀悔。今經不爾。的指臨終之際爲苦所逼。既見苦相。必必起大怖。願求救護。忽遇知識。如云種々慰爲說妙法。既云爲說妙法。必廣示彌陀本願。教發四弘。授與皈戒。或說心地法門。是人必能深信正性。何以得知。今推果驗因。如此此人生彼。華開得見觀音。爲其廣說

法下一本有界字

以一本作似

土下一本有有字

種下一本有云云二字

惡趣。今文復云五苦。苦字恐誤。合是惡字已上。今謂。經云五苦。疏亦不改。何因云誤。況是惡趣。豈非苦耶。

記釋法身云。又三身量等無非法界。三佛並常。一々無改。是則體遍。智遍。應遍。故同是法界身已上。此釋甚好。雅合宗旨。然應身遍法界。未了其意。何者。應身隨機在無。那忽周遍耶。

記云。經明觀音身量。其誤。疏雖不說。以佛身數驗之。可見。如疏定佛身。只六十萬億等菩薩。却倍二十萬億耶。今以義定。只可云八萬億等。但除十字。不可除。或可除八字。則與佛身量所較不多已上。此解巧妙。符順疏意。然隨義除文。何以城避車耶。況復寶樹高八千由旬。寶座華葉二百五十由旬。與佛量並不相稱。豈得一々加添削耶。

記問。若云彼無二乘者。如彼第十四願云。設我得佛國中聲聞有能計量乃至於百千刧悉共計挍知其數不取正覺。何謂無二乘種耶。答願中所明聲聞者。蓋攝三乘之行。於十萬佛土。皆使願生我國。其數不可校計。悉是大乘佛。生我國。其數不可校計。悉是大乘佛道聲聞。非於彼土發小種。何以得知。故大本云。佛語阿難。又彼聲聞菩薩。其數難量。不可稱說。神智洞達。威力自在。能於掌中持一切世界。既云聲聞菩薩神智洞達等。豈非聲聞與菩薩智力齊等。明知。但是大乘佛道聲聞。驗

疏名原本無之今私加下同
卜字原本無之今私加下同

聖下一本有住字

花一本作華

身一本作耳

觀無量壽經疏顯要記破文下

天台山東塔院沙門　覺運

分得大宋國，奉先寺，源和尙，觀無量壽經疏顯要記下卷。文義備矣。理趣明矣。卷舒鑽仰。慕道欣義。今錄疑慮重求幽玄而已。

疏釋住云。聖三乘人因即三々昧也。記云。三々昧者。一有覺有觀。二無覺有觀。三無覺無觀。一々三昧皆以空無相無作相應心入諸禪故已上。問大論云空無相無作是三々昧名聖住。疏意依彼。今何以有覺有觀等若云以空無相無作心入諸禪故不違者。只應如本舉之。何煩轉釋耶。況復法花文句以四禪爲梵住。若依今釋聖梵兩住有相濫失。　疏云。請佛文爲二。初明請人。次明請法。記云言請法者謂法則。即求請之儀。如經雨淚等。故疏科爲請法身已上。今案。疏下文云。請法中有二意。韋提見佛下正明請其生處。今向世尊下。明請往生之因已上。驗知。請法非是求請之法則矣。　疏云。五苦者。五道非樂。故云五苦。記云。五苦對五道者。即彼五惡趣也。彼云往生安樂國橫截五

穢耳。記云。報土圓頓上。別次下。寂光土三賢十聖住果報。唯佛一人居淨土。即上下也。畧抄今謂。疏三賢十聖住果報。爲報土證。今何以爲寂光土耶。若分得法報。分屬二土者。妙覺身土。理亦應爾。報身居報土。法身居寂光。何故身有法報。土唯寂光。是義雖間出宗疏。愚蒙未擊。今求其決。　疏判教云。此即頓教。記云。今經即圓。判圓爲頓耳。已上言圓爲頓者。爲是純圓。爲帶權圓。帶者餘經亦應名頓。純者法華即無差別。何況毘婆沙羅得阿那含。既有小益。那云純圓。不爾。法華得法眼淨。判爲小果。亦應無失。若言毘婆沙羅在別處者。既蒙佛光增進。集者亦結爲一經。豈非此會得益耶。然心即是佛。生身得忍。通在餘經。何獨純圓耶。

觀無量壽經疏顯要記破文上

云云一本作細註

亦一本作而
赴一本作趣

琴。善自調品。時大千界。所有山林。皆悉踊沒。是會大衆唯除不退
菩薩。餘皆起舞。天冠菩薩。語大迦葉云。云何各捨威儀。如彼小兒。
擧身動舞。汝觀不退菩薩。威德勢力。琴不能動。誰見如是。不敬無
上正眞菩薩。豈非彼經以圓斥偏。正以菩薩勝妙五欲。斥其同體
無明全在故不自安。見山涌沒同體之惑。全在依正。是致正報動。
見依報動。取意今謂。大衆起舞。以爲正報動。山林涌沒。以爲依報
動。此解妙之又妙。何者聲聞有執。理應動搖山林。無惑將何涌沒。
自非此釋。詎通此疑。一朝之益。不悔夕死矣。　疏釋經體云。無量
功德。共莊嚴之。種々修行。亦歸赴之言說問答。亦詮辨之。記云。體
爲名等所依。名如前。宗用即智斷二德。功德智德也。衆行斷德也
言說即敎。已上此釋巧妙。誠契大師本懷而已。　疏明四土各有
淨穢云。實報者。次第頓悟。上下淨穢也。寂光者。分得究竟。上下淨

云一本作不

亦一作而字

卒下一本有假字

教化無量衆生。永出三界。若無始起者衆生速應盡。即違聖說。衆生無盡。或言。無始起衆生。若云爾者。六道衆生。由業受生。若有始起者。彼先無業因。於六趣中。受何處報。若言初時不由業生。唯約後時論業報者。不齊之過。何以得避。況復聖說生死無始耶。有約理性釋之。亦終不脫凝滯。願示正義。　記云。眞如之性。本來不覺。謂之本迷。覺無別覺。只覺不覺。已上今謂。眞如本來離諸迷謬。如起信論云。從本已來。無虛妄念。性自滿足一切功德。有大智慧光明義。遍照法界義。眞實識知義。法界一相。即是如來平等法身。依此法身。說名本覺。已上取意故設名不覺。不可名本迷。　記云。色身應也。法門報也。實相法也。可對空假中。應身即假。又一々身無作。即空中。皆法界故。已上此中應云報身即空。法身即中。恐是二句落歟。不俟說知文猶未具。　記云。大樹緊那羅王。住世尊前。以瑠璃

許下一本有者墮無窮過展轉稟教則無窮故若許者十字

末一本作顯示二字

一本不可說識上有不可說三字

即上疑有脫字乎

也一本作文

又云。不可推求最初之佛。則墮無窮之過。云云此文難測。爲許無教自悟佛。爲不許耶。若不許其難如上。墮無因過。無教自悟。即無因故。況復以此應爲最初。何言不可推求最初。則墮無窮過耶。又云。設一佛未覺等。云云此中既置設言。上來問答。即爲假設。未理盡之釋。　記云。或云。本性凝然淸淨。因最初一念妄起。由是背覺合塵。故有一切色心等法者。今謂此說符於不了義敎。今師同冥初生覺之見也。已上今謂。仁王經云衆生識初一念。識異木石。生得善。生得惡。乃至初一念。金剛終一念。於中生不可說識。成衆生色心。是衆生根本。有三卷私記世傳。章安記云。問。諸衆生等。有本際不。若言有者。何故中阿含。衆生本際。不可得知。答。略爲二說。理中不可說煩惱與身有前後。二不說即有一念識空也。已上近代學者。由此異論。或言。有始起衆生。同化地部義　若不爾者。一切諸佛。一々

無上一本有五之字
無上一本有五之字
安肯一本作委旨
又字一本作一人二字

議品云。乃至無間罪。猶能發意。生於佛法。已上是故須指大小乘所說無間業。以即解脫德。何但出異熟果五義耶。記云。問。過去諸佛。本必俱迷。若本不迷。則有自然之佛。與衆生異。若本俱迷。誰示令覺。若自覺者衆生同有覺性。何不自覺。若迷有厚薄。一等俱迷。何厚薄乎。又俱迷之前。佛界應闕。俱覺之後。九界應無。答。譬如群盲俱行險道。一盲忽明。見坦夷路。導彼盲者。令達正道。其不肯者。墮重險中。誰之過失矣。然不可推求最初之佛。則墮無窮之過。且衆生。恆處迷中。本自不覺。由無始顚倒。妄念相續。沈淪無已。雖在沈淪。本覺性淨。雖覺有前後。覺已無殊。設一佛未覺之前。群迷俱覺之後。是十界法。法性宛然。已上此意同法華記。內薰自悟學者。云云不同不能繁出。今之解釋其意如何。欲聞安肯一盲忽明之譬。翻招前難。同有理性。同無教法。等無厚薄。有何別緣。又先悟乎。

疏名原本無之
今私加下同
上字原本無之
今私加下同

脫下一本有以
五逆相而得解
脫八字

觀無量壽經疏顯要記破文上

天台山首楞嚴院沙門　源信

案大宋國清和尚無量壽經疏顯要記上卷云。大本兩卷。名無量壽經。此經最先說也。小本一卷。名阿彌陀經。即前本後說也。已上今謂。何以知前後耶。有興法師。雖作解釋。義猶未了。凡非明證難定判矣。記引四十八願中第三。第三十一。第三十二願已。注云。此第二。第三十。第三十一願也。云云恐是文誤。下去不能具出。

疏明理即佛云。雖五無間。皆生解脫想。記云。五無間者。一報無間。二受苦無間。乃至五形無間也。已上今謂。疏意。應以三道即三德也。衆生界是苦道。五無間是業道。昏盲倒惑是煩惱道。又此之文相順淨名意。如弟子品云。不壞於身。而隨一相。不滅癡愛。起於明脫。不思

從一作徒

彼智慧深利者。皆相從舍利佛。神通大力者。皆相從目連。其餘尊者有所掌。從衆如渴飮。廣沾妙道。迦葉阿難。傳持應遠。羅云賓頭盧。守護應至八萬歲。況復文殊。是三世諸佛之智母。十方佛土之說法之首。彌勒是諸佛長子。當來導師。乃至常精進。爲一切衆生不請之友。何時何處。得不弘通。乃至天龍八部。福力自在。王領世間者。常護助流通也。如予二千年末。適聞此經。作今願。當生者。豈亦非彼力乎。

原　本　有元錄三年歲次庚午重陽沙門皎空刊本全一卷

對校本　一本寬永七庚午年初秋開板本全一卷

阿彌陀經略記終

供諸佛。壽命無量劫。及此一經。皆是方廣。此上三部。唯是大乘。寶樹音聲。譬如百千妓樂俱作。是即譬喩。天雨妙花。水鳥法音。奇異莊嚴是未曾有。彼無惡趣。何有衆鳥。但佛化。如是論議。準如是。餘五不具。凡諸經中。不必十二。十二經竟

佛說此經已。舍利弗。及諸比丘。一切世間天人阿修羅等。聞佛所說。歡喜信受。作禮而去。

佛說阿彌陀經。

經曰佛說此經已下。流通分。文有三。一結前生後。初五字是也。二聞法奉行人。舍利等是也。三奉行相。歡喜信受等是也此中亦應有菩薩衆。文略不列。按其意云。證信須尊德。故序不廣雜衆。高位非初信。故此無菩薩。互得顯示。非是闕缺。故稱讚經具擧菩薩也。流通文雖少。流通應不少。衆會悉信受。何不順聖旨。

盡由此五事。心無憂惱。受樂無間。五通準於神境無礙。能見道樹。亦神通用。光明利益。攝佛光中。佛壽無量。天人亦爾。聲聞無數。爲諸佛讚。莊嚴無量。嚴飾奇妙。如是六事。經文顯然。三種往生。理在於此臨終迎攝。已今當生。必至補處。說一切智。那羅延力。必得辯惠。辯惠無量。隨欲聞法。如是六事。是菩薩德。須臾供諸佛。供養具如意。此二即淸旦所辨。國及樹。各現十方。此之二事。各其用也。得無生忍。永離女像。勤修成佛。爲天人敬。諸根常具。得淨解脫。生尊貴家。具足德本。得普等定。得不退轉。一二三法忍。十一聞名。益義準相攝。大途如此。然不廣說。如前應知。四十八願意。

問敎有十二。此經幾具。答。略說道品。念佛方法。隨業往生。及佛依正。如是等說。名修多羅。說不退轉阿耨菩提。往生極樂。是等授記。一經始終。無問自說。十方恒沙佛。不可計補處。須臾

既爲正宗。引他證勸。何非正耶義如前說。況復爲諸佛讚。聞名不退。發願定生等。皆彼佛本願。乃至諸佛讚釋迦。教悉是讚彌陀。故爲正無失。（分文問答覺）問何故不說十六想觀。解曰運念於帷帳之中。決證於塵刹之外。其不如念佛。故今經不要觀餘觀廣略隨宜不得一例。問此攝彼否。解曰。在文雖約。明義寔備。日想但是制心方便。專念西方。其義自成。金地寶宮。具水地二。樹池樓閣。即其三想。觀佛即具彼三種觀。像身眞身及自在身。既有佛身。豈無寶座。補處中。有觀音勢至。前諸想中。自具普觀。臨終迎攝。已今當生。應具上中下三觀也。（十六觀意）問。彼佛依正皆由本願。此經具彼四十八願否。解曰。此亦如前文略義存。無三惡趣願。在衆鳥文。不更惡道。不貪計身。住正定聚。是不退德。不聞不善。亦當不退。身皆金色。無好醜別。三十二相。衣服隨念。樂如漏

所說法。乃至於一偈。皆成佛無疑故爲令得聞法之益。帖敎如文。敎有傍正。正取今敎。傍取諸敎。此二如次屬前所讚。以名屬菩提。若非菩提佛號何在。故屬菩提。以敎屬所說。其義應知。

舍利弗。當知。我於五濁惡世。行此難事。得阿耨多羅三藐三菩提。爲一切世間。說此難信之法。是爲甚難。

曰舍利至此爲甚難者。第五總結成勸進。言總結者。從彌陀依正。至稱讚釋迦。皆此中結。故名爲總言勸進者。示佛身。若重勸信似自讚。故文不明勸進。然以理推自當勸進。智者當悉。不可俟說。上來文義皆當四悉。節々歡喜者世界也。節々信樂者。爲人也。節々破惡者。對治也。節々願生期果。當第一義也。又皆觀解。以緣生法無不即空即假即中。亦如理思。問。六方以下似流通分。何爲正宗。答大師深意。諳以難識。今試解云。以自知勸進。

劫下脱濁字歟

說。故立舉二言五濁者。法華疏云。劫無別體。但約四濁。立此假名。衆生濁亦無別體。見慢果報上。立此假名。煩惱濁。指四鈍使爲體。見濁者。指五利使爲體。命濁。指連持色心爲體。記云。準悲花經。八萬至三萬。亦未有濁至二萬歲。爲五濁始云云。言傍意者。謂佛都意。專在利生。我亦有德。不可默止。然如來寶戒。不許自讚。故寄諸佛。顯德利生。此亦有二。一名字利益。如鴦堀經云。若聞釋迦牟尼如來名號。雖未發心。已是菩薩。寶雨經云。東方蓮華世界。花眼佛。告止蓋菩薩言。西方有世界。名爲娑婆。其國有佛。名釋迦牟尼。若諸有情聞彼名。於阿耨菩提。得不退轉。由彼如來本願力故。於中設有未得不退。由聞佛名。必定當成阿鞞跋致。是故亦名阿鞞跋致。取意文也 故爲令得聞名之益。帖自名號。言釋迦牟尼佛。二教門利益。如法華經云。聲聞若菩薩。聞我

更下疑脫結字

舍利弗。如我今者。稱讃諸佛不可思議功德。彼諸佛等並稱讃我不可思議功德。而作是言。釋迦牟尼佛。能爲甚難希有之事。能於娑婆國土。五濁惡世。劫濁。見濁。煩惱濁。衆生濁。命濁中。得阿耨多羅三藐三菩提。爲諸衆生。說是一切世間難信之法。

經曰。舍利至難信之法者。第四擧我德行爲佛讃勸。或此下二文應爲大文第三總結。此有傍正。正意者。前同說巨益。既信解無疑。何況諸佛讃今佛說。慇懃鄭重。不可不信。謂今佛說彌陀。其一諸佛讃今說。其二今帖諸佛讃。第三更第四有四重。若約諸佛說彌陀德。展轉重疊。應有五重。天子一語不可違之。況無上法王。重々勅語乎。我德行者。略擧二德。一自利德。謂得阿耨菩提。二利他德。謂說難信法也。五濁惡世。多諸留難。衆生垢重。具不善根。上求下化。難可成就。故。今俱得之故稱歎。雖擧二德。正取說法。非佛不

如一無

助行因十二字表十二因緣。三事表三德。即顯以十二因緣輪回之身。感三德祕藏極樂之果。十二因緣其義可知。言三德者。人即法身。如言法身體偏諸衆生。萬德凝然。性常住不生不滅無去來。不一不異非斷常也。願即般若。故願波羅蜜。攝在於般若也。往生極樂即解脫。故雙觀經說彼國土云。無爲自然。次於泥洹云云。昔以此身。發生死願。引生死果。今以此身。發極樂願。感極樂果。願求事業前後雖異自體力用。始終是同。故表以十二因緣之身。得三德祕藏之果。當知。三德三障。本來雖一。染淨緣別。昇沈不同。故大般若經云。一切有情。皆如來藏。普賢菩薩。自體偏故。一切有情。皆妙業藏。一切事業。加行依故。胎經偈曰。法性如大海。不說有是非。凡夫賢聖人。平等無高下。唯在心垢滅。取證如反掌。

智眼天子贊佛阿含云。諸歸依佛者。終不墮惡趣。經論意同。學者善思。若持此經。即具三緣。聞諸佛名。即初因緣。願生極樂。即第二緣。一心稱念即第三緣。若觀法身。亦具第三。未制一毫惑。速得不退地。既如入寶山。莫空手歸矣。不退義覚上來文中。有二勸進。一勸願生。二勸信受。初勸願生。總有三文。一者七日行之前云。衆生聞者應當發願願生彼國。二者我見此利之後云。聞是說者應當發願生彼國土。三者今文云。若有信者應當發願生彼國土也。勸信有七文。六方結。及同所護念之後。文是也。信受事寛故。言汝等。願生事限故。除汝等。無後有故。不被身子。然勸信受。爲成願生。是佛本懷。不可輕爾。故於彼文。少當分別。三文各有一十二字。辯三種事。言十二字。如文當悉。言三事者。一人。即聞者信受也。二因。即應當發願也。三果。即生彼國土也。試作觀解以

上之必一作心

中隨一因緣。菩薩皆得不退。而精進不可休息。為利衆生不休息也 又言現前住三摩提者、菩薩未得此猶墮惡趣。故為得此不可放逸。此有三種。初心菩薩。緣佛形色相好。已入行者。緣十號。十力。無畏法等、無量色類。得無生忍者。遠離諸相。此名無緣三摩提。已上

略鈔 此論同今經。聞名。或發願未勤修者。亦得不退。若如說行。即與第四三昧何別。然十住毘婆沙偈曰。等心於衆生。不嫉他利養。乃至失身命。不說法師過。愛樂深妙法。不貪於恭敬。具足此五法。是阿惟越致。十住即是說入行者。不同今經聞名不退。但蓮華尊所說同今。至下當知若準菩提資糧論意。前三不退。未免惡趣。然必作佛故名不退。例如小乘至煖位者。雖墮惡趣必至涅槃耳。但由第四現前三昧。得免惡道。如華嚴云。若念如來少功德。乃至一念心專仰。諸惡道怖。悉永除。智眼於此能深悟。

等一無

至近而說其益。今從微從遠而說其益。互有意趣。理不相違。第三十四願云。諸佛世界衆生之類。聞我名字。不得菩薩無生法忍。諸深總持者。不取正覺。華嚴經云。一得聞佛名。決定成菩提。一念發願道心。必成無上道。大般若經云。一經其耳。善根力故。定得無上正等菩提。今經亦爾。約作遠因。故作是說。又善住天子經。文殊告舍利弗。聞法生謗墮於地獄。勝於供養恒沙佛者。明知。非深信亦爲遠因。又菩提資糧論第三說。菩薩有五種不退轉因緣云云。華嚴等經中說。若聞具足大願。諸菩薩及佛世尊名號故。是爲第一。若願生彼佛世尊國土故。是是第二。受持及說般若波羅蜜等深經故。是爲第三。修習現前住等三摩提。及隨喜得者。是爲第四。此因緣說未得忍菩薩不退轉。若住菩薩不動地已。得無生忍。說爲究竟決定不退轉。乃至雖四因緣

四八

謂已二字一作言一字

國下一有問字

稱讚經。攝受願者云云。若爾不退亦應準知。解曰。護念通一切。故準前知。不退非小聖。故須別說。況復聖教。有影略說。謂已發願中。有已今當三生。今發願中有今當二生。當發願中唯有當生。此中隨應有九品別。由一發願。必得往生。設經生死終不虛也。譬如少許金剛。墮於地上。即能穿入。其地雖厚。不能留礙。決至本際。方乃當往。誠心發願理。亦應然。言勸願者。是故下文也。有本云。若有善男子善女人。聞是經受持者。及聞諸佛名者。是諸善男子善女人。皆爲一切諸佛之所護念。已上不知何者。什公正文。然今顯正意。不言諸佛。彼兼顯傍正。言諸佛名。理不相違。問。稱讚經。不言聞佛名。但說聞經。深信解。必爲諸佛攝受。如說行者。定不退大菩提。及定生極樂。又發願。必爲諸佛攝受。如說行者。定不退大菩提。亦定生極樂國。二經何故不同。答。彼至著

淨下一有信字

衆俱來。即時動身自歸。須臾命終。積薪燒之。見舌不燒。誦阿彌陀經故。見佛自來。誦摩訶般若故。舌不可燒。乃至處々有人。罪垢結薄。一心念佛。信淨不疑。必得見佛。終不虛也云云。明知。各有利益。

舍利弗。若有人已發願。今發願。當發願。欲生阿彌陀佛國者。是諸人等。皆得不退轉於阿耨多羅三藐三菩提。於彼國土。若已生。若今生。若當生。是故舍利弗。諸善男子。善女人。若有信者。應當發願。生彼國土。

經曰舍利至生彼國土者。二示利益勸願生。本勸信受。意在願生。故前文次。此文來也。此亦有二。一利益。二勸願。所言益者。一現不退益。二近果往生益。三遠果菩提益。此中亦應有護念益。準前可知。故略不說。發願由信受力故。既護信者。豈不護願。故

護上疑脫失字

別門也。文爲二。初示利益勸進信受。次示利益勸進願生。此即初也。此亦有二。初利益。次勸信。言利益者。聞佛名及經名者。有三益。一現爲諸佛護。二現得不退轉。三當得大菩提。次勸信者。此有傍正。正勸信受彌陀及經。傍亦通信我語故。當信諸佛名。信諸佛說故。當信我名。信我名者至下當知但聞名者。既有巨益。應知。所說審實不虛。是故汝等。當信受之。若不信者。非唯愚法。亦是失三益。愚法通一切。失益當分別。身子失護念衆生。護念衆生失三益。或復約顯。如前分別。若探密意。身子亦應論三種益。當回心故。問。說佛功德外無別經。今文何故。別讚經名。答。此義不然。佛法既別。故各有益。如下品上生者。壽終之時。聞諸經名。除千劫罪。稱佛名故。除五十億劫罪。又大論第九云。有一比丘。誦阿彌陀經。及摩訶般若。是人欲死時。語弟子言。阿彌陀佛。與彼大

誠實言。是法寶。聞誠言。是僧寶也。彼諸佛土。信此法者。當向極樂低頭合掌。亦應彌陀光明攝取。是故我等。與彼十方佛土衆生。雖隔塵刹。自作親友。取諸佛護念。即爲佛家兄弟。取彌陀引攝。即爲一佛弟子。取念佛三昧。亦爲同梵行者。願互相資。往生極樂。衆生共有之業强力見聖敎或十方得通者能知我意故作此釋又作觀解。十方卽空國土即假。諸佛即中。如理應思。

舍利弗。於汝意云何。何故名爲一切諸佛所護念經。舍利弗。若有善男子。善女人。聞是諸佛所說名。及經名者。是諸善男子。善女人。皆爲一切諸佛。共所護念。皆得不退轉於阿耨多羅三藐三菩提。是故舍利弗。汝等皆當信受我語。及諸佛所說。

經曰舍利至諸佛所說下。第三示現當益。助成勸進。諸佛同說。既深信受。況聞信等有巨益乎。或此文但結成前文。不可必爲

三千五百佛名經云。稱日月燈佛名。當得不退轉阿耨菩提。若有女人。聞此名者。即爲最後女人身。更不復受。稱淨光佛名功德。勝滿恒河沙世界。七寶布施。不及一歌羅分。稱大炎光佛名者。晝夜增長無量福壽。密嚴經頌。彼土殊勝云。極樂莊嚴國人。非胎藏生。微妙金色身。光明淨圓滿。彼衆之境界。皆悉具瑜伽。若比於密嚴。百分不及一。又上方過百億佛刹。有梵音佛土。娑羅樹王佛土。星宿王佛土。以此等爲齊密嚴土。寶積經第二十云。我於此界。說法至少。比不動如來所說法藏。百分千分。乃至鄔波尼殺曇分。亦所不及。十住毘婆娑。說不退因云。阿彌陀等諸佛。及諸菩薩稱名。一心念。亦得不退轉。即擧一百餘佛中。有梵音佛。如須彌山佛。難勝師子佛。寶相佛也。故知。今擧別德佛。此亦不出隨宜釋意也。此中亦應念佛法僧。恒河沙數。是佛寶。

諸難消滅。諸罪未來畢竟。得阿耨多羅三藐三菩提。彼第七卷。出六方佛。名數同。今。東方阿閦佛。彌留幢佛。（當今經須彌相佛。彌留應須彌相與幢前後譯異也下準知之）大彌留佛。彌留光佛。眞聲佛。南方日月燈佛。大火聚佛（當大炎肩佛世間說肩名蘊蘊即聚義見俱舍論下準知）稱光佛。彌留燈佛。無邊精進佛。西方阿彌陀。（多有同名阿彌陀佛）阿彌陀幢佛。阿彌陀高佛。（當無量幢佛）大火光明佛。大照佛。寶幢佛。香聚佛（今經云淨光佛）北方大火光炎聚佛。大聲佛。難勝佛。日成就佛。羅網光佛。下方師子佛。稱佛。（當名聞佛）威德佛。（今經云名光佛）法佛。（當達磨佛達磨此云法）法幢佛。法住持佛。上方梵聲佛。星宿王佛。香上佛。大炎聚佛。寶幢種々華嚴身佛。堅佛。（當娑羅樹王佛娑羅此云堅固）寶蓮華勝佛。見一切義佛。須彌劫佛云云。當知。釋尊數說此諸佛。勸進衆生。非是小緣也。同經云。不退輪世界一劫。爲無垢世界法幢佛土一日一夜。彼土一劫。爲善燈世界。師子佛土一日一夜云云

四維各一。餘方方同今。名字少異云云。寶積經云。十方各如恆河沙界。一一界中。如恆沙佛。各々稱歎阿彌陀佛無量功德。三各國土。稱讚經。十方皆言淨土。四化儀說法。謂舌相等。五勸進。如文。問。所言勸信者。誰勸信耶。答。稱讚經後段文云。十方諸佛。勸諸有情。信受此法云云。然非必指一々方々勸信文。義記亦爾。不指其文。故此之六文是今佛勸。若言諸佛勸。亦不違理。問。言六方者。望何處指。答。聖旨難測。且解云。案經文意。非顯如極樂。亦有諸佛土。但顯如我見說。他方亦同說。故望娑婆應指諸方。或云。彼佛本願。爲諸佛讚故。非望娑婆國土。娑婆極樂相去不遠。望恆沙界。猶如一處。望此一處指恆沙刹。問。於諸佛中。何故說是答。此亦必難知。然諸佛敎。皆由機宜。此亦應爾。或是擧有別德之佛。如佛名經。說諸佛名號。受持讀誦。現世安穩。遠離

樹王佛。寶華德佛。見一切義佛。如須彌山佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經。

經曰舍利至上方文竟。第二引他方佛說助成勸進。前教主證。既無疑網。何況諸佛所說同乎。此有傍正。正意如我今者。說極樂勸進。他方諸佛。亦說誠言。二說既同。何不肯信。此爲正意。誠實言者。諸佛所說。皆是誠實。就中。如言我見是利故說此言。又出廣長舌相。是實語相。如是所說名誠實耳。傍意者。今佛非唯讚阿彌陀。傍亦讚彼六方諸佛。故下文云。如我今者稱讚諸佛。彼諸佛等。亦稱說我云云。若唯彌陀。諸言無用。文有二。一結前生後。初一行餘也。二正引他方。東方以下文也。六方文。各有五。一指方處。二舉諸佛。稱讚經中。西方下方。又有九佛。上方有五。

說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德一切諸佛所護
念經。舍利弗。西方世界。有無量壽佛。無量相佛。無量幢佛。大光佛。
大明佛。寶相佛。淨光佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長
舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可
思議功德一切諸佛所護念經。舍利弗。北方世界。有焰肩佛。最勝
音佛。難沮佛。日生佛。網明佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出
廣長舌相。徧覆三千大世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不
可思議功德一切諸佛所護念經。舍利弗。下方世界。有師子佛。名
聞佛。名光佛。達磨佛。法幢佛。持法佛。如是等恆河沙數諸佛。各於
其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信
是稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經。舍利弗。上方世界。有
梵音佛。宿王佛。香上佛。香光佛。大焰肩佛。雜色寶華嚴身。佛娑羅

君。今亦如是。制心一處。無事不辨。故十疑引隨願往生經云。佛告普廣菩薩。閻浮提衆生。心多濁亂。爲此別偏讚西方一佛淨土。便衆生專心一境。即易得往生云云。況復此土衆生。應有極樂緣。佛常勸進。非無機緣也。唯除少分願生餘界。故十疑云。無量壽經云。末世法滅之時。特留此經百年在世。接引衆生往生彼國。故知。彌陀與此世界極惡衆生。偏有因緣。云云。

舍利弗。如我今者。讚歎阿彌陀佛。不可思議功德。東方亦有阿閦鞞佛。須彌相佛。大須彌佛。須彌光佛。妙音佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。偏覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德。一切諸佛所護念經。舍利弗。南方世界。有日月燈佛。名聞光佛。大焰肩佛。須彌燈佛。無量精進佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。偏覆三千大千世界。

生一無

於賢劫中。唯除釋迦。餘佛國土。皆名淨土。彼慈尊時。既有男女
便利鳥獸。豈勝極樂。又上下八方無央數。淨土莊嚴。妙事。皆攝
在極樂。豈各別土爲勝。總攝處爲劣耶。問。華嚴經壽量品說。娑
婆一劫。爲極樂一日一夜。極樂一劫。爲袈裟幢國一日一夜。如
是展轉。乃至佛刹塵數。後世界一劫。爲勝蓮華世界一日夜。壽
量果莊嚴亦然 云云 明知。極樂是下品。解曰。望彼雖爾。非望一
切。故義記云。若望賢首猶是下品但比娑婆故。名極樂。賢首是勝蓮華國佛
問。今佛何故。不勸上品。唯勸極樂。解曰。佛意難思。何敢圖度。試
遮難云。次第可然耳。如攝論頌云。如竹破初節則能破。得初地
眞智。諸地悉當成。此義爾。生極樂難。何況上品。豈越初節。而破
中後。若適生極樂。則十方無礙。東方勝蓮華國。每朝應至。乃至
上方梵音佛刹。隨意應見。如言一心以事百君。百心不可事一

左一作在

有一法。大經云。一切諸法中。悉有安樂性。若存此義。稱念佛者。所有境界。無非佛身。無上菩提。如左右手。

舍利弗。我見是利。故說此言。若有衆生。聞是說者應當發願。生彼國土。

經曰舍利至生彼國土下第二引證勸成。衆雖信前說。心有少猶豫。極樂功德。不可言宣。唯大聖境。恐非我分。且願且恐。故以證勸。此有五文。一以自證知見勸。二引他方佛說勸。三示現當利益勸。四擧我爲佛讚勸。五總結勸進。此是初也。意云。我以佛眼觀明見此勝利。故說彼因果。汝等勿有疑。此中勸前願行相應。兼亦勸彼唯發願也。文略行因。但言生彼。生彼之言。義兼遠近。近顯由行即便往生。遠顯由願遂當往生。問。有人謂云。於諸淨土。極樂爲下。何故專勸彼土因果。答云。公知其一。未知其二。

答。豈不前說。由願信解。觀念見佛。其念雖非如觀己心。亦不如彼徒數他寶。故華嚴云。如人數他寶。自無半錢分。於法不修行。多聞亦如是云云。念佛是行。故亦得見。何況身後。生彼國土。設有優劣。何言無分。然觀心勝。今亦順彼。前因無緣慈。略示本有性。今重依教文。當助念佛行。觀經云。心想佛時。是心即是三十二相八十隨形好。是心作佛。是心是佛。又起信論說。一切衆生。心性眞如中。具過恆河沙數。諸佛功德。取意文 當知。彼佛依正萬德。無始已來。在己心中。妄想遮眼。雖未能見。法性常圓。實無增滅。若未得聞。是理即萬德。聽聞信解。是名字萬德。一心稱念。是觀行萬德。蓮臺託生後。當相似萬德。百法明門後。即分眞萬德。乃至究竟。如理應思。三界唯心。心外無別法。己心既圓。諸法亦爾。故大品云。一色一香。無非中道。大集云。我都不見離菩提外

心下一有力字

非我弟子。我非彼師。云云。今教令念彌陀依正色相。何故不同。答。譬如新醫於一種乳。或時說爲毒。或時說爲藥。聖教亦爾。或爲遣妄執。而作彈呵。或爲應得益。而爲勸進。四悉隨緣止惡生善。但隨意樂。信行者得。然亦於彼莫執是非。所餘相違準此應知。何況觀於無緣慈相。自遮諸法實有妄執。應知今文亦不專色。問。欲界眼無見初禪色。如是展轉。下無有見上。何況佛身。非凡夫境。如彼文殊。尚不能知彌勒如來舉足下足。凡夫行人。何況見佛身。答。由佛悲願。及深信解。能觀念者。得見佛身。故觀經云。無量壽佛。身量無邊。非是凡夫心所及。然彼如來宿願力故。有憶想者。必得成就。又華嚴云。若有信解。離憍慢。發心。即得見如來。若有諂誑不淨心。億劫尋求。莫值遇。問日夜數他寶。自無半錢分。但觀己心之高廣。扣無窮之聖應。專念佛相。何得感應。

綱一作網

形一作戒

等事。皆應隨宜。但行住坐臥。繫念彼國。觀佛以無緣慈威光。照十方。稱名。一心念深信。願生彼。是爲往生極樂綱要。何以知者。義見處々。數論無益。不如務修。言聞說阿彌陀佛執持名號者。觀彼無量光明等義。稱名心念耳。今勸勝因。故如是說。非全遮彼但信稱念。三明感果。即以果不虛。而證因是正。其人臨終下文是也。勸願生雖通諸品。今示因果。唯在上品。其理可然。問。一日乃至七日所修。豈非少耶。答。義記云。不以日數爲多少。但由用心厚薄耳。問。一七日等。爲是尋常。爲臨終耶。答。由尋常所行。得臨終正念也。然義記云。心不顚倒。即得往生。何以故臨終一念。用心懇切。即當得去。此釋臨終正念之用。非言七日必近臨終間。金剛般若經云。若以色見我。以音聲求我。是人行邪道。不能見如來。佛藏經云。有比丘見有佛法僧形可取者。是魔眷屬。

分一無

取諸衆生意云。無者法空。即所緣理。理性即是法身菩提故也。大般若經云。一切法空說爲法界。即此法界說爲菩提云云。緣者能緣即是般若。般若即是報身菩提慈悲利生。即是解脫。解脫即是應身菩提。由此當知。無緣慈悲。是即諸佛三身萬德。故大般若云。諸佛如來所有功德。大悲般若二法爲性。離分別想。無功用心。利樂有情。無時暫捨。已上雖言二法。即具三德。智及智處爲般若故離分別言。兼顯法身。無分別一切法常住。乃至補處所有德。皆是如來功德一分。應知。十方三世佛衆法界。不出無緣慈悲光外。此中法身徧自他身。凝然常住。法界性故。般若解脫。雖無事用。無始時來。理性常然。行人應念願。由無緣慈光明所照。故得顯自佗身。本三身性。猶觸藥王樹。蟲毒爲良藥。其餘行法。或觀相好。或觀利生。或供具方法。或時分多少。如此

彼諸一作諸彼

經曰舍利至極樂國土示修因感果。衆雖發願。而未了知以何等業。爲彼行因。故今顯示彼因果相。文有三。一簡非因。舍利下十七字是也。二顯正因。舍利下至一心不亂是也。意云。若一日二日。乃至若七日。面向西方。觀佛威光。徧照十方。無所障礙。稱名一心。念願生彼國土。淨信無疑。應如是修。十二佛名經偈云。若人能至心。七日誦佛名。得於淸淨眼。能見無量佛。觀經亦以七日爲期。當知多是成就期耳。若欲修深觀者。見止觀常行三昧文。或觀無緣慈。是即深觀惠。如觀經云。觀佛身故即見佛心。佛心者大慈悲是。以無緣慈攝諸衆生。淨名偈云。雖知諸佛國。及與衆生空。而常修淨土。敎化諸群生云云。二經意同。彼諸如來。雖知衆生本來空寂。常放如空無數光明。徧照如空十方衆生。苦集雖空拔如空苦。滅道雖空。與如空樂。是爲無緣慈攝

輔一作補

近高低。味應無雙。忉利天宮。不死之藥。服亦不奈波羅泥斯。染盛之衣。觀音。勢至。普賢。文殊。彌勒。地藏。虛空藏等。等覺無垢。無量菩薩。常在極樂。輔彌陀化。況復十方佛土無數聖衆。晝夜往來。猶如盛市。然則彼一生補處之大士。入重玄門之大聖。任運得親近。自然爲知識。乃至雖下品。皆不退位。朝々常供養諸佛。念念共聽聞正法。同經行金銀瑠璃嚴淨之地。同遊戲寂靜安樂無漏之境。誠哉極樂。誰不欣求乎。

舍利弗。不可以少善根福德因緣。得生彼國。舍利弗。若有善男子。善女人。聞說阿彌陀佛。執持名號。若一日。若二日。若三日。若四日。若五日。若六日。若七日。一心不亂。其人臨命終時。阿彌陀佛。與諸聖衆。現在其前。是人終時。心不顚倒。即得往生阿彌陀佛極樂國土。

人消息。今復分別衆生苦樂。助成往生極樂之願。或有境界妙。衆生受苦。如金翅鳥宮。雖如極樂。不能受用。更食毒龍。及有黑蚖。懷摩尼臥。人間苦時妙境亦然。或有境麤受樂。如彼調達。雖在無間。所受快樂如第三禪。或有境麤受苦。如餘凡夫墮在苦處。或有境妙受樂。如極樂國。及欲色天。然諸天樂遂有退墮。如正法念經云。天上欲退時。心生大憂惱。地獄衆苦毒十六不及一。何況彼終不免那落。極樂不爾。永無退理。功德所感之報。論其差別。如天與地。如雙卷經云。以第六天主。比極樂衆生。猶如乞丐在帝王邊。依樂名同。且爲一句也。當知。彼土衆生。長受相好莊嚴之身。恆居大乘善根之界。階道林池。去々猶遠。樓殿宮室。行々不窮。一一境界。無量莊嚴具足。一一莊嚴。無數光明赫奕。妓樂歌詠之曲。恆調於東西南北。栴檀沈水之香。普薰於遠

何下疑脫者字
所以劫何一作
所者何

經曰舍利至願生彼國下。大文第二顯說教本懷。文有二。一正明本懷。二引證助成勸進。初亦有二。初勸發願往生。二明修因感果。此即初也。諸佛說法。專爲利生。今說極樂依正功德。令諸衆生。往生彼國。乃至速證無上菩提。故名本懷。時衆於極樂。心雖欣樂。佛未聽許。故不發願。心在岐道。專待佛勅。感應道交。故勸願生。言衆生聞者等者。正勸願生也。所以者何徵也。得與如是等者答也。此中隨衆生愛樂故。勸與菩薩倶會。如寶積經。普明菩薩會云。如月初出時。衆人愛敬。踰於滿月。如是迦葉信我語者。愛敬菩薩。生如來故云云。其中若有樂見佛者。亦應隨喜。故大般若經說菩薩行相云。常不遠離見佛作意。常不遠聞法作意。何況今經亦勸念佛。又彌勒下生經云。欲食自然粳米并著自然衣裳。應勤精進云云。準知極樂應有此類。異說如是。行

彼更無二乘執心。爲此故。云女人。及根缺。二乘種不生云云。則知。大師縱容作釋。不執一邊。何況稱讚。云決定當證阿耨菩提耶。言一生補處者。或有補處。過刹塵劫。成佛無期。如文殊等。或有不久成佛。如賢劫諸佛。故知。但約斷惑證理。隣近妙覺。名爲一生。不約時分遠近差別。彼土菩薩。速成佛者。理應往地方隨緣國土耳。問。恆沙塵數。一言中說。何經多劫。說補處數。解云。稱讚經補處數云。無數量劫。讚其功德。終不能盡。不言人數。然今經意云。若依總數。一言應辯。今依算法。故經劫數。或呼名數之應經劫數。非是直說若干數也。如雙卷經云十方佛土衆生。當生極樂國者。若說其佛土名。經劫不竟。今亦爾也。

舍利弗。衆生聞者。應當發願。願生彼國。所以者何。得與如是諸上善人。俱會一處。

轉。一者彼佛大悲願。恆常攝持故。二者佛光常照明。道增進故。三者聞水鳥樹聲。念佛法僧故。四者菩薩爲良友。無諸惡緣故。五者壽命無量劫。共佛齊等故。由此等因緣。不退大菩提云云後漸增進。得餘不退。經文約此說七日等。基法師要決。三不退外。極樂淨土名處不退。例此世界人中聖者。若遇五緣退所得果。謂遠行。多病。樂誦經典。樂和諍訟。樂營僧事。天上無此五種退緣。故彼聖者所證無退。緣此極樂爲處不退云云。此處不退義。同十疑意耳。問。彼國既有聲聞極果。何言皆是阿鞞跋致。答。義記云。二乘不退爲凡夫。菩薩不退爲二乘。故云皆不退云云今謂大師依教時次第。且作此釋。非謂埋盡。何者。前聞佛名。及發願時。皆於大乘得不退轉。後生彼土。何永住小。若不聞不願。不可得生。但暫住小。究竟歸大。故十疑云。但回心願生淨土。至

勒等云。皆於阿耨菩提不退轉也。今文意亦如是。稱讚經云。若諸有情。生彼土者。皆不退轉。必不復墮諸險惡趣邊地。下賤。蔑戾車中。常遊諸佛淸淨國土。殊勝行願。念々增進。決定當證阿耨菩提云云。乃至結爲國土莊嚴。彼經不別說補處人。但前菩薩文。云皆是補處。今經別說之。然此文所屬未了。解云。補處之名。雖此中說。其人旣在前菩薩中。故不重結不退之名。亦通凡夫。其位非高不足別結。如前三果不別說也。由此竝說補處不退。逗衆意樂。以勸俱會。然則此文準前。傍顯國土莊嚴。望後正爲發起本懷。故下文云與如是等俱會一處者。正取補處。傍取不退。問。瓔珞經等。至第七住始立不退云云。彼國衆生何皆不退。況復上品中生人。經七日後。於阿耨菩提得不退轉。何況餘品不可速疾。答。案十疑云。極樂衆生雖未久修。有別因緣。不退

莊嚴其國。故此結文。但屬衆聖不屬於佛。問。若不屬佛何故。稱讚經說佛號已。結云彼佛淨土成就如是功德莊嚴。解曰。二經意別。何必一例。且試會云。依正功德相應互顯。是故彼經爲國莊嚴。然文上下問答片異。是故今經互不相屬。或今文不明。亦可同彼。問。前標云說法。今說二聖衆。自是別事。何言廣略。解云。說不孤起。必逗機緣。機不自發。必藉教法。人法雖異。互得相彰。前但言說法。故名爲略。今廣出所化無量聖衆。便顯佛說種々道品。六度。無量法門。故名爲廣。智者當悉。

又舍利弗。極樂國土衆生。生者皆是阿鞞跋致。其中多有一生補處。其數甚多。非是算數。所能知之。但可以無量無邊阿僧祇劫說。

經曰。又舍利弗至阿僧祇劫說者。明國土衆生品類差別。阿鞞跋致。此云不退。其名長至一生補處。如法華中。列文殊觀音彌

如非算數。故非重言。如雙卷經曰。如目連等。於百千萬億那由多劫。計彼初會聲聞菩薩。所知數者。猶如一渧。其所不知。如大海水云云。此中聖衆。擧勝略劣。故說應果。不說前三。極果難證。此尙無量。劣位易入。彌多應知。次明菩薩云亦復如是者。階位數量同聲聞衆。故言如是。言位同者。仁王經。第七地菩薩名阿羅漢。唯識論八地以上。或初地以上。名阿羅漢。稱讚云一切皆是。一生所繫。言數同者。如文。然大論云極樂世界。菩薩僧多。聞聲僧少。二文似別。理不相違。聲聞雖少亦非算分。大途是同故。言如是。後結如文。問。上來但說佛及聖衆。非是顯示極樂名義。何故結爲國土莊嚴。解曰。聲聞菩薩義通二門。一爲佛所化故說之。二爲土莊嚴。故結成國土。如法華經。名相佛土。常以菩薩莊嚴其國。閻浮那提金光佛土。菩薩聲聞。斷一切有。無量無數。

三世益物。及利此土今日後時衆生故也。謂或當會衆。欲知彼佛成佛道久近。故隨樂說。或望次文。顯利益多。十劫所化尚非算數。何況將來恒沙劫化。聞者隨宜生欣樂心。或爲對治末世疑網。給孤園後。時代多變。西方一化。爲存爲亡。願往生者。心不純一故。說前近以顯後遠。如此三義。自當四悉。進念十劫。即世界也。聞益欣樂。即爲人也。存不決疑。是對治也。淨信往生。當第一義。餘文準之。應作四釋。

又舍利弗。彼佛有無量無邊聲聞弟子。皆阿羅漢。非是算數之所能知。諸菩薩衆。亦復如是。舍利弗。彼佛國土。成就如是功德莊嚴。

經曰又舍利弗至莊嚴者。三廣明說法用。文有三。初明聲聞衆。次明菩薩衆。後結。初聲聞爲三。初無量等者。略標數擧人。次皆阿羅漢者。明位。後云非是算數等者正明數多。前無量無邊。不

明下一有即不
如經無量劫遍
八字
答無

偏•別緣偏照。雖偏非常。此佛光明。即不如是。經無量劫。偏照十方。問。佛與衆生壽同。光明何故不爾。答。若威光劣。尊重不深。壽命設短。還生戀慕。故凡諸佛壽。隨宜不同。或有佛長衆生短。如未來花光佛世。或有佛短衆生長。如東方月面如來。彼佛壽命一日一夜。或有俱長。如極樂國。或有俱短。如今佛世。若作觀解。無者即空。量者即假。壽者即中。佛者三智即一心具。應知。圓融三觀之智。冥於圓融三諦之境。萬德自然圓。名阿彌陀佛。衆生無始。從因生果。具有六即。阿彌陀佛。至下當知。問。何故不說佛餘功德。解曰。諸正教中。明三世佛。但說化用差別。不說內證功德。即由內德諸佛無異。利生方便諸佛不同。菩薩不爾。隨位德別。故隨其人。說內外德。言阿彌陀佛成佛已來於今十劫者。稱讚經云。十大劫。或復有異說云云。然所以此文來者。爲顯彼佛

是一應化。故彼名號亦隨應立。於阿彌陀一梵語中。含無量光。無量壽義。無量光者如文。稱讚經云。彼如來。恆放無量無邊妙光。徧照一切十方佛土。施作佛事。無有障礙。觀經云。彼佛有八萬四千相。一一相有八萬四千隨形好。一一好有八萬四千光明。一一光明。徧照十方世界。念佛衆生。攝取不捨。光明相好。及與化佛不可具說云云總計之。一相中具七百五倶胝六百萬光明。正使和和億千日月。其光熾燃。不可得比。八萬四千相。一一亦如是。無量壽者。亦如文。稱讚云。彼如來及諸有情。壽命無量無數大劫。大論曰。無量億阿僧祇與恆河者。多數理同云云諸文雖異。彼土壽量。大都一恆河沙數劫耳。此之二義。顯橫竪益。無量光者。顯橫利物。徧照十方。攝衆生故。無量壽者。顯竪利物。經無數劫。利衆生故。二利常圓。故得此名。常光一尋。雖常非

莊一作壯

三寶。爲勝善根。故應思念。衆鳥是佛化。音韻是正法。聞者是僧。餘文準知。稱讚經。總說彼等功德莊嚴云。假使經於百千俱胝那庾多劫。以其無量百千俱胝那庾多舌。一々舌上出無量聲。讚其功德。亦不能盡。是故名爲極樂世界。

舍利弗。於汝意云何。彼佛何故號阿彌陀。舍利弗。彼佛光明無量。照十方國無所障礙。是故號爲阿彌陀。又舍利弗。彼佛壽命及其人民。無量無邊阿僧祇劫。故名阿彌陀。舍利弗。阿彌陀佛成佛已來。於今十劫。

經曰舍利至十劫者。第二明彌陀名義。過於無量天人聖衆所居。宮殿林池樓閣莊嚴境界。而入內宮得見如來。國非莊麗。無以重威。故明寶土。後說佛德。有自問自答。如文可知。一切諸佛總有二身。一者眞身。住報佛土。二者應身。住同居土。西方化主。

國土。微風吹動諸寶行樹。及寶羅網。出微妙音。譬如百千種樂。同時俱作。聞是音者。皆自然生念佛念法念僧之心。舍利弗。其佛國土。成就如是功德莊嚴。

經曰復次至莊嚴者。次約每日多時事。合明極樂相。文有三。初衆鳥。次風樹。後結。初又有四。一衆鳥。二音聲作用。三聞者心想。四無三惡趣。俱如文。觀經云。如意珠王。涌出金色微妙光明。其光化爲百寶色鳥。和鳴哀雅。常讃念佛念法念僧。次風樹。文有二。初風樹等聲用。二聞者心想。雙卷經云。世間帝王有百千音樂。自轉輪聖王。乃至第六天上。伎樂音聲。展轉相勝。千億萬倍。第六天上萬種樂音。不如無量壽國。諸七寶樹一種音聲。千億倍也。稱讃經說。衆鳥晝夜六時。恆共集會。出和雅音。常有妙風吹諸寶樹等。云云知鳥限六時。風常相續。總結如文。此經以念

妙花。若唯一種。何言衆耶。彼經云供養他方百千倶胝佛。今經云十萬億佛。十萬百千也。億即倶胝也。謂第三億名爲倶胝。彼經云還來本處遊天住等。今經云飯食經行。彼經等字即兼餘事耳。雙卷經說有飯食。密嚴經云極樂中之人。自然隨食。云云故知。彼土定有食事。彼經云六時供養無量壽佛。今經不說。但文略耳。

復次舍利弗。彼國常有種々奇妙雜色之鳥。白鵠。孔雀。鸚鵡。舍利。迦陵頻伽。共命之鳥。是諸衆鳥。晝夜六時。出和雅音。其音演暢五根。五力。七菩提分。八聖道分。如是等法。其土衆生。聞是音已。皆悉念佛念法念僧。舍利弗。汝勿謂此鳥實是罪報所生。所以者何。彼佛國土。無三惡趣。舍利弗。其佛國土。尚無三惡道之名。何況有實。是諸衆鳥。皆是阿彌陀佛。欲令法音宣流。變化所作。舍利弗。彼佛

無所依。然而高飛菩薩亦如是。於諸法中不住而能行菩薩道。
中論偈云。因緣所生法。我說即是空。亦名爲假名。亦是中道義。
問。旣六時雨花。何言每日一度事耶。解曰。時分次第。大都論之。
不遮少分更互相雜。況復以諸天花供養十方。爲此中要。其雨
花等。相從來也。今者取要言一度也。問。若爾何十住偈。云彼諸
大菩薩。日々於三時。供養十方佛。是故稽首禮。答。今經云衆生。
彼論云大菩薩。故不相違。或復。云云　問。觀經云瑠璃地。何故今
言黃金。解曰。思益經說未來須彌燈王佛國。以閻浮金瑠璃爲
地。準彼思之。黃金不映徹。瑠璃非金色。彼土金色亦應映徹。故
俱得名。又觀經云。瑠璃地上。以黃金繩雜厠間錯。云云　二寶成。
故亦俱名。問。今經稱讚經。何故多相違。解曰。不須和會。文雖少
異。理應無別。試曰。彼經曰。雨種々花。今經不云種々。然言盛衆

坦一作恒

一天樂二金地。三雨花。四供佛。五飯食經行。六結。一々如文。彼國天人。常作妓樂。或諸樂器。懸處虛空。其聲和雅。甚可愛樂。黃金爲地。坦然平等。妙寶間飾。奇麗淸淨。寶衣徧布。柔輭光耀。晝夜六時。雨天妙華。舊花沒地。更雨新者。光澤香潔。周徧淸淨。見者歡喜而不貪著。彼土衆生。各持此花。晝夜六時供養無量壽佛。每日晨朝。供養他方諸佛。謂彼衆生。俱至十方。供養恭敬十萬億佛。從他方還來。若欲飲食時。七寶鉢器自然在前。百味飲食盈滿其中。天上人中。所未曾有。雖有此食。實無食者。見色聞香。自然飽足。事已化去。時至復現。飲食已訖。隨意經行。觸見聞覺知。增無量善根。云云此中應作三諦觀解。雲路無礙即空。持花飛行即假。供養諸佛即中。非空何往。非假何供。空有相資。歸中道佛。餘文準之應作此解。如大論四十二云。如鳥於虛空中

諸化佛。普爲十方。說微妙法。一々華上。有一菩薩。夜宿蓮華。晝還宮殿。[準悲華經蓮華尊佛國菩薩解] 其華既爲菩薩住處。大如車輪。理可然耳。世親論云。寶華千萬種。彌覆池流泉。微風動花葉。交錯光亂轉。云云總結如文。池與蓮華。處一文別。樓與池華。處別文雜。故不別結。三合一結。[樹池樓華中今經不說有衆生觀經等相雙說取彼意釋今文]

又舍利弗。彼佛國土。常作天樂。黃金爲地。晝夜六時而雨曼陀羅華。其土衆生。常以淸旦各以衣裓。盛衆妙華。供養他方十萬億佛。即以食時。還到本國。飯食經行。舍利弗極樂國土。成就如是功德莊嚴。

經曰。又舍利弗。至莊嚴下。三約內外作業。合明極樂相。寶地花飯化鳥樹聲。即是外器。受用經行聞聲念者。即是衆生。故言合明。此亦有二。一每日一度事。二每日多時事。此即初也。文有六。

今一作合

天人。在樓閣中。十方流眄而作妓樂。聞者自然塵勞消滅。無量功德。念々增進。言上有等者。池下地高。地有樓閣。故云上也。或處虛空中。有諸宮殿。天人止住。前解爲善。

池中蓮華。大如車輪。青色青光。黃色黃光。赤色赤光。白色白光。微妙香潔。舍利弗。極樂國土。成就如是功德莊嚴。

經曰池中至功德莊嚴者。樓閣次。別說蓮華。幷結莊嚴。此文應屬前寶池段。故觀經稱讚與池合爲一段。今在樓後。其意難測。且解云。此經所說。有其次第。林池樓閣一期長時。池中蓮華待節開敷。供佛飯食每日一度。衆鳥和鳴晝夜六時。微風吹動時々相續。是故今經。依地形內外時分次第。所說有前後。種々蓮華。如經可知。青黃赤白四種色光各別華。或一華具一々寶池無數蓮華。一々蓮華無量光明。微妙香潔周遍馥。一々光中。有

其水。清涼香潔。味如甘露。微瀾回流。不遲不速。其聲微妙。無不法音。或出苦。空。無我。諸波羅蜜聲。或出十力。無畏。不共法音。或大慈大悲聲。或無生法忍聲。無有三塗苦難之名。但有自然快樂之音。衆生聞者。念佛法僧。有洗浴者。淺深隨念。蕩除心垢。隨應悟道。八功德者。稱讃經云。一者澄淨。二者清冷。三者甘美。四者輕輭。五者潤澤。六者安和。七者飲時除飢渴等無量過患。八者飲已定能長養諸根四根四大。増益種々殊勝善根。多福衆生樂受用。已上池上有階。四寶合成。各々相去。不近不遠。遠近互照。講堂精舍。內外左右。所有寶池。準此應知。

上有樓閣。亦以金銀瑠璃玻瓈硨磲赤珠碼碯。而嚴飾之。

經曰。上有樓閣至而嚴飾之者。渡階至宮殿。故池次說之。謂彼寶土。一々界上。有五百億宮殿樓閣。衆床座妙衣敷上也。無數

千一無

網一無而有欄楯二字

欄楯一無

衆寶色。更互映飾。一々樹上。有七重羅網。一々網間。有五百億
宮殿。殊特嚴麗。如梵王宮。諸天童子。在中娛樂。毘梵王宮諸天
童子。在中娛樂。毘楞伽寶以爲瓔珞。瓔珞光明。照百由旬。妙華
寶蓋。莊嚴於樹。微妙光明照曜婉轉。晝夜常奏百千妓樂。十方
諸佛。隨時影響。當知。一網間即是一淨土也。如是寶樹充滿國
界。所言七重羅網。準觀經。只是樹之莊嚴。一々樹之莊嚴。一々
樹各有七重耳。諸經不同。且依一經。

又舍利弗極樂國土有七寶池。八功德水充滿其中。池底純以金
沙布地。四邊階道。金銀瑠璃頗梨合成。

經曰。又舍利弗至合成者。樹次說池。內外左右皆有寶池。今依
次第先說道邊。謂道邊樹外。有寶欄楯。欄楯外有七寶池。金沙
布底。八功德水充滿其中。表裏映徹傍道而流。柔輭七寶。以成

下曰一作爲

身樂。觸諸境界。念佛法僧。無量功德。能生意樂。如是樂相。說不能盡。

又舍利弗。極樂國土．七重欄楯。七重羅網。七重行樹。皆是四寶。周匝圍遶。是故彼國。名曰極樂。

經曰。又舍利弗至名曰極樂下。二約外器明極樂相。猶如世間王。宮外郭衢。通達閭閻且千。極樂地形亦應如是。四方縱橫。界道通達。道之兩邊。寶樹行列。樹之外邊。寶池雙流。上有寶階。渡階至宮殿。今文隨此次第。說寶樹寶池寶樓閣等。今明寶樹言四寶者。如次下文。金銀瑠璃頗梨也。處々有行樹。今先說道側。法華經曰。多諸寶樹。行列道側。極樂亦爾。按觀經云。七寶行樹。高八千由旬。金樹銀樹瑠璃等樹。或二寶三寶。衆寶合成。行々相當。葉々相次。瑠璃色中。出黃金光。頗梨色中。出紅色光。如是

病苦。壽命無量現窮聖德故無死苦。由別意樂故。設有死生。隨心自在故。不爲死苦。內無愛著。外無離別故。無愛別離苦。內無怨念。外無違害故。無怨憎會苦。微妙境界。隨心自在故。無求不得苦。無地獄。鬼畜。刀杖。殺縛等故。無五陰盛苦。又有二種。一苦。二憂。身受名苦。心受名憂。樂亦有二。一身受名爲樂。二心受名爲喜。爲三受時。身心合說。爲苦爲樂。今經約此也。爲五受時。身名苦樂。心名憂喜。稱讚約此也。如倶舍等。學者當知。既於身心。常有喜樂。應知身心有何憂苦。故稱讚云。無有一切身心憂苦。唯有無量清淨喜樂。云云彼土。一切內外境界。悉生六識深妙喜樂。且約經文。出其一二。林池宮殿。衆寶嚴淨。微妙色光。能生眼樂。諸天妓樂。鳥樹羅網。種々音聲。能生耳樂。妙香。飯食。寶衣經行。如次。能生鼻舌身樂。寶地柔輭。微風適悅。飛行遊戲。亦生

問一作聞
其國衆生一作金舍利
辨一作辯

文有多聖衆。前後互顯。文略意周矣。義記。總曰化主。今爲顯義類。更分說法。

舍利弗。彼土何故。名爲極樂。

經曰舍利弗至名爲極樂下。第二隨標廣說。亦爲三。一說極樂名義。二明阿彌陀名義。三顯說法力用。初說極樂名。有佛自問自答。是即問也。

其國衆生。無有衆苦。但受諸樂。故名極樂。

經曰其國衆生至極樂下。答亦爲三。初約衆生。二約外器。三約內外。如次正報。依報。作業也。心境相對而作事業。故云內外。此是初也。義記。以衆生爲總。七重樹以下爲別釋。總別二門其理雖盡。爲辨文相。更分爲三。言衆苦者。總有八苦。彼土衆生由大善根。蓮華化生。故無生苦。常少不老故無老苦。四大調和故。無

行。云云

爾時。佛告長老舍利弗。從是西方過十萬億佛土。有世界。名曰極樂。其土有佛。號阿彌陀。今現在說法。

經曰爾時佛告至現在說法者。下正宗。大分爲二。一說極樂依正。二顯說教本懷。（或分爲三至下當知）初爲二。一略標。二隨標廣說。是即初標也。此亦有六。初明對身子。此上及末二行。是經家文也。中間唯佛語也。二指方處遠近。雙卷經同此經。稱讚經曰過百千俱胝那由他佛土。三標極樂世界。亦名安樂國。亦名安養國。四標化主彌陀佛。五示說法時分。六標說法。雖有六文。以極樂彌陀說法三事爲要。西方現在。應通始終。然極樂有界。須簡十方說法待時。宜辨三世。故二處示耳。稱讚經曰。爲諸有情說微妙法。今經意曰。說必對衆。衆非必說。既曰說法。即顯有衆。何況下

薩下一有衆字

常精進菩薩。與如是等諸大菩薩。

經曰。幷諸菩薩至大菩薩爲三。一總稱。二別號。三結。如文。稱讚經。總云無量菩薩。別亦但出四菩薩。無乾陀訶提。有不休息也。皆是一生補處大士也。了達諸佛祕密境界。名稱普聞無量世界。盡未來際。利益群生。常爲衆生不請之友。乃至聞名無空過者。義記云。乾陀訶提。此翻香意。有云。赤色也。未撿德行。理必同餘。

及釋提桓因等。無量諸天大衆俱。

經曰。及釋提至大衆俱者。第三擧雜衆爲三。初天衆。次餘衆。大衆中攝人修羅等。經末別列。以後顯初。稱讚經。具擧釋梵四王。無數天人。阿素羅等。三總結。俱字也。非結雜衆。通結菩薩。準之應知。前之與字。非唯菩薩。通與雜衆也。釋提桓因者。忉利天主。帝釋天子也。願常奉仕三世諸佛。入不思議祕密境界。其餘德

云云一作云

二百五十。又云。耶舍門徒五十。云云是常隨聖尊。爲證信衆者也。三階位。行相。即羅漢知識也。四別號。即舍利弗等十六尊者也。五結。即如是等諸大弟子也。義記云。周利槃陀伽。翻小路邊生。有云。此人前生。作大德法師。多解義理。然於一時。隱一妙義。不爲他說。由此鈍根。前大法師。故證漏盡。義記云。賓頭盧頗羅墮。翻走閉門。迦留陀夷。翻大麤黑。有云。此人。悉達在宮爲師也。云云餘如法華疏。稱讚淨土經與今經。同本異譯。彼經唯有四人。即今初三後一也。入大乘論曰。舍利弗等五百弟子。悉是菩薩。皆當作佛。一切聲聞。皆阿毘跋致菩薩。云云則知。內祕菩薩行。外現是聲聞。如衆星遶月。而匡輔法王。既能輔於釋迦悲願。豈不輔極樂化。

并諸菩薩摩訶薩。文殊師利法王子。阿逸多菩薩。乾陀訶提菩薩。

經曰如是我聞至給孤獨園者。此下序分。分文爲六。一所聞法。即如是也。二能持之人。即我聞也。三聞持和會時。即一時也。四能化主。即佛也。五聞持所。即舍衛國等也。六同聞衆。即比丘等也。

與大比丘衆千二百五十人俱。皆是大阿羅漢。衆所知識。長老舍利弗。摩訶目犍連。摩訶迦葉。摩訶迦旃延。摩訶俱絺羅。離婆多。周利槃陀伽。難陀。阿難陀。羅睺羅。憍梵波提。賓頭盧頗羅墮。迦留陀夷。摩訶劫賓那。薄拘羅。阿㝹樓馱。如是等諸大弟子。

經曰與大比丘至大弟子者下。大文第六明同聞衆有三。一聲聞衆。二菩薩衆。三雜衆。此初明聲聞衆。文有五。一總稱。即大比丘也。二數。即千二百五十人也。謂優樓頻羅弟子五百。伽耶那提各二百五十。或云。伽耶三百。那提二百。舍利弗目連弟子合

之名。寶所無疑。猶亦備阿鞞跋致之德而已。寄兩端義叙一經意。綱目非一豈不得乎。

○次明題目者。佛者娑婆化主。三身萬德之釋尊。說者娑婆化儀。四辯八音之聲教。阿彌陀者極樂化主。十方諸佛之所讚也。今者世尊。讚彌陀引攝之大。說極樂境界之妙。教苦界衆生。令感安樂勝果。故此爲經別號。攝所有之衆德。歸能化之一身。但云阿彌陀也。經者聖教都名。即常義也。三世諸佛・興出雖緣殊。十二分教。義理是一。衆車同轍。萬流會海。故名爲經。今能所相竝。通別兼擧。故云佛說阿彌陀經也。

○三分文解釋者。依大師義記。大分爲三。從如是我聞至大衆俱是序分。爾時佛告至此爲甚難爲正宗。佛說此經已下名流通。

如是我聞。一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園。

外題一作阿彌陀經略記會本
觀一作覩
探一作深
三一作二

阿彌陀經略記

天台首楞嚴院沙門源信撰

佛說阿彌陀經　姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

△將釋此經。略用三門。一述大意。二明題目。三分文解釋。

○初大意者。彌陀本地應迹難量。普偏十方。廣利六道。極樂是其一區。彌陀是其一化。機感有時。今偏讚說。是以至心七日。觀紫摩金之尊容。稱名十念。脫火血刀之苦果。無緣慈悲功莫大哉。然此經者。其取顯也則息三有之輪廻。而達七寶之臺。其探密也。則廢三乘之保證。以歸一實之果。何者若得開三顯一出世本懷。焉執五時八敎入理之權說。況復初心昔時尚不退大覺之道。極樂後日那可作永滅之人。說時未至。雖不獲開示悟入

於一無

阿彌陀經略記序

夫阿彌陀經者。度生死海之舟楫。至清涼池之輪轂也。其文約略。其義含弘。籠五岳於一簣之山。宗四海於寸波之上。是以發心者。先持此經。興法者必弘此經。則知。我土在因緣於此經。此經在感應於我土明矣。爰在親衛藤將軍。辭朝以閣劍於箱仗。遁俗以栖蹤於雲巖。以來口稱阿彌陀佛。而無二心。眼望極樂世界。而不横視。今命予曰。天台義記文略難了。願詳其義。博以我意矣。予尋旨歸粗辨文相。備之要聞。名曰略記。唯慙以淺智。不究奥區。

于時長和三年甲寅暮九日。睿山沙門源信敍。

○彌陀寶號次或本有天上果報盡五衰相現時若見禪定光即除諸苦惱四句偈

○十六頁九行[九條錫杖]下或本有次五大願次光明眞言二十一返等字

右二十五三昧式以數本校合

往生要集記六（三十一丁）云二十五三昧起請（惠心作保胤筆）云寫祇薗寺之風近構別々院立彌陀像云云右起請文搜索之多年而未得其書。

右二十五三昧式及其考異者。先德法語集所錄也。

二十五三昧式終

厭之末法濁亂之今依何堅執之二十三字人身難受一作難受人身

〇十三頁一行今時一作此時〇五行自一無仍發猛利之心一作諸衆發猛利之心〇六行彌陀寶號下或本有人間界衆生々老病死苦若見精進光離苦得安樂四句偈

〇十四頁七行次天道者一作次言天道者或本作復次廻向天道者〇八行也一無〇九行廻庭一作庭廻〇十行似遊鳥林矣一作似鳥遊林輪轉一作轉輪〇十一行云云一無影向一作影響天衆下一有者字〇十二行虛空一無虛字

〇十五頁一行仍下一有大衆同心四字〇三行願以此功德文一無天道章後或本有抑此一結衆中若早世之輩被催一念妄心未出三途之故鄉依每月祈誓之功可進淨土菩提夫於身作三罪殺生偸盜邪婬也於口作四罪妄語綺語惡口兩舌也於意造三罪貪欲瞋恚愚癡也於此十惡上品犯者墮地獄道中品犯者入餓鬼道下品犯者趣畜生道不止三品之罪誰免三途報哉而我等十惡盛行三途無疑業障尤重往生何易文云極重惡人無他方便唯稱彌陀得生極樂云云幸遇彌陀之善巧誰不拂頭燃化功歸已故自他共得益彼此同生淨土仍大衆住無遮平等之心可唱彌陀寶號二百字

一作踠一作駭一作駭
○九頁二行平一無○三行無上一有雖字○五行仍以今日善根拔濟彼群類夫
於身造三罪殺生偸盜邪婬也乃至仍住無遮平等心可唱彌陀寶號或本作仍以今
日善根拔濟彼群類諸衆同心可唱彌陀寶號○六行也一無也一無○七行也一
無上品犯者一作犯上品者中品犯者一作犯中品者○八行下品犯者一作犯下
品者三品上一有此字者一無○十行云云一無誰不拂頭燃一作不拂誰頭燃
○十一行仍下一有大衆二字彌陀寶號下或本有畜生道衆生強弱殘害苦若見
智惠光皆令得安穩四句偈
○十一頁一行次修羅道者一作次廻向修羅道者或作次言修羅道者○二行而一
二八
作然一作然而端下一有也字。○六行無勝瞋恚無越嫉妬一作只是瞋恚之所感
也○七行一切靈等十三字一無彌陀寶號下或本有阿修羅衆類鬪諍嫉妬心若見
忍辱光身心得安樂四句偈
○十二頁八行次人道者一作復次廻向人道者或本作次言人道者○九行猶一
無○十行無暫一作暫無○十一行必有一作有必無有法常者一作法無有常者或
本作法無常者云云一無○十二行也一無何況上或本有埋世安樂之時有心者尙

一有而字。樂上一有雖字。○三行而一無。求上一有雖字。鑊湯沸而自壞肝一本作鑊湯自沸破肝或本作鑊湯沸而溺身。○四行燒眼故一作滿眼之故叫而聲不出一作叫無出聲滿喉故一作入喉之故愁一作悲○五行苦一作患○同行悲一作苦歎一作恐是下一有則字殺生由來一作殺生之由來也今生等十四字一無○六行雖不自作一作雖不作自誰有情輩一作有誰情輩或本作誰有智之輩○七行受苦下一有諸字○八行法師下一有者字○九行祈請一作祈精或本作祈誓

○十行設三年千日之祈請一作企千日之誓拔濟上一有早字○十一行毎月一無救下一有療字○十二行引導一作拯仍不擇等廿字一無

○六頁一行可唱上一有大衆同心四字彌陀寶號下或本有地獄衆苦痛種々楚毒聲若見尸羅光悉皆得解脫四句偈

○七頁三行次餓鬼道者一作次廻向餓鬼道者○四行也一無○同行也一無○五行是下一有則字也一無○七行今日今時一作毎月今夜○八行樂一作脫仍下一有大衆同心四字○九行直因下或本有餓鬼飢渴逼求索飲食苦若見檀度光甘露悉飽滿四句偈

○八頁十行次畜生道者一作次廻向畜生道者或本作次言畜生道者○十一行駿

不求少時之榮利只爲蓄永劫之資糧揄厭穢欣淨之好伴修每月一夜之念佛共凝能禮所禮性空之觀同入自身他身不二之門誠是法界融通之勝業僧衆和合之精勤者歟然則共業若成必爲階道林池之善友結緣無朽定作住行向地之知識凡隨喜聽聞之人誹謗輕毀之類各結一佛土之芳緣遂證三菩提之妙果乃至法界平等利益云云

○二頁（發願文）諸本無

○四頁四行敬禮十方三世佛等文或本作敬禮十方三世佛。大恩敎主釋迦尊。四十八願彌陀尊。六方恆沙諸善逝。念佛三昧深妙典。隨機差別諸聖敎。觀音勢至諸薩埵安養淨土諸聖衆。還念本誓來影向證知證明念佛善。○十一行以轉經等十五字一本無○十二行夫五更乃至六道之間一本作今此共業之結衆各制心於一處深應觀察六道苦相彼流來生死以降輪轉無際之間。眠寤一作寤眠。老體不安四字一無。凡一無流浪生死以來一作五內誠無聊彼流來生死以降。

○五頁一行難堪一作最難忍者。苦下一有也字。難忍一本作難堪者。或本作難改者。鬼畜報一作畜生等報也。○二行先言地獄者上或本有凡三界獄縛無一可樂矣十字。或本有天上人中果報又復不可有不厭凡三界獄縛無一可樂二十二字。洞燃下

二十五三昧考異

○一頁[恭敬白一代敎主釋迦善逝等白文]或本云敬白三身即一釋迦牟尼如來極樂化主無量壽佛十方三世諸佛善逝彌陀觀無量壽等諸大乘經八萬十二權實聖教普賢文殊觀音勢至等諸大菩薩身子目連迦葉阿難等諸賢聖衆都佛眼所到微塵刹土現不現前一切三寶殊極樂淨土一切賢聖而言夫往生極樂敎門濟度苦海舟楫念佛三昧行業濁世到岸津梁也但念佛三昧其有二途一者身常行爲儀口誦小阿彌陀經有引聲有短聲或七日或一日是則法道和尚模極樂世界法音和漢土誦經曲調慈覺大師傳清涼山之引聲殘音韻叡岳行法始起四明流盛一天二者心想彌陀色相口唱彼佛名號定散同萠淨業唱念共名念佛方今尋楞嚴法式修一夜三昧六時誦六卷經王一夜唱數遍之念佛行業兼兩門善根通二種先賢所企實可有深心願因此一夜之薫修必得彼九品之妙果引導世々恩所拔濟生々師友同生一佛之淨刹共證萬德之妙果以之爲此行旨趣委旨可在起請文云云

○又或本表白云方今一結諸德迎每月三五之佳期修一夜清淨之慧業其旨趣何者夫濁世末代之依憑唯留彌陀一致往生淨刹之勝因專在念佛三昧因茲諸衆更

南無恩德廣大釋迦大師

南無極樂化主彌陀如來

南無大慈大悲觀世音菩薩

南無大慈大悲大勢至菩薩

南無命終決定往生極樂

次三禮

次七佛通戒偈　次後夜偈

次神分　次靈分

次祈願　次九條錫杖（或本作三條錫杖）

右二十五三昧式惠心僧都撰

併寤妄想夢。仍唱彌陀寶號。廻向彼天衆。念佛百八返、或本作念佛三百反又或本作直聲念佛多少隨意

願以此功德。普及於一切。我等與衆生。皆共成佛道。

偈曰

彼尊佛刹無惡名　亦無女人惡道怖

衆人至心敬彼尊　故我頂禮彌陀尊

願共諸衆生往生安樂國

南無極樂化主彌陀如來

南無命終決定往生極樂

我說彼尊功德事　衆善無邊如海水

所獲善根清淨者　願共衆生生彼國

願共諸衆生往生安樂國

彼尊無量方便境　無有諸趣惡知識
往生不退至菩提　故我頂禮彌陀尊
願共諸衆生往生安樂國

南無極樂化主彌陀如來
南無命終決定往生極樂

出經

次天道者。非想八萬。尙遭必滅憂。欲界六天。未免五衰之悲。喜見城勝妙樂。中間禪。高臺閣。皆是夢中果報。幻間快樂也。苦哉。三界火宅。常住處。四生衰變。非希事矣。流轉無窮。如車廻庭。昇沈不定。似遊鳥林矣。龍樹菩薩云。世間如車輪。時變如輪轉。人亦如車輪。或上或下。云云今影向天衆。親聽聞法音。他方冥衆。遙隨喜善根。依此廻向。依此功力。早遊法性虛空。同顯本覺月。還照生死長夜。

難受佛法難値。今宿因多幸。已具諸縁。出離生死之計。只可在今時。而深貪著名利。不厭生死。鎮拘牽愛欲。無修淨業。頭戴霜雪。心染俗塵。一生雖盡。希望不盡。我等適剃頭不剃心。染衣不染心。常念世俗事。假名阿練若。破戒咎。還越白衣。可恥可恥。可悲可悲。雖然。萬德破備一心。志求可得。三字收諸法。十念自成就。仍發猛利之心。可唱彌陀寶號。念佛百八返

偈曰

諸有無常無我等　亦如水月電影露

爲衆說法無名字　故我頂禮彌陀尊

願共諸衆往生安樂國

南無極樂化主彌陀如來

南無命終決定往生極樂

南無命終決定往生極樂

十方所來諸佛子　顯現神通至安樂

瞻仰尊顏常恭敬　故我頂禮彌陀尊

願共諸衆生往生安樂國

南無極樂化主彌陀如來

南無命終決定往生極樂

出經

次人道者。此身常不淨。雜穢盈其中。內有生熟臟。外相覆皮膜。涶汗常流出。膿血亦充滿。如此臭穢身。猶如朽城廓。日夜煩惱所逼遷。無暫停息。愚夫常愛樂。智者無染著。大經云。一切諸世間生者皆歸死。盛者必有衰。合會有別離。無有法常者。云云東岱前後煙即是朝昵夕語輩也。北芒新舊露。寧非遠聞近見人乎。何況人身

次修羅道者。常含瞋恚。鎮懷忿毒。與天帝諍權。屢侵喜見城。或時擔須彌山。或時把日月輪。而爲天帝軍所摧破時。怖畏萬端。夫諸佛如來慈悲爲心。菩提薩埵柔和爲本。凡衆生。皆是本覺如來。當成世尊也。相向可恭敬。爭可生害心乎。是以不輕大士。敬禮四衆。惠遠禪師。不越螻蟻。況一念瞋恚。燒俱胝劫善根。剎那怨害。招無量生苦報。損自損他。滅身滅命。無勝瞋恚。無越嫉妬。仍住平等慈悲之心。一切靈等。爲出離生死證大菩提。可唱彌陀寶號。念佛百八返

偈曰

金底寶間池生花　善根所成妙臺座
於彼座上如山王　故我頂禮彌陀尊
願共諸衆生往生安樂國

南無極樂化主彌陀如來

偈曰

無比無垢廣清淨　衆德皎潔如虛空
所作利益得自在　故我頂禮彌陀尊
願共諸衆生往生安樂國
　南無極樂化主彌陀如來
　南無命終決定往生極樂
十方名聞菩薩衆　無量諸魔常讚嘆
爲諸衆生願力住　故我頂禮彌陀尊
願共諸衆生往生安樂國
　南無極樂化主彌陀如來
　南無命終決定往生極樂

出經

不知天高遊淵之魚。不覺水深山鹿野麋。猶迷東西峽猿泉獺。不辨昏曉。哀哉。悠々生死。輪轉無終。悲哉。茫々苦海。出離何時乎。梵網經云。見一切畜類。唱汝是畜生。發菩提心。人師釋此文云。設無領解。法音入毛孔。遠作菩提緣。云云 幷州鴿鳥。聞妙法受人身。雪山野干。近道人得開悟。仍以今日善根。拔濟彼群類。夫於身造三罪。殺生。偸盜。邪婬也。於口造四罪。妄語。綺語。惡口。兩舌也。於意造三罪。貪欲。瞋恚。愚癡也。於此十惡。上品犯者。墮地獄道。中品犯者。入餓鬼道。下品犯者。趣畜生道。不止三品之罪者。誰免三途之報乎。而我等十惡盛行。三途無疑。業障尤重。往生何易。文云。極重惡人。無他方便。唯稱彌陀。得生極樂。云云 幸遇彌陀善巧。誰不拂頭燃。化功歸已故。自他共得益。彼此同生淨土。仍住無遮平等心可唱彌陀寶號。 念佛百八反

完疑宍即肉

願共諸衆生往生安樂國
南無極樂化主彌陀如來
南無命終決定往生極樂

觀音頂戴冠中住　種種妙相寶莊嚴
能伏外道魔憍慢　故我頂禮彌陀尊

願共諸衆生往生安樂國　右偈文或本置次餓鬼道者前下去准之
南無極樂化主彌陀如來
南無命終決定往生極樂
出經

次畜生道者。其貌千品。大小交雜。互相噉食。更無所知。諸根不具。唯有完身之類。聾騃無足。蜿轉腹行之族。有身有苦。有心有愁（憂イ）。飛蛾著火色殄身。蚊虻懸蛛網捨命。癡闇誠深（實イ）。本覺最（尤イ）遠。飛空之鳥。

南無命終決定往生極樂

出經

次餓鬼道者。枯渴焦悴。食子息餓。飢羸憧惶。碎腦助命。百菓結林。欲取悉刀輪也。萬水入海。欲飲皆猛火也。山野雖寬。擬休無處。人天雖多。樂食不與。是慳貪業因。放逸果報也。此鬼類。或有山野海邊。祠祀修善之砌。因施願之力。預微少之食。以自存活。定知。每迎今日今時。來臨此砌。希求飲食。聽聞法音。然則外與甘露上味。內嘗解脫法藥。忽離苦得樂。還爲護法善神。仍唱彌陀寶號。施彼鬼類。共備往生直因。念佛百八反

偈曰

面善圓淨如滿月　威光猶如千日月

聲如天鼓倶翅羅　故我頂禮彌陀尊

原為字或本有一切上

無緣一切靈等。為出離生死證大菩提。可唱彌陀寶號。念佛百八反或本作導師

諸衆同音一心不亂高聲念佛百八反。

偈曰

稽首天人所恭敬　阿彌陀仙兩足尊
在彼微妙安樂國　無量佛子衆圍繞
願共諸衆生往生安樂國
南無極樂化主彌陀如來　異本云諸衆各五體投地禮拜一反
南無命終決定往生極樂
金色身淨如山王　奢摩他行如象步
兩目淨若青蓮花　故我頂禮彌陀尊
願共諸衆生往生安樂國　右偈文或本置夫五更眠寤前又或本十二禮讚共置夫五更眠寤前
南無極樂化主彌陀如來

輪轉六道之間。善惡交雜。受報不定。其中難堪地獄苦。難忍鬼畜報。先言地獄者。鐵城固閉。熱鐵爲地。猛火洞燃。四面交徹。樂清涼之風。火炎來而焦身。求甘泉之水。鑊湯沸而自壞肝。泣而涙不落。猛火燒眼故。叫而聲不出。鐵丸滿喉故。極熱叫喚之愁。黑繩衆合之苦。斫刺磨擣之悲。刀山劍樹之歎。是瞋恚煩惱殺生由來。今生雖不自作。教他隨喜之報亦同。誰有情輩。聞之不生悲心乎。經云。若人修善根。有大光明照地獄。光中說妙法。引導受苦衆生。云云如來誠言可仰可信。如幷州道如法師。爲救三途衆生。一千日間祈請彌陀。終感夢告。琰王送牒。現彌陀尊像。入地獄中。放光說法。教化罪人。令離苦得樂。何道如。設三年千日之祈請。拔濟三途衆生。何我等勵每月一夜之精勤。不救八熱罪人乎。願焦熱大焦熱中。紅蓮大紅蓮之間。放遍照光明。速引導受苦衆生。仍不擇有緣

當勤精進。莫得放逸。

寛和二年五月廿三日

次取香呂一打　勸請

敬禮十方三世佛　釋迦彌陀兩足尊
八萬十二諸聖教　恆沙塵數諸聖衆
還念本誓來影向　百界衆生誓願度
五住煩惱誓願斷　四門道品誓願知
三菩提果誓願證　堅持莫犯薰一切

次四奉請

出經　誦出阿彌陀經　或本云。次合殺。次廻向。我等所修念佛善廻向極樂彌陀佛等。偈云云具如例時

○以轉經念佛之功德。廻向六道衆生者。

夫五更眠寤。獨身床閑。老體不安。倩欲輪廻苦。凡流浪生死以來。

無下經文有阿彌陀三字念上經文字於字

觀無量壽經云。或有衆生。作五逆十惡。具諸不善。如是愚人。以惡業故。應墮惡道。經歷多劫。受苦無窮。如此惡人。命終時遇善知識種々安慰。爲說妙法。敎令念佛。彼人苦逼不遑念佛。善友告言。汝若不能念者。應稱無量壽佛。如是至心。令聲不絕。具足十念。稱南無（無量壽）佛。稱佛名故。念々中。除八十億劫生死之罪。命終之後。見金蓮花。猶如日輪。住其人前。如一念頃。即得往生極樂世界。文此文。足爲我等來世之誠證。今相議云。我等合契。互爲善友。最後臨終。相助敎令念佛。即點二十五人。以爲結衆之數。若於此中。有一病者。依結緣願力。不撰日吉凶。往到其所。問訊勸誘。若適有往生極樂者。依自願力。依佛神力。若夢若覺。示結緣人。若墮惡道。亦以示此。亦此結衆。時々同心共淨土業。就中每月十五之夕。修念佛三昧。祈臨終十念。生死有涯。豈恃草露之命。昇沈不定。宜期蓮臺之迎。

大菩薩。身子目連諸賢聖衆。乃至極樂界會中九品蓮臺一切聖衆。摠佛眼所照微塵刹土同體別體三寶願海驚言。今一結諸衆。三業運誠。一心抽志。每迎每月今日。令修西方淨業給事。其旨何者。夫諸教所讚。多在彌陀。往生行業。念佛爲最。我等生東土沙界。遇西方尊教。既知宿緣有幸。盍仰本願無謬。離苦海詣淨土。今正此時。安然過日月。後悔焉及。依之移楞嚴之舊儀。傳華臺之古風。修六卷之轉經。施六趣之衆生。乞願每月三五之勤。一生匪懈。最後臨終之夕。十念遂望。志趣不多。大概在之。丹誠之至。只任願海。而已。已上後人表白文

楞嚴院二十五三昧根本結衆二十五人連署發願文云夫以。三界皆苦。五蘊無常。苦與無常。誰不厭乎。然我等。無始以來。徒生徒死。猶未發道心。亦未免惡趣。悲哉。何時將殖解脫分之善根。抑案

二十五三昧式

我此道場如帝珠　十方三寶影現中

我身影現三寶前　頭面接足歸命禮

先三禮　次如來唄　次禮佛頌

當願衆生　得無礙眼　見一切佛

唯願如來哀愍我　常令觀見大悲身

三業無倦奉仕尊　速出生死歸眞際

南無極樂化主彌陀如來觀音勢至十方三世一切三寶

表白

恭敬。白ニテ一代教主釋迦善逝極樂化主彌陀種覺。十方三世應正等覺者。阿彌陀經等諸大乘經。半滿十二權實聖教。觀音勢至諸

寛和二年九月十五日　慶保胤草云云

爾慶安三庚寅五月所持之實海

原本　北河原公海師所藏寫本全一卷

横川首楞嚴院二十五三昧起請　終

之日。別修善根而已。

以前條事甄錄如右。方今像法之壽至喉。人世之事如夢。捨穢土生淨土。非此時又何時乎。靜案下品之三類。多考西唐之先輩。若纔臨命終遇善緣者。莫不轉火車乘寶臺焉。彼張鍾者。販鷄之惡人也。異香滿室。敗善者殺牛之屠士也。紫雲遶家。豈非最後善知識之故力哉。況我等戒行雖缺心願是深。今發心於極樂之蓮臺。長結緣於十口之禪侶。尼女在俗非於此限。宜隨競望將以補入。一人若生淨土。餘人悉欲得其引攝。一人若墮惡趣。餘人共應垂其拔濟。不爲世間名聞利養而契。唯爲菩提眞善知識而契。我等生涯多頹。來世漸近。今勒此起請文。將置于往生院。後日結衆。請勿退轉而已。

往昔之因緣乎。請我結衆寤寐不忘。一切時處心念口稱矣。

一可結衆沒後守義修善事。

右死者是終天之別。如流水不返。長夜一去。何日再會。我等結言之初。芝蘭各芳。瞑目之後。膠漆何忘。若有早世之人。須結衆勠力營葬送事。其夕一結運步終夜念佛。瘞置遺骨念佛旋遶之事訖之後。相共歸去。莫憚世俗之諱。以違存生之契。但遭父母師長大故之者。不在此限。自餘之人不許辭遁。抑觸穢番衆共住往生院。修念佛讀經忘間。童僕之食隨堪各訪。沒後引接之謀。至誠共勤。每至七日結衆合可修念佛。至七七日折花掬水。將展講莚一周。關事亦復如此是至于圖寫佛經者。或因亡者之遺旨。或隨弟子之深志事。難一定。臨時相議。夫他界雖隔。舊交不忘。須勒名字於過去帳。記亡日於往生院。每月念佛之次。必唱寶號。每年之遺忌

一可常念西方。深積功力事。

右臨終正念。此非小緣。唯依尋常之積功。遂至其時而能念我等。以十五日之精勤爲淨土業。以往生院之看病爲善知識。雖期二事之可憑。猶難知十念之不亂。倩案觀無量壽經。釋迦勸曰。唯除食時恒憶此事。又撿般舟三昧經。彌陀報曰。欲來生者。常念名。既知晝夜繫心往生無疑者也。我黨縱不削跡於深山。須猶係念於淨刹。常修日想之觀。漸覺年齡之減。慕天台之舊儀。坐臥不背西。愼道綽之遺誡。便利不向西。每眠必發願。至病彌增勤。縱亂三業速懺悔於彌陀。若成一善盡廻向於極樂。或飛花落葉之時。或淸風朗月之夜。若獨在閑室。運心可觀念西方。若共會一處。發聲可讚嘆西方。不說他人好惡。長短但一心念往生因緣。然則漸々功德積念念罪消。臨終右脇之暮。如伐西傾之樹。況彼佛與此界有

盡一日。過此程非此限矣。事是最要。不得勿諸焉。

一可點定結衆墓處號花臺廟。二季修念佛事。

右人之在世。誰能免死。偏營眼前之事。不慮身後者愚也。我黨須占墳墓於西山之脚。不煩葬斂於此郊之邊。先就陰陽之家令致鎭謝之法。其處建一基率都婆。其內置多種陀羅尼。結衆下世者不擇日時之吉凶。不避方隅之忌。三日之內。必葬於此矣。縱告浮生於他鄉遂送遺骸於此地。願一衆埋骨之契轉爲一國受生之之緣也。抑往塚間增視念者菩薩之常途也。是故以春秋之時爲會合之期。折山花供林葉。爲後身修念佛及于松栢風寒山門日暮。各以分散觀無常理。每步幽逕唯悲屠家之羊。欲歸舊栖。應慚雪山之鳥。或安居月。或餘暇之日。若有蒼欒發心者。不拘臨時薰修耳。

當下恐脫爲

迄存亡遂定之期。諸衆結番。遞以守護。先差二人限一日夜可爲一番。一人偏勸念佛令聞法音。一人遠近役走料理雜事。又須隨所惱之輕重。用病衆之多少。問病者之願樂修顯密之善根。且祈佛力。且加醫療。待後番來令前番去。釋尊者昔以紫金之手。自洗病比丘之身。佛子今當藥石之勤。盡扶善知識之苦。須如孝順父母師長。遂莫厭離臭穢不淨。每至日沒必勤例時。命若瞋風燭相集而念佛。或隨平生所行讚嘆如十誦律之說。或問病眼所見而記錄如道和尚之誡。夫趣善惡之二道。唯在臨終之一念。善知識緣專爲此時也。若未終捨去。理不可然。乃縱有非常當番衆者必可觸穢送終雜事一向執行凡茲結之。興志在此事。人深恃我我亦恃人。我若疎於人。人亦疎於我。結緣之本懷已違往生之本事。可敗結衆縱有重障。守結番可來勸縱於他所受病。往訪往還暇

右案舊典云。人受病時。佛勸移處。衆生貪着至死不捨恐在舊所戀愛資財染著眷屬故。避往處令生厭離。知無常之將至。使正念而易興也。云云又案天竺祇洹寺圖云。寺西北角爲無常院。安置一立像。面向東方。當置病人。在像前坐。若無力者臥。向西方觀佛相好像。手懸幡令病人執幡脚。作往生淨土之意。坐處雖有便利。世尊不以爲惡云云故隨釋尊之教。又寫祇洹寺之風建立別院。安彌陀像。結衆若病時。可令移此院。抑香花幡蓋之具滿室莊嚴燈燭果瓜之類。問要求送不說世事。於耳邊莫入惡緣於門裏焉。

一可結衆病間結番瞻視事。

右病身不可不養。護病心不可不安慰。故律中佛言。自今已後可立看病人。若欲供養我者。應先供養病人。云云凡厥功德多出經論。非啻勝八福田之裏。兼亦讃十往生之中。是故結衆得病之初

加持。結衆之中。若有逝者。若以此砂必置其屍。彼具諸罪者既脫苦。矧不造五逆乎。散尸骸者。猶得功。矧常誦百遍乎。有爲恩之人又許分用之。

一可調心護道擇人補闕事。

右入此法者。當調其心。善惡唯一心。心外無別法。莫恣心作諸惡可護心行諸善。結衆若依小緣謬有向背。早謝其過。各莫所恨止。視同行善知識。文云。同心齊志。如乘一船。互相敬重。如視世尊。云云令之同行用心如是。若乘此旨。暴戾違亂者早出結衆。不爲同行。拔素髮於少年之頭。却毒樹於長者之家。豈非如來之敎誡哉。抑三度已上無故。不會之輩。既知無悉不足相恃須歷衆議替以他人。專無偏頗耳。

一可建立別處號往生院。結衆病時令移住事。

夫淨土者懈怠則遠。精進則近。是故懶惰睡眠。當呵我心。而防護調聲廻向不待人勸而競勤。既能滅五逆之重罪。何不勵一夜之苦行乎。抑結衆若有不獲止之障者可示事由。將以許之。雖誠置此權議。莫乞暇於小事。又結衆之外有供名香加燈油營温室。儲朝粥。須至五更之結願。必爲二世唱寶號焉。

一可念佛結願。次誦光明眞言。加持土砂事。

右如來說曰。若有衆生。具造十惡五逆四重諸罪。墮諸惡道。以此眞言加持土砂一百八遍。散亡者尸骸。或散墓上。彼亡者若地獄若餓鬼若修羅若傍生中。以一切如來大灌頂眞言加持砂立力。則得光明身。及除諸罪報往生極樂蓮花化生。云云。

我等罪障多積。生處猶疑。仍以一匣之土砂永置佛前之壇場。念佛結願之次。導師別發五大願。諸賢各住三密觀誦眞言。此如說

之旨起請如件。

永延二年六月十五日　首楞嚴院源信撰

起請八箇條

一可每月十五日勤修念佛三昧事

右今日是彌陀垂感應。閻王記善惡之齊也。結衆殊愼三業。堅護衆戒不生放逸之行。勿從世路之事。宜爲引導六趣衆生。將讀阿彌陀經六卷。旋遶念佛。全滿百遍。廻向之後。可唱禮拜。

南無極樂化主阿彌陀如來。
南無命終決定往生極樂

至最後卷。可唱禮拜。

南無恩德廣大釋迦大師。南無極樂化主彌陀如來。南無大慈大悲觀世音菩薩。南無大慈大悲大勢至菩薩。南無命終決定往生極樂。

次用三禮等作法如例。錫杖之後。結願之次。可唱寶性論願偈也。

依此諸功德願於命終時得見彌陀佛無邊功德身我及餘信者。既見彼佛已。願得離垢眼。證無上菩提。

持恐特

暗荊。花容先萎纏髮速生。所謂朝翫紅閨之栖。暮委蒼山之脚。晩擎朱樓之砌。曉送綠野之頭。若一失人身。何日顯佛性。若二入地獄。何時仰天尊。故今始發希有之心。適修尊持之善。共可致懇誠。豈可得疎簡哉。若有念佛講經三度闕之看病問葬一般違之人者。永不可告四鳥之離。敢得爲八龍之友。自餘起請皆可守之。可愼可勤。勿忘勿背。

以前條事粗注由緣。抑娑婆極樂盡是智水之淺深穢土淨刹。豈非慧燈之明昧乎。凍解池澄。誰遂陽炎之光。雲晴月明寧掘映水之影哉。然而我等猶對分別之鏡。未瑩丹融之珠。若論南閻浮提之鄉。則龍鉤之色傷人。若謂西方極樂之界。則鳳池之聲說法。方今此界五濁六苦恒侵蜉蝣之今。三毒四苦尚迄蚊虻之身。因之我等深厭此蓬園瓦礫之境。遙望彼蓮刹瑠璃之城。故今依衆議

已疑亡

徒爲蒿里之塵。仍兼占勝地建一率都婆。名稱安養廟。永爲吾黨
墓所。但請大法師占其地方。所以印契分地以眞言鎭處。然後方
神縱雖塞。土公猶雖在借佛德分地以神威。豈崇哉。仍一結死人
不過三日則不論日善惡。於此廟葬之。
一可結衆之中有已者。時問葬念佛事。
右我等既非桝房桂宮之子。或提逢門蓽戶之親。匣中無驪珠。床
上絕鳳被。僮僕數不廣•親眷亦甚希。至其歸泉之時。曷訪苦海之
患乎。仍結衆悉集行安養廟。將修念佛即導亡者。念佛畢後五體
投地。各唱尊靈引導往生極樂。可滿二十一遍。仰乞彌陀種覺觀
音勢至可願七日之內示其生處。隨亦處善惡可致志懇踈。
一可不隨起請致懈怠之人。擯出衆中事。
右流年漸行。涯今易頽。風月頻援。泡身難留。是故紅顏自變白首

常恐華

禽競亂之時。何人暫相憐。慇懃得養。寔雖有往生之契。尙可疎必死之人。仍令結衆合力建立一宇草菴安置彌陀如來。將爲一結終焉之處。可成三愛不起之謀。方隅縱塞日時窄凶。皆移此院共養彼人。又如論云。佛像向西方。病人亦從後。佛像右手中繫五色之幡。授病者左手。將令執幡脚。當令成從佛往生之思。凡燒香散常莊嚴病者。又調味撰食可供養病者。更置一合之棺。須爲闍維之備者也。

一可兼占勝地名安養廟。建立率都婆一基。將爲一結墓所事。

右一生易過。凡夫常類芭蕉之露。二死難遁。聖人猶接栴檀之煙。樂盡而悲到。如風扇花散。榮去而衰來。似水濁玉昏。至于如夫骸臥露地鳥鵂鑿眼。骨橫煙村獸脣啄臠。莫不行人流之心中一寸之凍忽碎。遊客之眼下兩行之泉乍流。魂縱雖籠花藏之月。身猶

可恐剩
何恐剩

暮歎。晝樂夜悲者也。既受病根於朱樓之身。何期生樹於翠松之齡。吾黨既知之。豈可不可護哉。但恐生前不修一善根。何何因身後免三惡道。嗚呼悲哉。猶廻火宅之心。遂入焰王之手。須每黃昏時。皆行病者所。相共唱念佛。可令聞其聲。慇懃相催。令生極樂。守護作法如事二親。但以二日將爲一番。二人宿直共守此人。常唱念佛相勸往生。一人能看平急。可告傍輩。可護可諍勿懦勿臥。

一可建立房舍一宇。號往生院。移置病者事。

右人非金石。遂皆有憂。將造一房。其時可用。願傳彼祇洹精舍無常院之風儀。欲訊此結緣知識。有習地之霧露。抑吾黨之人。或不構私室。或僅結草菴。牛衣防風。鼠飡送日。平生如是。寢疾誰憐。至于如夫黃鸝啼而山櫻漸落之曉。白雁飛而蘭菊半衰之晨。莫不群居花前。送萍實之輝。遊宴月下。運桂花之影。四虵相鬪之比。六

矣僕二字恐告僮僕

悪業一不可侵努努力力可愼々々。

一可結衆之中有病之時致用心事。

右百八煩惱。常侵八身。十二因緣遂奪天命。朝露向日。四性之車難保。暮雲亂風。一期之船易傾。是故我等當受病初。各告朋友取惱之尅。可種僕我既受重病。曷又疑必死乎。今吾平生所念之事。汝悉可遂。若與佛法之弘誓。若懺悔罪障之善心。若孝養父母之忠誠。若修行檀度之事業。方至是時速先可遂之。汝有所思者。又當語於吾。平陳蓄念各開宿心。又自今已後迄命終之期。不可令我聞有情世之聲。願當使我生無漏地之境。當以看病之人令發念佛之聲而已。

一可結衆中有病人時。結番遞守護問訊事。

右人命無常。一旦之煙忽昇。天年不定。五夜之燭乍滅。所謂朝欣

盡風枝霜莖之恩。生前同存惕惕之縱。死後共入如如之道。不可忘之不可背之云云。

一可結衆發願之後。各護三業事。

右若散意馬則山之絲易絕。若庸身龜則海中之査難逢。一角仙人猶墮玉女之容。四目居士自隨從子之眼。飮銅之象乍入欲火之迷。湌鐵之狗終出愛水意。何況我等青綾紅錦着則憔心。黃金白玉取則亂念。抽鈞伺鏁以强戲西施之閨。挽弓求短以好遊南威之宅。凡持乘破戒者慈鐵網之城。急戒緩乘者遂遠金繩之路。而今我等乘戒俱缺。後生何憑。辭雖唱佛號。貪欲之箭恒惱意。聲雖囀經文。瞋恚之力動碎肝。恐掬三昧之水更消四趣之炎。自今以後。吾黨賢愚離殺生盜婬。遠貪瞋癡禁麤惡語。制無益言。所謂好惡長短貴賤尊卑不可稱讚。不毀謗。各守三業可愼六情。凡十

金疑法

中。先有取滅者。即置骨骸欲令生佛國。抑撿骨禮骸。未免輪廻三有之國。戴月踏花欲臻極樂九品之城。但加持土砂之後。當成五段禮拜。所謂歸命頂禮大日教主釋迦如來。南無極樂化主彌陀如來。南無大悲觀世音菩薩。南無得大勢菩薩。南無妙金蓮花經等也。

一可結衆相共永成父母兄弟之思事。

右三界如車。誰母誰父。六道似毬。何弟何兄。矧又我等出二親之家入三尊之道玄四恩之境。刮五乘之門。方今同尋栴檀林之香。共受醍醐教之味。敬順之志。父恩如輕慈愛。誠母德似薄飲泉。宿樹皆恆昔緣。結契通情。豈啻今語乎。抑遇一善友。忽免地獄之憂。頻數良件。何事天堂之樂乎。吾黨不造五逆。無犯七遮。長期一生共修三昧。兩岸之葭。縱絕九品之蓮。盍攀須結父母兄弟之契。終

動恐勤

一可十五日夜結衆之中。次第奉供佛聖燈明事。

右佛素離飲食百味之膳。無益於頻婆菓之脣。聖永出冥暗千穴之燈。不用於優曇花之體。然而爲愍有情。嘗一渧水。爲救群類受五莖蓮矣。況又深山。破臺有恨待月。幽洞荒砌無便攀花。若有餘力者。相尋可莊嚴。況於此道場。盡致供佛儲。仍月以一人次第可動行。但其定限法。佛供三燈油一舛耳。

一可以光明眞言加持土砂。置亡者骸事。

右念佛之後。以別道師。令著禮盤。發五大願。然後以光明眞言可加持土砂。所以或眞言經云。若以眞言加持土砂一百八遍。置尸骸時。其亡靈隨業輕重。生地獄生餓鬼中生畜生中生修羅中。以毗盧遮那威德力光明眞言威德力。捨苦惱身往生安樂國。蓮花化生得無生忍。登菩薩位。云云依以此眞言當加持土砂。吾黨之

願同讀十二箇軸之經文。共唱二千餘遍之佛號。毎盡經度可唱
廻向。廻向後還著禮盤。偕稱一百八遍之念佛。應爲十萬億土之
媒介。然後大衆五體投地禮拜彌陀如來。又可致命終決定往生
極樂之禮拜。若結衆之中有難遁障者。大衆相共議。隨宜可除之。

一可毎月十五日正中以後念佛以前講法花經事。

右聞法之要。功德無量。所謂轉鈍爲利之媒。轉凡爲聖之計也。五
百之猿忽悟麟角之佛。一千之雁遂歸鷲頭之仙。何況人倫乎。何
況僧徒乎。是故香城粉骨之大士。尋鷲池之秋月。雪山投身之童
子。傳鶴林之春風。悲哉我等不見三身具足之金身。無聞八音圓
滿之音聲。唯漂五欲纏縛之海。未到一如解脫之源。仍毎月十五
日念佛未行前。以有智禪僧令說法花經理。將令見聞弱知之人。
速踰開示悟入之位。以可隨喜以可聽聞。

外題云横川首楞嚴院廿五三昧式慧心保胤臨終行儀起請慧心述（清深院實海）

横川首楞嚴院二十五三昧起請

源信撰

右念佛三昧。爲往生極樂。始自今日。各至于命終期。以每月十五日一夜不斷共修念佛。願積此一夜白業之善根。將攀滿月清涼之覺蘂。仍注其名。僉議如件。

定起請

一可以每月十五日夜修不斷念佛事。

右六節日。是愍有情類之日。三五夜亦念無量壽之夜也。其日此夜念佛讀經。可謂往生極樂之業。豈非直至道場之因哉。是以吾黨破五更夢。發三昧之聲。驚一夜之眠。招二世之善。抑末時集大衆。申時修講經。其廻向之後。將讀起請文。酉終始念佛。辰初竟結

種他日携ㇾ手同遊ニ安養樂邦ニ云ㇾ爾

維時寶文十一年歳在ニ辛亥ニ七月自恣日也。

寛文十一年九月穀旦

長谷川市郎兵衛刊刻

原　　本　槇尾藏刊本全四卷

對校本一本　寛永丙寅暦林鐘吉晨開板本全一卷

觀心略要集 終

原藥王品三字一無
明々一本作明一字
原也一無
原亦一無

諸佛之恩。云云藥王品疏云。我傳爾明。爾復傳明。明明無已。師之志也。云云故不憚短才淺智。爲不成斷種身也。史記云。雖有舜禹之智。吟而不言。不如瘖聾之指麾也。云云實雖瘖聾之身。何亦不導迷者乎。若義理有紕繆。賢哲必加添削。於衆嘲者敢不辭之。逆順倶結緣。互欲蒙引導。

南無阿彌陀佛。南無觀世音菩薩。南無得大勢菩薩。南無極樂界會一切淸淨大海衆。

南無十方三世一切三寶。

世所渠行畧要集者文多添脱字有錯誤義理難曉讀者憾焉余雖顓蒙憂之尙矣今也頻驚生死事大聚斂西歸資糧之暇求索舊本屢加對校兼考經籍自事翰墨文義相似輒々抽之識諸文上與剞劂氏而以鏤梓再壽其傳庶使僧都遺訓燦然復明於世信毀結緣順逆萠

巖戸夜深只憶癡闇之難晴。洞門曉來應悅慧日之漸出。西山月傾有便慕滿月之尊容。翠嶺風扇無妨欣寶樹之微風。何乍得所觀境。徒不運心念乎。對師範而學顯密。准彌陀之說法。爲弟子而加教誡。思濟法界之群類。念念步步悉改三途之業。造次顚沛。併成九品之因。問。今以愚鶩性集此文。豈無後見之嘲乎。答。有二故。一爲練自心也。釋云。常爲心師。不爲心師。云云玄樞曰。但正其心不尙餘學。自心若正萬境咸歸。自心若邪諸塵有滯。云云弘決云。是心無始常曲不端。入正行處心則端直如蛇行常曲入筒則直云云疏云若不作觀方便於行人無益。如貪數寶。似盲執燭。云云而心不孤起。必託於緣。假文助意觀心不亂既調散心於一境必遂往生於三輩。二爲誘他人也。挑長夜之法燈。適叶祖師之本懷。傳苦海之船筏。遙報釋尊之恩德。經云。汝等若能如是。則爲已報

勤一本作捉
不下散一本作亂
叟下一本有之
原朱下之無
原白下之無

方悔求修善。智者應觀察斷除五欲想。精勤習心者。終時無悔恨。心意既專至。無有錯亂念。智者勤投心臨終意不散。不習心專至。臨終必散亂。云云華嚴經曰。如鑽燧求火未出。而數息火勢隨止滅。懈怠者亦然。云云披此等文。落淚難禁。晝夜勤精進。莫空明空暮。縱令雖競寸陰。生涯修善非幾。先德云。一世勤修是須臾間。何捨衆事不求淨土。云云倩顧過去年月之如夢。亦知未來時節之無程。彼楊貴妃專房之寵。潘安仁擲菓之戲。季將軍之武勇也。曹子建之賢才也。乃至陶朱之金玉之財。擲白之衣食之富。名雖留萬代。身不知何去。每思古人之無遺。可觀今世之有終也。文非啻古人之早世矣。親昵之並面。多爲北芒之塵。外人之聞名。併化東岱之煙。何朝何夕。從彼逝水。無常殺鬼不擇豪賢。山海空市無遁避者。故朝露未消之前。曉燈纔殘之間。猶能勵誡。觸事可增觀也。

四下一本有海

備下一本作修行器堪故也

原可一作不

原生下一有之

皆一本無

原皆得往生一作往生極樂

船上之故也。縱雖惡業之石重。方乘四十八願王之船。欲渡娑婆憂苦之海。自稱沙門。振手而去。冥官之責不知所免。不可陳不遇佛法。釋迦遺敎專盛弘之比之故。不可謂不具諸根。六根全備堪修行之器之故也。只墮天性嬾惰之失。卷舌無答。不亦悲哉。我爭必以今生可爲生死終乎。坐歎臥歎。最後臨終之時。恐不安往正念。寤思寐思。一期生涯之暮。定難成就十念。十念若成。往生不疑。故要決云。上盡現生一形。下至臨終十念。倶能決定。皆得往生云云依之。積功累德。所祈無貳。彈指散華之善。偏望九品蓮臺。隨聞一句之因。併爲三身覺位。加之。修三密行法。繫心於五相成身之月。凝一實觀門。期悟於八功德池之蓮。雖然。無明之雲厚覆。法性之空未明。恨壯齡不遂精進之志。瞑目定悔懈怠之過。大莊嚴論曰。盛年無患時。懈怠不精進。貪營衆事務。不修施戒禪。臨爲死所呑

(原)路下一有之
(原)全一無不下一有成
得下一本作生悟矣
(原)居一作悟
(原)佛一無

可厭者。以昇沈處所之不定也。形無常主。只爛壞墳墓之間。神無常家。徒跉跰趣生之路。身與心猶不相伴。況命與財而相隨乎。綾羅之服在生之飾也。何隱冥路之膚。金玉之寶。今世之貯也。全不淨土之資。大集經云。妻子珍寶及王。位臨命終時不隨者。唯戒及施不放逸。今世後世爲伴侶。云云故勤行布施。堅持淨戒。心不放逸苦修念佛。早貯世世不朽之財。可儲生生不離之伴也。又世人卑下於重罪身。有絕往生之望。亦不可然也。天台云。無壽佛國。雖果報殊勝。犯重罪者。臨終之時。懺悔念佛。業障便轉。卽得往生。雖具惑染。願力持心亦得居也。云云淨土論云。若有重業障無生淨土因。乘彌陀願力。必生安樂國。云云平等覺經曰。阿彌陀佛與觀世音大勢至。乘大願船浮生死海。就此娑婆世界。呼喚衆生。令上大願船。送著西方。云云夫蒼蠅之翔千里附驥尾之故。巨石之渡四溟。載

原 救一作拔
原 之一無
原 之一無
原 者下一有之

心修之何爲不如無所作生涯安過之答。此言甚誤。爲兼學其理觀。貶事念佛爲劣。道理可爾。若進退失據。偏言廢念佛。是大懈怠極無道心人之所謂也。何人從初心即得理耶。以事爲初門。可習理觀。又不論功德勝劣。事理念佛俱往生者。只可如救頭然。敢莫致餘言事。夫人之在世。危乎秋露之栖叢。命之無常。猶同春夢之凝枕。有何暇而致無益言論乎。種種問橋智者所呵也。次生涯無所作。安過之者其不可然。三界無安。猶如火宅。一篋偏苦。非可躭荒。四山合來無所遁避。何生安穩想。不求出離乎。悉達太子。夜半踰城到仙人洞。大王遣使請還之時。太子堅辭而說偈言。譬如金屋火熾盛。如滿池華有蛟龍。如食甘味毒藥和。王位受樂後大苦。云云 非啻樂雜苦。終亦有其限。縱生忉利天上。五衰悲早來。雖成轉輪聖王。七寶不久持。輪王不免之。黔黎亦如此。凡流轉生死之

原 示下不一無
原 益一作蓋
原 驥一作驎
原 諍一作爭
原 者一無

爲此語時。應聲華臺現空中。閻王見之歎曰。善哉善哉。禪師既得淨土迎。獄中所有衆生。聞汝聲者。亦皆念佛。不久悉得往生。禪師從此直不往生。暫還人間。爲不信者。示不如法念佛功用微妙。時俊蒙閻王可。欲還娑婆。所現華臺向小路去。俊隨入路如此蘇也。聞此語者謂俊誑言。其後俊六時念佛。精進勇猛。經三月無病卒。隣里鄕閭。或有聞音樂者。或有見光明者。悉得信心念佛者益多。云云散心念佛。誠深妙哉。智解滿胷人猶不堪理觀。況尼女。在俗。只可追俊先蹤也。如彼云浴不必江海。要之去垢。馬不必騏驥。要之善走。念佛不必理觀。要之往生。雖散亂中念佛。只用誠心遂蒙引攝。但點煩惱。即是菩提。誰不備於慮知性乎。今値釋迦遺敎。練磨其心。轉憶想成智慧。宣乃是時。豈捨理觀之如意。而諍散心之水精。尙可從眞善知識速修習圓觀念佛也。問。散念功德劣者。勞

原 宜及此二字一無

原 此願行一顛倒 飽一無包一作

是至心稱名。夫名號功德以莫大故。所以空假中三諦。法報應三身。佛法僧三寶。三德。三般若。如此等一切法門。悉攝阿彌陀三字。故唱其名號。即誦八萬法藏。持三世佛身也。纔稱念彌陀佛。冥備此諸功德。猶如燒丸香一分衆香悉熏。浴大海一滴用衆河水耳。故慈恩云。諸佛願行成此果名。但能念號具包衆德。故成大善不廢往生。云云是以散心念佛。往生極樂。從昔至今。其數幾何。其中梁朝有一僧。名曰雄俊。口善說法身無戒行。所得利益非法食用。嬾僧行即還俗。還俗入軍陣。行殺害無量。俗中有難。而亦出家。如此凡七遍。極惡不善也。爰死經一日蘇而語言。閻魔法王使我引入地獄。其時俊高聲曰。俊若入地獄。三世諸佛即成妄語。何者。曾見觀經。說下品生者造五逆罪。臨終十念尚得往生。而吾雖造罪業。不造五逆。若論在生念佛。即不知其數。俊若入地獄。誰信佛說。

原種一作習

金剛觀割煩惱陣。此牢強足越生死野。云云弘決云。若稱理者。擧足下足。無非道場。云云經曰。即往安樂世界。云云現身得證。自在利生。蒙冥衆護念。却魔界障難。超越生死煩惱。往生安樂世界。偏是觀心利益也。問。不依彌陀加被。只觀自心可往生耶。答不可爾。只憑機。偏待應。共不可也。以觀理具三千爲機。可仰修德三千之應。機感相應時。佛法至理也。譬如珠中有火性。對火珠所成日輪時。能取火耳。善根增長遂往生大事。定可任彌陀如來護念。大鵬覆影子能生長者乎。弘決釋發禪定因緣云。雖有宿種。現修因緣必假諸佛冥加外護。云云止觀引大論云。池華不得日翳死無疑。善不被加沈溺未顯。云云今念佛定。亦復如是。必據彌陀如被應獲往生淨土耳。問。不修理觀。只稱一佛名號人。得往生不如何。答。亦可得往生也。彼繫念定生之願。未云修理觀。聖衆來迎之誓。只

原沒一作投
原翻一無
先一本作翻
之曉一本無
原無一作衆
原而一無
原之一無
原耶一作哉

苦。爲他亦可無一分益。如象子力微身沒刀箭。掬湯投冰翻添冰聚。得忍以前化度利生還增苦集。亦復如是。故先生極樂不退砌。顯我性法身之理。後入分段有爲境。導流轉生死之衆。依之今誓云。竹窓夢絕之曉。草菴露消之夕。忝蒙彌陀之來迎。必預觀音之引攝。問。觀心利益。欲聞誠證。答。先所出之菩提心並懺悔功德等。皆其利益也。又菩薩處胎經曰。法性如大海。不說有是非。凡夫賢聖人平等無高下。唯在心垢滅。取證如反掌。云云淨名疏云。若見無生雖處生死。縱任自在。自利利他。云云弘決云。如太公爲管檀令。龍神尚不以暴風疾雨而至其境。況佛法之人長心正念者耶。云云大集經曰。月藏分中他化天魔王發菩提心。受記發願云。我等護念現在未來諸佛弟子。與第一義相應住者供給供養。若不順我教。惱亂行者。即令彼類得種種病。退失神通。云云取意 止觀云。此

㊀不全一本無不全下一作令一切衆生不能及

㊀況一無

剛雖破不全一切衆寶猶不能及。菩提之心亦復如是。雖小懈怠。聲聞緣覺諸功德寶所不能及。云云弘決云。縱使發心不眞實者。緣於正境功德猶多。云云發心不眞實。縱漏上輩數功德猶多。故。盡受下品生。又依破戒之身。雖暫廻惡趣。以乘種强免極重苦。縱交猛火中。必扇解脫淸凉之風。縱沈寒氷底。定遇中道正慧之日。若夫悟苦即法界。以苦不爲苦。爲同類說法。共可出生死者。不厭在三途。而與物結緣。救人間少苦。其悅心幾許哉況拔三塗重苦。足爲利生極也。彼調達婆藪之垂應迹於那落。觀音地藏之代泥梨之苦器。則是心中深所樂也。故順次生昇沈。偏任佛陀境界。而强恣私情。不可狹而成望。平等一子慈悲。定爲衆生不疎。雖然。名字觀行位猶隔生則忘。何況底下理即凡夫。猶未得於毛分悟乎。是以未脫之前。經歷六趣。恐纏憂苦。永以沈沒。非自唯受碎身之

解脫修因感果之理。猶頗不相順乎。若運慇懃之志。何亦無其分耶。止觀大意云。內順觀道。外附教門。依之修行。必不空過。縱此生未獲。爲種亦强。盡未來際不復改轍。云云爲種亦强之文。深所懸於憑也。縱今生不悟來世必證得。弘決云。願諸同遇者。深生慶幸心。冀來世重聞早契無生忍。云云愚意所思。同大師願。又一句染神微劫不朽。促無窮生死。是要中要也。止觀云。皆以鉤餌。隨之不捨。此蔽不久堪任乘御。云云我既吞圓頓教法之鉤。定速登菩提涅槃之岸。況眞正菩提心爲因。即往生安養淨土。重聞一實圓頓旨。叶初住無生之位。今以此圓乘結緣。殊欣求上品三生。但以不背身期上品。雖似非分之所望。以於第一義心不驚動。發菩提心。爲其因之故也。我苟發菩提心。所望非他。但恨以無始來隨逐塵染。猶隨妄我慮知之執。發心不實。衆行徒施。然而華嚴曰。譬如金

原在一作有

原努力下有努力

原之一無

三昧意。論止觀文云。見佛相好。如照水鏡自見其形。初見一佛。次見十方佛。不用神通往而見佛。唯住此處見諸佛。聞佛說法得如實義。云云 弘決釋此文云。見色身佛雖非本期。觀力使爾。故使所見猶如鏡像。云云 觀法之功用不期而見佛。如霜降鐘鳴水澄月泛而已。只是心水止濁。可待滿月來迎。次會金錍論中實相眞如理。非二乘菩薩之所測等者。彼文可釋權敎之人。全不知之。非簡薄地異生而全隔其境界。證悟實雖在大聖。敎法從本被下凡。只知六即淺深。可不懼不謗也。誡勸隨時不可偏執。彌陀昔是凡夫。始依觀三諦理得三諦之悟。我等同是凡夫。何不修一圓因感一圓之果。而懼妙理深奧改轍者。發心既僻越。萬行徒施。冥冥生死。何時出離。悠悠苦海。何世得度乎。努力莫暫廢怠。次會行難成就者。取證雖期反掌之間。依根利鈍自有遲速。結永劫遠因。望順次

原千一作

欲判虛空界一切諸色像。而言了達者畢竟無是事。云云不如只唱彌陀名號待於聖衆來迎。彼造五逆之輩纔依臨終十念之力。得往生之故。此義云何。答成此言者。口雖言期西方。意實無其志也。淨名經曰。隨其心淨則佛土淨。云云若有往生淨土之意。何先不欲翻妄心乎。身有難治之病。愛身之思深者。至于死猶治之心有難治之病。求往生心切者。何又可不治哉。能觀心性得上定時。雖遮障萬端。而不可有往生留滯。不除業累欣安養者。雖佛大悲願。而引攝力猶難可及歟。文選云。毛嬙西施。善毀者不能蔽其好。嫫姆倭傀。善譽者不能掩其醜。云云凡自性好惡。不依人讚毀。若夫惡業躰醜。彌陀觀音不能掩之。故求淨土者千萬。遂往生者一二。若心性貌麗波旬不能蔽。期心縱疎來迎無疑。故法華疏云。觀已心之高廣。扣無窮之聖應機成。致感逮得已利。云云止觀常坐

(原)中下一有之

人之心。如水從器。器方則方。器圓則圓。云云或書云。麻中蓬。不扶而直。泥底之砂。不染而黑。云云心地觀經云。菩提妙果不難成。眞善知識實難遇。云云故捨惡知識。可親近善知識。依之論語云。無友不如己者。云云心地觀經曰。親近善友爲第一。聽聞正法爲第二。如理思量爲第三。如法修證爲第四。十方一切大聖主。修是四法證菩提云云我等從知識經卷。聞一實菩提。攀覔心息。但信法性。思惟修證。今正是時。三德祕藏理躰。本自無始無終。然而無始而始。始修三觀。無終而終。終至三德。一悅値知識。一責心蒙昧。猶求離三惑。常可修三觀也。

△第十問答料簡釋疑者。問。末代行者。不堪理觀。妄染難轉。即生之中。其行焉成。故金錍論云。大師歎佛法不思議云。二乘及菩薩尚所不能測。何況諸凡夫。而欲判此事。譬如生盲人分別日輪相。

原樹王一顛倒
色一本無
原色一作也
發心一本作發菩薩心
原任一作住

煩惱病。云云又云。如有藥樹王。名無壞根。以其力故。長養一切閻浮提樹。菩提心樹。亦復如是。以其力故。長養一切學無學菩薩善根。云云又云。如衆生品類。近須彌山者。悉同其色。菩提心山。亦復如是。若有近者。皆同彼薩婆若色。云云誠兼濟俱美無過菩提心。而愚鈍身。自無惠解。亦復不遇教授師者。何生發心修行。何世開悟得脫哉。止觀云。既不自覺。又不値師。邪畫日增。生死月甚。如稠林曳曲木。何得出期。云云故三因開發可依知識之緣。種子豈不長雲雨之濕乎。四德圓滿只任善友之教。象牙必待天雷之聲矣。縱令雖有佛種。不遇善緣不萠。法華玄云。若値知識宿善還生。若値惡友則失本心。云云夫登玉樓者。自受照曜之光。入蘭林者。必染芬芳之氣。近善知識。亦復如是。顏氏云。與善人居。如入芝蘭之室。久而自芳。與惡人居。如入鮑魚之肆。久而自臭云云古人諺云。凡

原心下一有時
云云一本作矣
事下一本有發
原普一無功一
無
煙不能薫一本
作煙薫不能害
原一作毒不能
害
原是一作此
原見一作視
原所一無
切下一本有痛

薫諸功德。於百千劫。所不能及。云云凡菩提心功德殊勝。自利利他滅罪生善等巨益無量也。止觀引祕密藏經已云。初菩提心已能除重重十惡。況第二第三第四菩提心耶。云云所言初者。是三藏敎緣界內事。菩提心也何況深信一切衆生。悉有佛性。普願自他身共成佛道。豈無滅罪生善功能。華嚴經中。善財童子。發菩提心。彌勒菩薩。而歎之曰。譬如有人得自在藥。離五怖畏何等爲五。所謂火不能燒。水不能漂。毒不能中。刀不能傷。煙不能熏。菩薩訶薩。亦復如是。發菩提心。攝薩婆若。離五怖畏。何等爲五。所謂不爲欲火所燒。諸有流水。所不能漂。嗔恚惡毒所不能中。煩惱利刀所不能傷。邪見煙熏。所不能害。云云又云。如得住水寶珠。瓔珞其身。入深水中。而不沒溺。得菩提心。住水寶珠。入生死海。而不沈沒云云又云。如得善見藥王滅一切病。得菩提心善見藥王。滅一切衆生。諸

原故如一無

云云一本作矣
原利一作梨羅
一無

惑證理。法界常差別故。皆有發心修行。是以乍往空寂理。而修證佛道。釋籤云。故如夢勤加功空名惑絕。幻因既滿。鏡像果圓。云云四弘是諸佛惣願。初心必可發之矣。若有別願。亦同發之。如釋迦五百大願彌陀四十八願耳。問發菩提心。有何功德耶。答功德甚深。不遑稱計。華嚴經曰。菩薩於生死。最初發心時。一向求菩提。堅固不可動。彼一念功德。深廣無涯際。如來分別說。窮劫不能盡。云云寶積經曰。菩提心功德。若有色方分。周遍虛空界。無能容受者。云云法華疏云。似解之初。初過二乘之極。極百千萬倍。好堅處地芽已百圍頻伽在㲉聲勝衆鳥。云云菩提心論云。若人求佛惠。通達菩提心。父母所生身。即證大覺位。云云華嚴經曰。譬如波利質多羅樹花。一日薰衣。瞻蔔花。婆師華雖千歲薰。所不能及。菩提心華亦復如是。一日所薰功德香。徹十方佛所。一切聲聞緣覺。以無漏智。

㊐也一無
病一本作執
法上一本有其
邊一作數

淺近願聞開會敎。聞已諦思惟。善躰眞善妙有。必到無上菩提。加之以相對種論之煩惱業苦三道。即法身般若解脫三德也。不除其法躰。只改其執情。大乘止觀云。但除其病。而不除法云云若於種類。若於相對。凡厥萬法。納心觀之。六道四生。併皆清淨。如明鏡上現善惡像。知鏡躰已。悉清潔耳。雖心性如此。而我無始迷。聞圓融敎。今開覺之。我既知之。則又欲令他人悟之。如父母得食。而思與其子。故發第一願。謂衆生無邊誓願度也。生死縛著。勞我精神。非空不解自既有縛。若解他縛。無有是處。依之弘決云。爲利他故。先斷已縛云云故發第二願。謂煩惱無邊誓願斷也。復闇三諦之法門。爭能逗於種種根。弘決云。爲度衆生。故須習法門云云故發第三願。謂法門無量誓願知也。若不登法王位者。自行化他不自在。故發第四願。謂無上佛道誓願成也。夫法界常平等故。雖無斷

師下挾注一本爲本文也

無眞實念佛之志。不欲悟法華之人。若聞此旨。定致誹謗。非同志輩。能可秘之。深奧法門。言近意遠。自非遇善知識。而常談話。恒不馴心。恒難悟入。故妙樂大師云。若依之修行。咸須口決。云云又弘決云。四緣雖具開導由師云云（四緣者止觀行者具五緣中其四也五緣者一持戒清淨二衣食具足三閑居靜處四息諸緣務五得善知識也　開導由師者者致授知識耳）自習而可知。非外人所測。發菩提心緣。無過善知識耳。又復一乘開會之意。有種類種。有相對種。若以種類種論之。彼戀愛妻子之癡愛。即應化慈悲。世智三乘之解心亦報佛智慧。衆生皆有心。是法身如來也。又偏求有漏報。不志菩提者。造像起塔。低頭擧手。乃至一稱南無。如此過去微善。願智所掣。咸趣菩提。火焰向空。理數咸滅。水流趣海。法爾無停。但由願智未資便封果報也。記云。善躰本妙。隨執者心。是故開心宿善咸遂云云今有塔寺運步之人。多爲名聞利養故也。暫隨其世情雖成

佛下挾注一本爲本文
原至一作向
影現我身中一本作顯現中入我身
足下挾注一本爲本文

差別。心性而常不二也故恒沙果德。可求我心中。是以經曰。無邊德海本圓滿。還我頂禮心諸佛云云 具如上引之。眞言宗四重曼陀羅三十七尊從因至果從本垂迹之儀式准前後文可知之 不知貧女家有無量伏藏。日夜數他寶自無半錢分。故念彌陀色相莊嚴。方可觀與我心無別。夫能念所念性空寂。不二而二。難思議。我此心性如帝珠。三寶影現中我心。其三寶者。心躰覺知名佛。心體離染名法。心躰無諍名僧。是一體三寶也。凡聖始終。此三具足 三寶亦有三種。別相三寶。住持三寶。一體三寶也。一體三寶者。於一心性立三義也。佛性無二故云一體別相住持功由一念體耳。 一體三寶。心性如帝珠。釋迦彌陀等悉現入我心。同一無二也我等依何宿習。今聞此深妙法乎。若爲利養。若以輕戲。緣心性理。功德甚多。無量無數劫。是法甚難聞。猶如優曇華時時乃一現。爲利爲戲功尚如是。何況發心眞正爲上求下化乎。若非緣正境。縱無妄僞心。勇猛精進行。尚難成佛種。但攀附枝葉。捨其根本。

原 鏡下一有之
原 拂一作掃
原 明下一有得明二字

是調柔金。復念金隨匠得作蛇虫形。即知蛇躰金隨匠成佛像。藏心如眞金。具足違順性。能隨染淨業。顯現凡聖果。以此因緣故。速習無漏業。熏於清淨心。疾成平等德。是故於即時。莫輕御自身。亦勿賤於他。終倶成佛故云云心體自性清淨。染業熏習被覆。所以六道心相被汙故。心性眞金異形色。今隨順諸佛金匠敎。欲顯自心調柔金。不可依功德性之不顯而輕自身。賤他人。鏡本明淨塵積故闇。以闇故不賤鏡。磨之時得明故。是以繫想於心鏡明。而可拂煩惱客塵也。問。何故强欲顯心性法身耶。答。欲顯法身理。爲得般若解脫德也。譬如磨鏡得明寫影也。磨法身鏡。爲得報身智惠明也。要智慧明者。爲寫應用影也。性德三身備我身內。如未磨鏡有明像性。而彌陀如明鏡。修顯之故。衆生如闇境。性具之故。明闇雖異。鏡躰惟同。悟之名出纏眞如。迷之名在纏眞如。迷悟是時用

原爾下有亦

原涅槃一作煩惱

濫一本作亂

原則一無

不二。於修照性。煩惱即菩提。以性了修。生死即涅槃而已。凡繫緣法界。一念法界。一色一香無非中道。己界及佛界。衆生界亦然。陰入皆如。無苦可捨。無明塵勞即是菩提。無集可斷。邊邪皆中正。無道可修。生死即涅槃。無滅可證。無苦無集故無世間。無道無滅故無出世間。純一實相。實相外。更無別法。法性寂然名止。寂而常照名觀。雖言初後。無二無別。問煩惱即菩提。生死即涅槃。無二無別者。不可斷惑證理。若爾同大乘上慢見乎。答法性寂然之故。生死涅槃理性無二。寂而常照之故。五住二死嘗無混濫。得止觀解。除能障惑。是則斷惑證理也。只翻邪執。躰達諸法。止觀云。止能寂諸法。如炙病得穴。衆患悉除。觀能照理。如得珠玉衆寶皆獲云云今止觀並存。不可墮上慢。眞如淨心。寂而照理之日。隨染淨緣故。成六凡四聖。大乘止觀云。譬如見金蛇知是打金作。即解於蛇躰純

原能一無

不修一本無

證得一本顚倒

原見愛一作有見

徹一本作深

誓願。謂法門無量誓願知。無上佛道誓願成。雖知法門永寂如空。誓願修行。永寂雖知菩提無所有無所有中吾故求之雖知法門如空無所有誓願畫繢莊嚴虛空。雖知佛道非能成所成。如虛空中種樹使得花菓。雖知法門及佛果。非修非不修非證非得。以無所證得而證而得。是名非僞非毒名爲眞。非空非見愛名爲正。如此慈悲誓願。與不思議境智。非前非後。同時倶起慈悲即智慧。智慧即慈悲。無緣無念。普覆一切。任運拔苦。自然與樂。不同毒害。不同但空。不同愛見。是名眞正發心菩提義。云云圓菩提心。其義如是。又以開會意。重而助釋之。識不思議境。而發菩提心。一切諸法。悉是佛法。但開其心。無境不轉之故也。是以望南樓秋月。可到眞如之本宮。翫金谷春花。將還寂光之理土。立圓頓行人。觀造境即中。不見一法出法性者。誠秘密奧藏。圓極沖徹者。迷悟躰一修性

然一本作爾
原邊一作數
原雖下一有知
原度上一有願
原斷上一有願
原不一無
原妄下一有謂

燈中。狂計邪點。逾迷逾遠。自惟若此悲他亦然。即起大悲興兩誓願。衆生無邊誓願度。煩惱無邊誓願斷。衆生雖如虛空。誓度如空之衆生。雖知煩惱無所有。誓斷無所有之煩惱。雖知衆生數甚多。而度甚多之衆生。雖知煩惱無邊底。而斷無邊底之煩惱。雖知衆生如如佛如。而度如佛如之衆生。雖知煩惱如實相。而斷如實相之煩惱。何者若但拔苦因。不拔苦果。此誓雜毒。故須觀空。若偏觀空。則不見衆生可度。是名著空者。諸佛所不化。若偏見衆生可度。即墮愛見大悲。非解脫道。今則非毒非僞故名爲眞。非空邊非有邊。故名爲正。如鳥飛空終不住空。雖不住空跡不可尋。雖空而度。雖度而空。是故誓與虛空共鬪。故名眞正發菩提心。即此意也。又識不思議心一樂心一切樂心。我及衆生。昔雖求樂。不知樂因。如執瓦礫謂如意珠。妄指螢光呼爲日月。今方始解。故起大悲興兩

原之一無
原之一無
深一本作除
還以一本顛倒
換一本作擐

若。云云念念之中照了諸法。不受不著。是則能見般若也。以此因緣得與三昧相應。三昧力故。即見普賢文殊。觀音勢至。及釋迦彌陀等。十方諸佛摩頂說法。一切之法門悉現一念中。譬如明鏡不動。色像分明。淨水無波。魚石自現也。誰聞如是法。不發菩提心。除彼不肖人癡冥無智者。

△第九發眞正菩提心者。往生極樂業因菩提心爲根本。安樂集引大經曰。凡欲往生淨土。要須發菩提心爲源。云云。當知菩提心。是欣求淨土綱要也。若爾云何發之耶。止觀云。發眞正菩提心者。既深識不思議境。知一苦一切苦。自悲昔苦起惑躭湎麁弊色聲。從身口意。作不善業。輪環惡趣。嬰諸熱惱。身苦心苦。而自毀傷。而今還以愛羂自纏癡燈所害。百千萬劫。一何痛哉。設使欲捨三途。欣五戒十善。相心修福。如市易博換。翻更益罪。似魚入笱口。蛾赴

相一本作性

眞一本作心

今一本作令

云云一本無云云下挾注一本爲本文

㊀見上能經無云云一本作矣

皆如。顚倒因緣妄心起。如是罪相本來空。三世之中無所得。非內非外非中間。性相如如倶不動。眞如妙理絕名言。唯有聖智能通達。非有非無非有無。非不有無離名相。周遍法界無生滅。諸佛本來同一體。唯願諸佛垂加護。能滅一切顚倒心。願我早悟眞性源。速證如來無上道。云云今行此理懺悔。則眞念佛三昧。佛藏經念佛品曰。見無所有。名爲念佛。見諸法實相。名爲念佛。無有分別。無取無捨。是眞念佛。云云（前後所明中道第一義等觀悉皆應攝入理懺悔並念佛三昧。）問如是懺悔。有何勝德。答心地觀經曰。在家能招煩惱因。出家亦破淸淨戒。若能如法懺悔者。所有煩惱悉皆除。乃至懺悔能出三界獄。懺悔能開菩提華。懺悔能見佛大圓鏡。懺悔能至於寶所。云云修此懺悔心如流水。不往法中。洗除六根罪垢。身心淸淨。大論曰。念想觀已除。戲論心皆滅。無量衆罪除。淸淨心常一。如是尊妙人。則能見般

原經一無、
識一本無
原也一無

盧遮那遍一切處。其佛住處名常寂光云云寂光理通如鏡如器。諸土隔異如像如飯。當知諸法影像。寂光理鏡。一色一香無非中道。而妄想分別受諸熱惱。今覺鏡躰之明徹。不執影像之假有。生重慚愧。發露懺悔。悪業煩惱。一時消滅。心地觀經曰。如是心法本非有。凡夫執迷謂非無。若能觀心躰性空。惑障不生便解脫。云云上所引文曰。令此空慧與心相應。譬如日出時朝露一時失云云罪業雖無始積聚。一空觀力令然也。如千歲闇室挑一燈之時。衆闇悉除。未曾有經曰。前心作惡如雲覆月。後心起善如炬消闇云云又嚴冬之氷雖厚。春風吹兮解之。寒夜之霜雖深。朝日照兮消之。觀無生懺悔亦復如是。故普賢觀經曰。衆罪如霜露。慧日能消除。是故應至心懺悔六情根云云是名大懺悔。名莊嚴懺悔。名無罪相懺悔。名破壞心識懺悔也。心地觀經明理懺悔云。一切諸罪性

原是一作此

原法也一無

原乾闥一作揵達

原在一作有故一本無

原死下一有之

一切皆如是。尋常之時。不修習空觀者。瞑目之尅。三種愛難治歟。遣穢土執。受淨國生。偏可依空觀之力也。是觀無生懺悔。是法華三昧行法也。造次顚沛。不雜餘念。或取譬於空華。或寄思於谷響。靜案之苦觀之。實一切諸法。有而不有。如旋火輪。不有而有。如乾闥城。而森羅萬法。以心爲主。以心有故。一切皆有。以心空故。一切皆空也。尋心有無。可入妙觀。法華玄云。心如幻炎。但有名字。名之爲心。適言其有。不見色質。言其無。復起慮想。不可以有無思度。故名心爲妙云云今識心體本來空寂。悔依執有而所造業。所以執實有故在五欲境。心地觀經曰。心如猿猴。遊五欲樹。不暫住故。心如僮僕。爲諸煩惱所策役故云云依煩惱所使。造十惡五逆。六情根所犯罪。遍滿二十五有。三途八難。無不經中。輪廻無量業。皆從自心生。故心生死根本。衆苦之源也。普賢觀經曰。釋迦牟尼。名毗

故一本無
原之一本無

法。十方大士之弘經。偏以一心三諦爲最要衆生出離生死根源故也。三教權門。助道之方便耳。

△第八修空觀行懺悔者。修以前觀門。雖罪業無殘。而妄情至拙。猶常迷有。故重明萬法皆空理。懺悔無始已來罪根。凡懺悔衆罪之要。莫如觀理性之空。若爾云何觀之。謂以自他共無因四性推撿諸法而不可得也。如以眠心共離推夢不可得也。止觀云。若依心有夢者。不眠應有夢。若依眠有夢者。死人如眠應有夢。若眠心兩合而有夢者。眠人那有不夢時。又眠心各有夢。合可有夢。各既無夢。合不應有。若離心離眠。而有夢者。虛空離二。應常有夢。四句求夢。尙不可得。云何於眠夢見一切事。云云 諸法亦爾。從法性心不生。從無明眠不生。共而不生。離而不生。故中論云。諸法不自生。亦不從他生。不共不無因。是故說無生。云云 能觀之心。所緣之境

原密一無說一作觀下一心一本在觀上二上一本有是

原二一作旨

原夫下一有之

弗下挾註爲本文

原諸一作緒之二字

原微下一有之

典下一本有也

言秘密敎阿字本不生意也。本不生者詞端也。阿字有三諦義。故無畏。不空三密同躰之說。南岳。天台三觀一心之宗。顯密雖異。二趣惟同 一心三諦中。殊可繫心於第一義空。凡夫迷情深。被封妄我有執故也 玄樞引有頌云。人生百歲情多放逸。不如一日歸心空寂云云 是以或時觀達無始無明之源底。或時照了見思麁惑之末流。拂妄想雲霧。顯心性月輪。是名即身成佛。成佛有六即位。謂理即。名字。觀行。相似分眞。究竟也。止觀云譬如貧人家有寶藏。而無知者。知識示之即得知也。耘除草穢。而掘出之漸漸得近。近已藏開盡取用之。合六喩可解云云 弘決云。家有寶藏理即也。知識示之名字即也。耘除衆穢觀行即也。漸漸得近相似即也。近已藏開分眞即也。盡取用之究竟即也。云云大經貧女譬意也 是名直至道場。實髻中明珠。亦無上寶聚也。彌陀名字之所詮。往生極樂之指南也。莫忽諸。但下劣根機聞幽微之理。有毀呰者。有嘲哢者。或嬾聞或增眼。其時應作此念。我無明毒氣深入。不堪妙法良藥也。縱雖不順心。遂應有巨益。孔丘云。良藥苦於口。而利於病。忠言逆於耳。而利於行。云云 俗典如斯。佛敎准之。凡三世諸佛之說

結成氷離水無氷非水而有氷。終無有是處。是一家終窮之極說。非思量分別之所解故淨名居士杜口滿願尊者默然但一實中道理雖思慮處亡。四悉隨緣敎。亦依言說顯之。故取天台妙樂釋意。欲扶三諦觀解。離三障四魔難。可依此妙觀力。凡法界洞朗無非如來藏理。而我等從無始至于今日。凡夫具縛身在如來藏中。而不覺不知。行住坐臥爲理所傷譬如大富盲兒坐寶藏中。都無所見。動轉罣礙爲寶所傷二乘不能明見藏理。謂之爲四住。譬如眇目不明見珍寶誤謂鬼虎龍蛇。二乘眇目不明見藏理珍寶。謂爲四住鬼虎等。棄背馳走跉跰辛苦。唯圓寶菩薩。得種智明眼。知四住龍蛇等體是如來藏理寶。如來藏理者大師釋云。一念心即如來藏理。如故即空。藏故即假。理故即中。三智一心中具。不可思議。云云是則一心三諦稱如來藏理也。一心三諦。大畧如斯。具如第二章。不遑委記。亦是眞

諦下一有之
原非一作不
原縛下一有之
原蛇下一有等
原也一無也下挾註一本爲本文

原雜一作共

原種者下即一無

原是性一無

原理一無

原大小一無

耶妄我。從梨耶一念。生六識七識。逆流而歸源。亦至中道無性。中道無性。即佛種也。佛種者。即三千即空即假即中性。是性是則三因佛性也。而三千在理。同名無明。三千果成咸稱常樂。欲起佛種得常樂果。須一乘教習無生觀。故介爾妄心若起者次第尋之。令歸空寂。菩提心論云。妄心若起知而勿隨。妄若息時。心源空寂。云云又知三千諸法。在無始一念無明。惣觀空假中。是一心三觀也。一家所立不思議境。於一念中。理具三千。故一念中。具有因果凡聖大小依正自他。而此三千。性是中理。一念所具百界三千。更互趣一。是趣不過。一念三千。性相無生。雖一念有而不有。雖三千存。無所有一念三千。共而不雜。一念三千。離亦不分。彼彼一念。彼彼三千。雖遍法界。亦無所在。不可偏有。不可偏無。唯是不思議一實中道也雙非亡二邊。雙照恒存空假。雖存空假。無離中道。猶如水

原 竭一作渇

門下挾注一本為本文

得下挾注一本為本文

原 推貪嗔一無

原 心眼間一有也

原 即一無空下一本有也

者見思塵沙流竭。五逆十惡條枯。惡業煩惱滅者。永不受生死苦。治其淵源方云何。所謂觀我心自空罪福無主也。止觀云。了達貪欲嗔癡之心。皆是寂靜門（弘決云。寂靜門者。由觀心故。通至寂靜。是故諸心為寂靜門。）何以故貪嗔若起。在何處住。知此貪嗔。住於妄念。妄念住於顛倒。顛倒住身見。身見住於我見。我見則無住處。十方諦求。我不可得（弘決云。此中所計非神我也。俱是無始妄計假名）我心自空。罪福無主。深達罪禍相。遍照於十方。令此空慧與心相應。譬如日出時朝露一時失（云云）弘決云。昔從無住起於我見乃至貪嗔。今却推貪嗔。至無住處。根本既去。枝條自傾（云云）當知我心者無始無明眠心。眠心依覺心。故覺心是實。眠心是空也眠心既空。眠夢所豈實乎。無明眠心。即中道第一義空。分段變易二種生死夢何有乎。觀能生我心無主故。所生罪福亦無主。罪福無主。諸法皆空。弘決云。無住者。中道無性也。迷中道無性。生梨

(原)地及其一無
歲上千一本無
(原)否一作不
(原)眠一作迷
迷下一本有也
下癡上一本有瞋
(原)則一作故
(原)明下一有之
(原)死下一有之

輭之語。唯聞牛頭馬頭之惡聲。黑繩地獄獄卒。呵責罪人云。心是第一怨。此怨最爲惡。此怨能縛人。送到閻羅所。汝獨地獄燒。爲惡業所食。妻子兄弟等。親族不能救。云云罪人聞此呵責之聲。被逼道理。不知所陳。龍樹云。若復有人。一日中以三百矛鑽其躰。比阿鼻地獄一念苦。百千萬分不及其一。云云若人爲療病。一處加灸針。片時苦患。猶割心肝。況多百千歲之間。預劍剝燒煮之害。寧忍耶否。又堪柰何。凡如此多劫海流轉生死苦。由元初無明闇識昏眠也。止觀云。自從無始。闇識昏迷。煩惱所醉。妄計人我。計人我故起於身見。身見故妄想顚倒。妄想顚倒故。起貪瞋癡。癡故廣造諸業。業則流轉生死。云云是則順生死而流轉根源也。

△第七敎出離生死觀者。廻何善巧方便。可出離生死輪廻。謂觀無明根本可絕生死枝條也。所以以中道樂府藏。治無明病淵源

原 蠶下之一無
原 人下之一無
原 熱下一有之
原 樹一作林

猛火。他身出猛火。互相燒害。如燒乾草。四角有四銅狗。身長四十由旬。毛孔出炎。猛火彌熾。其煙臭惡。取譬無類。有八萬四千大蛇。吐毒吐火。滿城中。其蛇吼聲如百千雷。有十八獄卒。頭有八牛頭。六十四眼。迸散鐵丸。角頭出炎。牙上流火。一切猛火。併聚集鐵城中。縱人間火者傾海水則可滅。是惡業火故。非人力之所及。非異人造惡業。而異人感苦果。自業所招受大苦惱。譬如夜蛾之不知燒愛火而競入。春蠶之不知煮。食桑而自纏耳。正法念經說焦熱地獄云。若以此獄豆許之火。置閻浮提。一時焚盡。況罪人之身輭如生蘇。長時焚燒。豈可忍哉。云云焦熱火猶爾。何況無間乎。其餘地獄苦雖劣於無間。見聞覺知境界。猶皆受苦根源也。無櫻梅之悅目。只有劍樹之碎身肉。無泉水之養心。只有銅湯之徹骨髓。不見妻子眷屬仁義之姿。唯見阿防羅刹之怒形。不聞朋友知識柔

(原)帝一作軍
(原)慳上一有以
(原)之身一顚倒
(原)之心一顚倒 孔一本作吼
(原)何一無

酬。而恣莫造惡業。罪相臨終始顯現。如春下種秋得實。平生修善根最後有大喜。翻之可知憍慢勝他業。墮阿修羅道。與天帝鬪。常懷怖畏。雷鳴謂爲天鼓。龍雨變成刀劍。日日三時苦。自來相逼害。愚癡無智者。生在畜生道。若大小若强弱。互食噉於自類。或被繫縛。或加鞭撻。加之有明珠羽角。貪之而殺。有骨毛皮肉。爲之被害。但念水草。餘無所知。慳貪嫉妬之因。受餓鬼飢饉苦。一萬五千歲。不聞飲食名。欲入山而拾菓變成鐵丸。欲臨河而掬水。化成猛火。或屠子續命。或碎腦扶身。非血肉之身不痛。將存身命無餘計故也。非慈子之心不深。將止飢饉。無他資故也。瑜伽論云。口如針孔腹如大山。縱逢飲食無由噉之。云云瞋恚熾盛。往地獄道。地獄多種。暫明無間相者。縱廣幾何許。八萬由旬也。上覆七重鐵網。下隔七重鐵墻。中滿猛火。無少間隙。凡八方上下。一切唯火焰。自身出

原於一無
原惡一作根
原入下一有之
原終一無
原墓下一有之
原魔下一有之
原捨下一有相
原之業一顚倒

不趣正路。雖存常住不變之思。自然歸於必滅之理。至啓手之期。臨瞑目之尅。諸根散壞。不施其用。眼不見諸方色。耳不聞善惡聲。鼻根不辨香臭。舌根不覺甘苦。身黏席不擧動。心轉惶無了知。留而不留。魂去眼閉。惜而不惜。出入息絕。當于其時。夫婦之並枕也。畏而自遠。眷屬之擎膳也。厭而不近。最後之訪者。只荒原送終而已。屍空埋墳墓下。魂獨往焰魔廳。平生憑諸佛菩薩之願王。唯此願王不捨離。在世營殺盜婬等之黑業。唯有黑業常隨逐。善惡之業外。全無餘伴侶。垂哀憐之父母兄弟。無從來者。憶我有之綾羅錦繡。徒爲他寶。冥冥獨逝。誰訪是非。投多百踰繕那洞燃猛火之時。至孝之子不代苦。多年之友不往問。四大未分離之前。終不務修善本者。最後刹那必嬰此苦。龍樹云。夫造衆惡不即報。非如刀劍交傷割。臨終罪相始俱現。後入地獄嬰諸苦。云云 即時驕無其

輔一本作補
原曰一作云下同
財一本作寶
尺一作釋
分一本作今
原留而一無

散壞。一切親屬悉皆捨離。一切威勢悉皆退失。輔相大臣宮城內外。象馬車乘珍。寶伏藏。如是一切無復相隨。唯此願王不相捨離。云云　寶積經曰。父母兄弟。及妻子朋友。僮僕並珍財。死去無一來相親。唯有黑業。常隨逐。云云　止觀云。四方馳求。貯積聚斂。聚斂未足。溘然長往。所有產貨。徒爲他有。冥冥獨逝。誰訪是非。云云　死者。是終天之別。如尺波不返。長夜一去。何日再會。凡生死無常者不擇貴賤上下。不簡老少中年也。而世人之愚也。於老少不定之境。成千秋萬歲之執。只望財位之踰分。不知榮樂之有終。罪業應報經曰。日出須臾沒。月滿已復缺。尊榮高貴者。無常速過是。云云　忘生者必滅之理。偏爲五欲所使者。五欲樂既極。留而尚不從冥途無益。何況貪海呑流。東西馳走。聚斂未足。溘然永逝乎。譬如微牛駕車。身疲而死。口談他無常。更不顧我身。而無常鞭徹骨髓。心馬

原 惜身等十三字一無

原 唯非一顛倒

子含悲。無力對治。決定應受業。祈請難得驗。止觀云。不推先罪招禍。而言修善無福。起大邪見。又惜身養命。魚肉辛酒。非時無度。或病差身壯。五欲恣情。善心都盡。惡業熾盛。云云病痾侵身。宿業之所致。欲除之者。可懺悔罪根。猶如樹絕根。百枝悉枯。耳不推先罪起邪見。依病彌惡業熾盛。是撥無因果。一闡提人也。身心有病者。喜弃五陰八苦身。平復尋常者。宜積四弘六度行。若爾沈病而彌長善根。差病而倍增功德。捨分段血肉之身。生內外清淨之土。不競此時。將期何生。若不如此觀者。唯非今生受病惱。更亦來世遇重苦。死苦者弘決云。人命欲盡。必爲業力。散風所解。如解韛囊。使息風不續。如解溝瀆。使血脉不流。如解機關。使筋節不應。如解火炬。使煖氣滅盡。如解坏器。使骨肉分離。四大既分。應遇塗炭。如何端拱不修善本。云云普賢十願云。臨命終時最後刹那。一切諸根悉皆

原衣上一有以
原踏踐一作陷
賤
竭一本作盡
原逮一作還
原髮一作鬢
原易一作安

方絶。正法念經曰。天上欲退時。心生大苦惱。地獄衆苦毒。十六不及一 云云色無色中雖無五衰。皆爲無常行苦所遷。有退沒苦。其相可知。依昔持五戒之故。今來人中。人中亦有四苦。四苦者。生老病死也。生苦者寶積經曰。若男若女。適生墮地。或以手捧。或衣承接。或冬夏時。冷熱風觸。受大苦惱。如生剝牛觸於墻壁 云云誕生苦患。蓋以如是老苦者。法句經曰。少時如意。老見踏踐。老羸氣竭。思故何逮。 云云紅顏玄髮之壯日。衆人競以響應。霜蓬凍梨之暮年。衆人競以惡賤。居今思古。落涙潸然。奔車易轉。流水難返。力追日衰。氣隨時滅。諸根耄爛。起居不易。榮望永盡。只待終焉。病苦者一大不調。一百一病。四大不調。四百四病。若一病若衆病。或異時或同時。痛六根惱五躰。雖華他遍鵲。醫術以無益。逐月累日身心羸劣。忘却多年之歡樂。不耐一時之憂苦。父母流涙不能救療。妻

原生死一作起
原止觀一作弘決
竊一本作性
原起至等八字一無
原光一作炎
原裏一作中
原生一作上
原命一作欲
原喜見一作善見
原歲下有之

△第六知流轉生死源者。凡欲治病者。須知病起緣生死煩惱之病其根源云何。止觀云。無明法法性。一心一切心。如彼昏眠達無明即法性。一切心一心。如彼醒竊云云我等何不悟法性之一心深迷昏眠之一切乎。倩思其由來。無始無明之眠。覆本覺理以來法性一覺心變。成二種生死夢一切心也。止觀云。無明癡惑本是法性。以癡迷故法性變作無明。起諸顛倒善不善等。如寒來結水變作堅氷。又如眠來變心有種種夢。云云因茲虛妄夢中成實有執。觸五塵六欲境起四倒三毒惑。由貪欲嗔癡之故造種種不善之業。因果之所尅輪環于生死其流轉之間受於難忍苦。適依十善修因。生天趣中。有五衰苦。雖非日光之所照。頭上華鬘忽萎。雖是白業之所感。衣裏塵垢自著。項生相戰時只有視眴異。退沒愁至兩目頻眴。殊勝殿本居臨命終時已忘喜見城快樂億千歲後

原因果等三字一無
心一本無

原曰一作云

原想下一有之
原淨一作清

修下德一本作得
原感一作應

一心具凡聖因果等者。謂心即是也非是於異體諸法而縱橫具之。止觀云。若從一心生一切法者。此則是縱。若心一時含一切法者。此即是橫。縱亦不可。橫亦不可。只心是一切法。一切法是心。云云今此釋文。隨緣不變之意也。只心是一切法者。隨緣眞如。一切法是心者。不變眞如。金錍論云萬法是眞如。由不變故。眞如是萬法。由隨緣故。云云譬如一海水上揚種種波。即海水而波。豈非隨緣眞如之意。點波而海水。寔是不變眞如之理。哀哉悲哉。不變眞如海上。立煩惱泥濁波乎。但觀無量壽經曰。諸佛如來是法界身。入一切衆生心想中。云云水精珠入泥濁水。即澄淨也。彌陀水精珠入我心水中。煩惱泥濁自然澄矣。當知以性德論之。凡聖備一心。以修德論之。機感即相關。旁思彌陀利生。引攝不疑。永離五道流轉。宜在此時耳。

㊟刀下之一無

變一本作辨

非曾身體不成疵。亦能造衆寶具。少兒不辨刀之損益用。大人能知之故也。凡夫小兒持煩惱利刀。成二死之害。不解煩惱損益用故也。諸佛大人非曾不損於法身體。亦造九界形聲之寶。以能了達惡法故也。仁王經曰。菩薩未成佛時。以菩提爲煩惱。菩薩成佛時。以煩惱爲菩提云云　妙樂大師云。迷則三道流轉。悟則果中勝用云云　煩惱雖同。依人則異。非是煩惱自體定惡。故我等蒙彌陀應化之益。即可依果地性惡之力。抑九界即佛界如福德人之執瓦礫而成金寶。三權即一實。如大醫王之變毒藥而成良藥也。弘決云。石毒寶藥。性本不二。隨人所感。各見不同。諸法亦爾。本是法界。前三教人。謂爲苦集。圓頓智照。義之如執。即是法界。如成寶等。云云　故三權所空之苦集即一實所照之道滅。偏教理外說諸法。圓頓體內談三千故也。問心性理體具凡聖因果等方云何。答

原既是一作即是
原婉一作婊又作孩
原既一作己
原問一無
要一本作惡
過一本在惡下
分形至利生一本作分形於六
情垂應於十方
施隨類利生恣
度難化之有情

鼻依正全處極聖自心。毗盧身土不逾凡下一念。云云極聖凡下因果遙異。既是一如。中間諸界機應相近准之可知。問九界備佛界性故。轉惡遂成正覺者。亦佛界有九界性故。翻善還可成凡夫耶答不爾。觀音玄云。闡提不了於性善。是故修善還得起。佛能了達於性惡是故修惡不得起。云云體達惡法源底故聖還而不成凡也幼婉之既成長還不可迷水火者乎問若爾佛地惡法。有何用耶答義例云。佛本不斷性惡法故。性惡若斷普現色身。從何而立。云云誠利物權道之要。無過性惡而已。是以彌陀如來分形於六道。恣度難化之有情。垂應於十方。飽施隨類之利生。只是性德善惡俱法門而不斷之故也。問煩惱業苦三道。爲衆生怨也。彌陀如來乍具九界妄染。爲之不被侵害。亦何還爲利生方便。以惡治惡其理難成乎。答譬如有一利刀。小兒持之成於損害。大人得之

（原）性一作清

知之。於菩提中見不清淨。於解脫中而起纏縛。指彼一心中萬性。性。名佛性。稱法身也。法身遍五道。蓋淤泥中水濕也。佛性在九界。如竹木中火性矣。凡厭生死苦欣涅槃樂。發菩提心蒙佛加被。是具縛身中眞如佛性力也。究竟一乘寶性論云。若無佛性者。不得厭諸苦。不求涅槃樂。云云弘決云。自非內熏何能生悟。故知生悟力在眞如。云云大乘止觀云。但爲諸佛同體智力所護念故。修人天善。遇善知識漸發道心。即是性淨之用也。云云因玆達多之預記莂也。遂出阿鼻城之煙焰。龍女之沈畜趣也。忽坐無垢界之寶蓮。當知佛性在內。眞如薰起之故。釋尊同體慈悲垂無作之應也。畜生猶爾。況人倫哉。惡逆如此。況生信乎。我等蒙彌陀護念。亦可依法性薰力。善哉聞此旨。今既衣裏繫珠。何以歎乏聖財。是宿因之催善緣之扶也。又非啻凡下有佛性。亦乃聖人備凡性。金錍論云。阿

三〇

原之理一顛倒
始非一本顛倒
原曰一作云
禮下心一本作心
原曰一作云
原曰一作云

臺同眞如之生諸法。珠內無寶性何能雨衆寶。彌陀普現三昧之應用。體內三千性相之外顯也。止觀云。若內無是德。則外無大用。寄外顯內。其相如是。云云　弘決云。當知身土一念三千。故成道時稱此本理。一身一念遍於法界。云云　盡無明住地惑。歸本覺眞如之理時。只是顯本有三千。始非得果位萬德。爰知我等一念心性。無始已來。備三身萬德也。蓮華三昧經曰。歸命本覺心法身。常住妙法心蓮臺。本來具足三身德。三十七尊住心城。普門塵數諸三昧遠離因果法然具。無邊德海本圓滿。還我頂禮心諸佛。云云　般若經曰佛法非遙。心中即近。眞如無外。棄身何求。云云　華嚴經曰。若人欲了知三世一切佛。應當如是觀心造諸如來。云云　法華玄云。若衆生無佛知見何所論開。當知佛之知見藴在衆生。云云　淨名經曰。諸佛解脫。當於衆生心行中求。云云　然而妄想力强不覺

原陀下一有之
原觀一作諦
原曰一作云
妙一本無
衆生下一作本衆生得道爲妙機也
現一本作觀

欣極樂土。乍似極樂非空觀境。雖然既云亡泯三千。何忽滯於彌陀依正乎。假觀之日淨穢宛然。尙願捨穢而得淨也淨名經曰雖知諸佛國及與衆生空。而常修淨土敎化於群生。云云是以非厭離閻浮而厭離之。非欣求極樂而欣求之。若空觀不相應。而求安樂。全同欣上厭下之觀乎。故雖空而往生。雖往生而空耳。

△第五釋凡聖備一心者。往生極樂成佛華報。證大菩提所期果報也。先離苦界。詣彼淨刹。欲除深重罪障瞻彌陀尊容者是憑凡聖在一心機應不相隔故也佛陀之垂九界妙應也。非本無今有。衆生之爲得道妙機也。是無始理具。但十界互具誰機誰應。三諦圓融何體何用。然二而不二之故。實雖無彼此差別。不二而二之故。亦論機應辨體用故。空假二用開自中道體。則機應萬差無不顯心性。所以明鏡之浮萬像。宛似心性之現三千。寶珠之雨七珍。

原是以至釋云八字一無
原封一本作對
原曰一作云
原之一無
原是一作此
有疑一本顚倒
原能一無

極樂。是以荊溪大師釋云。不離同居穢。見同居淨云云故深信觀成。人於娑婆見四種佛土。而我等隔淨見穢。被封妄想。於一見異。猶如於一河水人間見冷水。餓鬼見猛火等也。隨業力所見不同也。非是法體本自永異。只執其穢國不觀嚴淨土。豈異棄金銀而取瓦礫乎。藥王品說如說修行人曰。於此命終。即往安樂世界。乃至生蓮華中云云於此命終者。修行法華惡業命終也。即往安樂世界者。住安樂行也。安樂行者。法華經行也 即往者。即生轉惑業心。成極樂之淸淨衆心也。生蓮華中者生理解入妙法蓮華法門中也。如是修行得無生法忍。眼根淸淨見諸佛如來。猶如晴夜見星。紺頂白毫。明現眼前。寶樹檀林。如在掌中。乍住此土。先得同居淨土之氣分。順次往生不可有疑。根性遲鈍故。縱今生之内不能見於淨土。遂依此觀力。順次必生上品蓮臺。但前勸於入空離娑婆執出假

原 空中雲一作虛空中

原 挾註意一無

我心下一本有身

原 曰一作云

原 性一作界

存者。如空中雲須臾散滅。是身虛僞猶如芭蕉。爲怨爲賊不可親近。如毒蛇篋誰當愛樂。是故諸佛常呵此身。云云 實能觀此身讎敵也。怨賊也。煩惱恒起奪聖財故。如浮雲如芭蕉。待無常風終不保故。此是假諦生滅無常也。二者假諦即法界一法定不一法。以石毒寶樂之文可得意如下出之 觀一塵法界。我心無分齊。三千融通。心念朗達。憶想熏習。眼明見之。經說六根清淨人曰。又如淨明鏡悉見諸色像。菩薩於淨身皆見世所有。云云 假諦三千理體本無隔。攝心思惟妄想慚蕩。父母所生身現十界依正。是以四土本是一三身遍法界。我身即彌陀。彌陀即我身。娑婆即極樂。極樂即娑婆。譬如因陀羅網互相影現。故遙過十萬億國土不可求安養淨刹。翻一念妄心而思法性理。已心見佛身。已心見淨土。得法性明鏡身。無像而不現也。淨穢唯是迷悟差別。爲迷者極樂即娑婆。覺悟前娑婆即

原底一作庭
原愛一作憂
原木一作水
趣下一本有之
原畢一作了
原曰一作云

餘算幾程。旃陀羅驅羊令至屠所。歩歩近死地。斯有何少樂。無常旃陀羅。驅我令至火血刀屠所。日暮夜明將近死地。何不驚於生涯之易暮。而修解脱生死之善根。劫初無量歳。猶有滅盡期。何況今世泡沫之命乎。昨誇紅顏。今爲白骨。唯是朝露之底貪名利。夕陽之前愛子孫。一息出入是名壽命。出入不通是名命終。身煥漸冷如木無覺。心燈忽滅萬劫不復。中有羇路孤獨無伴。晝夜常行不知邊際。深邃黑闇無有光明。適生緣合時神去無數界。刹那須臾頃定諸趣生處。纔生善處遂有其終。所以雖受梵天離欲娯。還墮無間熾燃苦。雖居天宮具光明。後入地獄黑闇中。譬如有人彎弓而射虛空。箭力盡畢還下于地耳。涅槃經曰。一切諸世間。生者皆歸死。壽命雖無量。要必有終盡。云馬鳴伎聲唱曰。有爲諸法如幻如化。三界獄縛無一可樂。王位高顯勢力自在。無常既至誰得

原皆下一有是
高一本作有
原高一作在
原土下一有之
二下一本有之

爲假名。亦是中道義云安樂佛土。因緣所生。即空即假即中。云何即空謂彌陀依正從淨業因緣生。緣生無主。無主即空。云何即假。謂無主而生。即是假。云何即中。謂不出法性。並皆即中。當知極樂一念三千。並畢竟空。並如來藏。並實相也。非三而三。三而非三。所觀淨土如此。能觀身心亦爾。抑我等思深八功德池。如池魚之求江湖。望高七重寶樹。同籠鳥之欣山藪。唯願彌陀尊照見我心願。

△第四辨空假中蕩執者。欣求西方淨刹者。先可遣此土執也。凡諸法道理。不過三諦。入空中蕩娑婆妄執。出假諦欣西方佛土。遍自他依正。亘凡聖因果。常作三諦之觀。可破凡夫迷情。所以中道不思議境。不可有著不著。空無所有。成何執乎。假諦可有二義。一者生滅無常。旦暮難測。縱得八十年壽人。連持未足三萬日。計其一期間日數。纔二萬八千餘日也。日月奔走如策駿馬。盛年半過

(原)現一作見細註一本爲本文
(原)挾註經下一有三昧二字救一本作拔
相下見一本在好下
(原)毫相下一有之
列一本作烈
(原)報一作法

王之愈病。三善光滅三毒。六度光破六蔽。即知我等在彼光中鎮被照耀。煩惱障眼。不得見之。雖不得見。大悲無倦。常照我身。罪業自除。過去空王佛。眉間白毫相。彌陀尊禮敬。滅罪今得佛。我亦禮敬彌陀白毫。滅無始罪。證得佛道。觀白毫一相。自成觀諸相。觀無量壽經曰。觀無量壽佛者。從一相好入。但觀眉間白毫。極令明了。見眉間白毫者。八萬四千相好。自然當現。觀佛經曰。從無量劫晝夜精進。身心無懈。如救頭然。勤修六度三十七品十力無畏大慈大悲諸妙功德。得此白毫。觀此相者。除却九十六億那由他恒河沙微塵數劫生死之罪云云所以者何。今此白毫光明者。是中道第一義光也。中道白毫。圓融無礙。華藏世界所有塵。一一塵中見法界。毫光化作無邊佛事。亦即一相。見諸相好。唯心毫相故也。加之大小之相好。列星照耀大圓鏡智之膚。萬德之瓔珞。垂露飄飄寂滅忍辱之衣。依報正報大略在斯。今惣付淨土。亦作觀解者。中論云。因緣所生法。我說即是空。亦名

原其色一無一作其光
原七百一作七萬
原下各一無
原彼佛一無
攝一本作接
原曰一作云

其色微妙。具衆寶色。惣而言之。七百五倶胝六百萬光明。熾然赫奕。神德巍巍。如金山王在大海中。無量化佛菩薩。充滿光中。各各現神通。圍遶阿彌陀佛。彼佛如是具足無量功德相好。在菩薩衆會中。演說正法。非唯白毫光。從身諸毛孔。演出光明。如須彌山。一一光明。遍照十方世界。如夜闇中燃大炬火。念佛衆生。攝取不捨。但攝取念佛衆生。而非捨不念者。大般若經曰。十方世界。無一有情如來大悲所不能照云云　無緣大悲光明。有何彼此愛憎。雖然不念。自然隔機。猶如盲者不見日光。彼念佛衆生中。若有應以佛身得度者。此光即現八相成道。應以九法界身得度者。此光亦示隨類之化。凡三界六道二十五有。界內界外。百界千如。普門塵數。無邊色身。皆能顯現。說法利生。作無盡佛事。冥顯益無窮。或放大慈光。與一實樂。似如意珠之雨寶。或放大悲光。拔九界苦。如藥樹

原條一作彼
原在佛一作佛在
遇一本作過
原曰一作云來下一下一本有一
自下一本有先
原眉下之一無
原右旋一無
兜一本作都
原現一本在見下
原一下相一無
一一相好一本無

白銀樹上覆羅網。羅網之金鈴。有常樂我淨之響。條間垂瓔珞。瓔珞之眞珠。現法界圓融之色。樹下有座莊嚴無量。座上在佛相好無邊。妙覺尊上粧。近之如遇七世之父母。見者無厭德。尋之起於一子之慈悲。經曰。清淨慈門刹塵數。共生如來一妙相。一一諸相莫不然。是故見者無厭足。云云青蓮眼鮮。紫金膚潔。乃至滿字之開胷間千輪之顯趺下。皆出自無作誓願。併被成平等慈悲。誰人見之。不生渴仰。彼面輪圓滿。留秋月之光。雙眉皎淨。似天帝之弓。雙眉之間白毫。右旋宛轉。如金鏡上立水精珠。鮮白逾於珂雪。柔輭如兜羅綿。表裏俱映徹。如白瑠璃筒。於十方面現無量光。如萬億日。不可具見。但於光中。現諸蓮華。上過無量塵數世界。華華相次。團圓正等。一一華上。一化佛坐。相好莊嚴。眷屬圍遶。一一化佛。復出無量光。於中復有八萬四千相好。一一相好有八萬四千光。

原 惑一作迷
寶一本作血

令聞者進佛道。內無重惡。外無愛染。六根得理。六塵自在。聞聲開悟。見色斷惑。玉樓之鏤金銀。不成著。點玉樓以體達空寂之故。寶地之敷瑠璃。不留執。即寶地以徹見十方之故。瑤池浪聲。演一實中道之教。琪樹風響。說三諦即是之法。又彼土衆生者。語默作作威儀。進止無障無礙。縱任自在。或住七寶山間。寂然宴默。或在衆寶樹下。讀誦解說。或渡飛梯。作伎樂。或騰虛空。現神變。或坐蓮臺上。互說宿命之事。或至寶池邊。慰問新生之人。不先自行。專在化他。或時伴觀音勢至。所語者十方諸佛利生方便。或時從普賢文殊。所議者三有衆生拔苦因緣。議已追緣兮去。語已隨樂兮往。世世父母之沈六道也。任意而引導。生生知識之在四生也。隨思而教誡。此是安養淨刹。任運生得果報也。彼瑠璃明徹地上。有高廣菩提樹。華菓之飾樹王。皆是車渠馬腦。枝葉之布四方。莫非紫金

草一本作樂
爲一本無
(原)庸一本作膚
之及飛二字一本無

界相勝過三界道。究竟如虛空。廣大無邊際。寶性功德草柔輭。左右旋觸者生勝樂。過迦旃隣陀。大乘善根之境。無苦無惱之砌也。瑠璃爲地。金繩界道。凡八方上下無央數諸佛國中。極樂世界所有功德。最爲第一。以二百一十億諸佛淨土嚴淨妙事。皆攝在此中。依正微妙。庸淺斯迷。功德甚深。孱愚何測。粗撮大綱。聊讚歎之。譬猶片蠡挹海。寸管窺天。彼適排頗梨閣也。不求摩黎自飛栴檀之匂。纔登珊瑚床也。不尋襄邑。亦展錦繡之茵。幡蓋色色。流七寶莊嚴之光。歌唄聲聲。歎萬德圓滿之相。從宮殿行宮殿。滿耳者簫笛箜篌之聲。從林池至林池。遮眼者曼陀曼殊之色。上膳甘味。備七寶机。自然衣服。纏黃金體。光明周遍。不用日月燈燭。冷暖調和。無有春秋冬夏。妙華繽紛而亂墜。寶衣旋轉而來下。如鳥飛空下。供散於彌陀。孔雀鸚鵡之群飛。鳧雁鴛鴦之遊戲。晝夜常唱妙法。

本自一本作自本
之一本無

原經一作多

子原本作士今依一本改

原之一無

明眠夢之所見。論三千多。論豁悟一也。本自不眠夢自性覺之故。非眠夢多。非豁悟一。只有自性清淨本覺心而實也。無明夢中六塵境界。本覺心假用故虛僞也。我雖在夢裏。乘覺思惟。宣諸法眞理。如夢即空也。是以觀眠夢之體是心。不可迷夢中苦樂。所以不樂多歳之榮耀。亦不愁長時之苦患。只可達本覺。覺已乃須臾也。攝論云。處夢謂經年。覺乃須臾頃。故時雖無量。攝在一刹那。云云譬如莊周百年之蝶。烈子二生之夢耳。圓覺經曰。始知衆生本來成佛。生死涅槃。猶如昨夢。云云唯識論云。未得眞覺。常處夢中。故佛說爲生死長夜。云云我等何時得眞覺。翻今生死爲昨夢。彼春夜夢不欲醒而自有醒之期。此生死夢。不發心雖經塵劫不覺。是故起大加行。誓得法性之覺。應當往生極樂値遇覺悟之師。

△第三歎極樂依正功德者。今所期極樂之依正云何。夫觀彼世

往一本無
原 故上一有之
原 自下曰一作云
原 當念我一作念我名

遂其心最希也。大論云。菩薩發大心。魚子。菴羅菓。三事因時多。成果時甚少 云云 若生淨土。豈如斯哉。內伏煩惱。外遇善友。自然增進佛道。流入薩婆若海。願往詣安養淨刹。自行化他自在。

△第二寄念佛。明觀心者。雖生濁惡不善世。適得聞彌陀誓願。欲運誠心念佛功。必遂往生之素懷。諸教所讚。多在彌陀故也。夫彌陀如來者。昔爲娑婆聖主。始發心修行。今成安養化主。終不忘宿緣故要決云。彌陀本願。誓度娑婆。云云 因茲釋尊勸曰。唯除食時。恒憶此事。彌陀自曰。欲來生我國者。當念我。又或處云。此界一人念佛名。西方便有一蓮生。但使一生常不退。此花還到此間迎。云云 念佛名者。其意云何。謂於阿彌陀三字。可觀空假中三諦。彼阿者。即空。彌者。即假。陀者。即中也。其自性清淨心。凡聖無隔。因果不改。三世常住。二邊不動。是中道也。百界千如三千世間諸法。森然而幻

原三途一作三惡
攀一本作擧

原離下一有之
地下之一本無

根。非無相法界之悲智。遂雖成種智之遠緣。更難爲菩提之近因。所以者何。戀愛妻子之慈狹。而有偏頗。天文地理之智淺。而非出世。雖讀三乘解脫之敎文。無勇立行。雖聞一乘開會之義理。局情難改。散亂麁動三業不靜。止觀云。身如獨落。口若春蛙。心如風燈以散逸故。法不現前。云云佛法之不染心。實是散逸故也。幸乍遇佛法。何空送日月。一生將暮。來世在近。不貯菩提之資糧。再歸三途之冥路。譬如入栴檀林。不攀一枝。陟崐崘山。不取片玉。其不入寶山者。誰悔不取之。既入佛法寶山。不可空手而歸。縱有習佛法人。若爲名聞利養。何異以摩尼珠。博一頭之牛乎。實厭生死。欣菩提之輩。不知觀心是出離正因。若學不學聖敎。倶難出生死者。唯是娑婆國欲界。散網地之失也。又最初發心時。上求菩提之志深。下化衆生之思切。而煩惱内競起。惡緣外頻引之故。千萬人之中。

要下一本有也
士下之一本無
慮懷一本作衆
濟從丁本作徒
原熱下之一無
原漏下一有之
原明下一有之
原中下一有之

日夜專憶飛名譽於四遠。朝暮唯營貪利養於一身。先人後我。是成佛之要。益已忘他。非濟度之道。然則漁父之濟江河鱗。更背大士之慮懷。獵者之從山野蹄。永違菩薩之悲願。又棄恩愛家。而其身入深山絕域。猶染俗塵境。而其心在聚落田里。無始妄染有執未蕩。桃李之開春風。翫之則成輪廻五趣因。蘭菊之綻秋露。愛之亦結流轉三有業。豈只五逆之招惡報四重之背善趣而已哉。故紅蓮大紅蓮。將來我等之栖也。焦熱大焦熱。抑亦誰人之家乎。畏八寒八熱之罪報。尋習因習果之根源。久留有爲有漏故鄉。只依無始無明妄想也。所以廢空而在有。只耽鏡中之影。捨性而取相。常迷水上之月。止觀云。凡愚謂有。智者知無。如水中月得喜失憂。大人去取都無欣慘。鏡像幻化。亦復如是云云而實有者。累劫妄執故。厭而不捨。空寂者。今世觀念故。好而難馴。縱似有一分之善

第一上一本有天台沙門源信撰七字　㊟日一作云

念下一本有平且除細念生滅一本爲挾註

㊟貴下一本有之

㊟賤下一本有之

△第一擧娑婆界過失者。夫娑婆世界者。行住坐臥威儀。皆是遠離解脫之基。見聞觸知境界。莫不沈淪生死之源。經曰。一人一日中。八億四千念。念念中所作皆是三途業。云云凡夫住世間。不知世間相。起於八億四千念。雖非我等之所知。佛眼所照。仰而可信。彼一日中三途業猶以難償。況一期頃無量念。何爲懺悔。且除細念生滅。只思浮虛麁惡。適見麗容之一咲。深溺愛欲水。纔聞毀謗之片言。專熾瞋恚炎。貪嗔暫息。愚癡日甚。法華疏云。貪海納流。未曾飽足。瞋虺吸毒。擾諸世間。癡闇頑嚚過於漆墨。云云凡違順倶非之緣。增三毒等分之惑。慢幢未折。業海難傾。其心念念。欣世間樂。常安其臭身。亦悅其癡心。若生種性高貴家。誇自在威勢。而恣造罪業。若受貧窮下之身。求官位福祿。而鎭起惡念。止觀云。若其富貴。縱心造罪。若其貧窮。惡念亦廣。云云貴賤貧富。共罪障器也。

原 源等三字一本無述有本作撰
原 台下一本有之字
原 曰一本作云
原 云云一本無
原 迄一本作迨

觀心略要集

源信述

夫觀法者。諸佛之祕要。衆敎之肝心也。故天台宗。以爲規模。心地觀經曰。能觀心者。究竟解脫。不能觀者。究竟沈淪云云當知生死之沈。與不沈者。心性之觀。與不觀也。爰世迄澆季。人少利根。尋其門者。雖究閫奧。挹其流者。罕討淵源。何矧如予。愚暗之者乎。然而志深弘闡。思切兼濟。竊慕大師之觀心。欲開自他之慧眼。仍聊鈔祖師釋文。名曰觀心略要集。觀行一門。分爲十章。一擧娑婆界過失。二寄念佛明觀心。三歎極樂依正德。四辨空假中蕩執。五釋凡聖備一心。六知流轉生死源。七敎出離生死觀。八修空觀行懺悔。九發眞正菩提心。十問答料簡釋疑也。于時强圉之載。夏五月序。

證明本而已

元錄十丁丑年　　京師書林西村九郎右衞門等

一底　本　西敎寺板　天保十年開板　弘化五年再鐫

一對照本

(イ)長本　長德本　中卷ノミ

(ロ)鎌本　鎌倉本　上卷ノミ

(ハ)室本　室町本　下卷ノミ

(ニ)建本　建長本

(ホ)西本　西敎寺古板本

(ヘ)引本　引接寺古寫本

再校本一本元錄十年版法龍師加筆本全三卷

今此要集者。源出横川流傳四海。但文字加減。何是何非。文義俱妙。取捨無據。廣考諸文。或古本云。自本此文有兩本。遺唐本。留和本。今本是遺唐本也。祇園精舍無常院文有二行餘是留和本也。已上故知遺唐本。再治本明矣。今以送唐本開板鏤印。以此功德。自利利他。我與衆生。同會樂邦。

建長五年歳在癸丑四月肇彫九月畢功　願主道妙

西本及一本云承元四年四月八日刻彫畢願主大法師實眼勵自力於自心抛財寶於佛界迄功于一百枚但此模者先年之比有聖人勸進十方刻彫之於此所不慮之外逢失火燒失畢仍以自力刻之偏是爲四恩七世無緣法界成佛道也一本更有次文世間流布之本依繁落字謬點令尋求往古楞嚴院點本開板之信師言置之座右備於廢忘可爲

緇一本作緇

惑建長西本作哉

右往返文引本無

禪室。舊冬之內。喜便信。啓上委曲。則大府貫首。豐島才人附書狀一封。奉上先畢。計也。經披覽歟。鬱望之情。朝夕不休。馳憤之際遇便脚。重啓達。唯大師撰擇往生要集三卷捧持。詣天台國淸寺。附入既畢。則其專當僧。請領狀予也。爰緇素隨喜。貴賤歸依。結緣男女弟子。五佰餘人。各發虔心。投捨淨財。施入於國淸寺。忽飾造五十間廊屋。彩畫柱壁。莊嚴內外。供養禮拜瞻仰慶讚。佛日重光。法燈盛朗。興隆佛法之洪基。往生極樂之因緣。只在於斯。方今文德。忝遇衰弊之時。免取衣食之難。仰帝皇之恩澤。未隔詔勅。幷日之食甑。重欲積塵。何避飢饉之惑。伏乞大師垂照鑒。弟子不勝憤念之至。敬表禮代之狀。不宣謹言。

二月十一日大宋國弟子周文德申狀

謹上　天台楞嚴院源信大師禪室法座前

發下一本有緣字

郎一本即相傳作想

乎一本作呼

正月上一本有寬和二年

其一也。以本習深。故著往生要集三卷。備于觀念。夫天之下。一法之中。皆四部衆。何親何疎。故以此文。敢附歸帆。抑在本朝猶慙其拙。況於他鄕乎。然而本發一願。縱有誹謗者。縱有讚歎者。倂結共我往生極樂之緣焉。又先師故慈惠大僧正諱良源作觀音讚。著作郎慶保胤作十六相讚。及日本往生傳。前進士爲憲作法華經賦。同亦贈欲令知異域之有此志。嗟乎一生苒々。兩岸蒼々。後會如何。泣血而已。不宣以狀。

正月十五日天台楞嚴院某申狀

大宋國某賓旅下

返報

大宋國。台州弟子。周文德謹啓。仲春漸暖。和風霞散。伏惟法位無動尊體有泰。不審不審。悚恐悚恐。唯文德入朝之初。先向方。禮拜

丱無串一本作臥音串一本無要一本無

依別本且置題號

中或一本作申刻或一本作刺

永觀二年。甲申冬十一月。於天台山。延曆寺首楞嚴院。撰集斯文。明年夏四月。畢其功矣。有一僧夢。毘沙門天。將兩丱（音串）童。來告云。源信所撰。往生要集。皆是經論文也。一見一聞之倫。可證無上菩提。須加一偈。廣令流布。他日語夢。故作偈曰

已依聖教及正理。勸進衆生生極樂。乃至展轉一聞者。願共速證無上覺

遺唐消息

佛子源信。暫離本山。頭陀于西海道。諸州名嶽靈窟。適遠客著岸之日。不圖會面。是宿因也。然猶方語未通。歸朝各促。更封手札。述以心懷。側聞法公之本朝。三寶興隆。甚隨喜矣。我國東流之敎。佛日再中。當今刻念極樂界。歸依法華經者。熾盛焉。佛子是念極樂

人下一本有論字或本作誹

末終二字諸本無

招人謗耶。答。雖非正文。而不失理。若猶有謬。苟不執之。見者取捨。令順正理。若偏生謗。亦不敢辭。如華嚴經偈云。若有見菩薩修行種々行。起善不善心。菩薩皆攝取。當知。生謗亦是結緣。我若得道。願引攝彼。彼若得道。願引攝我。乃至菩提。互爲師弟。問。因論生論。多日染筆。劬勞身心。其功非無。期何事耶。答。依此諸功德。願於命終時。得見彌陀佛無邊功德身。我及餘信者。既見彼佛。已願得離垢眼。證無上菩提。

往生要集卷下 末終

二或本作三

群一本作

原耶字恐寫誤當作也字

原藏字本經作藏字

丹一本作旦

盲因下西本有或復於彼十法行中初書寫行脫文是過爲開解等略抄非過二十四字一本無也

提舍願生偈。（或名淨土論。或名往生論。世親造。菩提留支譯。一卷）修行方法。多在摩訶止觀。十卷及善導和尚觀念法門竝六時禮讚。（各一卷）一問答料簡。多在天台十疑。（一卷）導綽和尚安樂集。（二卷）慈恩西方要決。（一卷）懷感和尚群疑論。（七卷）記往生人。多在迦才師淨土論。（三卷）竝瑞應傳。（一卷）其餘雖多。要不過此。問。行人自應學彼諸文。何故今勞著此文耶。答。豈不前言。如予之者。難披廣文。故聊抄其要耶。問。大集經云。或抄寫經法。洗脫文字。或損壞他法。或闇藏他經。由此業緣。今得盲報。云云而今抄經論。或略多文。或亂前後。應是生盲因。何爲自害耶。答。天竺震丹論師人師。引經論文。多略取意。故知錯亂經旨。是爲盲因。省略文字。非是盲因。況今所抄。多引正文。或是諸師所出文也。又至不能出繁文者。注或云乃至。或云略抄。或云取意也。是即欲令學者。易勘本文也。問。所引正文。誠可生信。但屢加私詞。盍

盡或一本作量 ⦅原⦆挾註當在遠方下歟 百及千上一本有四字

終。互相勸勵。故法華云。善知識者。是大因緣。又阿難言。善知識者。是半因緣。佛言不爾。是全因緣也。三於念佛相應教文。常應受持披讀習學。故般舟經偈云。此三昧經眞佛語。設聞遠方有是經。用道法故往聽受。一心諷誦不忘捨。假使往求不得聞。其功德福不可盡。無能稱量其德義。何況聞已即受持。以四十里百里千里爲遠方也。問。何等教文。念佛相應。答。如前所引。西方證據。皆是其文。然正明西方觀行。并九品行果。不如觀無量壽經。一卷。畺良耶舍譯。說彌陀本願。并極樂細相。不如雙觀無量壽經。二卷。康僧鎧譯。明諸佛相好。并觀相滅罪。不如觀佛三昧經。十卷。或八卷。覺賢譯。明色身法身相。並三昧勝利。不如般舟三昧經。三卷。或二卷。支婁迦譯。念佛三昧經。六卷。或五卷。功德直。共玄暢譯。明修行方法。不如上三經。並十往生經。一卷 十住毘婆娑論。十四卷。或十二卷。龍樹造。羅什譯。日々讀誦。不如小阿彌陀經。一卷五紙。羅什譯。結偈總說。不如無量壽經優婆

事一本無

又一本無

（原）功字上本論有則字今恐脫矣

法者。置不呵嘖。驅遣擧處。當知是人佛法中怨。若能驅遣。呵嘖擧處。是我弟子。眞聲聞也。乃至諸國王。及四部衆。應當勸勵諸學人等。令得增上戒定智慧。若有不學是三品法。懈怠破戒。毀正法者。王者大臣。四部之衆。應當苦治。又云。若有比丘。雖持禁戒。爲利養故。與破戒者。坐起行來。共相親附。同其事業。是名破戒。乃至若有比丘。在阿蘭若處。諸根不利。闇鈍甍瞢。少欲乞食。於說戒日。及自恣時。敎諸弟子。淸淨懺悔。見非弟子。多犯禁戒。不能敎令淸淨懺悔。而便與共說戒自恣。是名愚癡僧。已上略抄明知若過若不及。皆是違佛勅。其間消息。都在得意。

△第十助道人法者。略有三。一須明師善內外律。能開除妨障。恭敬承習。故大論云。又如雨墮不住山頂。必歸下處。若人憍心自高。則法水不入。若恭敬善師。功德歸之。二須同行。如共涉嶮。乃至臨

原罵字本經作棄字　原謫罪本經作謫罰

開一本作闕

決夫一本作次

原挾註當在幢相衣下歟

血下一本有三字

若一本無

嘖一本作責

若鞭打者。理所不應。又亦不應口罵辱。一切不應加其身罪。若故違法。而謫罪者。是人便於解脫退落。必定歸趣阿鼻地獄。何況鞭打為佛出家。具持戒者。略抄 問。人間擯治。差別可然。非人之行。猶未決了。梵網經一向拂跡。月藏經一向供給。那忽乖角。答。為知罪福旨。要須決人行。不可必決非人所行。若制若開。各生亘益。或復如人意樂不同。非人願樂亦不同耳。學者應決。問。因論生論。於彼犯戒出家之人。供養惱亂。得幾罪福。答。十輪經偈云。被恆河沙佛解脫幢相衣。於此起惡心。定墮無間獄。袈裟名為解脫幢衣 月藏分云。若惱亂彼。其罪多於出萬億佛身血罪。若供養之。猶得無量阿僧祇大福德聚。取意 問。若爾一向應供養之。何可治之。招大罪報耶。答。若有其力。不若治之。彼亦得罪過。是佛法大怨。故涅槃經第三云。持法比丘。見有破戒壞正法者。即應驅遣。呵嘖擧處。若善比丘。見壞

諸一本無
何一本無
至一本無
耶一本作乎
若一本無
分字本經作物字

三分者。與彼破戒。讀誦經典。相應聲聞。正法像法。剃頭著袈裟者。令無所乏。彌勒我今復以三業相應。諸聲聞衆。比丘比丘尼。優婆塞優婆夷。寄付汝手。勿令乏少孤獨而終。及以正法像法。毀破禁戒。著袈裟者。寄付汝手。勿令彼等於諸資具乏少而終。亦勿令有旋陀羅王。共相惱害。身心受苦。我今復以彼諸施主。寄付汝手。已上破戒尚爾。何況持戒。聲聞尚爾。何況發大心。至誠念佛耶。問。若破戒人。亦爲天龍所護念者。云何梵網經云五千鬼神。拂破戒比丘跡。涅槃經云。國王群臣。及持戒比丘。應當苦治驅遣。呵嘖破戒者耶。答。若如理苦治。即順佛教。若非理惱亂。還違聖旨。故不相違。如月藏分佛言。國王群臣見出家者。作大罪業。大殺生大偸盜。大非梵行。大妄語。及餘不善。如是等類。但當如法。擯出國土。城邑村落。不聽在寺。亦復不得同僧事業利養之分。悉不共同。不得鞭打。

鬚一本作鬢

擯一本作儐

以此一本倒置報果亦然禪下西本有定字

世諸佛。眞實報身。則挑一切天人眼目。是人爲欲隱沒諸佛所有正法・三寶種故。令諸天人。不得利益墮地獄故。爲三惡道增長盈滿故。云云爾時復有一切天龍乃至一切迦吒富單那。人非人等。皆悉合掌作如是言。我等於佛一切聲聞弟子。乃至若復不持禁戒。剃除鬚髮。著袈裟片者。作師長想。護持養育。與諸所須令無乏少。若餘天龍。乃至迦吒富單那等。作其惱亂。乃至惡心。以眼視之。我等悉共令彼天龍富單那等所有諸相。缺減醜陋。令彼不復得與我等共住共食。亦復不得同處戲笑。如是擯罰。已上取意又云。爾時世尊。告上首彌勒及賢劫中一切菩薩摩訶薩言。諸善男子。我昔行菩薩道時。曾於過去諸佛如來。作是供養。以此善根。與我作於三菩提因。我今憐愍諸衆生故。以此報果分作三分。留一分自受。第二分者。於我滅後。與禪解脫三昧。堅固相應聲聞。令無所乏。第

言一本作云
即一本作則
鬒一本作髮

云。譬如比丘貪求者。不得供養。無所貪求。則無所乏短。心亦如是。若分別取相。則不得實法。又大集月藏分中。欲界六天日月星宿。天龍八部。各於佛前。發誓願言。若佛聲聞弟子。住法順法。三業相應。而修行者。我等皆共護持養育。供給所須。令無所乏。若復世尊。聲聞弟子。無所積聚。護持養育。又言。若復世尊。聲聞弟子。住於積聚。乃至三業。與法不相應者。亦當棄捨。不復養育。問。凡夫不必三業相應。若有缺漏。應無依怙。答。如是問難。是即懈怠。無道心者之所致也。若誠求菩提。誠欣淨土者。寧捨身命。豈破禁戒。應以一世勤勞。期永劫妙果也。況復設雖破戒。非無其分。如同經佛言。若有衆生。爲我出家。剃除鬚髮。被服袈裟。設不持戒。彼等悉已。爲涅槃印之所印也。若復出家。不持戒者。有以非法。而作惱亂罵辱毀呰。以手刀杖。打縛斫截。若奪衣鉢。及奪種々資生具者。是人則壞三

之一本作聖

但下一本復右少有二字

聞經法。不見菩薩。聲聞之衆。是故於彼國土。謂之胎生。已上疑佛智慧。罪當惡道。然隨願往生。是佛悲願力。淸淨覺經。以此胎生。爲中輩下輩人。然諸師所釋。不能繁出。問。言佛智等其相云何。答。憬興師。以佛地經五法。今名五智。謂淸淨法界名佛智。以大圓鏡等四。如次當不思議等四也。玄一師。佛智如前。以後四智。逆對成事智等四也。有餘異解。不可煩之。

△第九助道資縁者。問。凡夫行人。要須衣食。此雖小縁。能辨大事。裸餧不安。道法焉在。答。行者有二。謂在家出家。其在家人。家業自由。餐飯衣服。何妨念佛。如木槵經瑠璃王行。其出家人亦有三類。若上根者。草座鹿皮。一菜一果。如雪山大士是也。若中根者。常乞食糞掃衣。若下根者。檀越嚫施。但少有所得。即便知足。具如止觀第四。況復若佛弟子。專修正道。無所貪求者。自然具資縁。如大論

亦一本無賢下一本有人字

倫上無一本無

㊀當本經作常

之時。此位中有一類之人。聞法甚難。適聞即悟。如常啼菩薩。須達老女等。或爲魔所障。或爲自惑障。雖隔聞見。不久即悟。四善惡容預。此位善惡。同是生死流轉法故。多難聞法。非惡增故。非一向無聞。非交際故。雖聞無巨益。六趣四生。蠢蠢類是。故上人中。亦有難聞。凡愚之中。亦有聞者。此亦未決。後賢取捨。問。不信之者。得何罪報。答。稱揚諸佛功德經下卷云。其有不信讚歎稱揚阿彌陀佛名號功德。而謗毀者。五劫之中。當墮地獄。具受衆苦。問。若無深信生疑念者。終不往生。答。若全不信。不修彼業。不願求者。理不應生。若雖疑佛智。而猶願彼土。修彼業者。亦得往生。如雙觀經云。若有衆生。以疑惑心。修諸功德。願生彼國。不了佛智不思議智。不可稱智大乘廣智。無等無倫最上勝智。於此諸智。疑惑不信。然猶信罪福。罪習善本。願生其國。此諸衆生。生彼宮殿。壽五百歲。當不見佛。不

原聲字一本作雖字者是

悉下一本有宿世二字或本作前世

民一本作氏

即一本無

原八字且依般舟經當作六字又別有所出歟

問。若爾聞者。決定應信。何故聲聞有信不信。答。無量清淨覺經云。善男子善女人。聞無量清淨佛名。歡喜踊躍身毛爲起。如拔出者。皆悉宿命。已作佛事。其有人民。疑不信者。皆從惡道中來。殃惡未盡。此未得解脫也。略抄 又大集經第七云。若有衆生。已於無量無邊佛所。殖衆德本。乃得聞是如來十力。四無所畏。不共之法。三十二相。乃至下劣之人。不能得聞。如是正法。假使得聞。未必能信。已上 當知生死因緣。不可思議。薄德得聞。難知其緣。如烏豆聚有一綠豆。但彼雖聞。而不信解。是即薄德之所致耳。問。佛於往昔。具修諸度。尙於八萬歲。不能聞此法。云何薄德。輒得聽聞。設許希有。猶違道理。答。此義難知。試案之云。衆生善惡。有四位別。一惡用偏增。此位無聞法。如法華云。增上慢人。二百億劫。常不聞法。二善用偏增。此位常聞法。如地住已上大菩薩等。三善惡交際。謂埀捨凡入聖

原一十二字考本經當作八十二字今即寫誤

已上汎爾禪定。尚既如是。況念佛三昧。是王三昧耶。問。若禪定業。勝讀誦解義等。云何法華經分別功德品。以一十萬億那由他劫。所修前五波羅蜜功德。校量聞法華經一念信解功德。百千萬億分之一分。何況廣爲他說耶。答。此等諸行。各有淺深。謂偏圓敎有差別故。若當敎論勝劣如前。若諸敎相對。偏敎禪定。不及圓敎讀誦事業。大集寶積。約一敎論。法華校量。偏圓相望。是故諸文義不相違。念佛三昧亦復如是。偏敎三昧。當敎爲勝。圓人三昧。普勝諸行。又定有二。一者慧相應定。是爲最勝。二者暗禪。未可爲勝。念佛三昧。應是初攝。

△第八信毀因緣者。般舟經云。不獨於一佛所作功德。不於若二若三若十。悉於百佛所聞是三昧。却後世時。聞是三昧者。書學誦持經卷。最後守一日一夜。其福不可計。自致阿惟越致。所願者得。

四句偈。讀誦修行。爲人演說。是人乃爲供養於我。何以故。諸佛菩提。從多聞生。不從衆務而得生也。乃至若一閻浮提。營事菩薩。於一讀誦修行演說菩薩之所。應當親近供養承事。若一閻浮提。讀誦修行演說諸菩薩等。於一勤修禪定菩薩。亦當親近供養承事。如是善業。如來隨喜如來悅可。若於勤修智慧菩薩承事供養。當獲無量福德之聚。何以故。智慧之業。無上最勝出過一切三界所行。大集月藏分偈云。若人百億諸佛所於多歲數常供養。若能七日在蘭若攝根得定福多彼。乃至閑靜無爲佛境界。於彼能得淨菩提。若人謗彼住禪者。是名毀謗諸如來。若人破塔多百千。及以焚燒百千寺。若有毀謗住禪者。其罪甚多過於彼。若有供養住禪者。飮食衣服及湯藥。是人消滅無量罪。亦不墮於三惡道。是故我今普告汝。欲成佛道常在禪。若不能住阿蘭若。應當供養於彼人。

實一本作寶

寶沙一本作娑

道一本作路

音上一一本有世字

持一本作得

可摧破。還住本際。念佛三昧亦復如是。行是定者。住過去佛實際海中。已上略抄 又般舟經問事品說。念佛三昧云。常當習持。常當守不復隨餘法。諸功德中。最尊第一。已上 又至不退轉位。有難易二道。言易行道。即是念佛。故十住婆沙第三云。如世間道。有難有易。陸道步行則苦。水道乘船則樂。菩提道亦如是。或有勤行精進。或有以信方便易行。疾至阿惟越致。乃至 阿彌陀等佛。及諸大菩薩。稱名。一心念亦得不退轉。已上 文中舉過去現在一百餘佛彌勒金剛藏。淨名無盡意。跋陀婆羅。文殊妙音師子吼香象。常精進觀音勢至等一百餘大菩薩。其中廣讚彌陀佛也。於諸行中。唯念佛行。易修證上位。知是最勝行。又寶積經九十二云。若有菩薩。多營衆務。造七寶塔。遍滿三千大千世界。如是菩薩。不能令我而生歡喜。亦非供養恭敬於我。若有菩薩。於波羅蜜相應之法。乃至受持一

女或本作汝非也

意下一本有語字

涌一本作踊

㊊挽字本經亦同案俱寫誤當作免字歟

㊊依本經彼慧倒寫

兩。即以穢物纏裹眞金。置泥團中。衆賊見已。不識是金。脚踐而去。賊去之後。財主得金。心大歡喜。念佛三昧亦復如是。當密藏之。二云。譬如貧人執王寶印。逃走上樹。六兵追之。貧人見已即呑寶印。兵衆疾至。令樹倒僻。貧入落地。身體散壞。唯金印在。念佛心印不壞亦復如是。三云。譬如長者將死不久。告一女子。我今有寶。寶中上者。汝得此寶密藏。令莫令王知。女受父勅。持摩尼珠及諸珍寶。藏之糞穢。室家大小。皆亦不知。値世飢饉。持如意珠。隨意即雨百味飲食。如是種々隨意得寶。念佛三昧堅心不動。亦復如是。四云。譬如大旱不能得雨。有一仙人誦呪。神通力故。天降甘雨。地出涌泉。得念佛者。如善呪人。五云。譬如力士數犯王法。幽閉囹圄。逃到海邊。解髻明珠。持雇船師。到於彼岸。安穩無懼。行念佛者。如大力士。挽心王鏁。到彼慧岸。六云。譬如劫盡大地洞燃。唯金剛山不

定一本作

法。無二亦無三。除佛方便說。又大經明如來決定說義云。一切衆生悉有佛性。如來常住。無有變易。又云。一切衆生。定得阿耨菩提故。是故我說一切衆生。悉有佛性。又云。一切衆生。悉皆有心。凡有心者。定當得成阿耨菩提。問。何故諸文所說不同。或說一聞佛定成菩提。或說應勤修如救頭燃。又華嚴偈云。如人數他寶。自無半錢分。於法不修行。多聞亦如是。答。若欲速解脫。不勤如無分。若期永劫因。一聞亦不虛。是故諸文理不相違。

△第七諸行勝劣者。問。往生業中念佛爲最。於餘業中。亦爲最耶。答。餘行法中此亦最勝。故觀佛三昧經有六種譬。一云。佛告阿難。譬如長者將死。不久以諸庫藏。委付其子。其子得已隨意遊戲。忽於一時値有王難。無量衆賊。競取藏物。唯有一金。乃是閻浮檀那紫金。重十六兩。金鋌長短亦十六寸。此金一兩價直。餘寶百千萬

想一本作相

信解觀察無陰種諸入。則名奉行法身也假使衆生。婬怒癡盛。男女大小。欲想慕樂。即共相娛。貪欲塵勞。悉得休息。奉行法身。菩薩尚爾。何況證得法身佛耶。問。如欲想緣。有此利益。誹謗惡厭。亦有益耶。答。既云婬怒癡。明非唯欲想。又如來祕藏經下卷云。寧於如來起不善業。非於外道邪見者所。施作供養。何以故。若於如來所起不善業。當有悔心。究竟必得至於涅槃。隨外道見。當墮地獄餓鬼畜生。問。此文便違因果道理。亦復增於衆生妄心。如何以惡心。得大涅槃樂耶。答。以惡心故。墮三惡道。以一緣如來故。必至涅槃。是故不違因果道理。謂彼衆生墮地獄時。於佛生信。生追悔心。由此展轉。必至涅槃。見大悲經染心緣如來利益尚如是。何況淨心。一念一稱佛大恩德。以之可知。問。諸文所說菩提涅槃。於三乘中。是何果耶。答。初雖隨機得三乘果。究竟必至無上佛果。如法華經云。十方佛土中。唯有一乘

聞一本在名下
菓一本作果
菓一本作果
作一本作化
姓一本作性
相下一本有見字

因。既爾云何華嚴偈云。若有諸衆生未發菩提心。一得聞佛名。決定成菩提。答。諸法因緣。不可思議。譬如孔雀聞雷震聲。即得有身。又尸利沙菓。先無形質。見昴星時。菓則出生。足長五寸。依佛名號即結佛因。亦復如是。從此微因。遂著大果。如彼尼物陀樹。從芥子許種生枝葉。遍覆五百兩車。淺近世法。猶難思議。何況出世甚深因果。唯應信仰。不可疑念。問。以染心緣於如來者。亦有益耶。答。寶積經第八。密迹力士告寂意菩薩云。耆域醫王。合集諸藥。以取藥草。作童子形。端正殊好。世之希有。所作安諦。所有究竟。殊異無比。往來周旋。住立安坐。臥寢經行。無所缺漏。所顯變業。或有大豪國王太子。大臣百官貴姓長者。來到耆域醫王所。視藥童子。與共歌戲。相其顏色。病皆得除。便致安穩寂靜無欲。寂意且觀其耆域醫王。療治世間。其餘醫師。所不能及也。如是寂意。若菩薩奉行法身。

咄一本拙
莫一本無
原種々本經作
種子
復一本無
此一本作是

世果。答。業果之理。不必一同。以諸善業廻向佛道。是即作業。隨心而轉。以鷄狗業。樂求天樂。是即惡見。不令業轉。是故於佛修諸善業。意樂雖異。必至涅槃。故彼經擧譬言。譬如長者依時下種於良田中。隨時漑灌。常善護持。若是長者。於餘時中。到彼田所。作如是言。咄哉種子。汝莫作種。莫生莫長。然彼種種必應作果。非無果實。取意略抄

問。彼於何時。得般涅槃。答。設雖久々。輪廻生死。善根不亡。必得涅槃。故彼經云。佛告阿難。如捕魚師。爲得魚故。在大池水。安置鉤餌。令魚呑食。魚呑食已。雖在池中。不久當出。乃至阿難一切衆生。於諸佛所。得生敬信。種諸善根。修行布施。乃至發心。得一念信。雖復爲餘惡不善業。之所覆障。墮在地獄畜生餓鬼。乃至諸佛世尊以佛眼。觀見此衆生。發心勝故。從於地獄。拔之令出。既拔出已。置涅槃岸。問。如此經意。以敬信故遂得涅槃。若爾但一聞應非涅槃

有一本無

何以得知淺心念佛亦有利益。答。首楞嚴三昧經云。如有大藥王。名曰滅除。若鬪戰時以用塗鼓。諸被箭射。刀矛所傷。得聞鼓聲。箭出毒除。如是菩薩。住首楞嚴三昧時。有聞名者。貪恚癡箭自然拔出。諸邪見毒。皆悉除滅。一切煩惱不復動發。已上。（觀見諸法眞如實相。見凡夫法佛法不二。是名修習首楞嚴三昧）菩薩既爾。何況佛。聞名既爾。何況念。應知淺心念。利益亦不虛。

△第六麤心妙果者。問。若爲菩提。於佛作善。證得妙果。理必可然。若爲人天果。修善根云何。答。或染或淨。於佛修善。雖有遠近。必至涅槃。故大悲經第三。佛告阿難言。若有衆生。樂著生死三有愛果。於佛福田。種善根者。作如是言。以此善根願我莫般涅槃。阿難是人若不涅槃。無有是處。阿難是人雖不樂求涅槃。然於佛所種諸善根。我說是人必得涅槃。問。所作之業。隨願感果。何樂世報。得出

智下之一本無
漢下一本有如字
脫下一本有說字
㊊而字本經無

業。復各有二。一決定。二不決定。又言或有重業可得作輕。或有輕業可得作重。有智之人。以智慧力能令地獄極重之業現世輕受。愚癡之人。現世輕業。地獄重受。阿闍世王。懺悔罪已。不入地獄。鴦掘摩羅。得阿羅漢。瑜伽論。說未得解脫。名決定業。已得解脫。名不定業。如是等諸大乘經論說五逆罪等。皆名不定。悉得消滅。轉重輕受相具出放鉢經

問。所引文云。智者轉重輕受。下品生人。但十念已即生淨土。何處輕受。答。雙觀經說彼土胎生者云。五百歲中。不見三寶。不得供養修諸善本。而以此爲苦。雖有餘樂。猶不樂彼處。已上准之應以七七日六劫十二劫。不見佛不聞法等。爲輕受苦耳。問。爲如臨終一念佛名。能滅八十億劫衆罪。尋常行者亦可然耶。答。臨終心力強。能滅無量罪。尋常稱名不應如彼。然若觀念成。亦滅無量罪。若但稱名。隨心淺深。得其利益。應有差別。其如前利益門。問。

若一本無
擇一本作釋
八或一本作九
少一本作小

用諸師釋。自云。若不造逆人。論念之多少。一聲十聲。俱生淨土。若造逆人。必須滿十。闕一不生。故言除也。已上今試加釋。餘處遍顯往生種類。本願唯擧定生之人。故云不爾不取正覺。餘人十念。定得往生。逆者一念。定不能生。逆十餘一皆是不定。故願唯擧餘人十念。餘處兼取逆十餘一。此義未決。別應思擇。問。逆者十念。何故不定。答。由宿善有無。念力別故。又臨終尋常。念時別故。問。五逆是順生業。報時俱定。云何得滅。答。感師釋之云。九部不了敎中。爲諸不信業果凡夫。密意說言有定報業。於諸大乘了義敎中。說一切業悉皆不定。如涅槃經第十八卷云。耆婆爲阿闍世王。說懺悔法罪得滅。又云。臣聞佛說。修一善心。破百種惡。如少毒藥。能害衆生。小善亦爾。能破大惡。又三十一云。善男子。有諸衆生。於業緣中。心輕不信。爲度彼故。作如是說。善男子。一切作業。有輕有重。輕重二

原王本經無

從生而盲。後値一切明王佛出家。十萬億歲勤修精進。如救頭燃。不得順忍。況得道果。命終還生阿鼻地獄。於後値九十九億佛。不得順忍。何以故。佛說深法。是人不信。破壞違逆破毀賢聖持戒比丘。出其過惡。破法因緣。法應當爾。已上略抄。四比丘者。苦岸比丘。薩和多比丘。將去比丘。跋難陀比丘。十萬億歲。如救頭燃。尙不滅罪。還生地獄。如何念佛一聲十聲。即得滅罪。往生淨土。答。感師釋云。念佛由五緣。故滅罪。一發大乘心緣。二願生淨土緣。尙乘人。不信有十方佛。故。三阿彌陀佛本願緣。四念他功德緣。彼比丘但作四念處觀。故。五佛威力加持緣。是故滅罪。得生淨土。彼小乘人不爾。故不能滅罪。略抄 問。若爾云何雙觀經說十念往生云唯除五逆誹謗正法。答。智憬等諸師云。若唯造逆者。由十念故得生。若造逆者。亦謗法者。不得往生。有云造五逆不定業。得往生。造五逆定業不往生。如是有十五家釋。感法師不

即一本無
愈一本作瘉
復一本作後
脚一本作即
包一本作苞
惡一本無
原億字本經無
原灰字本經作灸
原彼本經作在本
四西本無一本亦然

亦愈。又如有人。被狗所嚙。炙虎骨熨之。患者即愈。或時無骨。好擽掌摩之。口中喚言虎來虎來。患者亦愈。或復有人患脚轉筋。炙木瓜枝熨之。患者即愈。或無木瓜。炙手摩之。口喚木瓜。患者亦愈也。名異法者。如以指指月是。已上要決云。諸佛願行。成此果名。但能能念號。具包衆德。故成大善。已上彼文引淨名成實文。具如上助念方法。問。若下々品造五逆罪。由十念佛得往生者。云何佛藏經第三云。大莊嚴佛。滅後。有四惡比丘。捨第一義。無所有畢竟空法。貪樂外道尼揵子論。是人命終墮阿鼻獄。仰臥伏臥。左脇臥右脇臥。各九百萬億歲。於熱鐵上燒。燃燋爛死已。更生灰地獄。大灰地獄活地獄。黑繩地獄。皆如上歲數受苦。於黑繩死。還生阿鼻獄。彼家出家親近。幷諸檀越。凡六百四萬億人。與此四師具生俱死。在大地獄受諸燒煮。劫盡轉生他方地獄。劫成還生此間地獄。久々免地獄。生人中五百世。

昴一本作昴又菓一作果

磐一本作盤

勇一本無

破一本無

利沙。見昴星。則出生菓實。已上生善譬九以住水寶。瓔珞其身。入深水中。而不沒溺。十沙礫雖小。尚不能浮。磐石雖大。寄船能浮。已上總譬諸法力用難思。如是念佛功力。准之莫疑。問。臨終心念。其力幾許。能成大事。答。其力勝百年業。故大論云。是心雖時頃少。而心力猛利。如火如毒。雖少能成大事。是垂死時心。決定勇健。故勝百歲行力。是後心名爲大心。以捨身及諸根事急。故如人入陣。不惜身命。名爲勇健。如阿羅漢捨是身著。故得阿羅漢道。已上由此安樂集云。一切衆生。臨終之時。刀風解形。死苦來逼。生大怖畏。乃至便得往生。問。深觀念力。滅罪可然。云何稱念佛號。滅無量罪。若爾以指指月。此指應能破闇。答。綽和尚釋云。諸法萬差。不可一概。自有名即法。自有名異法。名即法者。如諸佛菩薩名號。禁呪音辭。修多羅章句等是也。如禁呪辭曰。日出東方乍赤乍黃。假令酉亥行禁。患者

原獲一本作䕶
原端西本作端
鴆一本作鴆
或一本作鳩
死一本無
有一本無
略抄二字一本無
原法字本書作佛
石或本作藥
已一本作加
原灌字寫誤當作渙
泮字亦當作釋

者。寄載他船。因風帆勢。一日至千里。三貧人獲一瑞物。而以貢王。王慶重賞。斯須之頃。富貴盈望。四劣夫若從輪王行。便乘虛空。飛騰自在。五十圍索喩如前。六鴆鳥入水。魚蚌斯斃。皆死。犀角觸諸死者。還活。七黃鵠喚子安。子安還活。豈可得言墳下千齡。決無可蘇也。一切萬法。皆有自力他力。自攝他攝。千開萬閉。無量無邊。豈得以有礙之識。疑彼無礙之法乎。又五不思議中。佛法最不可思議。豈以三界繫業爲重。疑彼小時念法爲輕。已上略抄今加之云。一栴檀樹出成時。能變四十由旬伊蘭林。普皆香美。二用師子筋。以爲琴絃。音聲一奏。一切餘絃。悉皆斷壞。三一斤石汁。能變千斤銅爲金。四金剛雖堅固。以羚羊角扣之。則灌然氷泮。已上滅罪譬五雪山有草。名爲忍辱。牛若食者即得醍醐。六於沙沙字寫誤當作阿字訶藥。但有見者。得壽無量。乃至念者。得宿命智。七孔雀聞雷聲。即得有身。八尸

原本論無號心之心字今恐似衍
有或本作以

原中字本論無
又致字作破字
原即毒箭三字本論作箭出毒

揮一本作撣
原草本論作柴
又大作一
時上一本有少字
業一本作無
原本論無利字

功德名號心生。一虛一實。豈得相比。譬如萬年闇室。日光暫至。而闇頓除。豈有久來之闇。不肯滅耶。在緣者。造罪之時。從虛妄癡闇心。緣虛妄境界顚倒心生。念佛之心。從聞佛清淨眞實功德名號。緣無上菩提心生。一眞一僞。豈得相比。譬如有人。被毒箭中。箭深毒磣。傷肌致骨。一聞滅除藥鼓聲。即毒箭除。豈以深毒。不肯出也。在決定者。造罪之時。以有間心有後心也。念佛之時。以無間心無後心。遂即捨命。善心猛利。是以即生。譬如十圍之索。千夫不制。童子揮劒。須臾兩段。又如千年積草。以大豆火焚之時。即盡。又如有人一生已來。修十善業。應得生天。臨終之時。起一念決定邪見。即墮阿鼻地獄。惡業虛妄。以猛利故。尙能排一生善業。令墮惡道。豈況臨終猛利心念佛。眞實無間善業。不能排無始惡業。不得生淨土者。無有是處。已上又安樂集。以七喩顯此義。一少火喩如前。二璧

原百丈二字本經作百枚

原便下本經有得字

原兩人下本經有於此二字

原飛字本經作止字

原本經無如愚人之如字恐衍

少一本作小

少一本作小

原本經作下六字作愚者亦爾

作惡今倒

故一本無

少一本作小

今一本無

少一本作小

沒不。王言不沒。那先言。船中百丈大石。因船不得沒。人雖有本惡。一時念佛。不沒泥黎。便生天上。何不信耶。其小石沒者。如人作惡。不知經法。死後便入泥黎。何不信耶。王言。善哉善哉。比丘言如兩人具死。一人生第七梵天。一人生罽賓國。此二人遠近雖異。死則一時到。如有一雙飛鳥。一於高樹上止。一於卑樹上止。兩鳥一時俱飛。其影俱到耳。如愚人作惡得殃大。智人作惡得殃少。如燒鐵在地。一人知燒。一人不知。兩人俱取。然不知者手爛大。知者少壞。作惡亦爾。愚者不能自悔。故得殃大。智者作惡知不當。故爲日自悔。故其罪少。已上十念滅衆罪。乘佛悲願船。須臾得往生。其理亦可然。又十疑釋云。今以三種道理校量。輕重不定。不在時節久近多少。云何爲三。一者在心。二者在緣。三者在決定。在心者。造罪之時。從自虛妄顚倒心生。念佛心者。從善知識。聞說阿彌陀佛眞實

稱下西本有念字

惡下一本有業字

間一本作問

原信下本經有此語二字

原水中二字本經作水上

而能具得離殺等戒。當知此中道理亦爾。又可具足十念。稱南無阿彌陀佛者。謂能具足慈等十念。稱南無佛。若能如是。隨所稱念。若一稱若多稱。皆得往生。感法師云。各是聖教。互說往生淨土法門。皆成淨業。何因將彼爲是。斥此言非。但自不解經。亦乃惑諸學者。迦才師云。此之十念。現在時作。觀經中十念。臨命終時作。已上意同感師。問。雙觀經云。乃至一念得往生。此與十念云何乖角。答。感師云。極惡業者。滿十得生。餘者乃至一念亦生。問。生來作諸惡。不修一善者。臨命終時。纔十聲念。何能滅罪。永出三界。即生淨土。答。如那先比丘問佛經言。時有彌蘭王。問羅漢那先比丘言。人在世間。作惡至百歲。臨死時念佛。死後生天。我不信是說。復言殺一生命。死即入泥黎中。我亦不信也。比丘問王。如人持小石。置在水中。石浮耶沒耶。王言石沒也。那先言。如令持百丈大石。置在船上。

護一本無
云一本無

云云一本無云

具四因緣。一自善根因力。二自願求因力。三彌陀本願緣。四衆聖助念緣。釋迦護助。出平等覺經。六方佛護念。出小經。山海慧菩薩等護持。出十往生經。云云

△第五明臨終念相。問。下々品人。臨終十念。即得往生。所言十念。何等念耶。答。綽和尚云。但憶念阿彌陀佛。若總相若別相。隨所緣觀。經於十念。無他念想間雜。是名十念。又云。十念相續者。是聖者一數之名耳。但能積念凝思。不緣他事。便業道成辦。亦未勞記之頭數也。又云。若久行人念。多應依此。若始行人念者。記數亦好。此亦依聖敎。已上　有云。一心稱念南無阿彌陀佛。經此六字之頃。名一念也。云云　問。彌勒所問經。十念往生。彼一一念深廣。如何今云十聲念佛。得往生耶。答。諸師所釋不同。寂法師云。此說專心稱佛名時。自然具足如是十。非必一一別緣慈等。亦非數彼慈等爲十。云何不別緣。而具足十。如欲受戒。稱三歸時。雖不別緣離殺等事。

邪一本作助

或亦見佛。故觀經等。勸觀色相。問。若有相觀。亦見佛者。云何華嚴經偈云。凡夫見諸法。但隨於相轉。不了法無相。以是不見佛。有見則爲垢。此則未爲見。遠離於諸見。如是乃見佛。又云。了知一切法。自性無所有。如是解法性。即見盧舍那。金剛經云。若以色見我。以音聲求我。是人行邪道。不能見如來。答。要決通云。大師說教。義有多門。各稱時機。等無差異。般若經自是一門。彌陀等經復爲一理。何者一切諸佛。竝有三身。法佛無形體非色聲。良爲二乘及小菩薩。聞說三身不異。即謂同有色聲。但見化身色相。遂執法身亦爾。故說爲邪。彌陀經等。勸念佛名。觀相求生淨土者。但以凡夫障重。法身幽微。法體難緣。且敎念佛觀形禮讚。略抄　問。凡夫行者。雖勤修習。心不純淨。何輒見佛。答。衆緣合見。非唯自力。般舟經有三緣。如上九十日行所引止觀文。問。以幾因緣。得生彼國。答。依經案之。

三十一本作世

原已上本書有色字

細註之品下一本有也字

原挾註當有念佛功德下也念上上之下一本有品字

就一本作實

相一本作想

乃逗機不同。又有經言。今者阿彌陀如來。應正等覺。具有如是三十二相。八十隨形好。身色光明。如融金聚。如是乃至不念彼如來。亦不得彼如來。已如是次第得空三昧。又觀佛三昧經云。如來亦有法身。十力無畏。三昧解脫。諸神通事。如此妙處。非汝凡夫所覺境界。但當深心起隨喜想。起是想已。當復繫念。念佛功德。故知初學之輩。觀彼色身。後學之徒。念法身也。故言如是次第得空三昧。當須善會經意。勿生毀讚之心。妙知大聖巧逗根機者。已上。觀佛經第九說。觀佛一毛。乃至觀具足色身已。有所引之十力無畏。三昧等文。

問。念佛之行。於九品中。是何品攝。答。若如說行。理當上上。如是隨其勝劣。應分九品。然經所說。九品行業。是示一端。理實無量。問。爲如定散。俱得往生。亦爲現身俱見佛耶。答。經論多說。三昧成就。即得見佛。明知散業不可得見。唯除別緣。問。有相無相觀。俱得見佛耶。答。無相見佛。理在不疑。其有相觀。

學一本作覺

得下引本有往字

原如是等思惟五字本經作一心思惟

原熟本經作就惡作罪一本作熟就

定即於凡夫。終于十地。如善財童子。於功德雲比丘所。請學念佛三昧。此即甚深法也。散即一切衆生。若行若坐。一切時處。皆得念佛。不妨諸務。乃至命終。亦成其行。已上問。有相無相業倶得往生耶。答。綽和尚云。若始學者。未能破相。但能依相專至。無不往生。不須疑也。又感和尚云。往生既品類差殊。修因亦有淺深各別。不可但言。唯修無所得而得往生。有所得心。不得生也。問。若爾如何佛藏經說。若有比丘。敎餘比丘。汝當念佛念法念僧念戒念天。如是等思惟。觀涅槃安樂寂滅。唯愛涅槃畢竟清淨。如是敎者。名爲邪敎。名惡知識。是人名爲誹謗於我。助於外道。如是惡人。我乃不聽受一飲水。又言。寧成熟五逆重惡。不成就我見。衆生見。壽見。命見。陰入界見等邪。已上略抄答。感師釋云。有聖敎復言。寧起我見如須彌山。不起空見。如芥子許。如是等諸大乘經。訶有訶空。讚大讚小。竝

少一本作小

劫時一預少善往生流。應務勤修。莫失時焉。問。若少善根亦得往生。如何經云不可以少善根福德因緣得生彼國。答。此有異解。不能繁出。今私案云。大小無定。相待得名。望大菩薩名之少善。望輪廻業名之爲大。是故二經義不違害。

△第四明尋常念相者。此有多種。大分爲四。一定業。謂坐禪入定觀佛。二散業。謂行住坐臥。散心念佛。三有相業。謂或觀相好。或念名號。偏厭穢土。專求淨土。四無相業。謂雖稱念佛。欣求淨土。而觀身土即畢竟空。如幻如夢。即體而空。雖空而有。非有非空。通達此無二眞入第一義。是名無相業。是最上三昧。故雙觀經。阿彌陀佛言。通達諸法性。一切空無我。專求淨佛土。必成如是刹。又止觀常行三昧中。有三段文。具如上別行中引。問。定散念佛。倶往生耶。答。懇重心念。無不往生。故感師說念佛差別云或深或淺。通定通散。

意依本經作音

國一本無

畧抄二字一本無

少一本作小

等下一本有今字

行、菩薩。及修少功德者。不可稱計。皆當往生。他方、佛土亦復如是。其、遠照佛、國。百八十億、菩薩。寶藏佛、國。九十億、菩薩。無量意佛、國。二百二十億、菩薩。甘露味佛、國。二百五十億、菩薩。龍勝佛、國。十四億、菩薩。勝力佛、國。萬四千、菩薩。師子佛、國。五百、菩薩。離垢光佛、國。八十億、菩薩。德首佛、國。六十億、菩薩。妙德山佛、國。六十億、菩薩。人王佛、國。十億、菩薩。無上華佛、國。無數不可稱計不退、諸菩薩。智慧勇猛。已曾供養無量諸佛。於七日、中。即能攝取百千億劫。大士所、修堅固之法。無畏佛、國七百九十億、大菩薩衆。諸、小菩薩。及比丘等。不可稱計。皆當往生。不但此、十四佛、國中、諸菩薩等。當往生也。十方世界、無量、佛國。其往生者。亦復如是。甚多無數。我但說十方諸佛、名號。及菩薩比丘、生彼國者。晝夜一劫。尚未能竟。已上略抄此、諸佛土、中。今娑婆世界。有修少善。當往生者。我等幸遇釋尊、遺法。億

就一本作熟

三一本作

問。設雖不具三心。雖不期畢命。彼一聞名。尙得成佛。況暫稱念。何唐捐耶。答。暫似唐捐。終非虛設。如華嚴偈說。聞經者轉生時益云。若人堪任聞。雖在於大海及劫盡火中。必得聞此經。大海者是釋龍界云由餘業故。生彼難處。由前信故。成此根器。云云。信華嚴者。旣而如是。信念佛者。豈無此益。彼一生作惡業。臨終遇善友。纔十念佛。即得往生。如是等類。多是前世欣求淨土。念彼佛者。宿善內熟。今開發耳。故十疑云。臨終遇善知識。十念成就。若並是宿善强。得善知識十念成就。云云。感師意亦同之。問。下下品生。若依宿善。十念生本願。即有名無實。答。設有宿善。若無十念。定墮無間。受苦無窮。明臨終十念。是往生勝緣。

△第三。往生多少者。雙觀經云。佛告彌勒。於此世界。六十七億不退菩薩。往生彼國。一一菩薩。已曾供養無數諸佛。次如彌勒。諸小

必一作心

開本經作闕

深本經作染
佛一本無

希得一二。千時希得三五。言如上者。指禮讚等五念門至誠等三心。長時等四修也。問。若必畢命爲期者。如何感和尚云長時短時多修少修。皆得往生耶。答。業類非一故。二師俱無過。然畢命爲期。勤修無怠。令業決定。是爲張本。

問。菩薩處胎經第二說。西方去此閻浮提十二億那由他。有懈慢界。國土快樂。作倡伎樂。衣被服飾。香華莊嚴。七寶轉開牀。擧目東視。寶牀隨轉。北視西視南視。亦如是轉。前後發意衆生。欲生阿彌陀佛國者。皆深著懈慢國土。不能前進生阿彌陀佛國。億千萬衆。時有一人。能生阿彌陀佛國。已上以此經准。難可得生。答。群疑論引善導和尚前文。而釋此難。又自助成云。此經下文言。何以故。皆由懈慢。執心不牢固。是知雜修之者。爲執心不牢之人。故生懈慢國也。若不雜修。專行此業。此即執心牢固。定生極樂國。乃至又報淨土生者極少。化淨土中生者不少。故經別說。實不相違也。已上

九建西引諸本作上
約一作駒
萬一作方
深本書作淳

餘處。何處一切凡夫。未至其位。終無退墮。何處一切凡夫悉得五神通。妙用無礙耶。證果遲速。例亦可然。問。九品生人得益早晩。一向爾耶。答。經中且擧一類。故慧遠和尙觀經義記云。九品人。生彼國已。得益之劫數。依勝而說。理亦有過之者。取意今謂。汎論九品。或復可有少分速於此者。問。雙觀經中。亦有如彌勒等諸大菩薩。當生極樂。故知經中九品得益。依劣而說。何言依勝耶。答。約生彼國。始悟無生。前後早晩。謂之依勝。更不論彼上位大士。然彼大士。於九品中。攝與不攝。別應思擇。問。若凡下輩。亦得往生。云何近代。於彼國土。求者千萬。得無一二。答。綽和尙云。信心不深。若存若亡。故信心不一。不決定故。信心不相續。餘念間故。此三不相應者。不能往生。若具三心。不往生者。無有是處。導和尙云。若能如上。念々相續。畢命爲期者。十卽十生。百卽百生。若欲捨專修雜業者。百時

住建西引諸本作信
也下一本有問字
明上西本有問字
分一本無二下有本有生字
二建西引諸本作三

瓔珞經。在十住。華嚴經。在十住。占察經。說修一行三昧。得相似無生法忍者也。故諸師各據一義也。中品三生。遠云。中上是前三果。中中是七方便。中下是種解脫分善人。力法師同之。基云。中上四善根。中中三賢。中下方便前人。有云。如次輭頂忍。有云。三生並是種解脫分善根人也。已上六品。亦有餘釋。見感禪師論。龍興記等。下品三生。無別階位。但是具縛造惡人也。明往生人。其位有限。寧知。猶是我等分耶。答。上品之人階位設深。下品三生。豈非我等分耶。況彼後釋。既取十信以前凡夫。爲上品。二又觀經。善導禪師玄義。以大小乘方便以前凡夫。判九品位。不許諸師所判深高。又經論。多依文判義。今經所說上三品業。何必執爲深位行耶。問。若爾生彼。不應早悟無生法忍。答。天台有二。無生忍位。若別教人。歷劫修行。悟無生忍。若圓教人。乃至惡趣身。亦有頓證者。穢土尚爾。何況淨土。彼土諸事。莫例

沙一作娑婆

發下三一作二

聖德。如要決云。今明不退有其四種。十住毘婆沙云。一位不退。卽修因萬劫不復退墮惡律儀行。流轉生死。二行不退。已得初地。利他行不退。三念不退。八地已去。無功用。意得自在故。四處不退。雖無文證。約理以成。何者如天中得果。卽得不退。淨土亦爾。命長無病。勝侶提携。純正無邪。唯淨無染。恆事聖尊。由此五緣。其處無退。已上略抄 問。九品階位。異解不同。如遠法師云。上上生四五六地。上中生初二三地。上下生地前三十心也。力法師云。上上行向。上中十解。上下十信。基師云。上上十廻向。上中解行。上下十信。有云。上上十住初心。上中十信後心。上下十信初位。有云。上上十信。及以前能發三心。能修三行者也。上中上下。唯取十信以前發菩提心。修善凡夫。起行淺深以分二品也。所以諸師所判不同者。以無生忍位不同故。仁王經。無生忍在七八九地。諸論在初地。或忍位。本業

降下一本有已上二字
壽一本無
持一本作特
已上一本無
凡一作汎

生深重障。故能分身遍十方。悉現菩提樹王下。
△第二往生階位者。問。瑜伽論云。三地菩薩。方生淨土。今勸地前凡夫聲聞。有何意。答。淨土差別。故無有過。如感師釋云。諸經論文。說生淨土。各據一義。淨土既有麤妙勝劣。得生亦有上下階降。又道宣律德云。三地菩薩。始見報佛淨土。問。設非報土。惑業重者。豈得淨土。答。天台云。無量壽佛國。雖果報殊勝。臨終之時懺悔念佛。業障便轉。即得往生。雖具惑染。願力持心。亦得居也。問。若許凡夫亦得往生。彌勒問經。如何通會。經云。念佛者。非凡愚念。不雜結使。得生彌陀佛國。已上 答。西方要決釋云。知娑婆苦。永辭染界。非薄淺凡。當來作佛。意專廣度法界衆生。有斯勝解。故非愚也。正念時。結使眠伏。故言不雜結使念也。略抄 意云。凡夫行人。具此德也。問。彼國衆生。皆不退轉。明知非是凡夫生處。答。所言不退者。非必是

名字西本無一本亦曰之攬幾本作賢寂下一本有靜字

說一本作熟

樂世界。即是淨土。然其穢土。未知何處。但道綽等諸師。以鼓音聲經所說國土。爲彼穢土。如彼經云。阿彌陀佛與聲聞俱。其國號曰淸泰。聖王所住。其城縱廣十千由旬。於中充滿刹利之種。阿彌陀如來應正遍知父。名月上轉輪聖王。其母名曰殊勝妙顏。子名月明。奉事弟子名無垢稱。智慧弟子名曰攬光。神足精勤名曰大化。爾時魔王。名曰無勝。有提婆達多。名曰寂。阿彌陀佛與大比丘六萬人俱。已上問彼佛所化。爲唯極樂淸泰二國。答。敎文隨緣且擧一隅。論其實處不可思議。如華嚴經偈云。菩薩修行諸願海。普隨衆生心所欲。衆生心行廣無邊。菩薩國土遍十方。又云。如來出現遍十方。一々塵中無量土。其中境界亦無量。悉住無邊無盡劫。問。如來施化。事不孤起。要對機緣。何遍十方。答。廣劫修行。成就無量衆。故彼機緣亦遍十方界。如華嚴偈云。往昔勤修多劫海。能轉衆

於一本無擇一本作釋又一本無

晐一本作姟下月

牟尼一本作文

別。所感福報亦有別耶。答。大都無別細分有差。如陀羅尼集經第二云。若人不以香華衣食等供養者。雖生彼淨土。而不得香華衣食等種々供養之報。此文違於彼佛本願。更思擇之。又玄一師。因法師同云。約實而論。亦有勝劣。然其狀相似故。說無好醜。問。極樂世界。去此幾處。答。經云。從此西方過十萬億佛土。有極樂世界。有經云。於是西方。去此世界。過百千俱胝那庾多佛土。有佛世界。名曰極樂。問。二經何故不同。答。論智光疏意云。言俱胝者。此爲億也。那庾多者。當此間晐數也。世俗言十千曰萬。十萬曰億。十億曰兆。十兆曰經。十經曰晐。晐猶是大數也。百千俱胝即十萬億。億有四位。一者十萬。二者百萬。三者千萬。四者萬々。今言億者即是萬萬。爲顯此義。擧那由多。已上此釋可思。問。彼佛所化。爲唯極樂。爲亦有餘。答。大論云。阿彌陀佛亦有嚴淨不嚴淨土。如釋迦牟尼。問。何等是耶。答。極

行一無
栴楯或本萑予
盾或本云栴當
作鉡
原正意本經作
正心
佛一本無
國字西本無
歲下有等字

界。一日至七日。具足三福業。尙不能證無生法忍。云何生彼聞法即悟。故知。經彼國土長遠時刻。悟無生忍。然約彼名即悟。望此即億千歲。或可上々人。必是方便。後心行圓滿者。若不爾者。諸文栴楯。答。未知彼國多善劣。此界少善勝。問。雙觀經說。於是廣植德本。布恩施慧。勿犯道禁。忍辱精進。一心智慧轉相敎化。立善正意。齋戒淸淨一日一夜。勝在無量壽佛國。爲善百歲。所以者何。彼佛國土。無爲自然。皆積衆善無毛髮之惡。於此修善十日十夜。勝於他方諸佛國中。爲善千歲。已上是其勝劣。答。二界善根剋對可爾。然値佛緣勝。速悟無失。或此經。但顯修行難易。非顯善根勝劣。譬如貧賤施一錢。雖可稱美。而不辨衆事。富貴捨千金。雖不可稱。而能辨萬事。二界修行亦復如是。如金剛般若經云。佛世信解。未足爲勝。滅後爲勝。或有餘義。不能委曲。問。如隨婆娑行因。極樂階位有

少一本作小世
一本無

善住天子。聞空聲告汝當七日死。時天帝釋。承佛敎勅。令彼天子七日勤修。過七日後。壽命得延。取意 此是人中日夜而說。若據天上七日者當於人中七百歲。不應佛世八十年中。決了其事。九品日夜。亦應同之。三者法護所譯經云。胎生之人。過五百歲。得見於佛平等覺經云。於蓮華中。化生在城中。於是間五百歲。不能得出。取意 憬興等師以此文。證此方五百歲也。今云。彼胎生歲數。既依此間說。九品時刻。有何別義。不同彼耶。四者若據彼界。說九品者。上品中生一宿。上品下生一日夜。即當此界半劫一劫。若許爾者。胎生疑心者。尙經娑婆五百歲。而速得見佛。上品信行者。豈過半劫一劫。而遲開蓮華耶。有此理故。後釋無失。問。若以此界日夜時刻。說彼相者。彼上々品。生彼國已。不應即悟無生法忍。所以然者。此界少時修行爲勝。彼國多時善根爲劣。既爾上々品人。於此世

恆下引本有沙字

說樹量。寄眞佛說身量。又有多釋。不可具述。問。華嚴經云。娑婆世界一劫。爲極樂國一日一夜。等・云云由此當知。上品中生。經宿華開。當此間半劫。乃至下々生十二劫。當此間恆沙塵數劫。何名極樂。答。設經恆劫。蓮華不開。旣無微苦。豈非極樂。如雙觀經云。其胎生者。所處宮殿。或百由旬。或五百由旬。各於其中。受諸快樂。如忉利天。已上有師云。胎生是中品下品。有師云。九品所不攝。雖有異說。快樂不別。何況判彼九品所經日時。諸師不同。懷感智憬等諸師。許彼國土日夜劫數。誠當所責。有師云。佛以此土日夜說之。令衆生知。云云今謂。後釋無失。且以四例助成。一者彼佛身量。若干由旬。不以彼佛指分。疊爲彼由旬也。若不爾者。應似如須彌山。長大之人。以一毛端。爲其指節。故知。不以佛指量。說佛身長短。何必以淨土時刻。說華開遲速耶。二者如尊勝陀羅尼經說。忉利天上

原報字考本論當作應字今恐就一本作熟隨義轉用歟

下一本有種字

云。淨土中成佛判爲報者。是受用事身。非實報身也。問何者爲正耶。答。迦才云。衆生起行。既有千殊。往生見土。亦有萬別也。若作此解者。諸經論中。或判爲報。或判爲化。皆無妨難也。但知諸佛修行。具感報化二土也。如攝論。加行感化。正體感報。若報若化。皆欲成就衆生。此則土不虛設。行不空修。但信佛語。依經專念。即得往生。亦不須圖度報之與化也。已上 此釋善矣。須專稱念。勿勞分別。問。彼佛相好。何以不同。答。觀佛經說諸佛相好云。同人相故說三十二。勝諸天故說八十好。爲諸菩薩說八萬四千諸妙相好。已上 彼佛准之。問。雙觀經云。彼佛道樹。高四百萬里。寶積經云。道樹高十六億由旬。十往生經云。道樹高四十萬由旬。樹下有師子座。高五百由旬。觀經云。佛身量。六十萬億那由他恒河沙由旬。云云 樹座佛身。何不相稱。答。異解不同。或釋。佛境界大小不相礙。或釋。寄應佛

猶一作猶

原如字下恐脫何字

原極字下本經有當來曠遠不可計七字

原菩提上本經有七寶二字

相下相疑脫實字

猶如今日踊步健如來魔恐怖如來等已上安樂集問。彼佛成道。爲已久如。答。諸經多云十劫。大阿彌陀經云十小劫。平等覺經云十八劫。稱讚淨土經云十大劫。邪正難知。但雙觀經璟興師疏。會平等經云。十八劫者。其小字闕。其中點矣。問。未來壽幾何。答。小經云。無量無邊阿僧祇劫。觀音授記經云。阿彌陀佛壽命。無量百千億劫。當有終極。佛涅槃後。正法住世。等佛壽命。善男子。阿彌陀佛正法滅後。過中夜分。明相出時。觀世音菩薩。於菩提樹下。成等正覺。號普光功德山王如來。其佛國土。無有聲聞緣覺之名。其佛國土號衆寶普集莊嚴。普光功德如來涅槃。正法滅後。大勢至菩薩。即於其國。成佛。號善住功德寶王如來。國土光明壽命。乃至法住等無有異。問。同性經云報身。授記經云入滅。二經相違。諸師何會。答。綽禪師。會授記經云。此是報身現隱沒相。非滅度也。迦才會同性經

表題及撰號長建西引四本共無之蓋元不分本末故也

(原)主下本經有王字

(原)化字本經作應

往生要集卷下末

天台首楞嚴院沙門　源信　撰

○大文第十問答料簡者。略有十事。一極樂依正。二往生階位。三往生多少。四尋常念相。五臨終念相。六麤心妙果。七諸行勝劣。八信毀因緣。九助道資緣。十助道人法。

△第一極樂依正者。問。阿彌陀佛極樂淨土。是何身何土耶。答。天台云。應身佛同居土。遠法師云。是應身應土。綽法師云。是報佛報土。古舊等相傳。皆云化土化身。此爲大失。依大乘同性經云。淨土中成佛者。悉是報身。穢土中成佛者。悉是化身。又彼經云。阿彌陀如來。蓮華開敷星王如來。龍主如來。寶德如來等。諸如來清淨佛刹現得道者。當得道者。如是一切皆是報身佛也。何者如來化身。

尾題長建西引諸本共無之蓋元不分本末故也

往生要集卷下本 終

㊀原如任等七字本經作如縣懷任自喪身今文即倒

二不生憍慢。十三不染利養也。大集月藏分偈云。如樹果繁速自害。竹蘆結實亦如是。如任縣懷喪自身。無智求利亦復然。若有比丘得供養。樂求利養堅著者。於世更無如此惡。故令不得解脫道。如是貪求利養者。既得道已還復失。又佛藏經。迦葉佛記云。釋迦牟尼佛多受供養故。法當疾滅云云。如來尚爾。何況凡夫。大象出窻。遂爲一尾所礙。行人出家。遂爲名利所縛。則知。出離最後之怨。莫大名利者也。但淨名大士。身在家心出家。藥王本事。避塵寰居雲山。今世行人。亦應如是。自料根性而進止之。若不能制其心猶須避於其地。麻中之蓬。屠邊之廐。好惡由何乎。可見佛藏經。知是非也。

不下一本無能字

出下一本有私云文提者塔廟異名也十字

故。應墮惡道。臨命終時。遇善知識。雖不能念佛。但至心令聲不絕。具足十念。稱南無無量壽佛。稱佛名故。於念々中。除八十億劫生死之罪。雙觀經。三輩業。亦不出此。又觀經。以十六觀。爲往生因。寶積經說。佛前蓮華化生。有四因緣。偈云。華香散佛及支提。不害於他。竝造像。於大菩提深信解。得處蓮華生佛前。已上餘不繁出。

△第二總結諸業者。慧遠法師。出淨土因要。有四。一修觀往生。如十六觀。二修業往生。如三福業。三修心往生。至誠等三心。四歸向往生。聞淨土事。歸向稱念讚歎等也。今私云。諸經行業。總而言之。不出梵網戒品。別而論之。不出六度。細明其相。有其十三。一者財法等施。二者三歸五戒。八戒十戒等多少戒行。三者忍辱。四精進。五禪定。六般若。信第一義等是也 七發菩提心。八修行六念。念佛法僧施戒天謂之六念。十六想觀亦不出之。 九讀誦大乘。十守護佛法。十一孝順父母。奉事師長。十

原求下本經有生極樂國四字
原求下本經有生於極樂四字
原慈下本經有若千句可撿
原本經無造衆之衆字
原佛下本經故除八十億劫生死之罪等云云
罪下本經猛火化爲清凉風等云云

品下生者。亦信因果。不謗大乘。但發無上道心。以此功德。廻向願求。生極樂。中品上生者。若有衆生。受持五戒。持八戒齋。修行諸戒。不造五逆。無諸過患。以此善根。廻向願求。中品中生者。若有衆生。若一日一夜。受八戒齋。若一日一夜。持沙彌戒。一日一夜持具足戒。威儀無缺。以此功德。廻向願求。中品下生者。若有善男子善女人。孝養父母。行世仁慈。下品上生者。或有衆生。作衆惡業。雖不誹謗方等經典。如此愚人。多造衆惡法。無有慚愧。臨終聞十二部經，首題，名字。及合掌稱南無阿彌陀佛。下品中生者。或有衆生。毀犯五戒八戒及具足戒。如此愚人。命欲終時。地獄衆火。一時俱至。遇善知識以大慈悲。爲說阿彌陀佛，十力威德。廣讚彼佛，光明神力。亦讚戒定慧。解脫知見。此人聞已。除八十億劫生死之罪。下品下生者。或有衆生。作不善業。五逆十惡。具諸不善。如此愚人。以惡業

三下引本有種字

㊀過上本經有乃是二字

結文云。若人於此十種心中。隨成一心。樂欲往生彼佛世界。若不得生。無有是處。云云　明非必具十。爲往生業也。觀經云。欲生彼國者。當修三福。一者孝養父母。奉事師長。慈心不殺修十善業。二者受持三歸。具足衆戒。不犯威儀。三者發菩提心。深信因果。讀誦大乘。勸進行者。如此三事名爲淨業。佛告韋提希。汝今知不。此三種業。過去未來現在。三世諸佛。淨業正因。又云。上品上生者。若有衆生。願生彼國者。發三種心。卽便往生。何等爲三。一者至誠心。二者深心。三者廻向發願心。具三心者。必生彼國。復有三種衆生。當得往生。何等爲三。一者慈心不殺。具諸戒行。二者讀誦大乘方等經典。三者修行六念。廻向發願願生彼國。具此功德。一日乃至七日。卽得往生。上品中生者不必受持方等經典。善解義趣。於第一義。心不驚動。深信因果。不謗大乘。以此功德。廻向願求。生極樂國。上

往生阿彌陀佛國。十者正念。若於無上道。不起誹謗心。精進持淨戒。復教無智者。流布是經法。教化無量衆。如是諸人等。悉皆得往生阿彌陀佛國。彌勒問經云。如佛所說。願阿彌陀佛。功德利益。若能十念相續。不斷念佛者。即得往生。當云何念。佛言。凡有十念。何等爲十。一者於諸衆生。常生慈心。不毀其行。若毀其行。終不往生。二者於諸衆生。常起悲心。除殘害意。三者發護法心。不惜身命。於一切法。不生誹謗。四者於忍辱中。生決定心。五者深心淸淨。不染利養。六者發一切智心。日々常念。無有廢忘。七者於諸衆生。起尊重心。除我慢心。謙下言說。八者於世談話。不生味著。九者近於覺意。深起種々善根因緣。遠離憒鬧散亂之心。十者正念。觀佛除去諸想。寶積經第九十二。佛亦以此十心。答彌勒問。其中第六心云。求佛種智。於一切時。無忘失心。其餘九種。文雖少異。意同前經。但

原挾註恐贊誤　彌上西本有阿字

砂下一本有良字

欲一心齋戒。清淨至專。念生阿彌陀佛國。一日一夜不斷絕者。壽終皆往生其國。在七寶浴池蓮華中化生。此經以持戒爲首十往生彌陀佛國經云。吾今爲汝說。有十往生。云何十往生。一者觀身正念。常懷歡喜。以飮食衣服。施佛及僧。往生阿彌陀佛國。二者正念世妙藥。施一病比丘及以一切衆生。往生阿彌陀佛國。三者正念。不害一生命。慈悲於一切。往生阿彌陀佛國。四者正念。從師所受戒。淨慧修梵行。心常懷喜。往生阿彌陀佛國。五者正念。孝順於父母。敬重於師長。不懷憍慢心。往生阿彌陀佛國。六者正念往詣於僧坊。恭敬於塔寺。聞法解一義。往生阿彌陀佛國。七者正念。一日一宿中受持八戒齋。一日一宿中。受持不破一。往生阿彌陀佛國。八者正念。若能齋月齋日中。遠離於房舍。常詣於善師。往生阿彌陀佛國。九者正念。常能持淨戒。勤修樂禪定。護法不惡口。若能如是行。

修字一本作作
則一本作即

行恐業

原當本經常作
原慜亦作哀字

如修多羅說。若人專念西方阿彌陀佛。所修善業廻向。願求生彼世界。即得往生。已上明知。契經多以念佛。爲往生要。若不爾者。四依菩薩。別非理盡。

○大文第九。明往生諸行者。謂求極樂者。不必專念佛。須明餘行。任各樂欲。此亦有二。初別明諸經文。次總結諸業。

△第一明諸經者。四十華嚴經普賢願。三千佛名經。無字寶篋經。法華經等諸大乘經。隨求尊勝。無垢淨光。如意輪。阿嚕力迦。不空羂索。光明阿彌陀。及龍樹所感往生淨土等呪。此等顯密諸大乘中。皆以受持讀誦等。爲往生極樂業也。大阿彌陀經云。當齋戒一心清淨。晝夜當念。欲生阿彌陀佛國。十日十夜不斷絕。我皆慈慜之。悉令往生阿彌陀佛國。殊使不能爾。自思惟熟校計。欲度脫身者。不當絕念。去愛勿念家事。莫與婦女同牀自端正身心。斷於愛

當上西本有常字
原 專本經作守字
原 尋生下本經有慶悅二字
原 餘行之行字恐寫誤當作經字

前。是人終時。心不顚倒。即得往生。八般舟經云。阿彌陀佛言。欲來生我國者。常念我數々。當專念。莫有休息。如是得來生我國。九鼓音聲經云。若有四衆。能正受持彼佛名號。以此功德。臨欲終時。阿彌陀佛。即與大衆往此人所。令其得見。見已尋生。十往生論。以觀念彼佛依正功德。爲往生業。已上此中觀經下々品。阿彌陀經。鼓音聲經。但以念名號爲往生業。何況觀念相好功德耶。問。餘行寧無勸信文耶。答。其餘行法。因明彼法種々功能。其中自說往生之事。不如直辯往生之要。多云念佛。何況佛自既言當念我乎。亦不云佛光明攝取餘行人。此等文分明。何重生疑耶。問。諸經所說隨機萬品。何以管見執一文耶。答。馬鳴菩薩大乘起信論云。復次衆生。初學是法。其心怯弱懼畏信心難可成就。意欲退者。當知。如來有勝方便攝護信心。謂以專心念佛因緣。隨願得往生他方佛土。

感禪師等六字一本無之

原挾註恐贊君子察之

彌陀建本作念佛弘本西本亦同

一字恐剩

流。趣涅槃道。獲無上果。略抄。感禪師亦同之。況復諸聖教中。多以念佛爲往生業。其文甚多。略出十文。一占察經下卷云。若人欲生他方現在淨國者。應當隨彼世界佛之名字。專意誦念一心不亂。如上觀察者。決定得生彼佛淨國。善根增長。速成不退。如上觀察者。觀於地藏菩薩法身。及諸佛法身與已自身。體性平等無二。不生不滅。常樂我淨。功德圓滿。此可歸依。又觀已身無常如幻。此可厭等也。雙觀經三輩之業。雖有淺深。然通皆云一向專念無量壽佛。三四十八願中。於念佛門別發一願云。乃至十念。若不生者。不取正覺。四觀經云。極重惡人無他方便。唯稱彌陀。得生極樂。五同經云。若欲至心生西方者。先當觀於一丈六像在池水上。六同經云。光明遍照十方世界。念佛衆生攝取不捨。七阿彌陀經云。不可以少善根福德因緣。得生彼國。若有善男子善女人。聞說阿彌陀佛。執持名號。若一日。乃至若七日。一心不亂。其人臨命終時。阿彌陀佛。與諸聖衆。現在其

二七

能西本作德

㊊慈本經作矜字

㊊如是下本經有漸次度木槵子六字

戒龍子也。餘趣信佛語。生淨土准之。地獄利益。如前國王因緣並下蠡心妙果。諸餘利益。如下念佛功能。

○大文第八。念佛證據者。問。一切善業。各有利益。各得往生。何故唯勸念佛一門。答。今勸念佛。非是遮餘種々妙行。只是男女貴賤。不簡行往坐臥。不論時處諸緣。修之不難。乃至臨終。願求往生。得其便宜。不如念佛。故木槵經云。難陀國波瑠璃王。遣使白佛言。唯願世尊。特垂慈愍。賜我要法。使我日夜易得修行。未來世中。遠離衆苦。佛告言。大王若欲滅煩惱障報障者。當貫木槵子一百八。以常自隨。若行若坐若臥。恆當至心無分散意。稱佛陀達摩僧伽名。乃過一木槵子。如是若十若二十。若百若千。乃至百千萬。若能滿二十萬遍。身心不亂。無諸諂曲者。捨命得生第三炎魔天。衣食自然。常受安樂。若復能滿一百萬遍者。當得除斷百八結業。背生死

原敬下本經有時字

原難下本經有而還到閻浮提六字

原餘諸依本經即倒

佛名下西本有聞佛名三字

原子本經作復字

原滅本經作滅字今即寫誤

原身爲本經作我爲

見。亦不得見佛法衆僧。極大悲哭。爾時商主。偏袒右肩。右膝著地。住於船上。一心念佛。合掌禮拜高聲唱言。南無諸佛。得大無畏者。大慈悲者。憐愍一切衆生者。如是三稱。時諸商人亦復同時。如是三稱。時摩竭魚。聞佛名號。禮拜音聲。生大愛敬聞即閉口。爾時商主及諸商人。皆悉安穩得免魚難。時摩竭魚。聞佛音聲。心生喜樂。更不食噉餘諸衆生。因是命終。得生人中。於其佛所。聞法出家。近善知識得阿羅漢。阿難汝觀。彼魚生畜生道。得聞佛名已。乃至涅槃。何況有人。得聞佛名。聽聞正法 略抄 又菩薩處胎經八齋品云。龍子與金翅鳥。而說頌曰。殺是不善行滅壽命中夭。身如朝露蟲見光則命終。持戒奉佛語得生長壽天。累劫積福德。不墮畜生道。今身爲龍身。戒德清明行。雖墮六畜中。必望自濟度是時龍子說此頌。時龍子龍女。心意開解壽終之後。皆當生阿彌陀佛國。已上 八齋

傳下建本引本有僧二十三人尼六人沙彌二人在家男女合二十四人二十一字挾註

〔原〕奇本經作痛字今恐寫誤

餘人。出淨土論竝瑞應傳。我朝往生者亦有其數。具在慶氏日本往生記。何況朝市隱德。山林逃名之者。獨修獨去。誰得知耶。問。下々品人。五百釋子。臨終同念。昇沈何別。答。群疑論會云。五百釋子。但依父敎。一念佛而不發菩提心。求生淨土。慇懃慚愧。又彼不至心。復唯一念。不具十念。故。略抄

△第七明惡趣利益者。大悲經第二云。若復有人。但心念佛。一生敬信。我說。是人當得涅槃果。盡涅槃際。阿難且置人中念佛功德。若有畜生。於佛世尊。能生念者。我亦說。其善根福報。當得涅槃。問。何等是耶。答同經第三。佛告阿難。過去有大商主。將諸商人。入於大海。其船卒爲摩竭大魚。欲來呑噬。爾時商主及諸商人。心驚毛竪。各皆悲泣。嗚呼奇哉彼閻浮提。如是可樂。如是希有世間人身。如是難得。我今當與父母離別。姉妹婦兒。親戚朋友別離。我更不

十善化導。我於爾時心生殺獵。貪嗜酒肉。懶墮懈怠。不能精進。妻時語我。止其獵殺。戒斷酒肉。勤加精進。得脫地獄苦惱之患。上生天宮。與一處。我於爾時。殺心不止。酒肉美味。不能割捨。精進之心懶墮不前天宮息意。地獄分受。我於爾時。居聚落內。近僧伽藍。數聞槌鐘。妻語我言。事々不能聞槌鐘聲。三彈指一稱佛。歛身自恭。莫生憍慢。如其夜半。此法莫廢。我即用之。無復捨失。經十二年。其妻命終。生忉利天。却後三年。我亦壽盡。經至斷事。判我入罪。向地獄門。當入門時。聞鐘三聲。我即住立。心生歡喜。愛樂不厭。如法三彈指。長聲唱佛。聲皆慈悲梵音朗徹。主事聞已。心甚愧感。此眞菩薩。云何錯判。即遣追還。送往天上。既往到已。五體投地。禮敬我妻白言。大師幸義。大恩。如見濟拔。乃至菩提不違敎勅。已上又震旦東晉已來。至于唐朝。念阿彌陀佛。往生淨土者。道俗男女合五十

㊐中下一本有便字

寢下一本有殿字

乃一作即

天上人中。獪狩薜茘中求索。了不見之。觀於泥黎。見母在中懊惋悲哀。廣求方便欲脫其苦。時邊境有王。害父奪國。比丘知此王命。餘有七日受罪之地。與比丘母同在一處。夜安靖時。到王寢處。穿壁現半身。王怖拔刀斫頭。頭即落地。其處如故。斫之數反。化頭滿地。比丘不動。王意乃解知其非常。叩頭謝過。比丘言。莫恐莫怖。欲相度耳。汝害父奪國不耶。對曰。實爾。願見慈救。比丘曰。作大功德。恐不相及。王當稱南無佛七日不絕。便得免罪。重告之曰。愼莫忘此法。即便飛去。王便叉手一心稱說南無佛。晝夜不懈。七日命終。魂神向泥黎門。稱南無佛。泥黎中人聞佛音聲。皆一時言南無佛。泥黎即冷。比丘爲說法。比丘母王及泥黎中人。皆得度脫。後大精進。得須陀洹道。已上諸文略抄。　優婆塞戒經云。善男子我本往墮邪見家。惑網自我蓋我。於爾時。名曰廣利。妻名女。精進勇猛度脫無量。

三

坐建本作座西引二本亦同
跏建西引諸本作趺

原食下本經有不食世供四字

原法下本經有一會說法四字

母字引本無之

唯汝一子。汝若出家。我等當死。子白父母。若不聽我者。我從今日不飲不食。不昇牀座。亦不言說。作是誓已。一日不食。乃至六日。父母知識。八萬四千諸婇女等。同時悲泣。禮大精進。尋聽出家。既得出家。持像入山。取草爲坐。在畫像前。結跏跏坐。一心諦觀此畫像不異如來。像者非覺非知。一切諸法。亦復如是。無相離相體性空寂。作是觀已。經於日夜。成就五通。具足四無量。得無礙辯。得普光三昧。具大光明。以淨天眼。見於東方阿僧祇佛。以淨天耳。聞佛所說。悉能聽受。滿足七月。以智爲食。一切諸天散華供養。從山而出、來至村落。爲人說法。二萬衆生發菩提心。無量阿僧祇人。住於聲聞緣覺功德。父母親眷。皆住不退無上菩提。佛告迦葉。昔大精進。今我身是。由此觀像。今得成佛。若有人能學如此觀。未來必當成無上道。譬喻經第二云。昔有比丘。欲度其母。母已命過。便以道眼。

原德下本經有恆得二字

原曾本經作會字今即寫誤

氎字一本作疊

叵字一本作匹

故心大歡喜捨離邪見。歸依三寶。隨壽命終。由前入塔。稱南無佛因緣功德。値九百萬億那由他佛。逮得甚深念佛三昧。三昧力故。諸佛現前。爲其授記。從是已來。百萬阿僧祇劫。不墮惡道。乃至今日。獲得甚深首楞嚴三昧。爾時王子。今我財首是也。又云佛言。我與賢劫諸菩薩。曾於過去栴檀窟佛所。聞是諸佛色身變化觀佛三昧海。以是因緣功德力故。超越九百萬億阿僧祇劫生死之罪。於此賢劫次第成佛。乃至如是十方無量諸佛。皆由此法成三菩提。迦葉經云。昔過去久遠阿僧祇劫。有佛出世。號曰光明。入涅槃後。有一菩薩。名大精進。年始十六。婆羅門種。端正無比。有一比丘。於白氎上畫佛形像。持與精進。精進見像。心大歡喜。作如是言。如來形像。妙好乃爾。況復佛身。願我未來亦得成就如是妙身。言已思念。我若在家。此身叵得。即啓父母。求哀出家。父母答言。我今年老。

原白下本經有佛字今卽脫

原飾下本經有極爲可愛四字一本作敎語

原身下本經有作是語已四字

原像下本經有若字

罪。從是已後。八十億阿僧祇劫不墮惡道。生々常見十方諸佛。於諸佛所受持甚深念佛三昧。得三昧已諸佛現前。授我記莂。東方妙喜國阿閦佛。卽第一比丘是。南方歡喜國寶相佛。卽第二比丘是。西方極樂國無量壽佛。第三比丘是。北方蓮華莊嚴國微妙聲佛。第四比丘是。時四如來各申右手。摩阿難頂告言。汝持佛語。廣爲未來諸衆生說。三說此已。各放光明。還歸本國。又云。財首菩薩白言。世尊我念過去無量世時。有佛世尊。亦名釋迦牟尼。彼佛滅後有一王子。名曰金幢。憍慢邪見不信正法。知識比丘。名定自在。告王子言。世有佛像衆寶嚴飾。可暫入塔觀佛形像。時彼王子隨善友語。入塔觀像。見像相好。白言比丘。佛像端嚴猶尙如此。況佛眞身。比丘告言。汝今見像不能禮者。當稱南無佛。是時王子合掌恭敬稱南無佛。還宮繫念。念塔中像。卽於後夜夢見佛像。見佛像。

原文佛下本經有起居安穩四字恐脫
迦下一本有文字
原善哉下本經有釋迦牟尼四字
原時本經作世字
原習下本經有學三世諸四字
原語下本經有四字
原可本經作當字
原像本經作佛字

得成佛。東方善德佛者。則我身是。東南方無憂德佛。南方栴檀德佛。西南方寶施佛。西方無量明佛。西北方華德佛。北方相德佛。東北方三乘行佛。上方廣衆德佛。下方明德佛。如是十佛。由過去禮塔觀像。一偈讃嘆。今於十方各得成佛。說是語已。問訊釋迦文佛。既問訊已。放大光明。各還本國。又云。四佛世尊。從空而下。坐釋迦佛牀。讃言善哉善哉。乃能爲於未來之時。濁惡衆生。說三世佛白毫光相。令諸衆生得滅罪咎。所以者何。念我昔曾空王佛所出家學道。時四比丘。共爲同學。習佛正法。煩惱覆心。不能堅持佛法寶藏。多不善業。當墮惡道。空中有聲。語比丘言。空王如來。雖復涅槃。汝之所犯。謂無救者。汝等今可入塔觀像。與佛在世等無有異。我從空聲。入塔觀像眉間白毫。即作是念。如來在世光明色身。與此何異。佛大人相。願除我罪。作是語已。如大山崩。五體投地懺悔諸

原上本經作尙字
原來本經作結字
原出世本經作世尊
原視下本經有之字
原終下本經有已字

生瞋恨。隨壽脩短。各欲命終。羅漢敎稱南無諸佛。旣稱佛已。得生忉利天。乃至於未來世。當得作佛。號南無光照。第七卷。文殊自說。於値遇禮拜過去寶威德佛。爾時釋迦文佛讚言。善哉善哉。文殊師利。乃於昔時。一禮佛故。得値爾許無數諸佛。何況未來我諸弟子。勤觀佛者。佛勅阿難。汝持文殊師利語。遍告大衆及未來世衆生。若能禮拜者。若能念佛者。若能觀佛者。當知此人與文殊師利等。無有異。捨身他世。文殊師利等諸大菩薩。爲其和上。又云。時十方佛。來跏趺坐。東方善德佛。告大衆言。我念過去無量世時。有佛出世。號寶威德上王。時有比丘。與九弟子。往詣佛塔禮拜佛像。見一寶像嚴顯可觀。禮已諦視。說偈讚嘆。後時命終。悉生東方寶威德上王佛國。大蓮華中結跏趺坐。忽然化生。從此已後。恆得値佛。於諸佛所。淨修梵行。得念佛三昧。得三昧已。佛爲授記。於十方面。各

原到下本經有
諸字
到一本作致
原截本經作作
割
原身下本經有
汝心煩悶四字
原佛本經作之
字
刺一本作刻
原出下本經有
亦得値遇四字
原出下本經有
世字

勝友。當坐道場。生諸佛家。已上將來勝利也。餘如上別時念佛門。
△第六引例勸信者。觀佛經第三佛告諸釋子言。毘婆尸佛像法中。有一長者。名曰月德。有五百子。同遇重病。父到子前。涕淚合掌語諸子言。汝等邪見不信正法。今無常刀。截切汝身。爲何所怙。有佛世尊。名毘婆尸。汝可稱佛。諸子聞已。敬其父故。稱南無佛。父復告言。汝可稱法。汝可稱僧。未及三稱。其子命終。以稱佛故。生四天王所。天上壽盡。前邪見業墮大地獄。獄卒羅刹。以熱鐵叉刺壞其眼。受是苦時。憶父長者所教誨事。以念佛故。還生人中。尺棄佛出。但聞佛名。不覩佛形。乃至迦葉佛時亦聞其名。以聞六佛名因緣故與我同生。是諸比丘。前世之時。以惡心故。謗佛正法。但爲父故。稱南無佛。生々常得聞諸佛名。乃至今世。値遇我出。諸障除。故成阿羅漢。又云。燃燈佛末法之中。有一羅漢。其千弟子。聞羅漢說。心

挟註一日建本有乃至二字而如是下有或可以此文置下諸行門中十一字西引二本亦同㊟同本經作下

頃字一本作須

國。一日一夜如亦是。雙觀經偈云。其佛本願力。聞名欲往生。皆悉到彼國。自致不退轉。觀經下品上生人。臨命終時。合掌叉手稱南無阿彌陀佛。稱佛名故。除五十億劫生死之罪。從化佛後。生寶池中。同品中生人。臨命終時。地獄猛火。一時俱至。聞彌陀佛十力威德光明神力。戒定慧解脱知見。除八十億劫生死之罪。地獄猛火。化爲清涼風。吹諸天華。華上皆有化佛菩薩。迎接此人。即得往生。同品下生人臨命終時。苦逼不能念佛。隨善友敎。但至心令聲不絶。具足十念稱南無無量壽佛。稱佛名故。於念々中。除八十憶劫生死之罪。如一念頃。即得往生。雙觀經彼佛本願云。諸佛世界。衆生之類。聞我名字。不得菩薩無生法忍。諸深總持者。不取正覺。他方國土諸菩薩衆。聞我名字。不即得至不退轉者。不取正覺。觀經云。若念佛者。當知此人。是人中分陀利華。觀世音菩薩大勢至菩薩。爲其

原我本經作先字今恐寫誤已上二字一本無之

原能念之念字本經作令今即寫誤

原愈本經作慰今即寫誤

一四

或經一日。或復一夜。如是。或至七日七夜。如我所聞。具足念故。是人必覩阿彌陀如來應供等正覺。若於晝時。不能見者若於夜分。或夢中阿彌陀佛。必當現也。已上觀經云。見眉間白毫者。八萬四千相好。自然當見。見無量壽佛者即見十方無量諸佛。得見無量諸佛故。諸佛現前授記。是爲遍觀一切色相。已上見佛也鼓音聲王經云。十日十夜。六時專念五體投地禮敬彼佛。堅固正念。悉除散亂。若能念心念々不絕十日之中。必得見彼阿彌陀佛。竝見十方世界如來及所住處。唯除重障鈍根之人。於今少時所不能覩一切諸善皆悉廻向願得往生安樂世界。垂終之日阿彌陀佛與諸大衆。現其人前。安愈稱善。是人即時甚生慶悅。以是因緣。如其所願即得往生。平等覺經云。佛言要當齋戒。一心清淨晝夜常念欲生無量清淨佛國。十日十夜不斷絕。我皆慈愍之悉令生無量清淨佛

勸建本作歡西引本亦同

之所。十往生經釋尊說阿彌陀佛功德國土莊嚴等。已云。淸信士淸信女讀誦是經。流布是經。恭敬是經。不謗是經。信樂是經。供養是經。如是人輩。緣是信敬。我從今日。常使前二十五菩薩護持是人。常使是人無病無惱惡鬼惡神亦不中害。亦不惱之亦不得便。已上乃至睡寤行住。所至之處。皆悉安穩云云。 唐土諸師云。二十五菩薩擁護念阿彌陀佛。願往生者。此亦不違彼經意也。二十五者。觀世音菩薩。大勢至菩薩。藥王菩薩。藥上菩薩。普賢菩薩。法自在菩薩。師子吼菩薩。陀羅尼菩薩。虛空藏菩薩。德藏菩薩。寶藏菩薩。金藏菩薩。金剛藏菩薩。光明王菩薩。山海慧菩薩。華嚴王菩薩。衆寶王菩薩。月光王菩薩。日照王菩薩。三昧王菩薩。定自在王菩薩。大自在王菩薩。白象王菩薩。大威德王菩薩。無邊身菩薩也。 雙觀經彼佛本願云諸天人民。聞我名字。五體投地。稽首作禮。歡喜信樂。修菩薩行。諸天世人。莫不致敬。若不爾者。不取正覺。已上冥得護持 大集經賢護分云善男子善女人。端坐繫念。專心想彼阿彌陀如來應供等正覺。如是相好。如是威儀。如是大衆。如是說法。如聞繫念。一心相續次第不亂。

五下一本無念字
㊊挾註滅上當有此中亦有四字歟
滅罪云々割書一本爲本文
經下一本無說字
又云下西本有但聞佛名二菩薩名除無量劫生死之罪何況憶念又云二十二字
殑字一本作兢

量諸菩薩雲集說法品王氏自向空觀寺僧定法師說云然也。略抄

△第五念彌陀別益者。爲令行者其心決定。故別明之。滅罪生善。冥得護念。現身見佛。將來勝利。如次觀經說像想觀云。作是觀者。除無量億劫生死之罪。於現身中得念佛三昧。又云。但想佛像得無量福。況復觀佛具足身相。阿彌陀思惟經云。若轉輪王千萬歲中滿四天下七寶布施十方諸佛。不如苾蒭苾蒭尼優婆塞優婆夷等一彈指頃坐禪以平等心憐愍一切衆生念阿彌陀佛功德。已上滅罪生善。稱讚淨土經云。或善男子或善女人。於無量壽極樂世界清淨佛土功德莊嚴。若已發願若當發願若今發願。必爲如是住十方面十殑伽沙諸佛世尊之所攝受。如說行者。一切定於阿耨菩提得不退轉。一切定生無量壽佛極樂世界。觀經云。光明遍照十方世界。念佛衆生攝取不捨。又云。無量壽佛化身無數。與觀世音大勢至常來至此行人

㊟佛本經作法

唯下一本無我字

見故。心即我身。即是虛空。我因覺觀。見無量佛。我以覺心。見佛知佛。心不見心。心不知心。我觀法界性無牢固。一切諸佛皆從覺觀因緣而生。是故法性即是虛空。虛空之性亦復是空。已上此文意同觀經。光師釋亦無違。問知心作佛。有何勝利。答若觀此理。能了三世一切佛法。乃至一聞即得解脫三途苦難。如華嚴經如來林菩薩偈云。若人欲求知三世一切佛。應當如是觀。心造諸如來。華嚴傳曰。文明元年。京師人。姓王失其名。既無戒行。曾不修善。因患致死。被二人引。至地獄門前。見有一僧。云是地藏菩薩。乃教王氏誦此一偈。謂之曰。誦得此偈。能排地獄。王氏遂入見閻羅王。王問此人。有功德。答云、唯我受持一四句偈。具如上說。王遂放免。當誦此偈時。聲所及處受苦之人皆得解脫。王氏三日始蘇。憶持此偈。向諸沙門說之。示驗偈文。方知是華嚴經第十二卷夜摩天宮無

（原）地獄本經作無量

（原）諸佛名本經作佛音聲

狹註西本大書

云。寧受地獄苦。得聞諸佛名。不受無量樂。而不聞佛名。已上四門總明念諸佛之利益。其中觀佛經。以釋迦爲首。般舟經。多以彌陀爲首。理實俱通一切諸佛。念佛經通三世佛。問。觀佛經云。是人心如佛心。與佛無異。又觀經云。佛告阿難。諸佛是法界身。入一切衆生心想之中。是故汝等。心想佛時。是心即是三十二相。八十隨形好。是心作佛。是心是佛。諸佛正徧知海。從心想生。已上此義云何。答。往生論。智光疏。釋此文云。當衆生心想佛時。佛身相皆顯現衆生心中。譬如水清即色像現。而水與像。不一不異。故言佛相好身。即是心想。是心作佛者。心能作佛。是心是佛者。心外無佛。譬如火從木出。不得離木。以不離木。故即能燒木。爲火燒木。即是火。已上亦有餘釋。學者更勘。私云。大集經日藏分云。行者作是念。是等諸佛。無所從來。去無所至。唯我心作。於三界中。是身因緣。唯是心作。我隨覺觀。欲多見多。欲少見少。諸佛如來。即是我心。何以故。隨心

無字一作謨

原大慈悲者本經作大調御士

原問本經作聞

男子善女人等下。至一稱南無佛陀。大慈悲者。是善男子善女人等。窮生死際。善根無盡。於天人中。恒受富樂。乃至最後得般涅槃。略抄。大悲經第二同之。寶積經云。若有衆生。於如來所。起微善者。盡於苦際。畢竟不壞。又云。若有菩薩。以勝意樂。能於我所。起於父想。彼人當得入如來數。如我無異。十二佛名經偈云。若人持佛名。世々所生處。身通遊虛空。能至無邊刹。面覲於諸佛。能問甚深義。乃至爲說微妙法。授彼菩提記。法華經偈云。若人散亂心。入於塔廟中。一稱南無佛。皆已成佛道。大悲經第三。佛告阿難。若有衆生。聞佛名者。我說是人。畢定當得入般涅槃。華嚴經法幢菩薩偈云。若有諸衆生。未發菩提心。一得聞佛名。決定成若提。已上諸文。得菩提。但聞名號勝利如是。況暫觀念相好功德。或復供養一華一香。況一生勤修。功德終不虛。則知値佛法聞佛號。非是少緣。是故華嚴經眞實慧菩薩偈

云下一本無若字

諂曲。常在諸佛前。若人持佛名。七寶華中生。其華千億葉。威光相具足。已上諸文。永離惡趣。往生淨土。觀佛經云。若能至心。繫念在內。端坐正受。觀佛色身。當知是人心。如佛心。與佛無異。雖在煩惱。不爲諸惡之所覆蔽。於未來世。雨大法雨。大集念佛三昧經第七云。當知如是念佛三昧。則爲總攝一切諸法。是故非彼聲聞緣覺二乘境界。若人暫聞說此法者。是人當來決定成佛無有疑也。同經第九云。但能耳聞此三昧名。假令不讀不誦。不受不持。不修不習。不爲他轉。不爲他說。亦復不能廣分別釋。然彼諸善男子善女人。皆當次第成就阿耨菩提。同經偈云。若欲圓滿諸妙相。具足衆妙上莊嚴。及求轉生淸淨家。必先受持此三昧。又有經言。若於佛福田。能植少分善。初獲勝善趣。後必得涅槃。大般若經云。依敬憶佛。必出生死。至涅槃。置此乃至。爲供養佛。以一華散虛空。亦如是。又置此。若善

八

聞上建本有但字西引二本亦同　大上西本有安樂集云四字

原云云下一本有有云二字　文下一有云云

△第四當來勝利者。華嚴偈云。若念如來少功德。乃至一念心專仰。諸惡道怖悉永除。智眼於此能深悟。智眼天王ノ頌ナリ 般舟經偈云。其人終不墮地獄。離餓鬼道及畜生。世々所生識宿命。學是三昧得如是觀佛經云。若有衆生。一聞佛身。如上功德相好光明。億億千劫。不墮惡道。不生邪見雜穢之處。常得正見。勤修不息。聞佛名獲如是福。何況繫念觀佛三昧。已上 大集經云。諸佛出世。有四種法度衆生。何等爲四。一者口說十二部經。卽是法施度衆生。二者諸佛如來。有無量光明相好。一切衆生。但能繫心觀察。無不獲益。卽是身業。度衆生。三者有無量德用。神通道力。種々神變。卽是神通道力。度衆生。四者諸佛如來。有無量名號。若總若別。其有衆生。繫心稱念。莫不除障獲益。皆生佛前。卽是名號度衆生 云云。正法念經有此文。云云 十二佛名經偈云。若人持佛名。不生怯弱心。智慧無

〔原〕空一作至〔原〕即於本經作即是〔原〕就一作熟〔原〕經卷下本經有名字

〔原〕本經無各悉之悉

〔原〕得見佛三字本經作見得二字佛字恐剩〔原〕能本經作力字

〔原〕當本經作常

欲入一行三昧應處空閑。捨諸亂意。不取相貌。繫心一佛。專稱名字。隨佛方所。端身正向。能於一佛。念念相續。即於念中。能見過去未來現在諸佛。導禪師釋云。衆生障重。觀難成就。是以大聖。悲憐直勸專稱名字。般舟經云。前所不聞經卷。是菩薩持是三昧威神。夢中悉自得。其經卷各々悉見。悉聞經聲。若晝日不得者。若夜於夢中悉得見佛。佛告跋陀和。若一劫若過一劫。我說是菩薩。持是三昧者。說其功德不可盡竟。何況能求得是三昧者。又同經偈云。如阿彌陀國菩薩。見無央數百千佛。得是三昧菩薩然。當見無央百千佛。乃至其有誦受是三昧。已爲面見百千佛。假使最後大恐懼。持此三昧無所畏。念佛三昧經第九偈云。若欲盡見一切佛。現在未來及十方。或復求轉妙法輪。亦先修習此三昧。十二佛名經偈云。若人能至心七日誦佛名。得於淸淨眼。能見無量佛。

甖字一作嬰

(原)者字本經有三昧下今恐倒歟若火若水依本經爲倒

(原)本經無者字

勤一作勒

(原)神字本經作鬼叉甄作眞

天一作友

(原)挾註恐當有向宿命下歟婆一作沙

神爲眷屬。護受三歸者。般舟經云。劫盡壞燒時。持是三昧菩薩者。正使墮是火中。火即爲滅。譬如大甖水滅小火。佛告䟦陀和。我所語無有異。是菩薩者。持是三昧。若帝王若賊。若火若水。若龍若蛇。若閱叉鬼神。若猛獸。乃至若壞人禪奪人念。設欲中是菩薩者。終不能中。佛言。如我所語無有異。除其宿命。其餘無有能中者。偈曰。鬼神乾陀共擁護。諸天人民亦如是。竝阿須倫摩睺勤。行此三昧得如是。諸天悉共頌其德。天人龍神甄陀羅。諸佛嗟歎令如願。諷誦說經爲人故。國々相伐民荒亂。飢饉荐臻壞苦窮。終不於中夭其命。能誦此經化人者。勇猛降伏諸魔事。心無所畏毛不竪。其功德行不可議。行此三昧得如是。十住婆娑引此等文已云。唯除業報。必應受者。十二佛名經偈云。若人持佛名。衆魔及波旬。行往坐臥處。不能得其便。

△第三現身見佛者。文殊般若經下卷云。佛云若善男子善女人。

㊟誦本經作讚究盡或本作盡窮

㊟說講本經作講說

㊟畜生餓鬼依本經即倒魔一作波羅

經下一本有說字

佛聖智淸淨慧第一。皆於億劫過其數。講說一偈之功德。至於泥洹誦詠福。無數億劫悉歎誦。不能究盡其功德。於是三昧一偈事。一切佛國所有地。四方四隅及上下。滴中珍寶以布施。用供養佛天中天。若有聞是三昧者。得其福祐過於彼。安諦諷誦說講者。引譬功德不可喩。破一佛剎爲塵。取一一塵亦碎如一佛剎塵數。以此一塵爲一佛剎。若干佛剎滿中珍寶供養諸佛。以之爲比也。已上生善。　度諸佛境界經說。若諸衆生。緣於如來。生諸行者。斷無數劫地獄畜生餓鬼閻魔王生。若有衆生。一念作意緣如來者。所得功德。無有限極。不可稱量。百千萬億那由佗諸大菩薩。悉得不可思議解脫定。不能計校知其邊際。觀佛經。佛告阿難。我涅槃後。諸天世人。若稱我名。及稱南無諸佛。所獲福德無量無邊。況復繫念。念諸佛者。而不滅除諸障礙耶。已上滅罪生善。其餘如上正修念佛門。

△第二冥得護持者。護身呪經云。三十六部神王。有萬億恒沙鬼

原大本經作火字

原遺下日本無字

原罪本經作欲字

原若下本經有有字

原本經無種々二字

原德下本經有神通威力四字

原專本經作等

人。於日々中稱說如來名號功德。是諸衆生。能離黑闇。漸次當得燒諸煩惱。如是稱念南無佛者語業。不空。如是語業。名執大炬。能燒煩惱。遺日摩尼經云。菩薩雖復數千巨億萬劫。在愛欲中。爲罪所覆。若聞佛經。一反念善。罪即消盡。已上諸文滅罪大悲經第二云。若三千大千世界滿中。須陀洹。斯陀含。阿那含。阿羅漢。若有善男子善女人。若一劫若減一劫。以諸種々稱意一切樂具。恭敬尊重。謙下供養。若復有人。於諸佛所。但一合掌一稱名。如是德福。比前福德。百分不及一。百千億分不及一。迦羅分不及一。何以故。以佛如來諸福田中。爲最無上。是故施佛。成大功德。略抄以滿三千界辟支佛。校量亦爾。普曜經偈云。一切衆生成緣覺。若有供養億數劫。飮食衣服牀臥具。擣香雜香及名華。若有一心叉十指。專心自歸一如來。口自發言南無佛。是功德福爲最上。般舟經說念佛三昧偈云。假使一切皆爲

身色本身作光今即寫誤
罪下西本有優塡王作佛形像經云御作形像功德無量世世所生不墮惡道後皆得生無量壽佛國作菩薩當得成佛云云略抄四十五字
挾註挾註當在老女下歟
駃疑駃
鎖本經作消

日。持如來語。遍告弟子。佛滅度後。造好形像。令身相足。亦作無量化佛色像及通身色。及畫佛跡。以微妙絲及頗梨珠。安白毫處。令諸衆生得見是相。但見此相。心生歡喜。此人除却百億那由佗恆河沙劫生死之罪。又云。老女見佛邪見不信。猶能除却八十萬億劫之生死之罪。況復善意恭敬禮拜。須達家老女因緣ハ如彼經廣說。又云。諸凡夫及四部弟子。謗方等經。作五逆罪。犯四重禁。偸僧祇物。婬比丘尼。破八戒齋。作諸惡事。種々邪見。如是等人。若能至心。一日一夜繫念在前。觀佛如來一相好者。諸惡罪障。皆悉盡滅。又云。若有歸依佛世尊者。若稱名者。除百千劫煩惱重障。何況正心修念佛定寶積經第五云。如有寶珠。名種々色。在大海中。雖有無量衆多駃流入於大海。以珠火力。令水銷滅。而不盈溢。如是如來。應正等覺。證菩提已。由智火力。能令衆生煩惱銷滅。亦復如是。乃至若復有

本字建本無之
西本引本亦同

往生要集卷下本

天台首楞嚴院沙門　源信　撰

○大文第七。明念佛利益者。大分有七。一滅罪生善。二冥得護持。三現身見佛。四當來勝利。五彌陀別益。六引例勸信。七惡趣利益。其文各多。今略擧要。

△第一滅罪生善者。觀佛經第二云。於一時中。分爲少分。少分之中。能須臾間。念佛白毫。令心了々。無謬亂想。分明正住。注意不息。念白毫者。若見相好。若不得見。如是等人。除却九十六億。那由佗恆河沙。微塵數劫。生死之罪。設復有人。但聞白毫。心不驚疑。歡喜信受。此人亦却八十億劫。生死之罪。又云。佛去世後。三昧正受。想佛行者。亦除千劫極重惡業。（佛行步相。如上助念方法門。）又云。佛告阿難。汝從今

末終二字長建西引諸本共無之

往生要集卷中末終

問病者所有諸事。依前行儀。種々教化。

原終下本書有時字

彼字長建二本作復

悔過。不遇善友教令念佛。故所見華。是地獄相。今此下品等三人。雖復生來造罪。終遇善知識。至心念佛。以念佛故。滅多劫罪。成勝功德。感得寶池中華來迎。豈同前華也。二相者。彼經說。風刀解身。偃臥不定。如被楚撻。其心荒越。發狂癡想。見己室宅。男女大小。一切皆是不淨之物。屎尿臭處。盈流于外。今此念佛。身心安穩。惡想都滅。唯見聖衆。聞有異香。故不類也。三語者。彼經中說。地獄痛聲。如詠歌音。罪人聞已。如此好處。吾當遊中。觀經中言。讚善男子汝稱佛名。故諸罪消滅。我來迎汝。彼是詠歌之音。此陳滅罪之語。二音既別。故不同也。四佛者。彼經一切火焰。化爲玉女。罪人遙見。心生歡喜。我欲往中。坐金車已。顧瞻玉女。皆捉鐵斧。折截其身。觀經言。爾時彼佛。即遣化佛。化觀世音。化大勢至。至行者前。以此四義準知。蓮華來迎不同。觀佛三昧經說。已上看病之人。能了此相。數

原折本經作漸今恐不是
原佚本經作泆又略作掠字今倶寫誤
原坐經作臥字楚一本作禁
原杖礎亦作楚撻
刀山本經作刀林
原嘴蟲本經作觜蟲

女。皆捉鐵斧。折截其身。又言。復有衆生。犯四重禁。虛食信施。誹謗邪見。不識因果。斷學般若。毀十方佛。偸僧祇物。婬泆無道。逼略淨戒。諸比丘尼。姉妹親戚。不知慚愧。毀辱所親。造衆惡事。此人罪報。臨命終時。風刀解身。偃坐不定。如被杖楚。其心荒越。發癡狂想。見己室宅。男女大小。一切皆是不淨之物。屎尿臭處。盈流于外。爾時罪人。即作是語。云何此處。無好城廓及好山林。使吾遊戲。乃處如此不淨物間。作是語已。獄卒羅刹。以大鐵叉。擊阿鼻地獄及諸刀山。化作寶樹。及淸凉池。火焰化作金葉蓮華。諸鐵嘴蟲。化爲鳧鴈。地獄痛聲。如詠歌音。罪人聞已。如此好處。吾當遊中。念已尋時。坐大蓮華。云云。寧知今日蓮華來迎。非是火華。答。感和尚釋云。以四義故。知非火車。一以行。二以相。三以語。四以佛。此四義異火華。一以行者。觀佛三昧經說。罪人造罪。犯四重禁。乃至毀辱所親。不生

南無等六字諸本大書
華一本作臺
不一本作否
但一本作唯
但字長西引諸本無之
處一本大書
一字建西二本無之

極樂。南無阿彌陀佛。以上第七八九條事。常應勸誘。其餘條時々用之。若病者氣力漸々羸劣時。應云。佛與觀音勢至無量聖衆倶來。擎寶蓮華引攝佛子。十正臨終時。應云。佛子知不。但今即是最後心也。臨終一念。勝百年業。若過此刹那。生處應一定。今正是其時。當一心念佛。決定往生西方極樂。微妙淨土八功德池中。七寶蓮臺上。應作是念。如來本誓。一毫無謬。願佛決定。引攝於我。南無阿彌陀佛 或漸々。取略應念。願佛必引攝南無阿彌陀佛 如是瞻病者氣色。隨順其所應。但以一事爲最後一念。不得衆多。其詞進止。可殊用意。勿令病者。生攀緣矣。問。如觀佛三昧經說。佛告阿難。若有衆生。殺父害母。罵辱六親。作是罪者。命終之時。銅狗張口。化十八車。狀如金車。寶蓋在上。一切火焰。化爲玉女。罪人遙見。心生歡喜。我欲往中。風刀解時。寒急失聲。寧得好火。在車上坐。燃火自爆。作是念已即便命終。揮攉之間。已坐金車。顧瞻玉

明。熾然赫奕。如億千日月。是即無漏萬德之所成就。大定智悲之所流出也。須臾之間。憶此相者。能滅九十六億那由他恆河沙微塵數劫生死重罪。是故今當憶念彼相。決定滅除罪業。應作此念。願白毫相光滅我諸罪。南無阿彌陀佛

八彼白毫相。若干光明。常照十方世界。念佛衆生。攝取不捨。當知大悲光明。決定來照。如華嚴偈云。

又放光明名見佛。彼光覺悟命終者。念佛三昧必見佛。命終之後生佛前。故今應作是念。願彌陀佛。放清淨光。遙照我心。覺悟我心。轉境界自體當生三種愛。令得念佛三昧成就。往生極樂。南無阿彌陀佛

九彌陀如來。非唯以光遙照。自與觀音勢至。常來擁護行者。何況父母於病子。其心偏重。動法性山。入生死海。當知是時。佛放大光明。與諸聖衆。倶來引接擁護。惑障相隔。雖不能見。大悲願不可疑。決定來入此室。故佛子應作是念。願佛放大光明。決定來迎。往生

樂字長本作益西本亦同

迴向極樂。應作是念。願由我所有一切善根力。今日決定。往生極樂。南無阿彌陀佛　五　又本願云。設我得佛。十方衆生發菩提心。修諸功德。至心發願。欲生我國。臨壽終時。假令不與大衆圍遶。現其人前者。不取正覺。佛子久已發菩提心。及諸善根迴向極樂。今須重發菩提心。念彼佛。應作此念。願我爲利樂一切衆生。今日決定往生極樂。南無阿彌陀佛　六　既知佛子本來。具往生業。今須專念彌陀如來。令業增盛。然彼佛功德無量無邊。不可具說。今現在十方各恆河沙等諸佛。恆常稱讚彼佛功德。如是稱讚。設經恆沙劫。終不可窮盡。佛子總應一心。歸命彼佛功德。應念我今一念之中。盡以歸命彌陀如來。一切萬德。南無阿彌陀佛　七　佛子應念阿彌陀佛一色相。令心住一境。謂彼佛色身。如閻浮檀金。威德巍々。如金山王。無量相好。莊嚴其身。其中眉間白毫。右旋婉轉。如五須彌。七百五俱胝。六百萬光

南無等六字長建引諸本大書又次事下有或加稱二菩薩下去准之十字

子下長建引諸本有今字

惡一本作途

於何生離輪廻耶。然阿彌陀佛。有不思議威力。若一心稱名。念々之中。滅八十億劫生死重罪。是故今當一心念彼佛。離此苦界。應作是念。願阿彌陀佛。決定拔濟我。南無阿彌陀佛見其十念以上信心勢盡應勸次事三應欣求淨土。西方極樂。是大乘善根界。無苦無惱處。一託蓮胎。永離生死。眼瞻彌陀之聖容。耳聞深妙之尊敎。一切快樂。無不具足。若人臨終時。十念彌陀佛。決定往生彼安樂國。佛子適得人身。亦值佛敎。猶一眼龜。値浮木孔。若於此時。不得往生。還墮三惡八難之中。聞法尚難。何況往生。故應一心稱念彼佛。應作是念。願佛今日。決定引接於我。往生極樂。南無阿彌陀佛四凡欲往生彼國者。須求其業如彼佛本願云。設我得佛。十方衆生。聞我名號。係念我國。植諸德本。至心廻向。欲生我國。不果遂者。不取正覺。佛子一生之間。偏修西方業。所修業雖多。所期唯極樂。今須重聚集三際一切善根。盡

是字引本無之

見眼。示本覺道。引接淨土。無如佛法僧。是故佛子。先應生大醫王想。一心念佛。南無三世十方一切諸佛。南無本師釋迦牟尼佛。南無藥師瑠璃光佛。三念已上南無阿彌陀佛。十念已上次應生妙良藥想。一心念法。南無三世佛母。摩訶般若波羅蜜。南無平等大慧。妙法蓮華經。南無八萬十二。一切正法。次應生隨逐護念想。一心念僧。南無觀世音菩薩。南無大勢至菩薩。南無普賢菩薩。南無文殊師利菩薩。南無彌勒菩薩。南無地藏菩薩。南無龍樹菩薩。南無三世十方一切聖衆。南無極樂界會一切三寶。南無三世十方一切三寶。三念已上。或隨宜同音助念。或令聞鐘聲。增正念。下去準之。

二法性雖平等。亦不離假有。如彌陀佛言。通達諸法性。一切空無我。專求淨佛土。必成如是刹。故爲往生淨土。先應厭離此界。今此娑婆世界。是惡業所感。衆苦本源也。生老病死。輪轉無際。三界獄縛。無一可樂。若於此時。不厭離之。當

終十念。今既臥病牀。不可不恐。須閉目合掌。一心誓期。自非佛相好。勿見餘色。自非佛法音。勿聞餘聲。自非佛正教。勿說餘事。自非往生事。勿思餘事。如是乃至命終之後。坐寶蓮臺上。從彌陀佛後。聖衆圍遶。過十萬億國土之間。亦復如是。勿緣餘境界。唯至極樂世界七寶池中。始應擧目合掌。見彌陀尊容。聞甚深法音。聞諸佛功德香。嘗法喜禪悅味。頂禮海會聖衆。悟入普賢行願。今有十事。應當一心聽一心念。每一々念。莫生疑心。一先應發大乘實智。知生死由來。如大圓覺經偈云。一切諸衆生。無始幻無明。皆從諸如來。圓覺心建立。當知生死即涅槃。煩惱即菩提。圓融無礙。無二無別。而由一念妄心。入生死界。來無明病所盲。久忘本覺道。但諸法從本來。常自寂滅相。如幻無定性。隨心而轉變。是故佛子。應念三寶。翻邪歸正。然佛是醫王。法是良藥。僧是瞻病人。除無明病。開正

(原)火本論作炎字

衆生下長建引諸本有爲善根爲結縁六字

意云。取地相多故。履水如地。取水相多故。入地如水。取火相多故。身出烟火等。云云明知。於所求事。取彼相時。能助其事。而得成就。非唯臨終。尋常準之。綽和尙云。十念相續。似若不難。然諸凡夫。心如野馬。識劇猨猴。馳騁六塵。何曾停息。各須宜致信心。豫自剋念。使積習成性。善根堅固也。如佛告大王。人積善行。死無惡念。如樹先傾倒必隨曲也。若刀風一至。百苦湊身。若習先不在懷。念何可辨。各宜同志三五。預結言要。臨命終時。迭相開曉。爲稱彌陀名號。願生極樂。聲々相次。使成十念。已上所言十念。雖有多釋。然一心十遍。稱念南無阿彌陀佛。謂之十念。此義順經文。餘如下料簡。次臨終勸念者。善友同行。有其志者。爲順佛敎。爲利衆生。從染患初。來問病牀。幸垂勸進矣。但勸誘之趣。應在人意。今且爲自身。結其詞云。佛子年來之間。止此界悕望。唯修西方業。就中本所期。是臨

道建本作導引本亦同

㊟原看病下本書有人字今脫

中繫一五綵幡。脚垂曳地。當安病者。在像之後。左手執幡脚。作從佛往佛淨刹之意。瞻病者。燒香散華。莊嚴病者。乃至若有屎尿吐唾。隨有除之。或說佛像向東。病者在前。私云。若無別處。但令病者面向西。燒香散華。種々勸進。或可令見端嚴佛像。道和尚云。行者等。若病不病。欲命終時。一依上念佛三昧法。正當身心。廻面向西。心亦專注觀想阿彌陀佛。心口相應。聲々莫絕。決定作往生想。華臺聖衆。來迎接想。病人若見前境。則向看病人說。既聞說已。即依說錄記。又病人若不能語。看病必須數々問病人。見何境界。若說罪相。傍人即爲念佛。助同懺悔。必令罪滅。若得罪滅。華臺聖衆。應念現前。準前鈔記。又行者等眷屬六親。若來看病。勿令有食酒肉五辛人。若有必不得向病人邊。即失正念。鬼神交亂。病人狂死。墮三惡道。願行者等。好自謹愼。奉持佛敎。同作見佛因緣。已上 作往生想迎接想。其理可然。如大論說神變作

原搆本書作犨今寫誤
量建作邊引本亦同
娑建本作沙引本亦同

此一本作是

云下長建二本有云字

就一本作熟

不驚不畏。況信受持讀誦爲人說。況定心修習。如搆牛乳頃。況能成是三昧。故無量無邊。娑婆云。劫火官賊。怨毒龍獸衆病。侵是人者。無有是處。此人常爲天龍八部諸佛。皆共護念稱讚。皆共欲見。共來其所。若聞此三昧。如上四番功德。皆隨喜。三世諸佛菩薩皆隨喜。復勝上四番功德。若不修如此法。失無量重寶。人天爲之憂悲。如齆鼻人。把栴檀而不嗅。如田家子。以摩尼珠。博一頭牛云。四番功德者。弘決云。又有四番果報。一不驚。二信受。三定心修。四能成就也。

△第二臨終行儀者。先明行事。次明勸念。初行事者。四分律鈔。瞻病送終篇。引中國本傳云。祇洹西北角。日光沒處爲無常院。若有病者。安置在中。以凡生貪染見本房內。衣盋衆具多生戀著。無心厭背。故制令至別處。堂號無常。來者極多。還反一二。即事而求專心念法。其堂中置一立像。金薄塗之。面向西方。其像右手擧。左手

原本書無念空之念字

原解此之此字本經作是

原貪經作深字

人一本作又

念。亦了無所有。念空耳。其三偈云。心者不知心。有心不見心。心起想即癡。無想即泥洹。諸佛從心得解脱。心者無垢名清淨。五道鮮潔不受色。有解此者成大道。是名佛印。無所貪。無所著。無所求。無所想。所有盡。所欲盡。無所從生。無所可滅。無所壞敗。道要道本。是印二乘不能壞。何況魔耶。云云婆沙明新發意菩薩。先念佛色相。相體相業。相果相用。得下勢力。次念佛四十不共法。心得中勢力。次念實相佛。得上勢力。而不著色法二身。偈云。不貪著色身。法身亦不著。善知一切法。永寂如虛空。勸修者。若人欲得智慧如大海。令無能爲我作師者。於此坐不運神通。悉見諸佛。悉聞所説。悉能受持者。常行三昧。於諸功德。最爲第一。此三昧。是諸佛母佛眼佛父。無生大悲母。一切諸如來。從是二法生。碎大千地。及草木爲塵。一塵爲一佛刹。滿爾世界中。寶用布施。其福甚多。不如聞此三昧。

數上一本有數

◎原相當作想今即寫誤

不用智慧得佛。何以、故。智慧索不可得。自索我了不可得。亦無所見。一切法本無所有。壞本絕本。其一如夢見七寶。親屬歡樂。覺已追念。不知在何處。如是念佛。又如舍衛有女。名須門。聞之心喜。夜夢從事。覺已念之。彼不來我不往。而樂事宛然。當如是念佛。如人行大澤飢渴。夢得美食。覺已腹空。自念一切所有法。皆如夢。當如是念佛。數念莫得休息。用是念。當生阿彌陀佛國。是名如想念。如人以寶倚瑠璃上。影現其中。亦如比丘觀骨。骨起種々光。此無持來者。亦無有是骨。是意作耳。如鏡中像。不外來不中生。以鏡淨故。自見其形。行人色清淨。所有者清淨。欲見佛即見。見即問。問即報。聞經大歡喜。其二自念。佛從何所來。我亦無所至。我所念即見。心作佛心自見心。見佛心是佛心。是我心。見佛心。心不自知心。心不自見心。心有想爲癡。心無相是泥洹。是法無可示者。皆念、所爲。設有

(原)本書無心身之心字今剩

不得望衣食。婆沙偈云。親近善知識。精進無懈怠。智慧甚堅牢。信力無妄動。口說嘿者。九十日常行無休息。九十日口常唱阿彌陀佛名無休息。九十日心常念阿彌陀佛無休息。或唱念俱運。或先念後唱。或先唱後念。唱念相繼。無休息時。若唱彌陀即是唱十方佛功德等。但專以彌陀爲法門主。舉要言之。步々聲々念々。唯在阿彌陀佛。意論止觀者。念西方阿彌陀佛。去此十萬億佛刹。在寶地寶池寶樹寶堂。衆菩薩中央坐說經。三月常念佛。云何念。念三十二相。從足下千輻輪相。一々逆緣。念諸相乃至無見頂。亦應從頂相順緣。乃至千輻輪。令我亦逮是相。又念我當從心得佛。從身得佛。佛不用心得。不用身得。不用心得佛色。不用色得佛心。何以故。心者佛無心。色者佛無色。故不用色心得三菩提。佛色已盡。乃至識已盡。佛所說盡者。是癡人不知。智者曉了。不用身口得佛。

住處者。或於初禪二三四中間。發是勢力。能生三昧。故名住處。初禪少二禪中。三四多。或少時住名少。或見世界少。或見佛少。故名少。中多亦如是。身開常行。行此法時。避惡知識及癡人。親屬鄉里。常獨處止。不得希望他人。有所求索。常獨乞食不受別請。嚴飾道場。備諸供具。香餚甘果。盥沐其身。左右出入。改換衣服。只專行旋。九十日爲一期。須明師善內外律。能開除妨障。於所聞三昧處。如視世尊。不嫌不恚。不見短長。當割肌肉供養師。況復餘耶。承事師如僕奉大家。若於師生惡。求是三昧終難得。須外護如母養子。須周行如共涉嶮。須要期誓願。使我筋骨枯朽。學是三昧不得。終不休息。起大信無能壞者。起大精進無能及者。所入智無能逮者。常與善師從事。終竟三月。不得念世間想欲。如彈指頃。三月終竟。不得臥出。如彈指頃。終竟三月。行不得休息。除坐食左右。爲人說經。

獨一本無

㊊盥本書作盥今寫誤

㊊周本書作同字今寫誤

㊊三月終竟四字倒寫

(原)亦應本論作皆當

功德等者。如來大慈大悲。說法無礙。靜慮一念。能現無邊類身。天眼天耳他心智無失念。無漏離垢。得一切法自在平等。等功德威神也。大集賢護經。亦有七日行如次利益中說。又迦才淨土論云。綽禪師。撿得經文。但能念佛。一心不亂。得百萬遍已去者。定得往生。又綽禪師。依小阿彌陀經七日念佛。撿得百萬遍也。是故大集經。藥師經。小阿彌陀經。皆勸七日念佛者。此意明矣。已上迦才所言十日行者。出鼓音聲經。平等覺經。至次利益門當知。所言九十日行者。止觀第二云。常行三昧者。先明方法。次明勸修。方法者。身開遮。口說嘿。意止觀。此法出般舟三昧經。翻爲佛立。佛立三義。一佛威力。二三昧力。三行者本功德力。能於定中見十方現在佛在其前立。如明眼人。清夜觀星。見十方佛亦如是多。故名佛立三昧。十住毘婆沙偈云。是三昧住處。少中多差別。如是種々相。亦應須論義。

(原)因緣一々四字恐倒

(原)見本書作現字

(原)便本經作使今即寫誤

土聖衆莊嚴。願生者。除入三昧道場。日別念彌陀佛一萬。畢命相續者。即蒙彌陀加命。得除罪障。又蒙佛與聖衆。常來護念。既蒙護念。即得延年轉長命安樂。因緣一々具如譬喩經。惟無三昧經。淨度三昧經等說。又觀佛經云。若諸比丘比丘尼。若男女人。犯四根本罪。十惡等罪。五逆罪。及謗大乘。如是諸人。若能懺悔。日夜六時。身心不息。五體投地。如大山崩。號泣雨淚。合掌向佛。念佛眉間白毫相光。一日至七日。前四種罪。可得輕微。觀白毫毛。闇不見者。應入塔中。觀像眉間白毫。一日至三日。合掌啼泣。已上觀念門略抄 大般若五百六十八。明七日行云。若善男子善女人等。心無疑惑。於七日中。澡浴清淨。著新淨衣。華香供養。一心正念如前所說。如來功德。及大威神。爾時如來。慈悲護念。現身令見。便願滿足。若有闕少華香等事。但一心念功德威神。將命終時。必得見佛。已上言前所說

原極本書作誓字今即寫誤

原白本書作日字今是寫誤

之中。皆須一食長齋。粳餅麤飯隨時。醬菜儉素節量。於道場中。晝夜束心。相續專念阿彌陀佛。心與聲相續。唯坐唯立。七日之內。不得睡眠。亦不須依時禮佛誦經數珠亦不須捉。但知合掌念佛。念々作見佛想。佛言。想念阿彌陀佛眞金色身。光明徹照。端正無比。在心眼前。正念佛時。若立即立念一萬二萬。若坐即坐念一萬二萬。於道場內不得交頭竊語。晝夜或三時六時。表白諸佛一切賢聖。天曹地府。一切業道發露懺悔。一生已來。身口意業。所造衆罪。事事依實懺悔。竟還依法念佛。所見境界。不得輒說。善者自知。惡者懺悔。酒肉五辛。極發願。手不捉口不喫。若違此語。即願身口俱著惡瘡。願誦阿彌陀經。滿十萬遍。日別念佛一萬遍。誦經日別十五遍。或誦二十遍三十遍。任力多少。誓生淨土。願佛攝受。又白諸行者。但欲今生。日夜相續。專念彌陀佛。專誦彌陀經。稱揚禮讚淨

(原)見下本經有阿彌陀佛四字而無之字

(原)念阿之念字作聞字今寫誤

(原)故由之故字考本經今恐剩

(原)是字本經空字已上等八字西本爲挾註此文在彼經行品中若覺不見佛於夢中見之

(原)挾註似不是

諸大山。須彌山。其有幽冥之處。悉爲開闢。無所蔽礙。是四衆不持天眼徹視。不持天耳徹聽。不持神足到其佛刹。不於此間終生彼間。便於此坐見之。佛言。四衆於此間國土。念阿彌陀佛專念。故得見之。即問持何法。得生此國。阿彌陀佛報言。欲來生者。常念我名。莫得休息。即得來生。佛言。專念。故得往生。當念。佛身三十二相。八十種好。巨億光明徹照。端正無比。在菩薩僧中。說法莫壞色。何以故不壞色。故由念佛色身。故得是三昧。已上明念佛三昧法。欲入三昧道塲時。一依佛教方法。先須料理道塲。安置尊像香湯掃灑。若無佛堂。有淨房。亦得掃灑。如法取一佛像。西壁安置。行者等。從月一日至八日。或從八日至十五日。或從十五日至二十三日。或從二十三日至三十日。月別四時佳。行者等。自量家業輕重。於此時中。入淨行道。若一日乃至七日。盡須淨衣。鞋韈亦須新淨。七日

表題及撰者號長建西及引諸本共無蓋元不分本末故也

尚下長本有觀念門之三字建引二本亦同便得二字本經作故致本經無如法二字　㊊又無在彼之彼字　㊊見下本經有阿彌陀佛四字而無之字　㊊衆下本經有心字又常作當字

往生要集卷中末

天臺首楞嚴院沙門源信撰

○大文第六別時念佛者。有二。初明尋常別行。次明臨終行儀。

△第一尋常別行者。於日々行法。不能常勇進。故應有時。修別時行。或一二三日。乃至七日。或十日乃至九十日。隨樂修之。所言一日。乃至七日者。導和尚云。般舟三昧經。佛告跋陀和。持是行法。便得三昧。現在諸佛悉在前立。其有比丘比丘尼。優婆塞優婆夷。如法持戒完具。獨一處止。念西方阿彌陀佛。今現在彼。隨所聞當念。去此十萬億佛刹。其國名須摩提。一心念之一日一夜。若七日七夜。過七日已後見之。譬如夢中所見。不知晝夜。亦不知內外。不由在冥中。有所蔽礙。故不見。跋陀和。四衆常作是念時。諸佛境界中。

行要長建西引諸本作要行

尾題長建西引諸本共無之蓋不分本末故也

△第七總結行要者。問。上諸門中。所陳既多。未知何業。爲往生要。答。大菩提心。護三業。深信。至誠常念佛。隨願決定生極樂。況復具餘諸妙行。問。何故此等爲往生要。答。菩提心義。如前具釋。三業重惡。能障正道。故須護之。往生之業。念佛爲本。其念佛心。必須如理。故具深信至誠常念三事。常念有三益。如迦才云。一者諸惡覺觀。畢竟不生。亦得消於業障。二者善根增長。亦得種於見佛因緣。三者薰習熟利。臨命終時。正念現前。已上業由願轉。故云隨願往生。總而言之。護三業是止善。稱念佛是行善。菩提心及願。扶助此二善。故此等法爲往生要。其旨出經論。不能具之。

往生要集中本　終

㊗是 狂本論作誑
㊗是 狂本論作誑
權 一本作推

悲。乃至雖觀佛妙色身。入三空門。不應執著。如熱金丸。雖見色妙。不可手觸。況於餘事。生著生慢。作是觀時。魔不沮壞。故大般若經。亦說其治。云。一觀諸法皆畢竟空。二不棄捨一切有情。又大論云。十二入皆是魔網。虛狂不實。於此中生六種識。亦是魔網虛狂。何者是實。唯不二法。無眼無色。乃至無意無法等是名實。令衆生離十二入故。常以種々因緣。說是不二法。已上 問。何故觀空。魔不得便。答。彼論云。一切法中皆不著。不著故無違錯。無違錯故。魔不能得其便。譬如人身無瘡。雖臥毒屑中。毒亦不入。若有小瘡則死。又大集經月藏分中。他化天魔王。發菩提心。受記發願云。我等護念現在未來諸佛弟子與第一義相應住者。供給供養。若不順我教。惱亂行者。即令彼類得種々病。退失神通。取意 明知。實魔不得便。權魔護念耳。前二種治。皆有證據。故不更引諸師所釋。

治之答。治道雖多。今但應依念佛一治。此中亦有事理。一事念者。言行相應。一心念佛時。諸惡魔不能沮壞。問。何故不壞。答。佛護念故。法威力故。不能沮壞。如大般若。對治魔事。出番々二法。其中云。一如所言。皆悉能作。二爲諸佛。常爲護念。又般舟經云。若閱叉鬼神。壞人禪奪人念。設欲中是菩薩者。終不能中。云云。餘如下利益門。二中理念者。如止觀第八云。知魔界如佛界如。一如無二如。平等一相。不以魔爲戚。以佛爲欣。安之實際。乃至魔界即佛界。而衆生不知。迷於佛界。横起魔界。於菩提中。而生煩惱。是故起悲。欲令衆生。於魔界即佛界。於煩惱即菩薩。是故起慈悲。已上應作是念。魔界佛界及自他界。同空無相。此諸法無相是即佛眞體。當知。魔界即是佛身。亦即我身。理無二故。而諸衆生。妄想夢未覺。不解一實相。生是非想。輪回五道。願令衆生。入平等慧。如是深起無緣大

㊊本經無者字

中字長本無之建引二本亦同

㊊本書無悲已字今即剩

王字建本作土西本引本亦同

(原)語字本經作言字又善根作善權

(原)勸明之明字本經作助字今即寫誤

(原)根字本經作權字

(原)中字本經作行字今恐誤

(原)且依止觀第八訂之攀緣下當有若愚若智四字而十過文宛然可見也今恐脫歟

者。可依彌勒菩薩。本願經一偈。經云。佛語阿難。彌勒菩薩。本求道時。不持耳鼻頭目手足身命。珍寶城邑妻子。及以國王。布施與人。以成佛道。但以善業安樂之行。得致無上正眞之道。阿難白佛。彌勒菩薩。以何善根得致佛道。佛語阿難。彌勒菩薩。晝夜各三。正衣束體叉手。右膝著地。向於十方說偈言。我悔一切過。勸明衆道德。歸命禮諸佛。令得無上慧。佛語阿難。彌勒菩薩。以是善根。得於無上正眞之道。已上問。修此懺悔勸請等事。得幾處福。答。十住論偈云。若於一時中。福德有形者。恆河沙世界乃自不容受。

△第六對治魔事者。問。種々魔事能障正道。或令發病患。或令失觀念。或令得邪法。所謂若有見。若無見。若明了若昏闇。若邪定若攀緣。若悲若喜。若苦若樂。若禍若福。若惡若善。若憎人若戀著。若心强若心輭。如是等事。若過若不及。皆是魔事。悉障正道。何以對

原 前字本經作先字
報下一本有願
界一本作苛
原 挾註使字當作作字今即寫誤
原 註從自作至三喜也九字及三毒三品之四字長本無之建引二本亦然
原 成佛二字本論作成道二字

是轉重輕受。非全不受。名之不除。或是隨轉理門之說。又感禪師會十輪經云。如來密意。欲令畏罪等。云云。餘如下料簡念佛相門。此等皆是別時懺悔。然行者常當修三事。如大論云。菩薩必須晝夜六時。修懺悔隨喜勸請三事。略抄五念門中。禮拜之次。應修此事。十住婆沙懺悔偈云。十方無量佛。所知無不盡。我今悉於前發露諸黑惡。三々合九種。從三煩惱起。今身若前身。是罪盡懺悔。於三惡道中。若應受業報。願於今身償。不入惡道受。三々合九種者。身口意各有現生後。自作教使見作隨喜也。業從三煩惱起者。三界三毒三品煩惱也勸請偈云。十方一切佛。現在成佛者。我請轉法輪。安樂諸衆生。十方一切佛。若欲捨壽命。我今頭面禮。勸請令久住。隨喜偈云。所有布施福。持戒修禪行。從身口意生。去來今所有。習行三乘人。具足三乘者。一切凡夫福。皆隨而歡喜。已上又常行三昧。法華三昧。眞言教等。皆各有文。隨意用之。若樂略

戒一本作或次亦同

㊀本論無悔字

修行。日初分時。有所犯戒。於日中分。不離一切智心。如是菩薩。戒身不壞。若日中分。有所犯戒。於日後分。不離一切智心。如是菩薩。戒身不壞。乃至若夜後分。有所犯戒。於日初分。不離一切智心。如是菩薩。戒身不壞。以是義故。菩薩乘人。持開遮戒。設有所犯。不應失念。妄生憂悔。自惱其心。於聲聞乘。有所犯者。便爲破壞聲聞淨戒。云云一切智心者。準餘處說。是第一義空相應心。或可是願求佛種智心也。問。若修懺悔。能滅衆罪。云何大論四十六云。戒律中戒。雖復細微。懺悔即淸淨。犯十善戒。雖復懺悔。三惡道罪不除。又十輪經說。造十惡輪罪。一切諸佛之所不救。答。觀經。十念能滅五逆。觀佛經。念佛一相。能滅十惡五逆。大經。闍王懺除殺父之罪。般若經。讀誦解脫。能滅殺害三界衆生之罪。不墮惡趣。華嚴經。誦普賢願。一念能滅十惡五逆。明知。大乘實說。無不滅罪。然此論文。或

㊖三箇念佛二字本經俱作見佛

㊖本經無能見之能字今即剩矣

㊖少本經作小字

佛品云。見無所有名爲念佛。見諸法實相名爲念佛。無有分別。無取無捨。是眞念佛。已上諸餘空無相等觀。準之皆應攝入念佛三昧。問。如是懺悔有何勝德。答。心地觀經偈云。在家能招煩惱因。出家亦破淸淨戒。若能如法懺悔者。所有煩惱悉皆除。乃至懺悔能出三界獄。懺悔能開菩提華。懺悔能見佛大圓鏡。懺悔能至於寶所。問。此中何者爲最勝耶。答。若約一人。順機爲勝。若汎爾判。理懺爲勝。故如來祕密藏經下卷。佛告迦葉言。若少不善。若其堅住堅著。一切我說。名之爲犯。迦葉五無間罪。若不堅住堅執堅著。生於見者。我不說。彼名曰爲犯。況復餘少不善業道。迦葉我不以不善法。而得菩提。亦不以善法。而得菩提。乃至解知煩惱。從因緣生。名得菩提。迦葉云何。爲解知從因緣。所生煩惱。解知是無自性起法。是無生法。如是解知。名得菩提。又決定毘尼經云。於大乘中。發起

若長本建本無之

眞建本作直西引二本亦同

放禪定光。滅散亂罪。放智慧光。滅愚惑罪。如是若一日。若至七日。除百千劫煩惱重障。或須臾間。坐禪入定。念佛白毫。令心了々。無謬亂想。分明正住。注意不息。除却九十六億。那由他等劫。生死之罪。或一心念彼佛神呪一遍。能滅四重五逆。七遍能滅根本之罪。出儀軌

或復心地觀經明理懺悔云。一切諸罪性皆如。顛倒因緣妄心起。如是罪相本來空。三世之中無所得。非內非外非中間。性相如々俱不動。眞如妙理絕名言。唯有聖智能通達。非有非無非有無。非不有無離名相。周遍法界無生滅。諸佛本來同一體。唯願諸佛垂加護。能滅一切顛倒心。願我早悟眞性源。速證如來無上道。

問。眞觀念佛。既能滅罪。何故更修理懺悔耶。答。誰言一々修之。但隨意樂。何況觀衆罪性空無所有。即是眞實念佛三昧。如華嚴偈云。現在非和合。未來亦復然。一切法無相。是即佛眞體。佛藏經念

原本論無意字

原禮敬二字本經作敬禮相根一本作

前。假傍救助。則蒙輕擧。行人亦爾。心弱不能排障。稱名請護。惡緣不能壞。已上若惑覆心。不令欲修通別對治。須知其意。常爲心師。不師於心。問。若破戒者。三昧不成。云何觀佛經云此觀佛三昧。是一切衆生犯罪者藥。破戒者護。答。破戒已後。爲滅前罪。一心念佛。爲此名藥。若常毀犯。三昧難成。

△第五懺悔衆罪者。設爲煩惱迷亂其心。毀禁戒者。應不過日營修懺悔。如大經十九云。若覆罪者。罪則增長。發露懺悔。罪即消滅。又大論云。身口意惡不悔。欲見佛。無有是處。已上懺法非一。隨樂修之。或五體投地。遍身流汗。歸命彌陀佛。念眉間白毫相。發露涕泣。應作此念。過去空王佛眉間白毫相。彌陀尊禮敬。滅罪今得佛。我今禮彌陀佛。亦當復如是。須隨罪相。哀請佛光。謂放檀光滅慳蔽罪。放戒光滅毀禁罪。放忍辱光滅瞋恚罪。放精進光滅懈怠罪。

氷水建本倒置
西本引本亦同

如一沙雖合無油。或心境俱合。那有不生煩惱時。若離生者。既離心離緣。那忽生煩惱。或虛空離二。常應生煩惱。種々觀察既無實。生無所從來。亦無所去。非內非外。亦非中間。都無處所。皆如幻有。非唯惑心。觀心亦爾。如是推求。惑心自滅。故心地觀經偈云。如是心法本非有。凡夫執迷謂非無。若能觀心體性空。惑障不生便解脫。云云又中論第一偈云。諸法不自生。亦不從他生。不共不無因。是故知無生。應依此偈。用多四句。三者應念。今我惑心具足八萬四千塵勞門。彼彌陀佛具足八萬四千波羅蜜門。本來空寂。一體無礙。貪欲即是道。恚癡亦如是。如氷與水。性非異處。故經云。煩惱菩提體無二。生死涅槃非異處。云云我今未有智火分。故不能解煩惱氷。成功德水。願佛哀愍我。如其所得法。定慧力莊嚴。以此令解脫。如是念已。擧聲念佛。而請救護。如止觀云。如人引重。自力不

原繫字本經作擊字今即寫誤爲下一本在汝

原尋自下本經有退字今即脫矣散下建本有滅字引本亦同

原僻字考本經亦同恐寫誤當作辟也

原來字本經作求字今寫誤

相。除諸境界。在心念佛。功德無量。即滅重罪。畧抄別相治如是。今加三通治。一能了惑起。驚覺其心。呵責煩惱。如驅惡賊。防護三業。如擎油鉢。如六波羅密經云。結跏趺坐。正念觀察。以大悲心。而爲屋宅。智慧爲鼓。以覺悟杖。而扣擊之。告諸煩惱。汝等當知。諸煩惱賊。從妄想生。我法王家。有善事起。非汝所爲。汝宜速出。若不時出。當斷汝命。如是告已。諸煩惱賊。尋自散。次於自身。善起防護。不應放逸。又菩薩處胎經偈云。如彼犯罪人。擎持滿鉢油。若棄油一渧。罪交入大僻。左右作伎樂。懼死不顧視。菩薩修淨觀。執意如金剛。毀譽及惱亂。心意不傾動。解空本來淨。無彼此中間。二通用四句。推求一切煩惱根源。謂此煩惱。爲由心生。爲由緣生。爲共生。爲離生。若由心生者。更不待緣。或於龜毛兎角。應生貪瞋。若由緣生者。應不用心。或令眠人。生於煩惱。若共生者。未共各無。共時安有。譬

方字建本作力
西引二本亦同

成。當對一好嚴形像。一心取相。緣之入定。若不明了。開眼更觀。復更閉目。如是取一相明了。次第遍觀衆相。使心眼開明。即破惛睡沈闇之心。念佛功德。則除罪障。二治惡念思惟障者。應念報佛功德。正念之中。緣佛十方四無所畏。十八不共。一切種智。圓照法界。常寂不動。普現色身利益一切。功德無量不可思議。何以故。此念佛功德。從緣善法中生心數。惡念思惟。從緣惡法中生心數。善能破惡。故應念報佛。譬如醜陋少智之人。在端正大智人中。卽自鄙恥。惡亦如是。在善心中。則恥愧自息。緣佛功德。念々之中。滅一切障。三治境界逼迫障者。應念法佛。法佛者即是法性平等。不生不滅。無有形色。空寂無爲。無爲之中。既無境界。何者是逼迫之相。知境界空故。即是對治。若念三十二相。即非對治。何以故。是人未緣相時。已爲境界惱亂。而更取相者。因此著魔。狂亂其心。今觀空破

㊊等三下本論有種字今恐脫歟

㊊懸成之成字本書爲作字今寫誤

是名遠離三種菩提門相違法。故菩薩遠離如是三種菩提門相違法。得三種隨順菩提門法滿足故。何等三。一者無染淸淨心。不爲身求諸樂故。二者安淸淨心。拔一切衆生苦故。三者樂淸淨心。以令一切衆生得大菩提故。以攝取衆生生彼國土故。是名三種隨順菩提門法滿足。已上此中何故不依彼論。答。前四弘中具足此六法。文言雖異。其義無闕。問。念佛自滅罪。何必堅持戒。答。若一心念。誠如所責。然盡日念佛。閑撿其實。淨心是一兩。其餘皆濁亂。野鹿難繫。家狗自馴。何況自恣心。其惡幾許乎。是故要當精進持淨戒。猶如護明珠。後悔何及。善思念之。問。誠如所言。善業是今世所學。雖欣動退。妄心是永劫所習。雖厭猶起。既爾以何方便治之。答。其治非一。如次第禪門云。一治沈惛闇塞障者。應觀念應佛。三十二相中隨取一。或先取眉間毫相。閉目而觀。若心闇鈍。懸成不

喜字長建西引諸本作憙
㊟挾註文有等四字全贅西本有今上西本有問字引本亦同
㊟六字當作五字
㊟想續之想字當作相字今慇寫誤

故不離佛日。又遺日摩尼經說。沙門墮牢獄有多事。或求人欲得供養。或多欲積衣鉢。或與白衣厚善。或常念愛欲。或喜交結知友。文有多法畧抄。今何不舉彼等法耶。答。若廣出之。還令行者生退轉心。故略舉要。若堅持十重四十八輕戒。理必助成念佛三昧。亦應任運持得餘行。況具六法。或具十法。何行不攝。故略不述。然麤強惑業。令人覺了。但無義語。其過不顯。恒障正道。善應治之。或應依大論文。如人失火。四邊俱起。云何安處其內。語說餘事。此中佛說若說聲聞。辟支佛事。猶爲無益之言。何況餘事。已上行者常於娑婆依正生火宅想。絕無益語。想續念佛。問。往生論說念佛行法云。遠離三種菩提門相違法。何等三種。一者依智慧門。不求自樂。遠離我心貪著自身故。二者依慈悲門。拔一切衆生苦。遠離無安衆生心故。三者依方便門。憐愍一切衆生心。遠離供養恭敬自身心故。

懺一本作懈

(原)挾註六字當作五字又彼經已下十八字全贅

(原)當字下本經有有反復三字

法種長建二本作種法

(原)四字考本論當作二字今是寫誤又法種恐倒

鑚燧求火。未出而數息。火勢隨止滅。懈怠者亦然。已上精進讀誦大乘功德無量。如金剛般若論偈云。福不趣菩提。二能趣菩提。於實名了因。於餘名生因。已上觀佛經六種法畢。彼經嫉恚精進不具說之。故以餘文譯成經意。般舟經亦有十事。如彼經言。若有菩薩。學誦是三昧者。有十事。一不嫉妬他人利養。二悉當愛敬人。孝順於長老。三當念報恩。四不妄語。離非法。五常乞食。不受請。六精進經行。七晝夜不得臥出。八常欲布施。終無惜悔。九深入慧中。無所著。十敬事善師如佛。略抄問。般舟經亦有四四十六法。十住婆沙第九。有百四十餘種法。念佛三昧經有種々法。又華嚴經入法界品偈云。若有信解離憍慢。發心即得見如來。若有諂誑不淨心。億劫尋求莫値遇。觀佛經云。晝夜六時。勤行六法。端坐正受。當樂少語。除讀誦經。廣演法教。終不宣說無義之語。常念諸佛。心心相續。乃至無有一念之間不見佛時。心專精

原收本經作扠字又淚下有前字

原欲上本經有五字

爲上長建二本有則字

原以則本經作能以今卽寫誤

彌陀佛極樂世界。是時彼佛。當爲汝等。授阿耨菩提記。時諸菩薩。聞佛所說。擧身毛竪。深生憂悔。便自收淚白言。我從今日。至未來際。若於菩薩乘人。見有違犯。擧露其過。我等卽爲欺誑如來。我從今日。至未來際。若見在家出家菩薩乘人。以欲樂遊戲歡娛終不伺求其過。常生信敬。起敎師想。我從今日。至未來際。若不善能摧伏其身。生下劣想。如旃陀羅。及於狗犬。則爲欺誑如來。若於持戒多聞。頭陀少欲知足。一切功德。自身炫曜。則爲欺誑如來。所修善本。不自矜伐。所行罪業。慚愧發露。若不爾者。爲欺誑如來。時佛讚言。善哉々々。以則如是決定心。一切業障。皆悉消滅。無量善根亦當增長。略抄 是故大論偈云。自法愛染故。毀呰他人法。雖持戒行人。不脫地獄苦。已上 嫉妬 同論偈云。馬井二比丘。懈怠墮惡道。雖見佛聞法。猶亦不自勉。已上 又若無精進。行難成就。故華嚴經偈云。如

千引本無

喜長建西引諸本作憙

(原)遺字本經作匱字今寫誤

世恨意。微相憎嫉。後世轉劇。至成大怨。云云又嫉毀他人。其罪甚重。如寶積經九十一云。佛在施鹿園。時有六十菩薩。業障深重。諸根闇鈍。頂禮佛足。悲感流淚。不能自起。時佛告言。汝等應起。勿復非號。生大熱惱。汝曾於俱留孫佛法中。出家爲道。自執著多聞持戒頭陀少欲。時有二說法比丘。多諸親友。名聞利養。汝等以嫉妬心。妄言誹謗。令彼親友諸衆生。無隨順心。斷諸善根。由此惡業。於六十百千歲中。生阿鼻地獄。餘業未盡。復於四十百千歲中。生等活地獄。復於二十百千歲中。生黑繩地獄。復於六十百千歲中。生燒熱地獄。從彼歿已。還得爲人。五百世中。生盲無目。在々所生。忘失正念。障礙善根。形容醜欽人不喜見。常生邊地。貧窮下劣。從此歿已。於後末五百歲中。法欲滅時。還於邊地。下劣家生。遺乏飢凍。忘失正念。設欲修善。多諸留難。五百歲後。惡業乃滅。於後得生阿

原此六之六字當作五字
原淨戒二字本經作戒淨今是倒矣
原或字恐寫誤當作戒字也
原破字本經作犯字
挾註戒下長本有品字建本引本亦同
原觀上一本在已念字本經作命字
原本經無衆生之生字
原當本經作常字
又以下三十三字長建引諸本無之

佛。已上問。此六種法有何義耶。答。同經云。以淨戒故。見佛像面。如眞金鏡。了々分明。又大論云。佛如醫王。法如良藥。僧如瞻病人。或如服藥禁忌。已上故知。設服法藥。不持禁戒。無由除愈煩惱病患。故般舟經云。不得破戒。大如毛髮。已上戒ナリ觀佛經云。若起邪念及貢高法。當知。此人是增上慢。破滅佛法。多使衆生。起不善心。亂和合僧。顯異惑衆生。是惡魔伴。如是惡人。雖復念佛。失甘露味。此人生處。以貢高故。身恆卑小生下賤家。貧窮諸衰。無量惡業以爲嚴飾。如此種々衆多惡事。當自防護。令永不生。已上邪見憍慢ナリ六波羅蜜經云。無量劫中。修行諸善。無安忍力。及智慧眼。一念瞋火燒滅無餘。又遺敎經云。劫功德賊。無過瞋恚。又或處說云能損大利。莫過瞋。一念因緣。悉焚滅俱胝廣劫所修善。是故慇懃常捨離。大集月藏分說無瞋功德云。常與賢聖相會。得著於三昧。已上瞋恚雙觀經云。今

原願上當有當字歟
原願上應有當字歟
挾註全贊語
燃然一本作

華嚴偈云。如來自在力。無量劫難遇。若生一念信。速證無上道。餘如下利益門。問。凡夫行人。逐物意移。何常得起念佛之心。答。彼若不能直爾念佛。應寄事々勸發其心。謂遊戲談笑時。願於極樂界寶池寶林中。與天人聖衆。如是得娛樂。若憂苦時。願共諸衆生。離苦生極樂。若對尊德。當願生極樂。如是奉世尊。若見卑賤。當願生極樂。利樂孤獨類。凡每見人畜。常應作是念。願共此衆生。往生安樂國。若飲食時。當願受極樂自然微妙食。衣服臥具。行住坐臥。違緣順緣。一切準知。寄事作願。是華嚴經等例也

△第四止惡修善者。觀佛三昧經云。此念佛三昧。若成就者。有五因緣。一者持戒不犯。二者不起邪見。三者不生憍慢。四者不恚不嫉。五者勇猛精進。如救頭然。行此五事。正念諸佛微妙色身。令心不退。亦當讀誦大乘經典。以此功德。念佛力故。速疾得見無量諸

已上二字一本無

誦字長建西引諸本無之行下一本有已上二字

原彼佛二字本經作諸如來三字

原十方下本經有世字爲是

此聞是經法。歡喜信樂受持讀誦。如說修行所以者何。多有菩薩。欲聞此經。而不能得。若有衆生聞此經者。於無上道終不退轉。已上是故應當專心信受。持誦讀誦。如說修行。已上應作此念。或過大千猛火聚。或經億劫。應求法。我既値遇深三昧。如何退屈不勤修。行者於此諸事。若多若少。隨樂憶念。若不能憶念。須披卷對文。或決擇。或誦詠。或戀慕。或敬禮。近爲勤心之方便。遠結見佛之因緣。凡三業四儀。勿忘佛境界矣。問。信受憶念如來如是種々功德。有何勝利。答。度諸佛境界經云。若於十方世界。微塵等諸佛。及聲聞衆。施百味飮食。微妙天衣。日々不廢。滿恆沙劫。彼佛滅後。爲一々佛。於十方界。一々世界。起塵數塔。衆寶莊嚴。種々供養。一日三時。日々不廢。滿恆沙劫。復敎無數無量衆生。設諸供養。若有一人。信此如來智慧功德不可思議境界。所得功德。勝彼無量。取意又

應念以下十字長建二本無之

原隣字本經作輪字

原隣字本經作輪字

原鬚長本作鬚

此字引本無

得佛齊正法王。二十欣求教文。般舟經云。是三昧難得値。正使求是三昧。至百億劫。但欲得聞其名聲。不能得聞。何況得學者。轉復行教人。偈言。我自識念往世時。其數具足六萬歲。常隨法師不捨離。初不得聞是三昧。有佛號曰具至誠。時智比丘名和隣。彼佛世尊泥洹後。比丘常持是三昧。我時爲王君子種。夢中逮聞是三昧。和隣比丘有斯經。王當從受此定意。從夢覺已即往求。輒見比丘持三昧。即除鬚髮作沙門。學八千歲一時聞。其數具足八萬歲。供養奉事此比丘。時魔因緣數興起。初未曾得一反聞。是故比丘比丘尼。及清信士清信女。持是經法囑汝等。聞是三昧疾受行。常敬習持是法師。具足一劫無得懈。乃至假使億千那術劫。求是三昧難得聞。假令世界如恆沙。滿中珍寶用布施。若有受是一偈說敬誦。功德過於彼。雙觀經云。設有大火。充滿三千大千世界。要當過

(原)妄字本經在現字之下爲是
(原)本經無知下之無字

心。起分別者。猶如幻化。無有定實。乃至一切世界。求心形狀。無一區分而可得者。但以衆生。無明癡闇薰習因緣。妄現境界。令生念著。所謂此心。不能自知無妄自謂有。起覺知想。計我我所。而實無有覺知之想。以此妄心。畢竟無體。不可見故。乃至廣說。以信解觀此理。爲菩薩最初根本業也。 此一實境界。即是如來法身也。華嚴經一切慧菩薩偈云。法性本空寂。無取亦無見。性空即是佛。不可得思量。已上應念。我何時得顯本有性。十九總觀佛德。如普賢菩薩云。如來功德。假使十方一切諸佛。經不可說不可說佛刹極微塵數劫。相續演說不可窮盡。已上又阿彌陀佛威神無極。如雙觀經云。無量壽佛。威神無極。十方世界。無量無邊。不可思議諸佛如來。莫不稱歎。龍樹偈云。世尊諸功德。不可得度量。如人以尺寸。量空不可盡。同讃彌陀偈云。諸佛無量劫。讃揚其功德。猶尙不能盡。歸命淸淨人。應念。願我

綵長建二本作婇西本引本亦同

尊引本作實

本經無能字

似佛音聲萬分之一。王聞其音歡喜。即發無上道意。宮中綵女。凡七千人。復發無上道意。王從是遂信三尊。鳥之音聲所度如是。況於至眞淸淨妙音者乎。取意略抄應念我何時。得聞彼辯說。十八觀佛法身。如文殊師利菩薩言。我觀如來。即眞如相。無動無作。無所分別。無異分別。非即方處。非離方處。非有非無。非常非斷。非即三世非離三世。無生無滅。無去無來。無染不染。無二不二。心言路絕。若以此等眞如之相觀於如來。名眞見能。亦名禮敬親近如來。實於有情。能爲利樂。大般若占察經下卷。地藏菩薩言。一實境界者。謂衆生心體從本已來。不生不滅。自性淸淨。無障無礙。猶如虛空。離分別故。平等普遍無所不至。圓滿十方。究竟一相。無二無別。不變不異。無增無減。以一切衆生心。一切聲聞辟支佛心。一切菩薩心。一切諸佛心。皆同不生不滅。無染寂靜。眞如相故。所以者何。一切有

原 說字下本論有法字
原 斷字上本論有全字爲是
原 麄下本論有之字
玉下一本有問
原 得字本經作
答今恐寫誤
原 設字本經作妄

如上塵數大劫。是諸人等。因四念處。盡其形壽。問難如來。如來還以四念處義。答其所問。言義不重。樂說無窮。又云。佛有所說。皆有利益。終不空言。是亦希有。乃至若一切衆生。智慧勢力。皆如辟支佛。是諸衆生。若不承佛意。欲度一人。無有是處。若是諸人說時。乃至不能斷無色界結使。一毫氂分。若佛欲度衆生。有所言說。乃至外道邪見。諸龍夜叉等。及餘不解佛語者。皆悉令解。是等亦能轉化無量衆生。乃至是故佛名最上導師。偈云。於四問答中。超絕無倫匹。衆生諸問難。一切皆易得。若於三時中。諸有所說者。言必不虛設。常有大果報。已上華嚴經偈云。諸佛廣大音。法界靡不聞。菩薩居了知。善入音聲海。淨名經偈云。佛以一音演說法。衆生隨類各得解。皆謂世尊同其語。斯即神力不共法。又譬喩經第三云。阿育王。意不信佛。時海邊有鳥。名爲鶉隨。其音甚哀和。頗有髣髴

有字當作同字

（原）猶如下本論有念字今即脫

（原）被下一本有引字是十上長本有如字

住無邊劫海。令其得調伏。大悲心如是。華嚴經文殊讚佛偈云。一々地獄中。經於無量劫。爲度衆生故。而能忍是苦。大經偈云。一切衆生受異苦。悉是如來一人苦。乃至衆生不知佛能救。故謗如來及法僧。大論云。佛以佛眼。一日一夜。各三時觀一切衆生。誰可度者。無令失時。有論云。譬如魚子。母若不念。子則爛壞。衆生亦爾。佛若不念。善根即壞。莊嚴論偈云。菩薩念衆生。愛之徹骨髓。恆時欲利益。猶如一子故。由此等義。有懺悔偈云。如父母有子。始生便盲聾。慈悲愍重。不捨而養活。子不見父母。父母常見子。諸佛視衆生。猶如羅睺羅。衆生雖不見。實在諸佛前。已上應作是念。彌陀如來。常照我身。護念我善根。觀察我機緣。我若機緣熟。不失時被接。十七無礙辯說。十住論云。若三千界。所有四天下滿中微塵數。三千大千世界衆生。皆如舍利弗。如辟支佛。皆悉成就智慧樂說。壽命

應念以下十字長德本無之

穩字本論作惠今恐寫誤

㊀本論無行生之生字今恐剩

相字長建二本作想引本亦同

不在下長德本有念字

應念以下十二字長本無之

同上建本及引本有又字

智。如大梵王。如大聲聞辟支佛。成就智慧。知他人心。欲知佛常心。若佛不聽。則不能知。應念願令我得覺佛三昧。十五常在安慧。同論云。諸佛安穩常不動。念常在心。何以故。先知而後行。生隨意所緣中。住無礙行故。斷一切煩惱故。出過動性故。如佛告阿難。佛於此夜。得阿耨菩薩。一切世間。若天魔梵。沙門婆羅門以盡苦道。教化周畢。入無餘涅槃。於其中間。佛於諸受。知起知住。知生知滅。諸相諸觸諸覺諸念。亦知起知住。知生知滅。惡魔七年。晝夜不息。常隨逐佛。不得佛短。不見佛念。不在安慧。偈云。其念如大海。湛然在安穩。世間無有法。而能擾亂者。應念願佛。除滅我麤動覺觀心。十六悲念衆生。大般若經云。十方世界。無一有情。如來大悲。所不能照。寶積經云。假使過於殑伽沙等。諸佛世界。唯一衆生。是佛化限。爾時如來。躬往其所。爲說法要。令其悟入。同經偈云。爲利一衆生。

原如是下本經有有字

原本經無補處二字下一本有惠

願字長建引諸本無之彌陀下長建二本最如來二字願得以下十字長德本無之

比汝慈氏。一生補處、菩薩、智慧。百千分中。不及其一。此三千大千世界。一切衆生。所有智慧。皆如慈氏等。無有異。如是菩薩。坐於道場。降伏魔怨。將成正覺。所有智慧。於佛智慧。百千萬分。不及其一。寶積經云。假使十方無量無邊、一切世界。所有衆生。皆悉成就繫屬一生補處菩薩之智。欲比如來十力之一、處非處。不百千萬分、不及其一。乃至烏波尼沙陀分。不及其一。乃至算數譬喩所不能及。華嚴經偈言。如來甚深智。普入於法界。能隨三世轉。與世爲明道。同經普明智菩薩。讚佛偈云。一切諸法中。法門無有邊。成就一切智。入於深法海。已上應作是念。願令彌陀照見我三業。願得如世尊。慧眼第一淨。十四能調伏心。十住論云。諸佛若入定。若不入定。欲繫心一緣中。隨意久近。如意能住。從此緣中。更住餘緣。隨意能住。若佛住常心。欲令人不知。則不能知。假使一切衆生。知他心

殑一本作兢
復一本信渡
復建長本西本引本作澓

原紙素二字當作素紙今即倒

淨上長西引諸本有所得二字羅下諸本有蜜字
亦下建西引諸本有復字
原皆字下本經有如是二字
原菩薩下本經有所得二字

華果葉等。又如有人持一毛端。霑水一滴。來至佛所。而作是言。敢以滴水。持用相寄。後若須者。當還賜我。爾時如來取其滴水。置殑伽河中。而爲彼河。流浪回復。之所旋轉。和合引注。至于大海。是人滿百年已。而白佛言。先寄滴水。今請還我。爾時佛以一分毛端。就大海内。霑本水滴。用還是人。略抄 六波羅蜜經云。如是四洲。及諸山王。用爲紙素。八大海水以爲其墨。一切草木用爲其筆。一切人天。一劫書寫。此舍利弗所得智慧。十六分中。不及其一。又於此三千大千世界。其中衆生。所有智慧。如舍利弗等。無有異。菩薩了達布施波羅蜜多。所有智慧。過彼百倍。又此三千大千世界。所有衆生皆具布施波羅蜜多智慧。不及一菩薩。淨戒波羅多。智慧。乃至般若。亦如是。又此三千大千世界。所有衆生。皆具六波羅蜜智慧不及一初地菩薩智慧。乃至十地展轉如是。又此十地菩薩智慧。

我下長建二本有所有二字引本亦同

嚴下建本及引本有經字本經無在於之於字又世下有中字

應念以下十字長建二本無之(原)世界下本經有中字又無一切二字墨一本作黑(原)大海下本經有中字(源)分別二字本經作分析某今依一本改其

應作是念。今彌陀如來。定聞我語業。十一知他心智。十住論云。佛能知無量無邊世界。現在衆生心。及諸染淨所緣等。又能知無色衆生諸心。略抄 華嚴文殊偈云。一切衆生心。普在於三世。如來於一念。一切悉明達。應作是念。今彌陀如來。必知我意業。十二宿住隨念智。十住論云。佛若欲念自身及一切衆生。無量無邊宿命。一切事皆悉知。無有不知。過恆河沙等劫事。是人何處生。姓名貴賤。飲食資生苦樂。所作事業。所受果報。心何所行。本從何來。如是等事。即能知見。偈云。宿命知無量。天眼見無邊。一切人天中。無能知其限。應念願佛。令我宿業清淨。十三智惠無礙。寶積經三十七云。假使有人。取恆河沙等世界。所有一切草木。悉燒爲墨。擲置他方。恆河沙等世界大海。於百千歲。就以磨之。盡爲墨汁。佛從大海中。取一々墨滴。分別了知是某世界。如是草木。某根某莖某枝某條。

諸下長本有佛字

諸衆生所應見。光明遍照轉法輪。應作是念。願我當見遍法界身。
九天眼明徹。十住論云。大力聲聞以天眼見小千國土。亦見中衆生生時死時。小力辟支佛見十小千國土。見中衆生生時死時。中力辟支佛見百小千國土。見中衆生生時死時。大力辟支佛見三千大千國土。見中衆生生死所趣。諸佛世尊見無量無邊不可思議世間。亦見是中衆生生時死時。已上華嚴經偈云。佛眼廣大無邊際。普見十方諸國土。其中衆生不可量。現大神通悉調伏。應作是念。今彌陀如來遙見我身業。十聞聲自在。十住論云。假令恆河沙等三千大千世界衆生。一時發言。又一時作百千種伎樂。若遠若近。隨意能聞。若欲於中聞一音聲。隨意得聞。餘者不聞。又過無邊世界最細聲。皆亦得聞。若欲令衆生聞。能令得聞。略抄華嚴文殊偈云。一切世間中。所有諸音聲。佛智皆隨了。亦無有分別。已上

何字引本無之

窄一本作迮

作一本作住

云云二字一本無

作長本無西本亦同

㊟挾註四事等五字全贅

現引本作見

長建二本作座西本引本亦同

尙爾。何況佛力。故度諸佛境界經云。能令十方世界。入一毛孔。乃至於一微塵。能現無量無數不可說世界。一切衆生。亦無迫窄。無量無數不可說劫。威儀果報事。能於一念中現。一念威儀果報事。於無量無數不可說劫中現。如是所作。心無功用。不作思惟。云云華嚴經。眞實幢菩薩偈云。一切諸如來。神通力自在。悉於三世中。求之不可得。應作是念。我今亦不知爲佛。神力轉。在何佛土。在誰毛孔。我於何時得覺知之。八隨類化現。十住論云。佛一念中。於十方無量無邊。恆河沙等世界。變化無量佛身。一々化佛。亦能施作種々佛事。已上四事神境通度諸佛境界經云。如來所現。無異功用。無異思惟。隨衆生性。自見不同。如十五日夜。閻浮提人。各見月現在其上。月不作意我現其上。華嚴偈云。如來廣大身。究竟於法界。不離於此坐。而遍一切處。又云。智慧甚深。功德海。普現十方無量國。隨

應作以下十四字長建二本無之(原)末本論作抹今恐寫誤還下令一本無(原)蘇字當作酥字也

(原)住本經作往字今即寫誤又於已下至無所嬈四十一字長建引三本共無之(原)針鋒二字本經作鍼鋒又槁作棗字已上四十一字長本建本引本無

下。經一萬八千三百八十三年。到此地。直下尙爾。推之應知。聲聞飛行。如來飛行。展轉不可思議。華嚴經慧林菩薩讃佛偈云。自在神通力無量難思議。無來亦無去。說法度衆生。應作是念。願我得神通。遊戲諸佛土。七神通無礙。十住論云。佛能末恒河沙等世界。令如微塵。又能還令合。或又能變無量無邊阿僧祇世界。皆令作金銀等。又能變恒河沙等世界大海水。皆使爲乳蘇等。已上淨名經。說菩薩不思議解說云。斷取三千大千世界。如陶家輪。著右掌中。擲過恒河沙世界之外。其中衆生。不覺不知已之所往。又復還置本處。都不使人有往來想。而此世界本相如故。又於下方過恒河沙等諸佛世界。取一佛土。擧著上方。過恒河沙無數世界。如持針鋒。擧一棗葉。而無所嬈。以須彌山納芥子中。以四大海入一毛孔。亦復如是。其中衆生。不覺不知。唯應度者。乃知見之。已上菩薩

原應作以下十四字長本及建本無。

原舉足行時四字本經作擧足時足下之五字

原挾註經下當有意字

原盤當作磐字今即寫誤

有勢力。設有一魔。有爾所勢力。復令十方一々衆生。力如惡魔。欲共害佛。尚不能動佛一毛。況有害者。偈云。若諸世間中。欲有害佛者。是事皆不成。以成不殺法。應作是念。願我當得金剛不壞身。六飛行自在。同論云。佛於虛空。舉足下足。行住坐臥。皆得自在。若大聲聞神通自在。一日過五十三億。二百九十六萬六千。三千大世界。如是聲聞。百歲所過。佛一念過。乃至恒河中沙。一沙爲一河。是諸恒河沙。大劫所過國土。佛一念中過。若欲蹈寶蓮華而去。即能成辦。如是飛行。一切無礙。觀佛經云。於虛空舉足行時。千輻輪相。皆雨八萬四千蓮華。如是衆華。有塵數佛。亦步虛空。已上略抄 又蹈空行。而千輻輪。現於地際。悅意妙香。鉢特摩華。自然踊出。承如來足。若畜生趣。一切有情。爲如來足之所觸者。極滿七夜。受諸快樂。命終之後。往生善趣樂世界中。寶積經 若以四十里盤石。從色究竟天

賤長本作淺之建本作足西本引本亦同怪一本作在

明長建二本作雲(原)諸字本經所有二字又無所字(原)風下本經有所吹二字今恐脫歟

(原)本經無一切二字

實爾。問曰。有何殊異。道人曰。佛之功德。巍巍難量。非我愚賤。所能陳之。粗說一事。可知殊特。我時八歲。世尊來入王宮。即前禮之。頭上金釵。墮落在地。求之不得。怪其所以。如來過去。足跡有千輻輪。現光明晃。七日即滅。登時金釵與地同色。是以不見。光滅後得釵。乃知爲殊特。王聞歡喜。心煥開悟。略抄華嚴經偈云。一々毛孔現光明普遍虛空發大音。諸幽冥所靡不照。地獄衆苦咸令滅。應作是念。願佛光照我。滅生死業苦。五無能害者。寶積經三十七云。風劫起時。世有大風。名僧伽多。彼風擧此三千世界須彌鐵圍。及四大州。八萬小州大山大海。高百踰繕那。乃至無量百千踰繕那。已碎末爲塵。又擊壞滅燄魔天宮。乃至遍淨天。所有宮殿。亦皆散滅。即以此風。吹如來衣。一毛端際。尚不能動。何況衣角及全衣者。已上

十住論云。諸佛不可思議。假喩可知。假使一切。十方世界衆生。皆

挾註一上建長本有玄字長德本亦同本註一下引本有師字

佛。號無量光佛。無邊光佛。無礙光佛。無對光佛。（玄一師云。無與等故。）炎王光佛。（一師云。最勝自在故。）清淨光佛。（一云。滅三垢故。憬興師云。無貪善根所生故。）歡喜光佛。（一云。遇者悅意故。興云。無瞋所生故。）智慧光佛。（一云。智慧所發故。興云。無癡所生故。）不斷光佛。（一云。恆相續故。）難思光佛。無稱光佛。（一云。不可稱歎盡其所有故。自餘名義可知。不煩記。）超日月光佛。若在三途勤苦之處。見此光明。無復苦惱。壽終之後。皆蒙解脫。非但我今稱其光明。一切諸佛。亦復如是。若有衆生。聞其光明威神功德。日夜稱說。至心不斷。隨意所願。得生其國。我說無量壽佛。光明威神。巍々殊妙。晝夜一劫。尚不能盡。（已上取意。平等覺經別云頂光。觀經總云光明。）譬喩經第三。明釋迦文佛光明相云。佛滅百年。有阿育王。國內民庶。歌佛遺典。王意不信。念言佛有何德。過踰於人。而共專信。誦習其文。即問大臣。國中頗有見佛者。答曰。聞波斯匿王妹。出家作比丘尼。年在西垂。云言見佛。王即自出往詣問曰。道人見佛不耶。答云

嚴下長建二本有經字引本亦同　應作以下十四字長建二本無之　挾註是阿上長建二本有無量清淨佛者六字也字無之西本引本亦同

經意同之四字西本引本無之勝字經作尊

念佛三昧經第五云。如此世界。及十方無量無邊。諸世界中。所有衆生。假使盡皆一時成佛。彼諸世尊。經無量劫。皆還歎佛一毛功德。終亦不盡。已上華嚴偈云。清淨慈門刹塵數。共生如來一妙相。一々諸相莫不然。是故見者無厭足。應作是念。願我當見佛無邊功德相。四光明威神。謂平等覺經云。無量清淨佛。是阿彌陀佛也光明最尊第一無比。諸佛光明。皆所不及也。有佛頂光明照七尺。有佛照一里。有佛五里。有佛二十里。四十里。八十里。乃至百萬佛國二百萬佛國。八方上下。無央數諸佛。頂光所照皆如是也。無量清淨佛頂中光明。炎照千萬佛國也。已上取意。私云。觀經云。彼佛圓光。如百億大千界。此經云。頂中光照千萬佛國。二經意同耳雙觀經意同之。經云。無量壽佛。威神光明。最勝第一。諸佛光明。所不能及。或有佛光照百佛世界。或千佛世界。取要言之。乃照東方恆河沙佛刹。南西北方。四維上下。亦復如是。是故無量壽

成菩提下長建西引四本有左挾註十字首楞嚴經文如下料簡門

切下西本有隨字引本亦同

㊊遶字本經作旋字

㊊豪字當作毫字今恐寫誤

既圓。念其大善也。已上要決華嚴偈云。若有諸衆生。未發菩提心。一得聞佛名。決定成菩提。應作是念。我今既得聞佛尊號。願我當作佛。如十方諸佛。三佛相好功德。六波羅蜜經云。於諸世間所有三世一切衆生。學無學人。及辟支佛。如是有情。無量無邊。所有功德。比於如來一毛功德。百千萬分中。不及其一。如是一々毛端。皆從如來無量功德之所出生。一切毛端。所有功德。共成一髮功德。如是佛髮。八萬四千。一々髮中。各具如上功德。如是合集共成一隨好功德。一切好功德共成一相功德。一切相功德合集。至百千倍成眉間毫相功德。其相圓滿宛轉右遶。如頗胝迦寶。明淨鮮白。夜闇之中猶如明星。毫相舒之。上至色界阿迦膩吒天。卷之如舊復爲毫相。於眉間住。豪相功德。至百千倍。成肉髻相。如是肉髻。千倍功德。不及梵音聲相功德。又寶積經。有無數校量。學者可勘。又大集

也下長本有又字

(原)超字當作趣今恐誤寫

(原)性字應作姓字今寫誤

生死海。就此娑婆世界。呼喚衆生。令上大願船。送著西方。若衆生肯上大願船者。並皆得去。此是易往也。心地觀經偈云。衆生沒在生死海。輪回五趣無出期。善逝恒爲妙法船。能截愛流超彼岸。應念我何時。乘悲願船去。二名號功德。如維摩經言。諸佛色身。威相種性。戒定智慧。解脫知見力無所畏。不共之法。大慈大悲威儀所行。及其壽命。說法敎化。成就衆生。淨佛國土。具諸諸法。悉皆同等。是故名爲三藐三佛陀。名爲多陀阿伽度。名爲佛陀。阿難若我廣說此三句義。汝以劫壽不能盡受。正使三千大千世界。滿中衆生。皆如阿難多聞第一。得念總持。此諸人等。以劫之壽。亦不能受。要決云。維摩經云。佛初三號。佛若廣說。阿難經劫不能領受。成實論釋佛之號。前之九號。皆從別義。總前九號名義功德。爲佛世尊。說初三號。歷劫難周。阿難領悟。莫能具悉。更加六號。以製佛名。勝德

矣下建長二本有左註三十五字已上彼經但云欲多見多欲小見小等云云然感師既得三昧彼所釋應仰信更勘諸本引本亦同西本勘諸本下猶有次十五字小念見小大念見大文出日藏經第九

㊊無利之利字恐寫誤當作益字少建本作小引本亦同㊊少行之行字亦應作善字

功德一本下有問何等功德答其事既邊十字㊊覺經無今文恐所覽異歟

絕。至心便得。今此出聲。學念佛定。亦復如是。令聲不絕。遂得三昧。見佛聖衆。皎然目前。故大集日藏分言。大念見大佛。小念見小佛。大念者大聲稱佛也。小念者小聲稱佛也。斯即聖教。有何惑哉。現見即今諸修學者。唯須勵聲念佛。三昧易成。小聲稱佛。遂多馳散。此乃學者所知。非外人之曉矣。

△第三對治懈怠者。行人不能恒時勇進。或心蒙昧。或心退屈。爾時應寄種々勝事。勸勵自心。或以三途苦果。比淨土功德。應作是念。我已惡道經多劫。無利勤苦尚能超。修行少行得菩提大利。不應生退屈。（惡趣苦淨土相。一々如前。）或緣往生淨土衆生。應作是念。十方世界諸有情。念々往生安樂國。彼既丈夫。我亦爾。不應自輕生退屈。（往生人。如下利益門料簡門。）或應緣佛奇妙功德。略舉其要。一應思念四十八本願。又無量清淨覺經云。阿彌陀佛。與觀世音大勢至。乘大願船。汎

原 劔本集作刀
原 觀本集作視
經一本作經
原 聲上本文有舉要言之步々六字
原 可字觀經作應

除不至心。問。行者常途。計念往生。其相似何。答。前所引要決。欲歸本國之譬。是其相也。又安樂集云。譬如有人。於空曠迥處値遇怨賊。拔劔奮勇直來。欲殺此人。徑走觀渡一河。未及到河。即作此念。我至河岸。爲脫衣渡。爲著衣浮。若脫衣渡。唯恐無暇。若著衣浮。復畏首領難全。爾時但有一念作渡河方便。無餘心想間雜。行者亦爾。念阿彌陀佛時。亦如彼人念渡。念々相次。無餘心想間雜。或念佛法身。或念佛神力。或念佛智慧。或念佛毫相。或念佛相好。或念佛本願。稱名亦爾。但能專至相續不斷。定生佛前。已上元曉師同之。問。念佛三昧。爲唯心念。爲亦口唱。答。如止觀第二云。或唱念俱運。或先念後唱。或先唱後念。唱念相繼。無休息時。聲聲念々。唯在阿彌陀。又感禪師云。觀經言。是人苦逼。不遑念佛。善友敎令可稱阿彌陀佛。如是至心令聲不絕。豈非苦惱所逼。念想難成。令聲不

㊀挾註經文已下二十三字固如大夏毒熱之不可近也識者卽便知焉

時。用心云何。答。觀經云。若有衆生。願生彼國者。發三種心。卽便往生。一至誠心。二深心。三回向發願心。善導禪師云。一至誠心。謂禮拜讚歎念觀。三業必須眞實故。二深心。謂信知自身是具足煩惱凡夫。善根薄少。流轉三界。未出火宅。今信知彌陀本弘誓願。及稱名號。下至十聲一聲等。定得往生。乃至一念。無有疑心。三回向發願心。謂所作一切善根。悉皆回向。願往生故。具此三心。必得往生。若少一心。卽不得生。略抄之。經文雖在上品上生。如禪師釋者。理通九品。餘師釋不能具。鼓音聲經云。若能深信無狐疑者。必得往生彌陀佛國。涅槃經云。阿耨菩提信心爲因。是菩提因。雖復無量。若說信心。則已攝盡。已上明知。修道以信爲首。又善導和尙云。若入觀及睡時。應發此願。若坐若立。一心合掌。正面向西。十聲稱阿彌陀佛觀音勢至諸菩薩清淨大海衆竟。而發見佛菩薩。及極樂界相之願。卽隨意入觀。及睡得見。

原業行二當作行業今恐到

答下建長本有若字

恆計念。導師云。心々相續。不以餘業間。又不以貪瞋等間。隨犯隨懺。不令隔念隔時隔日。常令清淨。私云。晝夜六時。或三時二時。要具方法。精勤修習。其餘時處。不求威儀。不論方法。心口無癈。常應念佛。四者無餘修。要決云。專求極樂。禮念彌陀。但諸餘業行。不令雜起。所作之業。日別須修念佛讀經。不留餘課耳。導師云。專稱彼佛名。專念專想專禮專讚彼佛及一切聖衆等。不雜餘業。已上問。其餘事業。有何過失。答。寶積經九十二云。若有菩薩。樂作世業。營於衆務。爲所不應。我說。是人住於生死。又同偈云。戲論諍論處。多起諸煩惱。智者應遠離。當去百由旬。云云自餘方法。具如止觀。問。若爾在家人。難堪念佛行。答。世俗人。難棄緣務。但常繫念西方。誠心應念彼佛。如木槵經瑠璃王行。又迦才淨土論云。譬如龍行雲即隨之心若西逝。業亦隨之。云云問。既知修行總有四相。其修行

導下建本有禪字西本引本亦同
啼一本作涕禪字建本無
西下建本有方字引本亦同
爺一本作耶

△第二修行相貌者。依攝論等用四修相。一者長時修。要決云。從初發心乃至菩提。恆作淨因。終無退轉。善導師云。畢命爲期。誓不中止。二者慇重修。謂於極樂佛法僧寶。心常憶念。專生尊重。要決云。行住坐臥。不背西方。啼唾便痢。不向西方。導禪師云。面向西方者最勝。如樹先傾倒必隨曲。必有事礙。不及向西者。但作向西想亦得。三者無間修。要決云。謂常念佛。作往生心。於一切時。心恆想巧。譬若有人。被他抄掠。身爲下賤。備受艱辛。忽思父母。欲走歸國。行裝未辨。由在他鄉。日夜思惟。苦不堪忍。無時暫捨。不念爺孃。爲計既成。便歸得達。親近父母。縱任歡娛。行者亦爾。往因煩惱。壞亂善心。福智珍財。並皆散失。久沈生死。制不自由。恆與魔王。而作僕使。驅馳六道。苦切身心。今遇善緣。忽聞彌陀慈父。不違弘願。濟拔群生。日夜驚忙。發心願往。所以精勤不倦。當念佛恩。報盡爲期。心

表題及撰號、長建西引諸本共在上大文第四正修念佛門第四觀察門首

行要、建本作要行

(原)挾註全贊語也

(原)挾註當在文意下

往生要集卷中本

天台首楞嚴院沙門　源信　撰

○大文第五助念方法者。一目之羅。不能得鳥。萬術助觀念。成往生大事。今以七事略示方法。一方處供具。二修行相貌。三對治懈怠。四止惡修善。五懺悔衆罪。六對治魔事。七總結行要。

△第一方處供具者。內外俱淨。卜一閑處。隨力辨於華香供具。若有闕少華香等事。但專念佛功德威神。若親對佛像。須辨燈明。若遙觀西方。或須闇室。（感禪師許闇室。）若供華香時。須依觀佛三昧經供養文意。其所得福。無量無邊。煩惱自滅少。六度自圓滿。（其文不異通途所用。故不更抄）若用念珠時。欲求淨土。用木槵子。欲多功德。用菩提子。乃至或水精蓮子等。（見念珠功德經。）

此一行建長西引諸本共無蓋中卷所攝故也

往生要集上末終

長建西引諸本皆於此處不分卷

猶有巨益。如大論第七云。有小因大果。小縁大報。如求佛道讃一偈。一稱南無佛。燒一捻香。必得作佛。何況聞知諸法實相。不生不滅。不々生。不々滅而行。因縁業亦不失。已上此文深妙。髻中明珠。則知。我等成佛無疑。歸命龍樹尊。證成我心願。

提。何故更云往生極樂。答。菩提是果報。極樂是華報。求果之人。盍期華耶。是故九品業皆云。回向願求生極樂國。問。發願回向有何差別。答。誓期所求。名之爲願。回所作業。趣向於彼。謂之回向。問。薩婆若與無上菩提。二無差別。何分爲二。答。論明回向。分之爲二。故令順之。更撿論文。問。次何故觀所有事。悉令空耶。答。論云。著心取相菩薩修福德。如草生火。易可得滅。若體得實相菩薩。以大悲心行衆行。難可得破。如水中火。無能滅者。問。若爾應唱言空無所得。何故今云回施法界。答。理實可然。今順於國土風俗。故云法界。理亦無違。所以然者。法界即是圓融無作第一義空。以所修善回趣相應彼第一義空。名回施法界。問。最後何意。唱言回向大菩提耶。答。此是令與薩婆若相應也。此亦順土風。置之末後。言薩婆若。即是菩提。如前論文。問。有相回向。無利益耶。答。如上數論。雖有勝劣。

寶上建本有又字引本亦同
原小本經作少
原法本經作世

至。修一念善。攝法性故。遍於九世故。用彼善根回向也。問。第二何名薩婆若相應心。答。論云。阿耨菩提意即是應薩婆若心。應者繋心。願我當作佛。問。第三第四。何故要共一切衆生及以回向無上菩提。答。六波羅蜜經云。云何少施功德多耶。以方便力。小分布施回向發願。與一切衆生同證無上正等菩提。以是功德無量無邊。猶如小雲漸遍法界。乃至以一華一果施亦爾。大論意亦同之 寶積經四十六云。菩薩摩訶薩。所有已生。諸妙善根一切回向無上菩提。令此善根畢竟無盡。譬如小水投于大海。乃至劫燒中無有盡。又大莊嚴論偈云。行施不求妙色財。亦不願感天人趣。專求無上勝菩提。施微便感無量福。已上 故以諸善根盡回向佛道。又大論云。譬如慳貪人。無因緣乃至一錢不施。貪慳積聚。但望增長。菩薩亦如是。福德若多若少。不向餘事。但愛惜積集。向薩婆若。已上 問。若爾唯應回向菩

來下一本有善根

十種事。卽是淨土莊嚴也。問。何故不觀觀音勢至耶。答。略故不述。念佛已後。應觀二菩薩。或稱名號。多少隨意。

△第五明回向門者。五義具足是眞回向。一聚集三世一切善根。二薩婆若心相應。三以此善根共一切衆生。四回向無上菩提。五觀能施所施。施物皆不可得。能令諸法實相和合。華嚴經意 大論意 依此等義。心念口言。所修功德。及以三際。一切善根。其一回向自他法界。一切衆生。平等利益。其二滅罪生善共生極樂。普賢行願速疾圓滿自他同證無上菩提。盡未來際。利益衆生。其三回向法界。其四回向大菩提。第五問。未來未有。以何回向。答。華嚴經說第三回向菩薩行相云以三世善根而無所著。無相離相。悉以回向。刊定記有二釋。一未來善根。雖未有。今若發願。願熏成種。攝持力故。未來所修。任運注向衆生菩提。不待更回向也。二依此敎中。菩薩乃

㊊現字本經作往字

抄下建本引本有之字挾注上所說等二十六字一本爲本文

消惡觀法。若有邪見極重惡人。聞此觀法具足相貌。生瞋恨心。無有是處。縱使生瞋。白毫相光。亦復覆護。暫聞是語。除三劫罪。後身生處。生諸佛前。如是種々百千億種諸觀光明微妙境界。不可悉說。念白毫時。自然當生。又云。麤心觀像。尚得如是無量功德。況復繫念觀佛眉間白毫相光。又云。釋迦文佛。現行者前。告言。汝修觀佛三昧力。故我以涅槃相力。示汝色身。令汝諦觀。汝今坐禪。不得多觀。汝後世人多作諸惡。但觀眉間白毫相光。作此觀時。所見境界。如上所說。已上略抄。上所說者。見佛種々境界也。諸餘利益。至下別時行。及利益門。應知。問。觀白毫一相。亦名三昧耶。答。爾。故觀佛經第九云。若能繫心觀一毛孔。是人名爲行念佛定。以念佛故。十方諸佛。常立其前。爲說正法。此人卽爲能生三世諸如來種。何況具足。念佛色身。問。何故不觀淨土莊嚴耶。答。今爲不堪廣行之者。唯勸略觀。若欲觀者。應讀觀經。何況前明

原一佛之佛字本經作法字又心字當作身字

原見字本經作現字

慧建本作悲引本亦同

言彌陀一身即一切佛身者。有何證據。答。天台大師云。念阿彌陀佛即是念一切佛。故華嚴經云。一切諸佛身。即是一佛身。一心一智慧。力無畏亦然。已上 又觀佛三昧經云。若思惟一佛。即見一切佛。云云 問。爲如諸佛體性無二。念者功德。亦無別耶。答。等無差別。故文殊般若經下卷云。念一佛功德無量無邊。亦與無量諸佛功德無二。不思議法。等無分別。皆乘一如。成最正覺。悉具無量功德辯才。如是入一行三昧者。盡知恆沙諸佛。法界無左別相。問。諸相功德。肉髻梵音。是爲最勝。今多觀白毫。有何證據耶。答。其證甚多。略出一兩。觀經云。觀無量壽佛者。從一相好入。但觀眉間白毫極令明了。見眉間白毫者。八萬四千相好。自然當見。又觀佛經云。如來有無量相好。一々相中。八萬四千諸小相好。如是相好。不及白毫小分功德。是故今日。爲於來世諸惡衆生。說白毫相大慧光明。

樂國。於蓮華中結跏趺坐。作蓮華合想。尋蓮華開時。瞻仰尊顏。觀白毫相。時有五百色光。來照我身。即見無量化佛菩薩。滿虛空中。水鳥樹林。及與諸佛所出音聲。皆演妙法。如是思想。令心欣悅願共諸衆生。往生安樂國。已上。依觀經。華嚴經等意。具在別卷。若樂極略者。應念彼佛。眉間白毫相旋轉。猶如頗梨珠。光明遍照攝我等。願共衆生生彼國。若有不堪觀念相好。或依歸命想。或依引攝想。或依往生想。應一心稱念。已上意樂不同故。明種々觀。行住坐臥。語默作作。常以此念。在於胸中。如飢念食。如渴追水。或低頭擧手。或擧聲稱名。外儀雖異。心念常存。念々相續。寤寐莫忘。問。彼佛眞身。非是凡夫心力所及。但應觀像。何觀大身。答。觀經云。無量壽佛身量無邊。非是凡夫心力所及。然彼如來宿願力故。有憶想者。必得成就。但想佛像。得無量福。況復觀佛具足身相。已上明知初心。亦隨樂欲。得觀眞身。問。所

惡字長本無之引本亦同

十方下長建二本有面字西本引本亦同

諸衆生皆悉有之。故非離陰入界。名爲如來。離之則是無因緣法。故非卽亦非離。寂靜但有名。是故當知。所觀衆相。卽是三身卽一之相好光明也。諸佛同體之相好光明也。萬德圓融之相好光明也。色卽是空。故謂之眞如實相。空卽是色。故謂之相好光明。一色一香。無非中道。受想行識。亦復如是。我所有三惡道。與彌陀佛萬德。本來空寂。一體無礙。願我得佛。齊聖法王。已上。依觀經。心地觀經。金光明經。念佛三昧經。般若經。止觀等意。

三雜略觀者。彼佛眉間。有一白毫。右旋宛轉。如五須彌。於中復有八萬四千好。一一好有八萬四千光。其光微妙。具衆寶色。總而言之。七百五倶胝六百萬光明。十方赫奕。如億千日月。其光中現一切佛身。無數菩薩。衆會圍遶。復出微妙音。宣暢諸法海。又彼一一光明。遍照十方世界。念佛衆生。攝取不捨。我亦在彼攝取之中。煩惱障眼。雖不能見。大悲無倦。常照我身。或應起自心生極

（原）挾註此觀已下十字全贅

無下長本有所字

去下長本有無字非斷非常一字本作非斷常

異上一本有非

依觀經。雙觀經。般舟經。大論等意。此觀成後。隨樂作次觀耳。

或應觀彼佛是三身一體之身也。於彼一身。所見不同或丈六或八尺。或廣大身。所現身。皆金色。所利益。各無量。與一切諸佛。其事同一。應化身。又一一相好。凡聖不得其邊。梵天不見其頂。目連不窮其聲。無形第一體。非莊嚴莊嚴。十力四無畏。三念住大悲八萬四千三昧門。八萬四千波羅蜜門。恆沙塵數法門究竟圓滿。與一切諸佛。其意同一。報身。微妙淨法身。具足諸相好。一一相好。即是實相。實相法界。具足無減。不生不滅。無去來。不一不異。非斷非常。有爲無爲諸功德。依此法身。常清淨。與一切諸佛。其體同一。法身。是故三世十方。諸佛三身。普門塵數。無量法門。佛衆法海。圓融萬德。凡無盡法界。備在彌陀一身。不縱不横。亦非一異。非實非虛。亦非有無。本性清淨。心言路絕。譬如如意珠中。非有寶非無寶。佛身萬德。亦復如是。又非即陰入界。名爲如來彼

原以字依觀經當作有字又菩薩下當有以字原隨字下恐脫形字歟

在上建本有亦字引本亦同

眼如四大海水。清白分明。身諸毛孔。演出光明。如須彌山。圓光如百億大千界。先中有無量恆河沙化佛。一一化佛。以無數菩薩爲侍者。如是有八萬四千相。一一相各有八萬四千隨好。一一好復有八萬四千光明。一一光明。遍照十方世界。念佛衆生攝取不捨。當知一一相中。各具七百五倶胝。六百萬光明。熾然赫奕。神德巍々如金山王在大海中。無量化佛菩薩。充滿光中。各各現神通。圍遶彌陀佛。彼佛如是。具足無量功德相好。在於菩薩衆會之中。演說正法。行者是時。都無餘色相。須彌鐵圍。大小諸山悉不現。大海江河。土地樹林悉不現。溢目之者。但是彌陀佛相好。周遍世界之者。亦是閻浮檀金光明。譬如劫水彌滿世界。其中萬物。沈沒不現。滉瀁浩汗唯見大水。彼佛光明亦復如是。高出一切世界上。相好光明靡不照曜。行者以心眼見於己身。在於彼光明所照之中。已上

原戒下本論有爲因二字今恐脫歟
回一本作廻
原眼字本經作自字
原一事想本經作想一事
原反字本經作返字
原政字本經作正字
如前長本無之以無之

淨戒。若諸菩薩。毀犯淨戒。尚不能得下賤人身。何況能感大丈夫相。三者四種善修。一善修事業。二善巧方便。三饒益有情。四無倒回向。已上別因之中。亦有多差別。今者且取因果相順者也。前後次第。諸文亦不同。今者隨宜。取爲次第也。相好間雜。以爲觀法。亦是觀佛經之例也。順觀次第。大途如是。逆觀反之。從足至頂。觀佛三昧經云。閉眼得見。以心想力。了々分明。如佛在世。雖觀是相。不得衆多。從一事起。復想一事。一事想已。復想一事。逆順反覆。經十六反。如是心想。極令明利。然後住心。繫念一處。如是漸々舉舌向腭。令舌政住。經二七日。然後身心可得安穩。導和尚云。十六遍後。住心觀白毫相。不得雜亂。二總相觀者。先觀如前衆寶莊嚴廣大蓮華。次觀阿彌陀佛。坐華臺上。身色如百千萬億閻浮檀金。身高六十萬億那由他恆河沙由旬。眉間白毫。右旋婉轉。如五須彌山。

(原)恒字寫誤當作坦字

(原)五十五之五字且依觀佛經剩焉

(原)細原本作網依改

圓滿。瑜伽云。於其父母種々供養。於諸有情諸苦惱事種々救護。由往來等動轉業故得此相云云。見千輻輪相除却千劫極重惡業。四十一。世尊足下。有平滿相。妙善安住。猶如奩底。地雖高下。隨足所蹈。皆悉坦然。無不等觸。大經云。持戒不動。施心不移。安住實語。故得此相。云云。其足柔輭。諸指纖長。輓網具足。內外握等相。及業因同前手。四十二。樂廣者應觀。足下及跟。各生一華。圍遶諸光。滿足十匝。華々相次。一一華上有五化佛。一一化佛。五十五菩薩以爲侍者。一一菩薩。頂生摩尼珠光。此相現時。佛諸毛孔。生八萬四千微細小光明。嚴飾身光。極令可愛。此光一一尋其相衆多。乃至他方諸大菩薩。觀此之時。此光隨大。已上是諸相好。行相利益廢立等事。諸文不同。然今三十二略相。多依大般若。廣相隨好。及諸利益。依觀佛經。又相好業。有其總別。言總因者。瑜伽四十九云。始從淸淨勝意樂地。一切所有菩提資糧。無有差別。能感一切相及隨好。云云。言別因者。彼論有三種。一者六十二因。具如論文。二者

(原)挾注陰字下建本有馬字經長建二本無引本亦同引本亦同慙長本作懺
(原)醫字且依觀佛經當作豎又盤當作幡
(原)百千萬三字且依觀佛經當作百萬億生無量化佛長本作坐無量佛
(原)現恐寫誤應作有
(原)滯字應作滴字
(原)失字本經作去字基長建二本作塞西本引本亦同輞轂原本作網轂今依一本注改

如滿月。有金色光。猶如日輪。如金剛器。中外俱淨。大經云。見裸施衣服故。得陰藏相。大集經云。覆藏他過故。大論云。多修慚愧及斷邪婬故。導禪師云。佛言若多貪欲色者。即想如來陰藏相者。欲心即止罪障除滅得無量功德。三十五。世尊兩足。二手掌中項及雙肩。七處充滿。大經云。行施之時。所珍之物。能捨不惜。不視福田及非福田。得七處滿相。三十六。世尊雙腨。漸次纖圓。如醫泥耶。仙鹿王腨。腨鉤鏁骨。盤結之間出諸金光。瑜伽云。自於正法。如實攝受。廣為他說。及正為他善作給使。得醫泥耶腨相。三十七。世尊足跟。廣長圓滿。與趺相稱勝諸有情。三十八。足跟修高。猶如龜背。柔輭妙好。與跟相稱。瑜伽云。感足下平滿。千輻輪。纖長指。三相之業。總能感得跟趺二相。是前三相所依止故。三十九。如來之身。前後左右。及以頂上。各有八萬四千毛生。柔潤紺青。右旋宛轉。或次應廣觀一一毛端。有百千萬塵數蓮華。一一蓮華。生無量化佛。一一化佛。現諸偈頌。聲々相次猶如雨渧。無上依經云。修諸勝善法。無中下品。恆令增上。得身毛上靡。右旋宛轉相。優婆塞戒經云。親近智者。樂聞樂論。聞已樂修。樂治道路。除失棘刺故。四十。世尊足下。千輻輪文。輞轂衆相。無不

箇建本作筒西本引本亦同

原觀大等十二字全爲寱語應剗之　周一本作圓　挾註爲下長本有廣字圓相下長本有法花文句云慈心平等得此相十二字

一光說六波羅蜜。一一化佛。遣一化人。端正微妙。狀如彌勒。安慰行者。見此相光者。除十二億劫生死之罪。二十八。如來心相。如紅蓮華。妙紫金光。以爲間錯。如瑠璃筒。懸在佛胸。不合不開。團圓如心。萬億化佛。遊佛心間。又無量塵數化佛。在佛心中。坐金剛臺。放無量光。一一光中。亦有無量塵數化佛。出廣長舌。放萬億光。作諸佛事。念佛心者。除十二億劫生死之罪。生生得値無量菩薩云云。樂廣觀者。應作此觀。二十九。世尊身皮。皆眞金色。光潔晃曜如妙金臺。衆寶莊嚴。衆所樂見。大經云。施衣服臥具。得此相。三十。身光任運。照三千界。若作意時。無量無邊。然爲憐愍諸有情。故攝光常照。面各一尋。大經云。以香華燈明等。施人。得此相。云云。觀大光者。但發心以見。除却衆罪。三十一。世尊身相。修廣端嚴。大論云。恭敬尊長。迎送侍遶。得身直廣相。三十二。世尊體相。縱廣量等。周匝圓滿。如尼拘陀樹。大集經云。常勸衆生。修三昧。得此相。報恩經云。若有衆生。四大不調。能爲療治。故得身方圓相。三十三。世尊容儀。洪滿端直。瑜伽云。於疾病者。卑屈瞻侍。給施良藥。故得身不傴曲相。三十四。如來陰藏。平

原像字亦應作象今即寫誤

原一一端且依觀佛經應作十指端三字

絡一本作終

原億字且依觀佛經應作倍又達字亦應作淨

悷悷長本作獷

橫卍一本作万他長本作化建本西本引本亦同

原一一光下且依觀佛經當有中字

水精色。餓鬼見除熱。畜生識宿命。狂像見者。爲師子王。師子見金翅鳥。諸龍亦見金翅鳥王。是諸畜生各見所尊。心生恐怖。合掌恭敬。以恭敬故。命終生天。大集經云。救護怖畏。得臂肘傭。見他事業佐助。故得手摩膝相。二十三。諸指圓滿。充密纖長。甚可愛樂。於一一端。各生卍字。其爪光潔。如華赤銅。瑜伽云。於諸尊長。恭敬禮拜。合掌起立。故得纖長指相。二十四。一一指間。猶如鴈王。咸有鞔網。金色交絡。文同綺畫。勝閻浮金。百千萬億。其色明達。過於眼界。張時則見。斂指不見。大集經云。修四攝法攝取衆生。故得此相。二十五。其手柔軟。如覩羅綿。勝過一切。內外俱握。大集經云。父母師長若病苦。自手洗拭。提持按摩。故得手軟相。二十六。世尊領臆。竝身上半威容。廣大如獅子王。瑜伽云。於諸有情。如法所作。能爲上首。而作助伴。離於我慢。無諸橫悷。故得此相。二十七。胸有卍字。名實相印。放大光明。或次應廣觀。光中有無量百千衆華。一一華上。有無量化佛。是諸化佛。各有千光。利益衆生。乃至遍入十方佛頂。時諸佛胸出百千光。一

原滿相下且依觀佛經復應有滿相二字分上光字建本無引本亦同千長本作十建長本西本引本亦同

原明字依觀佛經當作修字　原理字亦應作論字　原十方下亦恐脫已字歟

白。及摩尼色皆悉具足。圓遶諸光。上下左右。各各一尋。圍遶佛頸。了々如畫。無上依經云。衣服飲食。事乘臥具諸莊嚴物以歡喜施與。得身金色。圓光一丈相。十八。頸出二光。其光萬色遍照十方一切世界。遇此光者。成辟支佛。此光照諸辟支佛頸。此相現時。行者遍見十方一切。諸辟支佛。擲鉢虛空。作十八變。一一足下。皆有文字。其字宣說十二因緣。十九。缺盆骨滿相。光照十方。作琥珀色。遇此光者。發聲聞意。是諸聲聞見此光明。光分爲千支。一支千色。十千明明。光有化佛。一一化佛。有四比丘。以爲侍者。一一比丘。皆說苦空無常無我。已上三種。樂廣觀者應用之。二十。世尊肩項圓滿殊妙。法華文句云。恒令施增長。故得此相。二十一。如來腋下。悉皆充實。放紅紫光。作諸佛事。利益衆生。無上依經云。於衆生中。爲利益事。修四正勤。心無所畏。得兩肩平整。兩腋下滿相。二十二。佛雙臂肘。明直傭圓。如象王鼻。平立摩膝。或次應廣觀。手掌千輻理。各放百千光。遍照十方。化成金水。金水之中。有一妙水。如

原可字恐寫誤當作應字
原舌下二字且依觀佛經應作舌根下及舌五字
原滴建本作適西本引本亦同
原舌根上之根字亦依彼經應作相字今即寫誤
原蓮華下且依觀佛經應有相字
原隨類二字且依大般若經作聲隨衆量四字
原分明下且依觀佛經當有猶如伊字四字又出一一光四字當作流出二光四字今是寫誤
原一一菩薩下亦當有二手二字

經云。身口意淨故。得四牙白相。云云。觀此脣口齒相者。滅二十劫罪。　十四世尊舌相。薄淨廣長能覆面輪。至耳髮際。乃至梵天。其色如赤銅。或次可廣觀舌上五畫。猶如印文。笑時動舌。出五色光。遶佛七匝。還從頂入。所有神變。無量無邊。大集經云。護口四過。得廣長舌相。云云。觀此相者。除百億八萬四千劫罪。他世値八十億佛。　十五舌下兩邊。有二寶珠。流注甘露。滴舌根上。諸天世人。十地菩薩。無此舌根。亦無此味。大般若有異說可勘。大經云。飲食以施與故。得上味相。　十六如來咽喉。如瑠璃筒狀。如累蓮華。所出音聲。詞韻和雅。無不等聞。其聲洪震。猶如天鼓。所發言婉約。如伽陵頻音。任運能遍大千世界。若作意時。無量無邊。然爲利衆生。隨類不增減。大經云。不訟彼知。不謗正法。得梵音聲相。大集經云。於諸衆生。常柔輭語故。云云。　十七頸出圓光。咽喉上有點相分明。一一點中。出一一光。其一一光。遶前圓光。滿足七匝。衆畫分明。一一畫間有妙蓮華。華上有七佛。一一化佛。各有七菩薩。以爲侍者。一一菩薩執如意珠。其珠金光。靑黃赤

原挾註善字本經作喜字又無故字

原挾註集之集字本經作習字又無愛視衆生四字

原如量二字且依大般若經似剩

原挾註下應有因字

原齊下且依大般若經應有平字

端。流出一光。如頗梨色。遶頭一匝。純生微妙諸青蓮華。一一華臺有梵天王。執青色蓋。大集經云。至心求於無上菩提。故得牛王睫相。大經云。見於怨憎生。於善心故九佛眼青白。上下倶眴。白者過白寶。青者勝青蓮華。或次應廣觀。眼出光明。分爲四支。遍照十方無量世界。於青光中。有青色化佛。於白光中。有白色化佛。此青白化佛。復現諸神通。大集經云。修集慈心愛視衆生。得紺色目相。云云。於少時間。觀此相者。未來生處。眼常明淨。眼根無病。除却七劫生死之罪十鼻修高直。其孔不現。如鑄金鋋。如鸚鵡觜。表裏清淨。無諸塵翳。出二光明。遍照十方。變作種々無量佛事。觀此隨好者。滅千劫罪。未來生處。聞上妙香。常以戒香。爲身瓔珞。十一脣色赤好。如頻婆果。上下相稱如量嚴麗。或次應廣觀。團圓光明。從佛口出。猶如百千赤眞珠貫。入出於鼻白毫髮間。如是展轉。入圓光中。此脣隨好業等可勘。十二四十齒齊淨密根深。白逾珂雪。常有光明。其光紅白。映耀人目。大經云。遠離兩舌惡口恚心。得四十齒鮮白齊密相。十三四牙鮮白。光潔鋒利。如月初出。大集

原長大下且依觀佛經應有其毫中表空俱七字

座建本作坐　西本引本亦同

原大集之集字剩焉

眉皎淨。似天帝弓。其色無比。紺瑠璃光。見來求者。生歡喜。故面輪圓滿。觀此相者。除却億劫生死之罪。後身生處。面見諸佛。

七眉間白毫。右旋宛轉。柔輭如覩羅綿。鮮白踰珂雪。或次應廣觀。舒之直長大。如白瑠璃筒。放已右旋。如頗梨珠。丈六佛白毫。長丈五。右旋徑一寸。周圍三寸。

於十方面。現無量光。如萬億日。不可具見。但於光中。現諸蓮華。上過無量塵數世界。華々相次。團圓正等。一一華上。一化佛坐。相好莊嚴。眷屬圍遶。一一化佛。復出無量光。一一光中。亦無量化佛。是諸世尊。行者無數。住者無數。座者無數。臥者無數。或說大慈大悲。或說三十七品。或說六波羅蜜。或說諸不共法。若廣說者。一切衆生。至十地菩薩。亦不能知之。大集經云。不隱他德。稱揚其德。得此相。觀佛經云。從無量劫。晝夜精進。身心無懈。如救頭然。勤修六度。三十七品。十力無畏。大慈大悲。諸妙功德。得此白毫。觀此相者。除却九十六億那由他恆河沙微塵數劫生死之罪。

八如來眼睫。猶若牛王。紺青齊整。不相雜亂。或次應廣觀。上下各生。有五百毛。如優曇華鬚。柔輭可愛樂。一一毛

原如雲下且依觀佛經應有微塵從空四字

原皆上之上字且依觀佛經應作兩字今即寫誤

挾註厄建本作、尼西本引本亦同

修一本作脩

中下建本有化字西本引本亦同

挾註大集經一本註宋無見下長本及建本有樂廣觀者可用此觀之八字挾註西本引本亦同

挾註長本建本無引本亦同

原額廣下且依大般若經應有圓滿二字

好一本作妙

化菩薩。如雲而下。圍遶諸佛。大集經云。恭敬父母師僧和上。得肉髻相。云云。若於此相生隨喜者。除却千億劫極重惡業。不墮三途。二頂上八萬四千髮毛。皆上向靡。右旋而生。永無褫落。亦不雜亂。紺青稠密。香潔細軟。或樂廣觀者。應觀一一毛孔旋生五光。若申之時。修長難量。如釋尊髮長。從尼拘樓陀精舍。至父王宮。遶城七匝。無量光普照。作紺瑠璃色。色中佛。不可稱數。現此相已。還住佛項。右旋宛轉。即成蠡文。大集經云。不以惡事。加衆生故。得髮毛金精相。三於其髮際。有五千光。間錯分明。皆上向靡。圍遶諸髮。遶頂五匝。如天畫師所作畫法。團圓正等細如一絲。於其絲間。生諸化佛。有化菩薩。以爲眷屬。一切色像。亦於中見。四耳厚廣長。輪埵成就。或應廣觀旋生七毛。流出五光。其光千色。色千化佛。佛放千光。遍照十方無量世界。此隨好之業因可勘觀佛三昧經云。觀此好者。滅八十億劫生死之罪。後世常與陀羅尼人爲眷屬云云。下云諸利益。皆亦依觀佛三昧經而註之。五額廣平正形相殊妙。此好業因竝利益可勘。六面輪圓滿。光澤熙怡。端正皎潔。猶如秋月。雙

原宮下本經有復字今恐脫

座一本作坐

寶幢。如百千萬億須彌山。幢上寶幔。如夜摩天宮。有五百億微妙寶珠。以爲映飾。一一寶珠有八萬四千光。一一光作八萬四千異種金色。一一金光遍其寶土。處々變化。各作異相。或爲金剛臺。或作眞珠網。或作雜華雲。於十方面。隨意變現。施作佛事。是爲華座想。如是妙華是本法藏比丘願力所成。若欲念彼佛者。當先作此華座想。作此想時。不得雜觀。皆應一一觀之。一一葉一一珠。一一光。一一臺。一一幢。皆令分明。如於鏡中。自見面像。作此觀者。名爲正觀。若他觀者。名爲邪觀。已上。觀此座相者。滅除五萬劫生死之罪。必定當生極樂世界。次正觀相好。謂阿彌陀佛。座華臺上。相好炳然。莊嚴其身。一頂上肉髻。無能見者。高顯周圓。猶如天蓋。或樂廣觀者。次應觀彼頂上有大光明。具足千色。一一色作八萬四千支。一一支中。有八萬四千化佛。化佛頂上。亦放此光。此光相次。乃至上方無量世界。於上方界有

原註云二十二種者誤也況全贊 長建西引省以次上文爲上卷之終而尾問有往生要集卷上末終字八字 長建西引諸本以第四觀察門以下之文爲中卷初標題安往生要集卷中本五字次出撰號置天台首楞嚴院沙門源信撰十一字 一本註想守鈔作相

原葉下本經有上字

原華上本經有蓮字

原布本經作覆 八萬下引本有四千二字 寶引本無 建長本作交西本引本亦同

一切衆生類。於諸菩薩衆而生恭敬心。若有人能行如是之善法。世々得增長無上菩提願。文中。亦有二十二種。失菩提心法可見。

△第四觀察門者。初心觀行。不堪深奧。如十住毘婆娑云。新發意菩薩。先念佛色相。又諸經中。爲初心人。多說相好功德。是故今當修色相觀。此分爲三。一別相觀。二總想觀。三雜略觀。隨意樂應用之。初別相觀者。亦有二。先觀華座。觀經云。欲觀彼佛者。當起想念。於七寶地上。作蓮華想。令其蓮華一一葉。作百寶色。有八萬四千脈。猶如天畫。脈有八萬四千光。了々分明。皆令得見。華々小者。縱廣。二百五十由旬。如是華。有八萬四千葉。一一葉間。有百億摩尼珠王。以爲映飾。一一摩尼珠。放千光明。其光如蓋。七寶合成。遍布地上。釋迦毘楞伽寶。以爲其臺。此蓮華臺。八萬金剛甄叔迦寶。梵摩尼寶。妙眞珠網。以爲校飾。於其臺上。自然而有四柱寶幢。一一

住下一本注宋有毘

此力。是故行者要發此願。問。若不發願者。終不往生耶。答。諸師不同。有云。九品生人。皆發菩提心。其中品人。本雖是小乘。後發大心。得生彼國。由彼本習。暫證小果。其下品人。雖退大心。而其勢力猶在。得生。慈恩同之 有云。中下品但由福分生。上品具福分道分生。云云。道分者。是菩提心行也。問。如菩提心。諸師異解。欣淨土心。亦不同耶。答。大菩提心。雖有異說。欣淨土之願。九品皆應具。問。若淨土業。依願得報。如人作惡。不願地獄。彼不應得地獄果報。答。罪報有量。淨土報無量。二果既別。二因何一。例。如大論第八云。罪福雖有定報。但作願者。修小福有願力。故得大果報。一切衆生。皆願得樂。無願苦者。是故不願地獄。以是故。福有無量報。罪報有量。略抄 問。以何等法。世々增長大菩提願。而不忘失。答。十住婆娑第三偈云。乃至失身命。轉輪聖王位。於此尙不應忘語行諂曲。能令諸世間。

原　數劫依本書今倒
原　苦本書有衆生上
原　本書無衆生苦之苦字
原　俟下案脫別釋二字歟
原　諸下本論有佛字今卽脫

强故。自被纒縛。淪溺三途。動經數劫。如此輪轉。無始已來未曾休息。何時能得救衆生苦。爲此求生淨土。親近諸佛。證無生忍。方能於惡世中。救衆生苦。已上餘經論文。具如十疑也。應知念佛修善爲業因。往生極樂爲華報。證大菩提爲果報。利益衆生爲本懷。譬如世間植木開華。因華結果。得果餐受。問。念佛之行。於四弘中。是何行攝。答。修念佛三昧。是第三。願行隨有所伏滅。是第二願行。遠近結良緣。是第一願行。積功累德。成第四願。自餘衆善例知。不俟。問。一心念佛。理亦往生。何要經論勸菩提願。答。大莊嚴論云。佛國事大。獨行功德不能成就。要須願力。如牛有力挽車。要須御者。能有所至。淨佛國土。由願引成。以願力故。福慧增長。已上十住毘婆娑論云。一切諸法。願爲根本。離願則不成。是故發願。又云。若人願作佛。心念阿彌陀。應時爲現身。是故我歸命。已上大菩提心。旣有

原大如地本論作如大地今即倒

廿一本作其

原於本經作淤字今即寫誤

原拯濟本論作拯拔

原欲上本書有爲字

嚴論偈云。雖恆處地獄。不障大菩提。若起自利心。是大菩提障。又丈夫論偈云。悲心施一人。功德大如地。爲己施一切。得報如芥子。救一厄難人。勝餘一切施。衆星雖有光。不如一月明。已上明自利行。非是菩提心之所依。得報亦少。云何獨願速生極樂。答。豈不前言。願極樂者。要發四弘願。隨願而勤修。此豈非是大悲心行。亦願求極樂。非是自利心。所以然者。今此娑婆世界。多諸留難。甘露未霑苦海朝宗。初心行者。何暇修道。故今爲欲圓滿菩薩願行。自在利益一切衆生。先求極樂。不爲自利。如十住毘婆娑云。自未得度。不能度彼。如人自沒於泥。何能拯濟餘人。又如爲水所漂。不能濟溺。是故說。我度已當度彼。又如法句偈說。若能自安身。在於善處者。然後安餘人。自同於所利。已上故十疑言。所以求生淨土。欲救拔一切衆生苦。故即自思惟。我今無力。若在惡世煩惱境中。以境

信解大乘至極道理。非必第一義空。相應觀慧。問。十疑引雜集論云。若有願生安樂淨土。則得往生者。若人聞無垢佛名。即得阿耨菩提者。此是別時因全無行。已上慈恩同云。願行前後。故說別時。非謂念佛不即生也。已上明知有願無行。是別時意。云何上品下生之人。但由菩提願。即得往生耶。答。大菩提心。功能甚深。滅無量罪生無量福。故求淨土。隨求即得。所言別時意者。但爲自身願求極樂。求是四弘願。廣大菩提心。問。大菩提心。若有此力。一切菩薩。從初發心。決定應無墮惡趣者。答。菩薩未至不退位前。染淨二心。間雜而起。前念雖滅衆罪。後念更造衆罪。又菩提心有淺深强弱。惡業有久近定不定。是故退位昇沈不定。非菩提心無滅罪力。且述愚管。見者取捨。三料簡者。問。入法界品云。譬如金剛從金性生。非餘寶生。菩提心寶。亦復如是。大悲救護衆生性生。非餘善生。莊

（原）挾註云其一者全無用也下云其二及其五亦然

（原）諸本論作於字

亦有勝利耶。答。雖不如緣理。此亦有勝利。何以知者。上品下生業。云但發無上道心。不云解第一義。故知唯是事菩提心。若不爾者。與彼中生業。應無別。也其一 往生論明菩提心但云。以拔一切衆生苦故。以令一切衆生得大菩提故。以攝取衆生生彼國土故。云云。若緣事心無往生力。論主豈不示緣理心。也其二 大論第五偈云。若初發心。時。誓願當作佛。已過諸世間。應受世供養。云云。此論亦但云願作佛。明事菩提心。亦畢消信施。其三 止觀引秘密藏經已云。初菩提心。已能除重々十惡。況第二第三第四菩提心耶。云云。所言初者。是三藏教。緣界內事菩提心也。何況深信一切衆生悉有佛性。普願自他共成佛道。豈有滅罪。其四 唯識論云。不執菩提有情實有。無由發起猛利悲願。已上 大士悲願。尚執有起。則知事願亦有勝利。其五 餘如下回向門。問。信解衆生本有佛性。豈非緣理。答。此是

原　不能又作猶不二字
原　挾註全疣害也
等西本作復得一本作復
原　諸本經作勝字今寫誤
原　無本經作不字
原　前作先字

說。窮劫不能盡。此言發心通於凡聖。具見弘決。又同經偈云。一切衆生心。悉可分別知。一切刹微塵。尙可算其數。十方虛空界。一毛猶可量。菩薩初發心。究竟不可測。又出生菩提心經偈云。若此佛刹諸衆生。令住信心及持戒。如彼最上大福聚。不及道心十六分。若諸佛刹恆河沙。皆悉造寺求福故。復造諸塔如須彌。不及道心十六分。乃至如是人等得勝法。若求菩提利衆生。彼等衆生最勝者。此無比類況有上。是故得聞此諸法。智者常生樂法心。當得無邊大福聚。速得證於無上道。寶積經偈云。菩提心功德。若有色方分。周遍虛空界。無能容受者。云云。菩提心。有如是勝利。是故迦葉菩薩禮佛偈云。發心畢竟二無別。如是二心前心難。自未得度先度他。是故我禮初發心。又彌伽大士。聞善財童子已發菩提心。即從師子座下。放大光明照三千界。五體投地。禮讚童子。已上。總顯勝利。問。緣事誓願。

原 智本經作心字。三建本作二西本引本亦同

原 挾註經等九字贅

原 涯本經作邊字

之心亦復如是。於無量劫處生死中。諸煩惱業。不能斷滅。亦無損滅。又同經法幢菩薩偈云。若有智慧人。一念發道心。必成無上尊。愼莫生疑惑。已上。終不敗壞。必至菩提益也 又入法界品云。譬如閻浮檀金。除如意寶。勝一切寶。菩提之心。閻浮檀金。亦復如是。除一切智。勝諸功德。譬如迦樓毘伽鳥。在殼中時。有大勢力。餘鳥不及。菩薩摩訶薩。亦復如是。於生死殼。發菩提心。功德勢力。聲聞緣覺。所不能及。譬如波利質多樹華。一日薰衣。瞻蔔華婆師華。雖千歲薰。所不能及。菩提心華。亦復如是。一日所薰。功德香。徹十方。佛所聲聞緣覺。以無漏智。薰諸功德。於百千劫。所不能及。譬如金剛。雖破不全。一切衆寶猶不能及。菩提之心。亦復如是。雖少懈怠。聲聞緣覺。諸功德寶。所不能及。已上。經中有三百餘喩。可見。 賢首品偈云。菩薩於生死。最初發心時。一向求菩提。堅固不可動。彼一念功德。深廣無涯際。如來分別。

原本經無有犯之有字

原如下本經有有人得三字

原折本經作摧字

犯有住。無有是處。如百年闇室。若然燈時。闇不可言我是室主。住此久而不肯去。燈若生。闇即滅。其義亦如是。此經具指前四菩提心。　已上在彼經下卷。言前四者指四教菩提心。　華嚴經入法界品云。譬如善見藥王。滅一切病。菩提心滅一切衆生諸煩惱病。譬如牛馬羊乳合在一器。以師子乳投彼器中。餘乳消盡。直過無礙。如來師子。菩提心乳著無量劫所積諸業煩惱乳中。皆悉消盡。不住聲聞緣覺法中。大般若經云。若諸菩薩。雖多發起五欲相應。非理作意。而起一念無上菩提相應之心。即能折滅。　已上三文。滅罪益也。　入法界品云。譬如有人得不可壞藥。一切怨敵。不得其便。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心不壞法藥。一切煩惱。諸魔怨敵。所不能壞。譬如有人。得住水寶珠瓔珞其身。入深水中。而不沒溺。得菩提心。住水寶珠。入生死海。而不沈沒。譬如金剛。於百千劫。處於水中。而不爛壞。亦無變異。菩提

(原)摶厚本作揣依原改

(原)盜本經作奪字

(原)汙下又有以字又無實事之事字又間作壞字又懷作壞字今寫誤下惡一本無

(原)一切下本經有諸字又不生作生滅二字

數。修僧業得僧利者。是人能受供養。四果向是僧數。三十七品是僧業。四果是僧利。比丘重白佛。若發大乘心者。復云何佛言。若發大乘心。求一切智。不墮數不修業。不得利能受供養。比丘驚問。云何是人。能受供養。佛言是人。受衣用敷大地。受摶食若須彌山。亦能畢報施主之恩。當知小乘之極果。不及大乘之初心。已上消信施。又云。如來密藏經說。若人父爲緣覺而害。盜三寶物。母爲羅漢而汙不實事謗佛。兩舌間賢聖。惡口罵聖人。懷亂求法者。五逆初業之瞋。奪持戒人物之貪。邊見之癡。是爲十惡。惡者。若能知如來。說因緣法。法無我人衆生壽命。無生無滅無染無著。本性清淨。又於一切法。知本性清淨。解知信入者。我不說。是人趣向地獄及諸惡道。何以故。法無積聚。法無集惱。一切法不生不住。因緣和合而得生起。生已還滅。若心生已滅。一切結使。亦生已滅。如是解無犯處。若有

原挾註者且舉一端耳非理盡也

原千字本經作地字

原六十作二百輔行標之云應是翻譯前後不同

得執。名爲不淨。大論立明二執過云。譬如人行陜道。一邊深水。一邊大火。二邊俱死。著有著無。二事俱失。已上 是故行者。常觀諸法本來空寂。亦常修習四弘願行。如依空地。造立宮舍。唯地唯空。終不能成。此是由諸法三諦相即。故中論偈云。因緣所生法。我說即是空。亦名爲假名。亦是中道義。云々。更檢止觀。問。執有之見。罪過既重。緣事菩提心。豈有勝利耶。答。堅執有時。過失乃生。所言緣事。非必堅執。若不爾者。應無見有得道之類。見空亦爾。譬如用火。手觸爲害不觸有益。空有亦爾。二明利益者。若人如說。發菩提心。設少餘行。隨願決定。往生極樂。如上品下生之類。是也。如是利益無量。今略示一端。止觀云。寶梁經云。比丘不修比丘法。大千無唾處。況受人供養。六十比丘。悲泣白佛。我等乍死。不能受人供養。佛言汝起慙愧心。善哉善哉。一比丘白佛言。何等比丘。能受供養。佛言若在比丘

原怖本經作怪字

原人下本經有衆生二字而無命者二字又念作想字

無衆生。誰可度者。是時悲心便弱。或時以衆生可愍。於諸法空觀弱。若得方便力。於此二法。等無偏黨。大悲心不妨諸法實相。得諸法實相。不妨大悲。生如是方便。是時便得入菩薩法位。住阿鞞跋致地。略抄 問若偏生解。其過云何。答。無上依經上卷明空見云。若有人執我見如須彌山大。我不驚怖。亦不毀呰。增上慢人。執著空見。如一髦髮作十六分。我不許可。又中論第二偈云。大聖說空法。爲離諸見故。若復見有空。諸佛所不化。佛藏經念僧品。破有所得執云。有所得者。說有我人壽者命者。憶念分別無所有法。或說斷常。或說有作。或說無作。我淸淨法。以是因緣。漸々滅盡。我久在生死。受諸苦惱。所成菩提。是諸惡人。爾時毀壞。略抄 又同經淨戒品云。我見人見衆生見者。多墮邪見。斷滅見者。多疾得道。何以故是易捨故。是故當知。是人寧自以利刀割舌。不應衆中不淨說法。有所

(原)觀諸本經作知於二字恐所覽異歟

會大海。行者亦爾。一發心後。諸善根水。自然流入四弘願渠。轉生極樂。遂會菩提薩婆若海。何況時々憶念前願。具如下回向門。問。凡夫無力。能捨難捨。或復貧乏。以何方便。令心順理。答。寶積經云。如是布施。若無有力。不能學之。不能捨財。是菩薩。應如是思惟。我今當勤加精進。時々漸々斷除慳貪悋惜之垢。我當勤加精進。時々漸々學捨財施與。常令我施心增長廣大。已上又因果經偈云。若有貧窮人。無財可布施。見他修施時。而生隨喜心。隨喜之福報。與施等無異。十住毘婆沙偈云。我今是新學。善根未成就。心未得自在。願後當相與。已上行者應當如是用心。問。此中緣理。發菩提心。亦可信因果。勤修行道耶。答。理必可然。如淨名經云。雖觀諸佛國。及與衆生空。而常修淨土。教化諸群生。中論偈云。雖空亦不斷。雖有而不常。業果報不失。是名佛所說。又大論云。若諸法皆空。則

若一本作著

檀度。速證菩提。廣度衆生。發一愛語。施一利行。同一善事。準此應知。若暫制伏一念惡時。應作是念。願我如是漸漸成就第二願行。斷諸惑業。速證菩提。廣度衆生。若讀誦修習一文一義時。應作是念。願我如是漸々成就第三願行。學諸佛法。速證菩提。廣度衆生。觸一切事常作用心。我從今身。漸々修學。乃至生極樂。自在學佛道。速證菩提。究竟利生。若常懷此念。隨力修行者。如渧雖微漸盈大器。此心能持巨細萬善。不令漏落。必至菩提。如華嚴經入法界品云。譬如金剛能持大地。不令墜沒。菩提之心亦復如是。能持菩薩一切願行。不令墮落沒於三界。云云 問。凡夫不堪常途用心。爾時善根。爲唐捐耶。答。若至誠心。心念口言。我從今日乃至一善。不爲己身有漏果報。盡爲極樂。盡爲菩提。發此心後。所有諸善。若覺不覺。自然趣向無上菩提。如一穿渠溝。諸水自流入。轉至江河。遂

原若諸本經作如是二字

原渇上本經有衆生二字

原挾註可見二字恐贅

施持戒多聞。終不能得解脫分法。若能厭患生死過咎。深見涅槃功德安樂。如是之人。雖復少施小戒小聞。即能獲得解脫分法。已上於無量世。以無量財。施無量人。於無量佛所。受持禁戒。於無量世。無量佛所。受持讀誦十二部經。名爲多施戒聞。以一把麨。施一乞人。一日一夜。受持八禁。讀誦一四句偈。名少施戒聞。如經廣說。　是故行者隨事用心。乃至一善。無空過者。如大般若經云。若諸菩薩。行深般若波羅蜜多方便善巧。無有一心一行。空過而不回向一切智者。已上　問。云何用心。答。如寶積經九十三云。須食施食。爲具足一切智力故。須飮施食。爲斷渇愛力故。須衣施衣。爲得無上慚愧衣故。施座處。爲坐菩提樹下故。施燈明。爲得佛眼明故。施紙墨等。爲得大智慧故。施藥。爲除衆生結使病。故。如是乃至。或自無財。當生心施。得開示無量無邊一切衆生。有力無力。如上布施。是我善行。已上。經文甚廣。今略抄之。可見。　如是隨事。常發心願。願令此衆生。速成無上道。願我如是。漸々成就第一願行。圓滿

原亦生下本經有亦字今恐脫

須一本注鈔作願原須恐寫誤當作願字

性不修道者終無顯理如涅槃經三十二云善男子若有人問是種子中有果無果耶。應定答言亦有亦無何以故。離子之外不能生果是故名有子未出牙。是故名無以是義故。亦有亦無所以者何。時節有異。其體是一。衆生佛性。亦復如是。若言衆生中別有佛性者是義不然。何以故。衆生即佛性。佛性即衆生。直以時異。有淨不淨。善男子若有問言。是子能生果不。是果能生子不。應定答言。亦生不生。已上 問。凡夫不堪勤修。何虛發弘願耶。答設不堪勤修猶須發悲願。其益無量。如前後明。調達誦六萬藏經。猶不免那落。慈童發一念悲願。忽得生兜率。則知昇沈差別。在心非行。何況誰人一生之中。不一稱南無佛不一食施衆生。須以此等微少善根皆應攝入四弘願行。故行願相應。不爲虛妄願。如優婆塞戒經第一云。若人不能一心觀察生死過咎。涅槃安樂。如是之人。雖復慧

原性本經作情字今寫誤

原挾註全不當而害文意

及道。是人去佛道。譬如天與地。已上如是有七十餘偈。又同論云。一切法不可得。是名佛道。卽是諸法實相。此不可得亦不可得。抄略又迦葉菩薩。白佛言。一切諸法中。悉有安樂性。唯願。大世尊。爲我分別說。又般若經云。一切有性皆如來藏。普賢菩薩自體徧故。法句經云。諸佛依貪瞋。而處於道場。塵勞諸佛種。本來無所動。五蓋及五欲爲諸佛種性。常以是莊嚴。本來無所動。諸法從本來。無是亦無非。是非性寂滅。本來無所動。已上六文是利根人菩提心耳。問。煩惱菩提。若一體者。唯應任意起惑業耶。答。生如是解。名之爲惡取空者。專非佛弟子。今反質云。汝若煩惱卽菩提故。欣起煩惱惡業。亦應生死卽涅槃故。欣受生死猛苦。何故於刹那苦果。猶厭難堪。於永劫苦因。欣自恣作。是故當知。煩惱菩提。體雖是一。時用異故染淨不同如水與冰。亦如種果。其體是一。隨時用異。由此修道者顯本有佛

大引本作火
㊞鼓本論作錮
字今寫誤
㊞觀禪苦本論
作坐禪觀三字
今寫誤
勒一本註宋作
勒心
緣下建本西本
及引本皆有已
上二字挾註

共生極樂。圓滿究竟前四弘願。若有別願者。四弘前唱之。若心不淨非正道因。若心有限。非大菩提。若無至誠。其力不強。是故要須清淨深廣誠心。不爲勝他名利等事。而於佛眼所照無盡法界一切衆生。一切煩惱。一切法門。一切佛德。發此四種之願行也。問。於何法中。求無上道。答。此有利鈍二差別。如大論云。如黃石中有金性。白石中有銀性。如是一切世間法中。皆有涅槃性。諸佛賢聖。以智慧方便。持戒禪定。引導。令得是涅槃法性。利根者。即知是諸法皆是法性。譬如神通人。能變瓦石皆使爲金。鈍根者方便分別求之。乃得法性。譬如大冶鼓石。然後得金。已上 又云。苦行頭陀。初中後夜。勤心觀禪苦而得道。聲聞教也。觀諸法相。無縛無解。心得清淨。菩薩教也。如文殊師利本緣。即引無行經喜根菩薩偈云。婬欲即是道。恚癡亦如是。如此三事中。無量諸佛道。若有人分別婬怒癡

㊣提下本經有心字

薩發無上菩提心。又莊嚴菩提心經云。菩提心者。非有非造。離於文字。菩提即是心。心即是衆生。若能如是解。是名菩薩修菩提。菩提非過去未來現在。如是心衆生。亦非過去。未來現在。能如是解。名爲菩薩。然於是中。實無所得。以無所得故得。若於一切法無所得。是名得菩提。爲始行衆生故。說有菩提。乃至然於是中。亦無有心。亦無造心者。亦無有菩提。亦無造菩提者。亦無有衆生。亦無造衆生者。云云乃至此二四弘。各有二義。一云。初二願。拔衆生苦集二諦苦。後二願。與衆生道滅二諦樂。二云。初一約他。後三約自。謂拔衆生二諦苦。與衆生二諦樂。總在初願中。爲欲究竟圓滿此願。更約自身。發後三願。如大般若經云。爲利有情。求大菩提。故名菩薩。而不依著。故名摩訶薩。已上又前三是因是別。第四是果是總。四弘已後。可云自他法界同利益。共生極樂。成佛道。心中應念。我與衆生

邊誓願斷。此是攝律儀戒。亦是斷德心。亦是正因佛性。法身菩提因。三法門無盡誓願知。此是攝善法戒。亦是智德心。亦是了因佛性。報身菩提因。四無上菩提誓願證。此是願求佛果菩提。謂由具足前三行願。證得三身圓滿菩提。還亦廣度一切諸生。二緣理願者。一切諸法。本來寂靜。非有非無。非常非斷。不生不滅。不垢不淨。一色一香無非中道。生死即涅槃。煩惱即菩提。翻一々塵勞門。即是八萬四千諸波羅蜜。無明變爲明。如融冰成水。更非遠物。不餘處來。但一念心。普皆具足如如意珠。非有寶非無寶。若謂無者即妄語、若謂有者即邪見。不可以心知。不可以言辯。衆生於此不思議不縛法中。而思想作縛。於無脫法中。而求於脫。是故普於法界一切衆生。起大慈悲。興四弘誓。是名順理發心。是最上菩提心。可見止觀第一。　又思益經云。知一切法非法。知一切衆生非衆生。是名菩

原淨上脫註字歟或別有意歟

三下一本有惣

提恐薩已下同

樂集云。大經云。凡欲往生淨土。要須發菩提心為源。云何菩提者。乃是無上佛道之名也。若欲發心作佛者。此心廣大周遍法界。此心長遠。盡未來際。此心普備離二乘障。若能一發此心。傾無始生死有輪。淨土論云。發菩提心者。正是願作佛心。願作佛心者。即是度衆生心。度衆生心者。即是攝受衆生。生有佛國土心。今既願生淨土故。先須發菩提心也。已上 當知菩提心。是淨土菩提之綱要。故聊以三門。決擇其義。行者勿厭繁。一明菩提心行相。二明利益。三料簡。初行相者。總謂之願作佛心。亦名上求菩提。下化衆生心。別謂之。四弘誓願。此有二種。一緣事四弘願。是即衆生緣慈。或復法緣慈也。二緣理四弘。是無緣慈悲也。言緣事四弘者。一衆生無邊誓願度。應念一切衆生悉有佛性。我皆令入無餘涅槃。此心即是饒益有情戒。亦是恩德心。亦是緣因佛性。應身菩提因。二煩惱無

清淨月。增益面光色。頭面禮佛足。彼佛所言說。破除諸罪根。美言多所益。我今稽首禮。一切賢聖衆。及諸人天衆。咸皆共歸命。是故我亦禮。乘彼八道船。能度難度海。自度亦度彼。我禮自在者。諸佛無量劫。讚揚其功德。猶尙不能盡。歸命清淨人。我今亦如是。稱讚無量德。以是福因緣。願佛常念我。以此福因緣。所獲上妙德。願諸衆生類。皆亦悉當得。彼論有三十二偈。今略抄要。具在別抄。或復往生論偈。眞言敎佛讚。阿彌陀別讚。此等文一遍多遍。一行多行。但應至誠不論多少。設無餘行。唯依讚歎。亦應隨願。必得往生。如法華偈云。或以歡喜心。歌唄頌佛德。乃至一小音。皆已成佛道。一音既爾。何況常讚。佛果尙爾。何況往生。眞言讚佛。利益甚深。不能顯露。

△第三作願門者。以下三門。是三業相應之意業也。綽禪師安

道建本作導西本引亦同

歎下一本有門

恭敬彌陀尊。故我歸命禮無上兩足尊。四應念。一得聞佛名。過於
優曇華。故我歸命禮極難值遇者。五應念。一百俱胝界。二尊不竝
出。故我歸命禮希有大法王。六應念。佛法衆德海。三世同一體。故
我歸命禮圓融萬德尊。若樂廣行者。應依龍樹菩薩十二禮。又有
善道和尚六時禮法。不可具出。設無餘行。但依禮拜。亦得往生。如
觀虛空藏菩薩佛名經云。阿彌陀佛至心敬禮。得離三惡道。後生
其國。

△第二讚歎者。是三業相應之口業也。如十住婆沙第三云。阿彌
陀佛本願如是。若人念我稱名自歸。即入必定得阿耨菩提。是故
常應憶念以偈稱讚。無量光明慧。身如眞金山。我今身口意合掌
稽首禮。十方現在佛。以種々因緣。歎彼佛功德。我今歸命禮佛足。
千輻輪柔輭蓮華色。見者皆歡喜。頭面禮佛足。眉間白毫光。猶如

拜下一本有門

原挾註恐不當挾註云下一本有一佛二字

諸行業。應通用之。

△初禮拜者。是即三業相應之身業也。一心歸命。五體投地。遙禮西方阿彌陀佛。不論多少。但用誠心。或應念觀佛三昧經文。我今禮一佛。即禮一切佛。若思惟一佛。即見一切佛。一々佛前。有一行者。接足爲禮。皆是己身。私云一切佛者。是彌陀分身。或是十方一切諸佛。或應念。能禮所禮。性空寂。自身他身。體無二。願共衆生。體解道。發無上意。歸眞際。或應依心地觀經。六種功德。一無上大功德田。二無上大恩德。三無足二足。及以多足衆生中尊。四極難値遇。如優曇華。五獨出三千大千世界。六世出世間功德圓滿。一切義依。具如此等六種功德。常能利益一切衆生。已上經文極略。今須加言。以爲禮法。一應念。一稱南無佛。皆已成佛道。故我歸命。禮無上功德田。二應念。慈眼視衆生。平等如一子。故我歸命禮極大慈悲母。三應念。十方諸大士。

何以故。如是一切諸沙門中。乃至一稱佛名。一生信者。所作功德。終不虛設。已上心地觀經意亦如是。故彼經云龍華。不云兜率。今按之。從釋尊入滅至慈尊出世。隔五十七倶胝六十百千歲。新婆沙意其間輪廻。劇苦幾處乎。何不願終焉之暮。即託蓮胎。而期留悠々生死。至龍華會耶。何況若適生極樂者。晝夜隨念。往來兜率宮。乃至龍華會中。新爲對揚首。猶如富貴而歸故鄕。誰人不欣樂此事耶。若有別緣者。餘方亦佳。凡可隨意樂。勿生異執。故感法師云。志求兜率者。勿毀西方行人。願生西方者。莫毀兜率之業。各隨性欲。任情修學。莫相是非。何但不生勝處。亦乃輪轉三途云云

○大文第四。正修念佛者。此亦有五。如世親菩薩往生論云。修五念門行成就。畢竟得生安樂國土。見彼阿彌陀佛。一禮拜門。二讃歎門。三作願門。四觀察門。五廻向門。云云此中作願廻向二門。於

原當作教字歟

原性字當作姓

奘所傳。不可不會。答。西域行法。暗以難決。今試會云。西域行者。多有小乘。十五國學大乘。十五國大小兼學。四十一國學小乘。 上生兜率。大小共許。往他方佛土。大許小不許。彼共許故。竝云兜率。流沙以東。盛興大乘。不可同彼、西域、雜行。何況諸教興隆。不必一時。就中念佛之教。多利末代、經道。滅後濁惡衆生計也。彼時天竺未興盛歟。若不爾者。上足基師。豈容別著西方要決。立十勝劣。勸自他耶。問。心地觀經云。我今弟子付彌勒。龍華會中得解脫。豈非如來勸進兜率。答。此亦無違。誰遮上生心地等兩三經。然不如極樂之文、顯密且千。又大悲經、第三云。於當來世法欲滅時。當有比丘比丘尼。於我法中得出家。已。手牽兒臂。而共遊行。從酒家至酒家。於我法中作非梵行。乃至但使性是沙門。汗沙門行。自稱沙門。形似沙門。當有被著袈裟衣者。於此賢劫。彌勒爲首。乃至最後。盧遮佛所。入般涅槃。無有遺餘。

(原)度當作渡字

誠建本作成西本引本亦同

(原)難往之難作易字今恐寫誤

(原)挟註但以下九字贅經

勒無願。無願若自浮度水。有願若乘舟而遊水。二光明異。謂彌陀佛光照念佛衆生。攝取不捨。彌勒不爾。光照如晝日之遊。無光似暗中來往。三守護異。謂無數化佛觀音勢至。常至行者所。又稱讃淨土經云。十方十殑伽沙諸佛之所攝受。又十往生經云。佛遣二十五菩薩常守護行人。兜率不爾。有護若多人共遊不畏強賊所逼。無護似孤遊嶮徑必爲暴客所侵。四舒舌異。謂十方佛舒舌證誠。兜率不爾。五衆聖異。謂華聚菩薩山海慧菩薩發弘誓願。若有一衆生生西方不盡。我若先去不取正覺。六滅罪多少。如前七重惡異。謂造五逆罪亦得生西方。兜率不爾。八敎說異。謂無量壽經云。橫截五惡趣。惡趣自然閉。昇道無窮極。易往而無人。兜率不爾。十五同義。猶不可說於難生。況異有八門。乃說言難往。請諸學者。尋理及敎鑑其難易二門。可永除其惑矣。已上略抄。但十五同義。可見彼論。

問。云

挾註悉下一本有無內外三字

非下建本西本引本有已上凡立二界勝劣差別之十字挾註

引證據既多。寧可背佛教之明文。從天竺之風聞耶。何況祇洹精舍無常院。令病者面西。作往佛淨刹想。具如下臨終行儀。明知。佛意偏勸極樂。西域風俗。豈乖之耶。又懷感禪師群疑論。於極樂兜率。立十二勝劣。一化主佛菩薩別故。二淨穢土別。三女人有無。四壽命長短。五內外有無。（天內院不退。外院有退。西方悉無退。）六五衰有無。七相好有無。八五通有無。九不善心起不起。十滅罪多少。謂稱彌勒名。除千二百劫罪。稱彌陀名。滅八十億劫罪。十一苦受有無。十二受生異。謂天在男女膝下懷中。西方在華裏殿中。雖二處勝劣。其義如斯。然竝佛勸讚。莫相是非。慈恩立十異。前八不出感師所立。故不更抄。其第九云。西方佛來迎。兜率不爾。感師云。來迎同也。第十云。西方經論慇懃竝極多。兜率非多。亦非慇懃。云云 感師又於往生難易。立十五同義。八異義。八異義者。一本願異。謂彌陀有引攝願。彌

偏有因緣。已上慈恩云。末法萬年。餘經悉滅。彌陀一教。利物偏增。大聖特留百歲。時經末法。滿一萬年。一切諸經。竝從滅沒。釋迦恩重。留教百年。已上又懷感禪師云。般舟三昧經說。跋陀和菩薩。請釋迦牟尼佛言。未來衆生云何。得見十方諸佛。佛教。令念阿彌陀。卽見十方一切佛。以此佛特與娑婆衆生有緣。先於此佛。專心稱念。三昧易成。已上又觀音勢至。本於是土。修菩薩行。轉生彼國。宿緣所追。豈無機應耶。

△第二對兜率者。問。玄奘三藏云。西方道俗。竝作彌勒業。爲同欲界。其行易成。大小乘師。皆許此法。彌陀淨土。恐凡鄙穢修行難成。如舊經論。七地已上菩薩。隨分見報佛淨土。依新論意。三地菩薩。始可得見報佛淨土。豈容下品凡夫。卽得往生。已上天竺既爾。今何勸極樂耶。答。中國邊州。其處雖異。顯密教門。其理是同。如今所

千一本註疑干字歟
建本作反西本亦同引本作返

人得力。應務速出。何暇縱橫論餘術計。行者亦爾。勿生他念。如目連所問經云。譬如萬川長流。有浮草木。前不顧後。後不顧前。都會大海。世間亦爾。雖有豪貴富樂自在。悉不得免生老病死。只由不信佛經。後世爲人。更甚困劇。不能得生千佛國土。是故我說。無量壽佛國。易往易取。而人不能修行往生。還事九十五種邪道。我說是人名無眼人。名無耳人。阿彌陀經云。我見是利。故說是言。若有信者。應當發願。生彼國土。已上佛誠慇懃。唯應仰信。況復非無機緣。何強拒之。如天台十疑云。阿彌陀佛。別有大悲四十八願。接引衆生。又彼佛光明。遍照法界念佛衆生。攝取不捨。十方各恒河沙諸佛。舒舌覆三千界。證誠一切衆生念阿彌陀佛。乘佛大悲本願力。決定得生極樂世界。又無量壽經云。末後法滅之時。特留此經百年。在世接引衆生。生彼國土。故知。阿彌陀與此世界極惡衆生。

寶或本作眞

十住毘婆沙論。四一切經中彌陀偈。五寶性論。六龍樹十二禮偈。七攝大乘論彌陀偈。已上智憬師同之。　私加云。法華經藥王品。四十華嚴經普賢願。目連所問經。三千佛名經。無字寶篋經。千手陀羅尼經。十一面經。不空羂索。如意輪。隨求尊勝。無垢淨光々明。阿彌陀等。諸顯密敎中。專勸極樂。不可稱計。故偏願求。問。佛言。諸佛淨土。實無差別。何故如來偏讚西方。答。隨願往生經。佛決此疑言。娑婆世界。人多貪濁。信向者少。習邪者多。不信正法。不能專一。心亂無志。實無差別。令諸衆生。專心有在。是故讚歎彼國土耳。諸往生人。悉隨彼願。無不獲果。又心地觀經云。諸佛子等應當至心求見一佛及一菩薩。如是名爲出世法要。云云　是故專求一佛國也。問。爲專其心。何故於中。唯勸極樂。答。設勸餘淨土。亦不避此難。佛意難測。唯可仰信。譬若癡人墮於火坑。不能自出。知識救之。以一方便。癡

表題及撰號。長建西引諸本共無蓋不分本末故也

往生要集卷上末

天台首楞嚴院沙門　源信　撰

○大文第三。明極樂證據者。有二。一對十方。二對兜率。

△初對十方者。問。十方有淨土。何唯願生極樂耶。答。天台大師云。諸經論。處々唯勸衆生偏念阿彌陀佛。令求西方極樂世界。無量壽經。觀經往生論等數十餘部經論文。慇懃指授。勸生西方。是以偏念也。已上 大師披閲一切經論。凡十五遍。應知所述。不可不信。迦才師。三卷淨土論。引十二經七論。一無量壽經。二觀經。三小阿彌陀經。四鼓音聲經。五稱揚諸佛功德經。六發覺淨心經。七大集經。八十往生經。九藥師經。十般舟三昧經。十一大阿陀經。十二無量清淨平等覺經。已上。雙觀無量壽經。清淨覺經。大阿彌陀經。同本異譯也。一往生論。二起信論。三

原挾註當移欣求其國下又多依一字鑿

尾題鎌建西引諸本共無蓋不分本末故也

如我今志願極樂。亦往十方引接衆生。如彌陀佛大悲本願。如是利益。不亦樂乎。一世勤修。是須臾間。何不棄衆事求淨土哉。願諸行者。努力匪懈。（多依雙觀經。並天台十疑等意。）龍樹偈云。彼尊無量方便境。無有諸趣惡知識。往生不退至菩提。故我頂禮彌陀佛。我說彼尊功德事。衆善無邊如海水。所獲善根清淨者。願共衆生。生彼國。願共諸衆生往生安樂國。

往生要集上本終

提道。其餘衆生。非己智分。象子力微。身歿刀箭。故龍樹菩薩云。譬如四十里冰。如有一人。以一升熱湯投之。當時似冰減。經夜至明。乃高於餘者。凡夫在此。發心救苦。亦復如是。以貪瞋境。順違多故。自起煩惱。還墮惡道。已上 彼極樂國土衆生。有多因緣。故畢竟不退。增進佛道。一佛悲願力。常攝持故。二佛光常照。增菩提心故。三水鳥樹林。風鈴等聲。常令生念佛念法念僧之心故。四純諸菩薩以爲善友。外無惡緣。內伏重惑故。五壽命永劫。共佛齊等。修習佛道。無有生死之間隔。故華嚴偈云。若有衆生一見佛。必使淨除諸業障。一見尚爾。何況常見。由此因緣。彼土衆生。於所有萬物。無我々所心。去來進止。心無所係。於諸衆生。得大悲心。自然增進。悟無生忍。究竟必至一生補處。乃至速證無上菩提。爲衆生故。示現八相。隨緣在於嚴淨國土。轉妙法輪。度諸衆生。令諸衆生。欣求其國。

天建本作大西本引本亦同

原彼土之土字本論作諸字

陳建本西本及引年作陣

乃一本作及

敎文。無不嗟歎。而若適得生極樂國。或由自力。或承佛力。朝往暮來。須臾去須臾還。遍至十方一切佛刹。面奉諸佛。値遇諸天士。恆聞正法。受大菩提記。乃至普入一切塵刹。作諸佛事。修普賢行。不亦樂乎。阿彌陀經。平等覺經。雙觀經ノ意。　龍樹偈云。彼土大菩薩。日々於三昧。供養十方佛。是故稽首禮。

△第十增進佛道樂者。今此娑婆世界。修道得果甚難。何者受苦者常憂。受樂者常著。苦云樂云。遠離解脫。若昇若沈。無非輪廻。適雖有發心修行者。亦難成就。煩惱內催。惡緣外牽。或發二乘心。或還三惡道。譬猶水中之月。隨波易動。陳前之軍。臨刃則還。魚子難長。菴果少熟。如彼身子等。六十劫退者是也。唯釋迦如來。於無量劫。難行苦行。積功累德。求菩薩道。未曾止息。觀三千大千世界。乃至無有如芥子計。非是菩薩。捨身命處。爲衆生故。然後乃得成菩

已上二字建本無西本引本亦同

各下一本註遺宋有相

法樂。亦在何處乎。已上此中ハ多依ル雙觀經。平等覺經等ノ意。龍樹讚曰。金底寶間池生華。善根所成妙臺座。於彼座上。如山王。故我頂禮彌陀佛。諸有無常無我等。亦如水月電影露。爲衆說法無名字。故我頂禮彌陀佛。願共諸衆生。往生安樂國。

△第九隨心供佛樂者。彼土衆生。晝夜六時。常持種々天華。供養無量壽佛。又有意欲供養他方諸佛。卽前長跪。叉手白佛。則可之。皆大歡喜。千億萬人。各自飜飛。等輩相追。俱共散飛。到八方上下。無央數諸佛所。皆前作禮。供養恭敬。如是每日晨朝。各以衣裓。盛衆妙華。供養他方十萬億佛。及諸衣服伎樂。一切俱具。隨意出生。供養恭敬。卽以食時。還到本國。飯食經行。受諸法樂。或言每日三時。供養諸佛。行者今從遺教。得聞十方佛土。種種功德。隨見隨聞。遙生戀慕。各謂言。我等何時。得見十方淨土。得值諸佛菩薩。每對

原之衆下依雙觀經當有聽受經法宣布道化八字也今恐脫
原無量之量字亦依經當作上字今寫誤
原容下亦依經當有發字
原說下亦依經當有意字今脫

法。令其疾開解得道。如是隨種々機說種々法。又觀音勢至兩菩薩。常在佛左右邊坐侍政論。佛常與是兩菩薩共對坐議八方上下。去來現在之事。或時東方恆沙佛國。無量無數諸菩薩衆。皆悉往詣無量壽佛所。恭敬供養。及諸菩薩聲聞之衆。南西北方四維上下。亦復如是。見彼嚴淨土。微妙難思議。因發無量心。願我國亦然。應時世尊。動容微咲。口出無數光。遍照十方國。迴光圍身。三匝入頂。一切天人衆。踊躍皆歡喜。大士觀世音。整服稽首問佛。何緣咲唯然。願說。時梵聲猶雷。八音暢妙響。當授菩薩記。告言。仁諦聽。十方來正士。吾悉知彼願。志求嚴淨土。受決當作佛。覺了一切法。猶如夢幻響。滿足諸妙願。必成如是刹。知法如電影。究竟菩薩道。具諸功德本。受決當作佛。通達諸法性。一切空無我。專求淨佛土。必成如是刹。況復水鳥樹林。皆演妙法。凡所欲聞自然得聞。如是

腨建本作膊西本引本亦同

見彌陀佛。恆聞深妙法。謂嚴淨地上。有菩薩樹。枝葉四布。衆寶合成。樹上覆寶羅網。條間垂珠瓔珞。風動枝葉。聲演妙法。其聲流布。徧諸佛國。其有聞者。得深法忍。住不退轉。耳根淸徹。覩樹色。聞樹香。嘗樹味。觸樹光。緣樹相。一切亦然。至成佛道。六根淸徹。樹下有座。莊嚴無量。座上有佛。相好無邊。烏瑟高顯。晴天翠濃。白毫右旋。秋月光滿。靑蓮之眼。丹果之脣。迦陵頻之聲。師子相之胷。仙鹿王之腨。千輻輪之趺。如是八萬四千相好。纒絡紫磨金身。無量塵數光明。如集億千日月。有時在於七寶講堂。演暢妙法。梵音深妙。悅可衆心。菩薩聲聞。天人大衆。一心合掌。瞻仰尊顏。即時自然微風。吹七寶樹。無量沙華。隨風四散。一切諸天。奏諸音樂。當斯之時。熙怡快樂。不可勝言。或復現廣大身。或現丈六八尺身。或在寶樹下。或在寶池上。隨衆生本宿命求道時。心所喜願。大小隨意爲說經

五六

挾註等下一本
囯鈔有覺

盛市。此等大士。一聞其名。尙非少緣。況百千萬劫。誰得相見者。然彼國土衆生。常會一處。互交言語。問訊恭敬。親近承習。不亦樂乎。已上雙觀經。觀經平等經等意。龍樹偈云。彼土諸菩薩。具足諸相好。皆自莊嚴身。我今歸命禮。超出三界獄。目如蓮華葉。聲聞衆無量。是故稽首禮。又云。十方所來諸佛子。顯現神通至安樂。瞻仰尊顏常恭敬。故我頂禮彌陀佛。

△第八見佛聞法樂者。今此娑婆世界。見佛聞法甚難。師子吼菩薩言。我等無數百千劫。修四無量三解脫。今見大聖牟尼尊。猶如盲龜値浮木。又儒童捨全身。而始得半偈。常啼割肝府。而遠求般若。菩薩尙爾。何況凡夫。佛在舍衞二十五年。彼九億家。三億見佛。三億纔聞。其餘三億。不見不聞。在世尙爾。何況滅後。故法華云。是諸罪衆生。以惡業因緣。過阿僧祇劫。不聞三寶名。而彼國衆生。常

是一生補處大菩薩。其數如恒沙。色相端嚴。功德具足。常在極樂國。圍繞彌陀佛。又諸聲聞衆。其數難量。神智洞達。威力自在。能於掌中。持一切世界。設如大目連。百千萬億。無量無數。於阿僧祇劫。悉共計校彼初會聲聞。所知數者。猶如一渧。其所不知。如大海水。其中般泥洹去者。無央數。新得阿羅漢者。亦無央數。而都不爲增減。譬如大海。雖減恒水。而無增亦無減。諸菩薩衆復倍上數。如大論云。彌陀佛國。菩薩僧多。聲聞僧少。已上如是聖衆。充滿其國。互遙相瞻望。遙聞語聲。同一求道。無有異類。何況復十方恒河沙佛土無量塵數菩薩聖衆。各現神通。至安樂國。瞻仰尊顏。恭敬供養。或齎天妙華。或燒妙寶香。或獻無價衣。或奏天伎樂。發和雅音。歌歎世尊。聽受經法。宣布道化。如是往來。晝夜不絕。東方去西方來。西方去北方來。北方去南方來。四維上下。亦如是。更相開避。猶如

有稱念我名號者。一切皆得不退轉地。十一面經 衆生若聞名。離苦得
解脫。亦遊戲地獄。大悲代受苦。請觀音經偈。 弘誓深如海。歷劫不思議。
侍多千億佛。發大淸淨願。具足神通力。廣修智方便。十方諸國土。
無刹不現身。念念勿生疑。觀世音淨聖。於苦惱死厄。能爲作依怙。
具一切功德。慈眼視衆生。福聚海無量。是故應頂禮。法華經 大勢至
菩薩曰。我能堪任。度諸惡趣未度衆生。寶積經 以智慧光。普照一切。
令離三途。得無上力。故此菩薩名大勢至。觀此菩薩者。除無數劫
阿僧祇。生死之罪。不處胞胎。常遊諸佛淨妙國土。觀經意。 無量無邊
無數劫。廣修願力。助彌陀。常處大衆。宣法言。衆生聞者。得淨眼。神
通周遍十方國。普現一切衆生前。衆生若能至心念。皆悉導令至
安樂。龍樹讃 又云。觀音勢至大名稱。功德智慧倶無量。具足慈悲救
世間。遍遊一切衆生海。如是勝人甚難遇。一心恭敬頭面禮。已上 如

原 定上依十輪經當有等諸二字

淨佛土。文殊般涅槃經ノ意ナリ。彼ノ形像ハ。如シ經ニ廣說カ。又百千億那由他佛。利益衆生。不及文殊師利。於一劫中所作利益。故若稱文殊師利菩薩名者。福多於受持彼百千億諸佛名號。寶積經ノ意ナリ 彌勒菩薩功德無量。若但聞名者。不墮黑闇處。一念稱名者。除却千二百劫生死之罪。有歸依者。於無上道得不退轉。上生經ノ意ナリ 稱讚禮拜者。除百千萬億阿僧祇劫生死罪。虛空藏經。佛名經ノ意ナリ 無量千萬劫所修願智行。廣大不可量。稱揚莫能盡。華嚴經偈ナリ。已上ノ三菩薩ハ。常ニ在ス極樂世界ニ。出タリ四十華嚴經ニ。地藏菩薩。每日晨朝。入恒沙定。周遍法界。拔苦衆生。所有悲願。超餘大士。十輪經ノ意ナリ 彼經偈云。一日稱地藏。功德大名聞。勝俱胝劫中。稱餘智者德。假使百劫中。讚說其功德。猶尚不能盡。故皆當供養。觀世音菩薩言。衆生有苦。三稱我名。不往救者。不取正覺。弘猛海慧經 若有稱念百千俱胝那庾多諸佛名號。復有暫時於我名號。至心稱念。彼二功德平等平等。諸

原一日下且依文殊般涅槃經有至字今恐脱

原誦下又有文殊師利四字

尚不得聞我名字。況見我身。若有衆生。得聞我名。於阿耨菩提。不復退轉。乃至夢中見聞我者。亦復如是。華嚴經意也。 又云。我常隨順諸衆生。盡於未來一切劫。恒修普賢廣大行。圓滿無上大菩提。普賢身相如虛空。依眞而住非國土。隨諸衆生心所欲。示現普身等一切。一切刹中諸佛所。種々三昧現神通。一々神通悉周遍。十方國土無遺者。如一切刹如來所。彼刹塵中悉亦然。同經偈也。 文殊師利大聖尊。三世諸佛以爲母。十方如來初發心。皆是文殊敎化力。一切世界諸有情。聞名見身及光相。並見隨類諸化現。皆成佛道難思議。心地觀經意也。 若但聞名者。除十二億劫生死之罪。若禮拜供養者。恒生佛家。若稱名字。一日七日。文殊必來。若有宿障。夢中得見。所求圓滿。若見形像者。百千劫中。不墮惡道。若行慈心者。即得見文殊。若有受持讀誦名者。設有重障。不墮阿鼻極惡猛火。常生他方淸

蜎一本作蠉

世々生々。恩所知識。隨心引接。以天眼見生處。以天耳聞言音。以宿命智憶其恩。以他心智了其心。以神境通隨逐變現。以方便力教誡示導。如平等經云。彼土衆生。皆自知其前世所從來生。及知八方上下。去來現在之事。知彼諸天人民。蜎飛蝡動之類。心意所念。口所欲言。何歲何劫。當生此國。作菩薩道。得阿羅漢。皆豫知之。又華嚴經普賢願云。願我臨欲命終時。盡除一切諸障礙。面見彼佛阿彌陀。即得往生安樂剎。我既往生彼國已。現前成就此大願。一切圓滿盡無餘。利生一切衆生界。無緣尚爾。況結緣乎。龍樹偈云。無垢莊嚴光。一念及一時。普照諸佛會。利益諸群生。

△第七聖衆俱會樂者。如經云。衆生聞者。應當發願願生彼國。所以者何。得與如是諸上善人俱會一處。已上 彼諸菩薩。聖衆德行。不可思議。普賢菩薩言。若有衆生。未種善根。及種少善聲聞菩薩。猶

量。終無生老病死之苦。心事相應。無愛別離苦。慈眼等視。無怨憎會苦。白業之報。無求不得苦。金剛之身。無五盛陰苦。一託七寶莊嚴之臺。長別三界共輪之海。若有別願。雖生他方。是自在生滅。非業報生滅。尚無不苦不樂之名。何況諸苦耶。龍樹偈云。若人生彼國。終不墮惡趣及與阿修羅。我今歸命禮。

△第六引接結緣樂者。人之在世。所求不如意。樹欲靜而風不停。子欲養而親不待。志雖春肝膽。力不堪水菽。君臣師弟妻子朋友。一切恩所。一切知識。皆亦如是。空勞癡愛之心。彌增輪廻之業。況復業果推遷。生處相隔。六趣四處。不知何處。野獸山禽。誰辯舊親。如心地觀經偈云。世人爲子造諸罪。墮在三途長受苦。男女非聖無神通。不見輪廻難可報。有情輪廻生六道。猶如車輪無始終。或爲父母爲男女。世々生々互有恩。若生極樂。智慧高明神通洞達。

㊟惡本論作二字

臨命終。隨罪墮苦。彼西方世界。受樂無窮。人天交接。兩得相見。慈悲薰心。互如一子。共經行於瑠璃地上。同遊戲於栴檀林間。從宮殿至宮殿。從林池至林池。若欲寂時。風浪絃管。自隔耳下。若欲見時。山川溪谷。尚現眼前。香味觸法。隨念亦然。或渡飛梯作伎樂。或騰虛空現神通。或從他方大士而迎送。或伴天人聖衆以遊覽。或至寶池邊。慰問新生人。汝知不。是處名極樂世界。是界主號彌陀佛。今當歸依。或同在寶池中。各坐蓮臺上。互說宿命事。我本在其國。發心求道之時。持其經典。護其戒行。作其善法。修其布施。各語所好喜之功德。具陳所來生之本末。或共語十方諸佛利生之方便。或共議三有衆生拔苦之因緣。議已追緣而相去。語已隨樂而共往。或復登七寶山。（七寶山。七寶塔。七寶坊。出十往生經。）浴八功池。寂然宴默。讀誦解脫。如是遊樂。相續無間。處是不退。永免三途八難之畏。壽亦無

原　皆字本論作能
原　故我本論作是故

無量殊勝功德。凡八方上下無央數諸佛國中。極樂世界所有功德。最爲第一。以二百一十億諸佛淨土。嚴淨妙事。皆攝在此中。若觀如是國土相者。除無量億劫極重惡業。命終之後。必生彼國。依二種觀經。阿彌陀經。稱讚淨土經。寶積經。平等覺經。思惟經等意記之世親偈云。觀彼世界相。勝過三界道。究竟如虛空。廣大無邊際。寶華千萬種。彌覆池流泉。微風動華葉。交錯光亂轉。宮殿諸樓閣。觀十方無礙。雜樹異光色。寶欄遍圍繞。無量寶絞絡。羅網遍虛空。種々鈴發響。宣吐妙法音。衆生所願樂。一切皆滿足。故我願生彼阿彌陀佛國。

△第五快樂無退樂者。今此娑婆世界。無可耽玩。輪王之位。七寶不久。天上之樂。五衰早來。乃至有頂。輪廻無期。況餘世人乎。事與願違。樂與苦俱。富者未必壽。壽者未必富。或昨富今貧。或朝生暮死。故經言。出息不待入息。入息不待出息。非唯眼前樂去哀來。亦

類一本作類

勞垢習。自然不起。凡自地至空。宮殿華樹。一切萬物。皆以無量雜寶。百千種香。而共合成。其香普薰十方世界。菩薩聞者。皆修佛行。復彼國菩薩羅漢。諸衆生等。若欲食時。七寶之机自然現前。七寶之鉢妙味滿中。不類世間之味。亦非天上之味。香美無比。甜酢隨意。見色聞香。身心清潔。即同食已。色力增長。事已化去。時至復現。又彼土衆生。欲得衣服。隨念即至。如佛所讃。應法妙服。自然在身。不求裁縫染治澣濯。又光明周遍。不用日月燈燭。冷暖調和。無有春秋冬夏。自然德風。温冷調適。觸衆生身。皆得快樂。譬如比丘得滅盡三昧。每日晨朝。吹散妙華。遍滿佛土。馨香芬烈。微妙柔軟。如兜羅綿。足履其上。蹈下四寸。隨擧足已。還復如故。過晨朝已。其華沒地。舊華既沒。更雨新華。中時。晡時。初中後夜。亦復如是。此等所有微妙五境。雖令見聞覺者。身心適悅。而不增長有情貪著。更增

栴檀樹。行行相當。葉葉相次。紫金之葉。白銀之枝。珊瑚之華。硨磲之實。一寶七寶。或純或雜。枝葉華果。莊嚴映飾。和風時來。吹諸寶樹。羅網微動。妙華徐落。隨風散馥。雜水流芬。況出微妙音。宮商相和。譬如百千種樂同時俱作。聞者自然念佛法僧。彼第六天萬種音樂。不如此樹一種音聲。葉間生華。華上有果。皆放光明。化爲寶蓋。一切佛事。映現蓋中。乃至欲見十方嚴淨佛土。於寶樹間。皆悉照見。樹上有七重寶網。寶網間有五百億妙華宮殿。宮殿中有諸天童子。瓔珞光耀。自在遊樂。如是七寶諸樹。周遍世界。名華軟草。亦隨處有。柔軟香潔。觸者生樂。已上樹林

衆寶羅網。彌滿虛空。懸諸寶鈴。宣妙法音。天華妙色。繽紛亂墜。寶衣嚴具。旋轉來下。如鳥飛空下。供散於諸佛。又有無量樂器。懸處虛空。不鼓自鳴。皆說妙法。已上虛空

復如意妙香。塗香抹香。無量香芬馥。遍滿於世界。若有聞者。塵

四六

光中有諸化佛。微瀾廻流轉相灌注。安詳徐逝。不遲不疾。其聲微妙。無不佛法。或演說苦空無我。諸波羅蜜。或流出十力無畏不共法音。或大慈悲聲。或無生忍聲。隨其所聞。歡喜無量。隨順淸淨寂滅眞實之義。隨順菩薩聲聞所行之道。又鳧鴈鴛鴦。鶖鷺鵝鶴。孔雀鸚鵡。伽陵頻迦等。百寶色鳥。晝夜六時出和雅音。讃嘆念佛。念法。念比丘僧。演暢五根五力。七菩提分。無有三途苦難之名。但有自然快樂之音。彼諸菩薩。及聲聞衆。入於寶池。洗浴之時。淺深隨念。不違其心。蕩除心垢。淸明澄潔。洗浴已訖。各々自去。或在空中。或在樹下。有講經誦經者。有受經聽經者。有坐禪者。有經行者。其中未得須陀洹者。則得須陀洹。乃至未得阿羅漢者。得阿羅漢。未得阿惟越致者。得阿惟越致。皆悉得道。莫不歡喜。復有淸河。底布金沙。淺深寒溫。曲從人好。衆人遊覽。同萃河濱。已上水相池畔河岸有

牀一本作床

所見悉是淨妙色。所聞無不解脫聲。香味觸境亦復如是。謂彼世界。以瑠璃爲地。金繩界其道。坦然平正無有高下。恢廓曠蕩無有邊際。晃耀微妙。奇麗清淨。以諸妙衣遍布其地。一切人天。踐之而行。已上地相 衆寶國土一々界上。有五百億七寶所成宮殿樓閣。高下隨心。廣狹應念。諸寶牀座。妙衣敷上。七重欄楯。百億華幢。垂珠瓔珞。懸寶幡蓋。殿裏樓上。有諸天人。常作伎樂。歌詠如來。已上宮殿 講堂精舍。宮殿樓閣內外左右。有諸浴池。黃金池底白銀沙。白銀池底黃金沙。水精池底瑠璃沙。瑠璃池底水精沙。珊瑚琥珀。硨磲瑪瑙。白玉紫金。亦復如是。八功德水充滿其中。寶沙映徹。無深不照。八功德者。一澄淨。二清冷。三甘美。四輕輭。五潤澤。六安和。七飯時除飢渴等無量過患。八飲已定能長養諸根四大。增益種種殊勝根善。 四邊階道。衆寶合成。種々寶華。彌覆池中。青蓮有青光。黃蓮有黃光。赤蓮白蓮各有其光。微風吹來華光亂轉。一々華中。各有菩薩。一々

四四

鏡下西本有所字

原挾註等下當有意字多依恐鑿

禮下一本有往生要集卷上本終八字

第四上一本有往生要集卷上末盡第四門半天臺首楞嚴院沙門源信撰二十三字

隨心自在。若欲見十方界色。不運步即見。欲聞十方界聲。不起座即聞。無量宿命之事。如今日所聞。六道衆生之心。如明鏡見像。無央數之佛刹。如咫尺往來。凡橫於百千萬億那由他國。竪於百千萬億那由他劫。一念之中自在無礙。今此界衆生。於三十二相。誰得一相。於五神通。誰得一通。非燈日無以照。非行步無以至。雖一紙不見其外。雖一念不知其後。樊籠未出。隨事有礙。而彼土衆生。無有一人不具此德。不於百大劫中而種相好業。不於四靜慮中。而修神通。因只是彼土。任運生得之果報。不亦樂乎。多依雙觀經平等覺經等。

龍樹偈云。人天身相同。猶如金山頂。諸勝所歸處。是故頭面禮。其有生彼國。具天眼耳通。十方竝無礙。稽首聖中尊。其國諸衆生。神變及身通。亦具宿命智。是故歸命禮。

△第四五妙境界樂者。四十八願莊嚴淨土。一切萬物。窮美極妙。

池西本作地引本亦同

㊐挾註多依二字鑿

匃一本作乢疑
凶

上處寶池中央觀音勢至。威儀尊重。亦坐寶華侍佛左右。無量聖衆。恭敬圍繞。又寶地上寶樹行列。寶樹下各有一佛二菩薩。光明嚴飾遍瑠璃地。如夜闇中燃大炬火。時觀音勢至。來至行者前。出大悲音。種々慰喩。行者從蓮臺下。五體投地。頭面敬禮。即從菩薩。漸至佛所。跪七寶階。瞻萬德之尊容。聞一實道。入普賢之願海。歡喜雨淚。渴仰徹骨。始入佛界。得未曾有。行者昔於娑婆纔讀經文。今正見此事。歡喜心幾乎。多依經等意。龍樹偈曰。若人種善根疑則華不開。信心清淨者。華開則見佛。

△第三身相神通樂者。彼土衆生。其身眞金色。內外俱清淨。常有光明。彼此互照。三十二相。具足莊嚴。端正殊妙。世間無比。諸聲聞衆。身光一尋。菩薩光明照百由旬。或云十萬由旬。以第六天主。比彼土衆生。猶如乞匃在帝王邊。又彼諸衆生。皆具五通。妙用難測。

一本註駃疑駃字歟

上雲一本無

是故我歸命。

△第二蓮華初開樂者。行者生彼國已。蓮華初開時。所有歡樂。倍前百千。猶如盲者始得明眼。亦如邊鄙忽入王宮。自見其身。身既作紫磨金色體。亦有自然寶衣。鐶釧寶冠。莊嚴無量。見佛光明。得清淨眼。因前宿習。聞衆法音。觸色觸聲。無不奇妙。盡虛空界之莊嚴。眼迷雲路。轉妙法輪之音聲。聽滿寶刹。樓殿林池。表裏照曜。鳧鴈鴛鴦。遠近群飛。或見衆生如駃雨。從十方世界生。或見聖衆如恒沙。從無數佛土來。或有登樓臺。望十方者。或有乘宮殿。住虛空者。或有住空中。誦經說法者。或有住空中。坐禪入定者。地上林間。亦復如是。處々復有涉河濯流。奏樂散華。往來樓殿。禮讚如來之者。如是無量天人聖衆。隨心遊戲。況化佛菩薩。香雲華雲。充滿國界。不可具名。又漸廻眸。遙以瞻望。彌陀如來。如金山王。坐寶蓮華

皎建本作晧西本引本亦同

⊕原挾註依字恐贅

心供佛樂。十增進佛道樂也。

△第一聖衆來迎樂者。凡惡業人命盡時。風火先去。故動熱多苦。善行人命盡時。地水先去。故緩緩無苦。何況念佛功積。運心年深之者。臨命終時。大喜自生。所以然者。彌陀如來以本願故。與諸菩薩。百千比丘衆。放大光明。皎然在目前。時大悲觀世音。申百福莊嚴手。擎寶蓮臺。至行者前。大勢至菩薩。與無量聖衆。同時讃嘆。授手引接。是時行者。目自見之。心中歡喜。身心安樂。如入禪定。當知。草菴瞑目之間。便是蓮臺結跏之程。即從彌陀佛後。在菩薩衆中。一念之頃。得生西方極樂世界。（依觀經。平等覺經。並傳記等意。）彼忉利天上億千歲樂。大梵王宮深禪定樂。此等諸樂。未足爲樂。輪轉無際。不免三途。而今處觀音掌。託寶蓮胎。永越過苦海。初往生淨土。爾時歡喜心。不可以言宣。龍樹偈云。若人命終時。得生彼國者。即具無量德。

腸鎌本作腹建腹建本西本引本亦同

藏。肪膏與皮膜。五藏諸腸胃。如是臭爛等諸不淨同居。罪身深可畏。此即是怨家。無識耽欲人。愚癡常保護。如是穢臭身猶如朽城廓。日夜煩惱逼。遷流無暫停。身城骨牆壁。血肉作塗泥。畫彩貪瞋癡。隨處而枉飾。可惡骨身城。血肉相連合。常被惡知識内外苦相煎。難陀汝當知。如我之所說。晝夜常繫念。勿思於欲境。若欲遠離者。常作如是觀。勤求解脫處。速超生死海。已上諸餘利益。可見大論止觀等。

○大文第二。欣求淨土者。極樂依正功德無量。百劫千劫說不能盡。算分喩分亦非所知。然群疑論明三十種益。安國抄標二十四樂。既知。稱揚只在人心。今擧十樂而讚淨土。猶如一毛之渧大海。一聖衆來迎樂。二蓮華初開樂。三身相神通樂。四五妙境界樂。五快樂無退樂。六引接結緣樂。七聖衆俱會樂。八見佛聞法樂。九隨

三九

〔原〕貪本論作但字
〔原〕觀察本論作繫念語異義同也
捉一本作投

〔原〕舍本經作倉字今恐似寫誤寶鎌本及建本作寶西本引本亦同
熟一本作熱

爲室。柔和忍辱衣。諸法空爲座。處此爲說法。已上 諸法空觀尚不妨大慈悲心。何況苦無常等。催菩薩悲願乎。是故大般若等經。以不淨等觀。亦爲菩薩法。若欲知者。更讀經文。問。如是觀念。有何利益。答。若常如是調伏心者。五欲微薄。乃至臨終。正念不亂不墮惡處。如大莊嚴論。勤進繫念偈云。盛年無患時。懈怠不精進。貪營衆事務。不修施戒禪。臨爲死所吞。方悔求修善。智者應觀察斷除五欲想。精勤習心者。終時無悔恨。心意既專至。無有錯亂念。智者勤捉心。臨終意不散。不習心專至。臨終必散亂。已上 又寶積經五十七偈云。應觀於此身。筋脈更纏繞。濕皮相裏覆。九處有瘡門。周遍常流溢。屎尿諸不淨。譬如舍與篅。盛諸穀麥等。此身亦如是。雜穢滿其中。運動骨機關。危脆非賢寶。愚夫常愛樂。智者無染著。洟唾汗常流。膿血恒充滿。黃脂雜亂汁。腦滿髑髏中。胸膈痰癊流。內有生熟

原然亦作耽字若亦作苦字

危鎌本及引本作厄

原常本論作恒字

各司其務。隱士誦神呪。烈士按銛刀。殆將曉矣。忽發聲叫。時隱士問曰。誡子無聲。何以驚叫。烈士曰。受命後至夜分。惛然若夢變異更起。見昔事主。躬來慰謝。感荷厚恩。忍不報語。彼人震怒。遂見殺害。受中陰身。顧屍嘆惜。猶願歷世。不言以報厚德。遂見託生南印度。大婆羅門家。乃至受胎。出胎備經苦危。荷恩荷德。嘗不出聲。洎乎受業冠婚。喪親生子。每念前恩。忍而不語。宗親戚屬。咸見怪異。年過六十有五。我妻謂曰。汝可言矣。若不語者。當殺汝子。我時惟念。已隔生世。自顧衰老。唯此穉子。因止其妻。令無殺害。遂發此聲耳。隱士曰。我之過也。此魔嬈耳。烈士感恩。悲事不成。憤恚而死。已上略抄。夢境如是。諸法亦然。妄想夢未覺。於空謂爲有。故唯識論云。未得眞覺。常處夢中。故佛說爲生死長夜。問。若作無常苦空等觀。豈異小乘自調自度。答。此觀不局小。亦通在大乘。如法華云。大慈悲

原一本雪山上有祇園寺無常堂等四十一字跋謨所謂祇園精舍無常院文有二行餘者是也今用遺宋本故不載斯雪山上西本有祇園寺無常堂四角有頗梨鐘鐘音中亦說此偈病僧聞音苦惱即除得清涼樂如入三禪垂生淨土況復四十一字盧鎌本建本作蘆西本引本亦同

原逮本書作達按亦作按接字恐寫誤返一本作反

原求本書作訪字

原貽本書作賂字

切有爲法如夢幻泡影。如露亦如電。應作如是觀。或復大經偈云。諸行無常是生滅法。生滅滅已。寂滅爲樂。已上雪山大士捨全身而得此偈。行者善思念。不得忽爾之。如說觀察應當離貪瞋癡等惑業。如師子追人。不應作外道無益苦行。如癡狗追塊。問。不淨苦無常。其義易了。現見有法體。何說爲空。答。豈不經說如無幻化。故例夢境。當觀空義。如西域記云。波羅痆斯國。施鹿林東。行二三里。有涸池。昔有一隱士。於此池側。結廬屛迹。博習伎術。究極神理。能使瓦礫爲寶。人畜易形。但未能馭風雲陪仙駕。閱圖考古。更求仙術。其方曰。命一烈士。執長刀。立壇隅。屛息絕言。自昏逮旦。求仙者中壇而坐。手按長刀。口誦神呪。收視返聽。遲明登仙。遂依仙方。求一烈士。數加重貽。潛行陰德。隱士曰。願一夕不聲耳。烈士曰。死尙不辭。豈徒屛息。於是設壇場受仙法。依方行事。坐待日曛。曛暮之後。

三六

原有爲諸法本書作所謂有爲四字

無我二字鎌本及建本無之引本亦同

原盧本經作唐

之果報。煩惱駛河漂衆生。爲深怖畏熾然苦。欲滅如是諸塵勞。應修眞實解脫諦。離諸世間假名法。則得淸淨不動處。已上。有百十行偈。今略抄若存略者。如馬鳴菩薩。頼吒和羅伎聲唱云。有爲諸法。如幻如化。三界獄縛。無一可樂。王位高顯勢力自在。無常既至。誰得存者。如空中雲須臾散滅。是身虛僞猶如芭蕉。爲怨爲賊。不可近親。如毒蛇篋。誰當愛樂。是故諸佛。常呵此身。已上此中具演無常苦空無我聞者悟道。或復堅牢比丘壁上偈云。生死不斷絕。貪欲嗜味故。養怨入丘塚。虛受諸辛苦。身臭如死屍。九孔流不淨。如厠蟲樂糞。愚貪身無異。憶想妄分別。則是五欲本。智者不分別。五欲則斷滅。邪念生貪著。貪著生煩惱。正念無貪欲。餘煩惱亦盡。已上過去彌樓揵馱佛滅後。正法滅時。陀摩尸利菩薩。求得此偈。弘宣佛法。利益無量衆生。或復仁王經。有四非常偈。可見。若樂極略者。如金剛經云。一

原本書無等活之等字今剩然原本作然今依一本改
原本書無地獄之地字今剩
原又無其一之其字今剩
原被本書作致字
原本書無清淨之淨字今剩

時中當眠息。初中後夜觀生死。宜勤求度。勿空過。譬如少鹽置恆河。不能令水有鹹味。微細之惡遇衆善。消滅散壞亦如是。雖受梵天離欲娛。還墮無間熾然苦。雖居天宮具光明。後入地獄黑闇中。所謂黑繩等活地獄。燒割剌剝及無間。是八地獄常熾燃。皆是衆生惡業報。若見圖畫聞他言。或隨經書自憶念。如是知時以難忍。況復己身自經歷。若復有人。一日中以三百矛鑽其體。比阿鼻地獄一念苦。百千萬分不及其一。於畜生中苦無量。或有繫縛及鞭韃。或爲明珠羽角牙骨毛皮肉被殘害。餓鬼道中苦亦然。諸所須欲不隨意。飢渴所逼困寒熱。疲乏等苦甚無量。屎尿糞穢諸不淨。百千萬劫莫能得。設復推求得少分。更相劫奪尋散失。清涼秋月患熘熱。溫和春日轉寒苦。若趣園林衆果盡。設至清淨流變枯竭。罪業緣故壽長遠。經有一萬五千歲。受衆楚毒無空缺。皆是餓鬼

原 醜本書作卑字又上作士字今即寫誤

愧下西本有不放逸三字

原 知足雖貧本書作得而不著四字

原 有財多欲是本書作爲欲所馳逐五字

原 酸本書作痠字

隱鎌本作穩建本引本亦然

人乃分別知其虛誑便棄捨。譬如疥者近猛焰。初雖暫悅後增苦。貪欲之想亦復然。始雖樂著終多患。見身實相皆不淨。即是觀於空無我。若能修習斯觀者。於利益中最無上。雖有色族及多聞。若無戒智猶禽獸。雖處醜賤少聞見。能修戒智名勝上。利衰八法莫能免。若有除斷眞無匹。諸有沙門婆羅門。父母妻子及眷屬。莫爲彼意受其言。廣造不善非法行。設爲此等起諸過。未來大苦唯身受。夫造衆惡不即報。非如刀劍交傷割。臨終罪相始俱現。後入地獄嬰諸苦。信戒施聞慧慙愧。如是七法名聖財。眞實無比牟尼說。超越世間衆珍寶。知足雖貧可名富。有財多欲是名貧。若豐財業增諸苦。如龍多首益酸毒。當觀美味如毒藥。以智慧水灑令淨。爲存此身雖應食。勿貪色味長憍慢。於諸欲染當生厭。勤求無上涅槃道。調和此身令安隱。然後宜應修齋戒。一夜分別有五時。於二

瓜建本作爪西本引本亦同
經下建本一本有偈字
浴恐俗

云。一人一劫中所受諸身骨。常積不腐敗。如毘布羅山。一劫尚爾。況無量劫。我等未曾修道。故徒歷無邊劫。今若不勤修。未來亦可然。如是無量生死之中。得人身甚難。縱得人身。具諸根亦難。縱具諸根。遇佛敎亦難。縱遇佛敎。生信心亦難。故大經云。生人趣者。如瓜上土。墮三途者。如十方土。法華經云。無量無數劫。聞是法亦難。能聽是法者。此人亦復難。而亦適具此等緣。當知。應離苦海。往生淨土。只在今生。而我等頭戴霜雪。心染浴塵。一生雖盡。希望不盡。遂辭白日下。獨入黃泉底之時。墮多百踰繕那洞然猛火中。雖呼天扣地。有何益乎。願諸行者。疾生厭離心。速隨出要路。莫入寶山。空手而歸。問。以何等相。應生厭心。答。若欲廣觀。如前所說。六道因果。不淨苦等。或復龍樹菩薩。勸發禪陀迦王偈云。是身不淨九孔流。無有窮已。若河海。薄皮覆蔽。似淸淨。猶假瓔珞自莊嚴。諸有智

而建本一本作
如引本亦同

苦鎌本作共建
本引本一本亦
同

△第七總結厭相者。謂一篋偏苦。非可耽荒。四山合來。無所避遁。
而諸衆生。以貪愛自蔽。深著於五欲。非常謂常。非樂謂樂。彼如洗
癰置睫。猶盍厭。況復刀山火湯漸將至。誰有智者。寶玩此身乎。故
正法念經偈云。智者常懷憂。而似獄中囚。愚人常觀樂。猶如光音
天。寶積經偈云。種々惡業求財物。養育妻子謂歡娯。臨命終時苦
逼身。妻子無能相救者。於彼三塗怖畏中。不見妻子及親識。車馬
財寶屬他人。受苦誰能苦分者。父母兄弟及妻子。朋友僮僕竝珍
財。死去無一來相親。唯有黑業常隨逐。乃至閻羅常告彼罪人。無有
少罪我能加。汝自作罪今自來。業報自招無代者。父母妻子無能
救。唯當勤修出離因。是故應捨枷鎖業。善知遠離求安樂。又大集
經偈云。妻子珍寶及王位。臨命終時不隨者。唯戒及施不放逸。今
世後世爲伴侶。如是展轉作惡受苦。徒生徒死。輪轉無際。如經偈

甲鎌本作介建本西本引本亦然

原卒依六波羅蜜經作亦字

原悲依六波羅蜜作咄字

草。偃臥林間。悲泣歎曰。此諸天女。我常憐愍。云何一旦。棄我如草。我今無依無怙。誰救我者。善見宮城。於今將絕。帝釋寶座。朝謁無由。殊勝殿中。永斷瞻望。釋天寶象。何日同乘。衆車苑中。無復能見。麤澀苑內。甲冑長辭。雜林苑中。宴會無日。歡喜苑中。遊止無期。劫波樹下。白玉輭石。更無坐時。曼陀枳尼。殊勝池水。沐浴無由。四種甘露。卒難得食。五妙音樂。頓絕聽聞。悲哉此身。獨嬰此苦。願垂慈悲。救我壽命。更延少日。不亦樂乎。勿令墮彼馬頭山沃焦海。雖作是言。無敢救者。六波羅蜜經。當知此苦甚於地獄。故正法念經偈云。天上欲退時。心生大苦惱。地獄衆苦毒。十六不及一。又大德天。既生之後。舊天眷屬。捨而從彼。或有威德天。不順心時。驅令出宮。不能得住。瑜伽餘五欲天。悉有此苦。上二界中。雖無如此之事。終有退沒之苦。乃至悲想。不免阿鼻。當知天上亦不可樂。已上天道

賢鎌本作賢建本西本引本亦然

原非下本書有或出家人智解溢胷或精進滅火而不悟無常諺云可憐無五媚精進無道心此之謂也三十四字

數下建本有數字引本亦同

無常一事。終無避處。須如說修行。欣求常樂果。如止觀云。無常殺鬼。不擇豪賢。危脆不堅。難可恃怙。云何安然規望百歲。四方馳求。貯積聚斂。聚斂未足。溘然長往。所有產貨。徒爲他有。冥々獨逝誰訪是非。若覺無常。過於暴水猛風掣電。山海空市。無逃避處。如是觀已。心大怖畏。眠不安席。食不甘哺。如救頭燃。以求出要。又云。譬如野干。失耳尾牙。詐眠望脫。忽聞斷頭。心大驚怖。遭生老病。尙不爲急。死事弗奢。那得不怖。怖心起時。如履湯火。五塵六欲。不暇貪染。已上取意。人道如此。實可厭離。

△第六。明天道者有三。一者欲界。二者色界。三者無色界。其相既廣難可具述。且擧一處。以例其餘。如彼忉利天。雖快樂無極。臨命終時。五衰相現。一頭上華鬘忽萎。二天衣塵垢所著。三腋下汗出。四兩目數眴。五不樂本居。是相現時。天女眷屬皆悉遠離。棄之如

原臥下本經有各々長時四字

原減少本經作隨減二字

有必二字鎌本作必有建本引本亦然

原高本經作豪

他鎌建西三本共作地

原脫止本經作脫之今寫誤

長時行。不暫休息。是名爲外苦。住及坐臥。亦復皆苦。略抄諸餘苦相。眼前可見。不可俟說。三無常者。涅槃經云。人命不停。過於山水。今日雖存。明亦難保。云何縱心。令住惡法。出曜經云。此日已過。命即減少。如小水魚。斯有何樂。摩耶經偈云。譬如栴陀羅。驅牛至屠所。步々近死地。人命亦如是。已上設雖有長壽業。終不免無常。設雖感富貴報。必有衰患期。如大經偈云。一切諸世間生者皆歸死。壽命雖無量。要必有終盡。夫盛有必衰。合會有別離。壯年不久停。盛色病所侵。命爲死所呑。無有法常者。又罪業應報經偈云。水渚不常滿。火盛不久燃。日出須臾沒。月滿已復缺。尊榮高貴者。無常速過是。當念懃精進。頂禮無上尊。已上非唯諸凡下有此怖畏。登仙得通者。亦復如是。如法句譬喩經偈云。非空非海中。非入山石間。無有他方處。脫止不受死。騰空入海隱巖。三人因緣。如經廣說。當知。諸餘苦患。或有免者。

二七

所愛男女皆亦如是。誰有智者。更生樂著。故止觀云。未見此相。愛染甚强。若見此已。欲心都罷。懸不忍耐。如不見糞。猶能噉飯。忽聞臭氣。即便嘔吐。又云。若證此相。雖復高眉翠眼。皓齒丹唇。如一聚屎。粉覆其上。亦如爛屍。假著繒彩。尙不眼見。況當身近。雇鹿杖自害。況飮抱婬樂。如是想者。是婬欲病之大黃湯。二苦者。此身從初生時。常受苦惱。如寶積經說。若男若女。適生墮地。或以手捧。或衣承接。或冬夏時。冷熱風觸。受大苦惱。如生剝牛。觸於墻壁。取意長大之後。亦多苦惱。同經說。受於此身。有二種苦。所謂眼耳鼻舌。咽喉牙齒。胷腹手足。有諸病生。如是四百四病。逼切其身。名爲內苦。復有外苦。所謂或在牢獄。撾打楚撻。或劓耳鼻。及削手足。諸惡鬼神。而得其便。復爲蚊虻蜂等毒蟲。之所唼食。寒熱飢渇。風雨竝至。種々苦惱。逼切其身。此五陰身。一々威儀。行住坐臥。無不皆苦。若

五字建本無之

縱上建本有又字引本亦同

穢下挾註一本作取大論止觀等意體八字體一本作身

擅一本作齰

暴建本西本引本作曝

㊗挾註見字剩

憂愁。衆病現前。無有良醫能爲除療。出第五十五七略抄 僧伽吒經說。人將死時。諸蟲怖畏。互相噉食。受諸苦痛。男女眷屬。生大悲惱。諸蟲相食。唯有二蟲。七日鬪諍。過七日已。一蟲命盡。一蟲猶存。已上蟲蛆 縱食上饍。衆味。經宿之間。皆爲不淨。譬如糞穢大小倶臭。此身亦爾。從少至老。唯是不淨。傾海水洗。不可令淨潔。外雖施端嚴相。內唯裹諸不淨。猶如畫瓶而盛糞穢。大論止觀等意 故禪經偈云。知身臭不淨。愚者故愛惜。外視好顏色。不觀內不淨。已上擧體不淨 況復命終之後。捐捨塚間。經一二日。乃至七日。其身膖脹。色變靑瘀。臭爛皮穿。膿血流出。鵰鷲鵄梟。野干狗等。種々禽獸。擅掣食噉。禽獸食已。不淨潰爛。有無量種蟲蛆。雜出臭處。可惡過於死狗。乃至成白骨已。支節分散。手足髑髏。各在異處。風吹日暴。雨灌霜封。積有歲年。色相變異。遂腐朽碎末。與塵土相和。已上究竟不淨。見大般若止觀等 當知此身始終不淨。

原二戶之二字本經作一字今寫誤

原五上本經有復有二字

原心上本經有復字

腸爲受盛之府。亦爲心府。長十六尋。其色赤。胃爲五穀之府。亦爲脾府。三升。糞在中。其色黃。膀胱爲津液之府。亦爲腎府。一斗。尿在中。其色黑。三膲爲中瀆之府。如此等物。縱橫分布。大小二腸。赤白交色。十八周轉。如毒蛇蟠。已上。腹中府藏。又從頂至趺。從髓至膚。有八萬戶蟲。四頭四口。九十九尾。形相非一。一々戶復有九萬細蟲。小於秋毫。禪經次第禪門等。寶積經云。初出胎時。經於七日。八萬戶蟲。從身而生。縱橫食噉。有二戶蟲。名舐髮。依髮根住。常食其髮。二戶蟲。名繞眼。依眼住。常食眼。四戶蟲。依腦食腦。一戶名稻葉。依耳食耳。一戶名藏口。依鼻食鼻。二戶。一名遙擲。依唇食唇。一戶名針口。依舌食舌。五百戶。依左邊食左邊。右邊亦然。四戶食生藏。二戶食熟藏。四戶依小便道食尿而住。四戶依大便道食糞而住。乃至一戶。名黑頭。依腳食腳。如是八萬。依止此身。晝夜食噉。令身熱惱心有

肉一本作完一本囯遺宋作宍

熟一本作熱下同

肉一本作宛一本囯鈔作宍

碎建本及引本無

潰建本作殞西本亦同

原九十下依次第禪門當有九字

骨。聚所成。如朽壞舍。諸節支持。以四細脈周匝彌布。五百分肉。猶如泥塗。六脈相繫。五百筋纏。七百細脈。以爲編絡。十六麤脈。鉤帶相連。有二肉繩。長三尋半。於內纏結。十六腸胃。繞生熟藏。二十五氣脈。猶如窻隙。一百七關。肉。如破碎器。八萬毛孔。如亂草覆。五根七竅。不淨盈滿。七重皮裹。六味長養。猶如祠火呑受無厭。如是之身。一切臭穢。自性潰爛。誰當於此愛重憍慢。寶積經九十六　或云。九百臠。覆其上。九百筋。連其間。有三萬六千之脈。三升之血。在中流注。有九十九萬之毛孔。諸汗常出。九十九重之皮。而裹其上。已上ハ身中ノ骨肉等ナリ。

又腹中有五藏。葉々相覆。靡々向下。狀如蓮華。孔竅空疎。內外相通。各有九十重。肺藏在上。其色白。肝藏其色青。心藏在中央。其色赤。脾藏其色黃。腎藏在下其色黑。又有六府。謂大腸爲傳送之府。亦爲肺府。長三尋半。其色白。膽爲清淨之府。亦爲肝府。其色青。小

經下西本有一時頃或七時頃或有九字　中字西本無　劫下西本有乃至百千萬億劫七字　挾註鎌本無建本亦無　支引鎌本有二字上　慞原本作章準上改　曰鎌本建本作日西本引本亦同　不可等四字西本爲挾註　淨下鎌本有相字　㊟原指骨等依涅槃經作依因指骨以拄足骨八字足骨已下皆準之作句也　腨鎌本作蹲建本西本引本亦同　經一本作論

生。或經一中劫。受無量苦。或遇諸違緣。數被殘害。此等諸苦。不可勝計。愚癡無慚。徒受信施。他物不償者。受此報。已上諸文散在經論。

△第四明阿修羅道者。有二。根本勝者。住須彌山北。巨海之底。支流劣者。在四大洲間。山巖之中。雲雷若鳴。謂是天鼓。怖畏周慞。心大戰悼。亦常爲諸天之所侵害。或破身體。或夭其命。又曰。日三時。苦具自來逼害。種々憂苦。不可勝說。

△第五明人道者。略有三相。應審觀察。一不淨相。二苦相。三無常相。一不淨者。凡人身中。有三百六十之骨。節々相拄。謂指骨拄足骨。足骨拄踝骨。踝骨拄腨骨。腨骨拄膝骨。膝骨拄髀骨。髀骨拄臗骨。臗骨拄腰骨。腰骨拄脊骨。脊骨拄肋骨。復脊骨拄項骨。項骨拄頷骨。頷骨拄牙齒。上有髑髏。復項骨拄肩骨。肩骨拄臂骨。臂骨拄腕骨。腕骨拄掌骨。掌骨拄指骨。如是展轉。次第鎖成。大經三百六十

本有逆字引本亦同

原用依瑜伽論當作食字今即寫誤

原月年即倒

原性依六波羅蜜經當作族字

原或下依六波羅蜜經當有以字又鉤下當有釣字捶一本作捶

原而生二字恐倒

死上建本有而字

踠原本作宛依一本注改

食下西本有或復有如一毛百分或如窓中遊麌或如十千由旬二十字

有依内障不得食鬼。謂口如針孔。腹如大山。縱逢飲食。無由噉之。或有無内外障。而不能用。鬼謂適逢少食。而食噉者。變作猛焰。燒身而出。瑜伽論以人間一月。爲一日夜。成月年。壽五百歳。正法念經云。慳貪嫉妬者。墮餓鬼道。

△第三明畜生道者。其住處有二。根本住大海。支末雜人天。別論有三十四億種類。總論不出三。一者禽類。二者獸類。三者蟲類。如是等類。强弱相害。若飲若食。未曾暫安。晝夜之中。常懷怖懼。況復諸水性之屬。爲漁者所害。諸陸行之類。爲獵者所害。若如象馬牛驢。駱駝騾等。或鐵鉤斷其腦。或穿鼻中。或轡繫首。身常負重。加諸杖捶。但念水草。餘無所知。又蚰蜒鼠狼等。闇中而生。闇中死。蟣蝨蚤等。依人身生。還依人死。又諸龍衆。受三熱苦。晝夜無休。或復蟒蛇。其身長大。聾騃無足。踠轉腹行。爲諸小蟲之所唼食。如是諸畜

原若恐昔字歟
原千依念經作十字又踰作逾字
原渚下依念經有以惡業故四字今恐似脫
賈一本作賣
屍火西本作火屍
原取字依念經作禁字
鬼上建本引本鎌本有餓字
原押亦作墮字或西本無
原燒下依六波羅蜜經有其身二字今恐脫
密鎌本及建本作蜜西本亦同
投原本作沒依原及一本注改
膿原本作濃依原改
原竭依瑜伽當作槁字今寫誤
原杖下依瑜伽有逆字杖下鎌本及建

父母。設祀之時。得而食之。餘悉不能食。若人勞而得小物。誑惑取用之者。受此報。或有鬼生海渚中。無有樹林河水。其處甚熱。以彼冬日。比人間夏。過踰千倍。唯以朝露。而自活命。雖住海渚。見海枯竭。昔行路之人。病苦疲極。欺取其賈。與直薄少之者。受此報。或有鬼常至塚間。噉燒屍火。猶不能足。昔典主刑獄。取人飲食者。受此報。或有鬼生在樹中。逼迮押身。如賊木蟲。受大苦惱。昔伐陰涼樹。及伐衆僧園林之者。受此報。正法念經 或復有鬼。頭髮垂下。遍纏身體。其髮如刀。刺切其身。或變作火。周匝焚燒。或有鬼。晝夜各生五子。隨生食之。猶常飢乏。六波羅密經 復有鬼。一切之食。皆不能噉。唯自破頭。取腦而食。或有鬼。火從口出。飛蛾投火。以爲飲食。或有鬼。食糞涕膿血。洗器遺餘。大論 又有依外障。不得食鬼。謂飢渴常急。身體枯竭。適望淸流。走向趣彼。有大力鬼。以杖打。或變作火。或悉枯涸。或

分下西本有或身長一尺或身量如人或千踰那或如雪山(大集經)二十一字一本更踰下有繕字
原財下依念經當有故字今恐脫
原自食上依念經有誑惑其夫四字又子上有心懷慳嫉不與其七字命下西本有者字
慞原本作障依原改
原悕念經作希字

二者在人天之間。其相甚多。今明少分。或有鬼名鑊身。其身長大。過人兩倍。無有面目。手足猶如鑊脚。熱火滿中焚燒其身。昔貪財屠殺之者。受此報。或有鬼名食吐。其身廣大。長半由旬。常求嘔吐。困不能得。昔或丈夫自噉美食。不與妻子。或婦人自食不與夫子。受此報。或有鬼名食氣。世人依病。水邊林中設祭。嗅此香氣。以自活命。昔於妻子等前。獨噉美食者。受此報。或有鬼名食法。於嶮難處。馳走求食。色如黑雲。涙流如雨。若至僧寺。有人呪願。說法之時。因此得力活命。昔爲貪名利。不淨說法之者。受此報。或有鬼名食水。飢渴燒身。周慞求水。困不能得。長髮覆面。目無所見。走趣河邊。若人渡河。脚足之下。遺落餘水。速疾接取。以自活命。或人掬水。施亡父母。則得少分。命得存立。若自取水。守水諸鬼。以杖撾打。昔沽酒加水。或沈蚓蛾。不修善法者。受此報。或有鬼名悕望。世人爲亡

猛一本作燃　南鎌本作兩建本西本引本亦然　(原)烈本論作列今即寫誤　鉗原本作鉆準上改　惡業二字依一本加　迦字鎌本作伽建本西本引本亦同　遑下鎌本有廣字

灰水。彌滿其中。彼諸有情。尋求舍宅。從彼出已。來墮此中。猶如以豆置之大鑊。然猛熾火。而煎煮之。隨湯騰湧。周旋回復。於河南岸。有諸獄卒。手執杖索。及以大網。行列而住。遮彼有情。不令得出。或以索羂。或以網漉。復置廣大熱鐵地上。仰彼有情。而問之言。汝等今者。欲何所須。如是答言。我等今者。竟無覺知。然爲種々飢苦所逼。時彼獄卒。卽以鐵鉗。鉗口令開。便以極熱燒然鐵丸。置其口中。餘如前說。若彼答言。我今唯爲渴苦所逼。爾時獄卒。便卽洋銅以灌其口。由是因緣。長時受苦。乃至先世所造。一切惡業。能感那落迦。惡不善業。未盡。未出此中。若刀劍刃路。若刃葉林。若鐵設拉末梨林。總之爲一。故有四園。已上。瑜迦竝倶舍意。一一地獄。四門之外各有四園。合爲十六。不同正法念經八大地獄。十六別處。名相各別。復有頞部陀等八寒地獄。具如經論。不遑述之。

△第二明餓鬼道者。住處有二。一者在地下五百由旬。閻魔王界。

逐鎌本作遂建本西本亦然

原胎本論作腒今即寫誤

柆鎌本作粒引本作拉

烏建本作鳥西本引本亦同

原探本論作啗字

柆鎌本作粒

舍宅遊行。至此下足之時。皮肉及血。並即消爛。擧足還生。次此煻煨。無間即有屎糞泥。此諸有情。爲求舍宅。從彼出已。漸々遊行。陷入其中。首足倶沒。又屎糞泥內。多有諸蟲。名孃矩吒。穿皮入肉。斷筋破骨。取髓而食。次屎糞泥無間。有利刀劍。仰刃爲路。彼諸有情。爲求舍宅。從彼出已遊行至此。下足之時。皮肉筋血。悉皆消爛。擧足之時。還復如故。次刀劍刃路無間。有刃葉林。彼諸有情。爲求舍宅。從彼出已。往趣彼陰。纔坐其下。微風遂起。刃葉墮落。斫截其身一切支節。便即躃地。有黑黧狗。摣掣脊胎。而噉食之。從此刃葉林無間。有鐵設柆末梨林。彼諸有情。爲求舍宅。便來趣之。遂登其上。當登之時。一切刺鋒。悉回向下。欲下之時。一切刺鋒。復回向上。由此因緣。貫刺其身。遍諸支節。爾時便有鐵觜大烏。上彼頭上。或上其髆。探啄眼精。而噉食之。從鐵設柆末梨林無間。有廣大河。沸熱

鑊一本注曰鈔作鑵

之一本無

出西本一本作生

原依念經合已下有鳥字執一本注曰鈔作散受下鎌本及建本有大字引本亦同

原決斷依念經當作斷截又人用之下當有河字今恐脫一本註曰之下鈔遺宋有河字

原置本論作有字爲一本無

始從足甲。漸々䶩食。或入猛火焚燒。或在鐵鑊煎煮。無量億歲受如是苦。昔取佛財物。食用之者。墮此中。復有別處。名雨山聚處。謂一由旬量鐵山。從上而下。打彼罪人。碎如沙揣。碎已復生。生已復碎。又有十一炎。周遍燒身。又獄卒以刀。遍割身分。極熱白鑞汁。入其割處。四百四病具足。常有長久受苦。無有年歲。昔取辟支佛之食。自食不與之者。墮此復有別處。名閻婆度處。有惡鳥。身大如象。名曰閻婆。觜利出炎。執罪人。遙上空中。東西遊行。然後放之。如石墮地。碎爲百分。碎已復合。合已復執。又利刃滿道。割其足脚。或有炎齒狗。來䶩其身。於長久時。受苦惱。昔決斷人用之。令人渴死之者墮此。餘如經說。已上正法念經。瑜伽第四。通說八大地獄近邊別處云。謂彼一切諸大那落迦。皆有四方四岸四門。鐵墻圍遶。從其四方四門出已。其一々門外。置四出園。謂煻煨齊膝。彼諸有情。出爲求

極下鎌本建本引本有大字
人下西本有既
一本注曰說下遺宋本有若字
(原)俱舍論三字全贅
挾註觀上鎌本有依字建本引本亦然
(原)繞依念經當作執字

鼻地獄之人。見大焦熱地獄罪人。如見他化自在天處。四天下處。欲界六天。聞地獄氣。即皆消盡。何以故。以地獄人極臭故。地獄臭氣。何故不來。有二大山。一名出山。二名沒山。遮彼臭氣。若人聞一切地獄。所有苦惱。皆悉不堪。聞此則死。如是阿鼻大地獄處於千分中。不說一分。何以故。不可說盡。不可得聽。不可譬喩。若有人說。有人聽。如是之人。吐血而死。正法念經略抄 此無間獄。壽一中劫。俱舍論 造五逆罪。撥無因果。誹謗大乘。犯四重。虛食信施者。墮此中。觀佛三昧經

此無間獄四門之外。亦有十六眷屬別處。其中一處名鐵野干食處。謂罪人身上。火然十由旬量。諸地獄中。此苦最勝。又雨鐵塼。如盛夏雨。身體破碎。猶如乾脯。炎牙野干。當來食噉。於一切時。受苦不止。昔燒佛像。燒僧房。燒僧臥具者。墮此中。復有別處。名黑肚處。謂飢渴燒身。自食其肉。食已復生。生已復食。有黑肚蛇。繞彼罪人。

原獄依觀佛經當作猛字

啼鎌本及建本作號西本引本亦同

原釘下本論有釘字今即脫

前字建本無引本亦同

下時。獄火彌盛。遍照八萬四千由旬。又八萬億千。苦中苦者。集在此中。觀佛三昧經略抄。瑜伽第四云。從東方多百踰繕那。三熱大鐵地上。有猛熾火騰焰而來。刺彼有情。穿皮入肉。斷筋破骨。復徹其髓。燒如脂燭。如是擧身。皆成猛焰。如從東方。南西北方。亦復如是。由此因緣。彼諸有情。與猛焰和雜。唯見火聚。從四方來。火焰和雜。無有間隙。所受苦痛。亦無間隙。唯聞苦逼啼叫之聲。知有衆生。又以鐵箕。盛滿三熱鐵炭。而簸揃之。復置熱鐵地上。令登大熱鐵山。上而復下。下而復上。從其口中。拔出其舌。以百鐵釘。而張之令無皺襵。如張牛皮。復更仰臥熱鐵地上。以熱鐵鉗。鉗口令開。以三熱鐵丸。置其口中。即燒其口。及以咽喉。徹於府藏。從下而出。又以洋銅。而灌其口。燒喉及口。徹於府藏。從下流出。已上瑜伽。言三熱者。燒然極燒然。遍極燒然也。前七大地獄。並及別處。一切諸苦。以爲一分。阿鼻地獄一千倍勝。如是阿

長西本一本無

踊建本作涌引本亦同

(原)蜂依念經當作蟒字依一本囯蜂遺宋作蟒

(原)有五之有字依觀佛經按當作又字

無人能救汝。如於大海中。唯取一掬水。此苦如一掬。後苦如大海。既呵嘖已。將向地獄。去彼二萬五千由旬。聞彼地獄啼哭之聲。十倍悶絕。頭面在下。足在於上。經二千年。皆向下行。已上。正法念經略抄 彼阿鼻城。縱廣八萬由旬。七重鐵城。七層鐵網。下有十八隔。刀林周匝。四角有四銅狗。身長四十由旬。眼如電。牙如劍。齒如刀山。舌如鐵刺。一切毛孔。皆出猛火。其烟臭惡。世間無喩。有十八獄卒。頭如羅刹。口如夜叉。有六十四眼。迸散鐵丸。鉤牙上出。高四由旬。牙頭火流。滿阿鼻城。頭上有八牛頭。一々牛頭。有十八角。一々角頭。皆出猛火。又七重城內。有七鐵幢。頭火踊猶如沸泉。其炎流迸。亦滿城內。四門閫上。有八十釜。沸銅踊出。亦滿城內。一々隔門。有八萬四千。鐵蜂大蛇。吐毒吐火。身滿城內。其蛇哮吼。如百千雷。雨大鐵丸。亦滿城內。有五百億蟲。有八萬四千觜。觜頭火流。如雨而下。此蟲

原 依念經地界之界字當作獄字
原 月下依念經當有星字今即脫月字下建本有星字引本亦同已上依一本加
原 依念經無增劫之增字今剩羂字鎌本無建本作羅西本引本亦同

已上正法念經略抄 此大焦熱地獄四門之外。有十六別處。其中一處。一切無間。乃至虛空。皆悉炎然。無針孔許不炎然處。罪人火中發聲唱喚。無量億歲。常燒不止。犯淸淨優婆夷者。墮此中。復有別處。名普受一切苦惱。謂炎刀剝割一切身皮。不侵其肉。既剝其皮。與身相連。敷在熱地。以火燒之。以熱鐵沸灌其身體。如是無量億千歲。受大苦也。比丘以酒誘誑持戒婦女。壞其心已。然後共行。或與財物者。墮此中。餘如經中說。正法念經略抄 八阿鼻地獄者。在大焦熱之下。欲界最底之處。罪人趣向彼時。先中有位。啼哭說偈言。一切唯火炎。遍空無中間。四方及四維。地界無空處。一切地界處。惡人皆遍滿。我今無所歸。孤獨無同伴。在惡處闇中。入大火炎聚。我於虛空中。不見日月。已上 時閻羅人以瞋怒心答曰。或增劫或減劫。大火燒汝身。癡人已作惡。今何用生悔。非是天修羅。健達婆龍鬼。業羂所繫縛。

悉下鎌本建本西本引本有麤字

燃原本作然依一本改(原)魄依念經當作怕字今恐寫誤(原)魄依念經當作怕字今恐寫誤(原)新草恐倒挾註云云二字建本大書引本亦同

聲如雷吼。罪人聞之恐怖更增其手執利刀。腹肚甚大。如黑雲色。眼炎如燈。鉤牙鋒利。臂手皆長。搖動作勢。一切身分。皆悉起。如是種々可畏形狀。堅繫罪人咽。如是將去過六十八百千由旬地海洲城。在海外邊。復行三十六億由旬。漸漸向下十億由旬。一切風中業風第一。如是業風。將惡業人。去到彼處。既到彼已。閻魔王種々呵嘖。呵嘖既已。惡業羂縛。出向地獄。遠見大焦熱地獄。普大炎燃。又聞地獄罪人啼哭之聲。悲愁恐魄。受無量苦。如是無量百千萬億無數年歲。聞啼哭聲。十倍恐魄。心驚怖畏閻羅人呵嘖之言。汝聞地獄聲。已如是怖畏。何況地獄燒。如燒乾薪草。火燒非是燒。惡業乃是燒。火燒則可滅。業燒不可滅 云云 如是苦呵嘖已。將向地獄。有大火聚。其聚擧高五百由旬。其量寬廣二百由旬。炎然熾盛。彼人所作惡業勢力。急擲其身。墮彼火聚。如大山岸。推在險岸。

高下一本有火

原上如是下依念經當有無有年數四字今恐似脫

原下具當作重字今恐寫誤肚建本作肱西本引本亦同

原肚一本作肱字者是惸原本作忙依一本改

疾來。此有分荼離迦池。有水可飲。林有潤影。隨而走趣。道上有坑。滿中熾火。罪人入已。一切身分。皆悉燒盡。燒已復生・生已復燒。渴欲不息。便前進入。既入彼處。分荼離迦炎燃。高五百由旬。彼火燒炙死。而復活。若人自餓死。望得生天。復敎他人。令住邪見者。墮此中。復有別處。名闇火風。謂彼罪人。惡風所吹。在虛空中。無所依處。如輪疾轉。身不可見。如是轉已。異刀風生。碎身如沙。分散十方。散已復生。生已復散・恆常如是・若人作如是見。一切諸法。有常無常。無常者身。常者四大。彼邪見人。受如是苦。餘如經說。（正法念經）七大焦熱地獄者。在焦熱下。縱廣同前。苦相亦同。（大論瑜伽論）但前六地獄根本別處。一切諸苦十倍具受。不可具說。其壽半中劫。殺盜婬飲酒妄語邪見。竝汙淨戒尼者。墮此中。此惡業人。先於中有。見大地獄相。有閻羅人。面有惡狀。手足極熱。捩身怒肚。罪人見之。極大惸怖。其

鎣鎌本建本西本引本作熬原薄依瑜伽當作壔字今恐寫誤

原為下當有一字

原中下當有此焦熱地獄五字

其身。刀甚薄利。如剃頭刀。受如是等。異類諸苦。皆是妄語之果報
也。餘如經說。（正法念經略抄）六焦熱地獄者。在大叫喚之下。縱廣同前。獄
卒捉罪人。臥熱鐵地上。或仰或覆。從頭至足。以大熱鐵棒。或打或
築。令如肉摶。或置極熱大鐵鏊上。猛炎炙之。左右轉之。表裏燒薄。
或以大鐵串。從下貫之。徹頭而出。反覆炙之。令彼有情諸根毛孔。
及以口中悉皆炎起。或入熱鑊。或置鐵樓。鐵火猛盛徹於骨髓。（瑜伽
論）（大論）若以此獄豆許之火。置閻浮提。一時焚盡。況罪人之身。輭如
生蘇。長時焚燒。豈可忍哉。此地獄人。望見前五地獄之火。猶如霜
雪。（正法念經）以人間千六百歲。為他化天一日夜。其壽萬六千歲。以他
化天壽。為日夜。此獄壽亦然。殺盗婬飲酒妄語邪見之者。墮此中。
四門之外。復有十六別處。其中有一處。名分荼離迦。謂彼罪人。一
切身分。無芥子許。無火炎處。異地獄人如是說言。汝速疾來。汝速

飯鎌本建本引
本西本作飮
弄原本作拂依
❶改鎌本建本
引本作抃
者上建本有之
字引本亦同
捉一本作投
❶與恐受歟

卒下鎌本有前
(ス、ム)字建
本引本亦同

二字鎌本無建
本引本亦同

四大洲。若干人皆死。又自身蟲出。破其皮肉骨髓飯食。復有別處。名雲火霧。昔以酒與人令醉已。調戲弄之。令彼羞恥者。墮此受苦。謂獄火滿厚二百肘。獄卒捉罪人。令行火中。從足至頭。一切洋消。擧之還生。如是無量百千歲。與苦不止。餘如經文。又獄卒呵嘖罪人說偈云。於佛所生癡。壞世出世事。燒解脫如火。所謂酒一法也。

正法念經 五大叫喚地獄者。在叫喚下。縱廣同前。苦相亦同。但前四地獄。及諸十六別處。一切諸苦十倍重受。以人間八百歲。爲化樂天一日夜。其壽八千歲。以彼天壽。爲此獄一日夜。其壽八千歲殺盜婬飮酒妄語者墮此中。獄卒呵嘖罪人說偈云。妄語第一火。尙能燒大海。況燒妄語人。如燒草木薪。復有十六別處。其中一處。名受鋒苦。熱鐵利針口舌俱刺。不能啼哭。復有別處。名受無邊苦。獄卒以燒鐵鉗。拔出其舌。拔已復生。生則復拔。拔二眼亦然。復以刀削

抄建長本無引本亦同

少一本作小

鏊鎌本作熬建本西本引本一本亦同

其壽四三字西本無

而建本引本作其

末建本作未

已上。正法念經略抄之。四叫喚地獄者。在衆合下。縱廣同前。獄卒頭黃如金。眼中火出。著赭色衣。手足長大。疾走如風。口出惡聲。而射罪人。罪人惶怖。叩頭求哀。願垂慈愍。少見放捨。雖有此言。彌增瞋怒。大論或以鐵棒打頭。從熱鐵地令走。或置熱鏊。反覆炙之。或擲熱鑊而煎煮之。或驅入猛炎鐵室。或以鉗開口而灌洋銅。燒爛五藏。從下直出。瑜伽論大論罪人說偈。傷恨閻羅人言。汝何無悲心。復何不寂靜。我是悲心器。於我何無悲。時閻羅人答罪人曰。己爲愛羂誑。作惡不善業。今受惡業報。何故瞋恨我。又云。汝本作惡業。爲欲癡所誑。彼時何不悔。今悔何所及。正法念經以人間四百歲。爲兜率天一日夜。其壽四千歲。以兜率壽。爲此地獄一日夜。而壽四千歲。殺盜婬飲酒者。墮此中。復有十六別處。其中有一處。名火末蟲。昔賣酒加益水者。墮此中。具四百四病。風黃冷雜。各有百一病。合有四百四。其一病力。於一日夜。能令

原 盛上依念經有以熱鐵鉢四字。熟下本作熱。

原 活下念經有於彼焰人四字。原 岸下念經有下未至地在空中七字。又鳥下有已到地彼地六字。鳥一本作鳥。大一本作火。身下鎌本有分字。建本亦同。

婬者。墮此中。此大地獄。復有十六別處。謂有一處。名惡見處。取他兒子。強逼邪行。令號哭者。墮此受苦。謂罪人見自兒子在地獄中。獄卒若以鐵杖。若以鐵錐。刺其陰中。若以鐵鉤。釘其陰中。既見自子。如是苦事。愛心悲絕。不可堪忍。此愛心苦。於火燒苦。十六分中。不及其一。彼人如是心苦逼已。復受身苦。謂頭面在下。盛熱銅汁。灌其糞門。入其身內。燒其熟藏大小腸等。次第燒已。在下而出。具受身心二苦。無量百千年中不止。又有別處。名多苦惱。謂男於男行邪行者。墮此受苦。謂見本男子。一切身分。皆悉熱炎。來抱其身。一切身分。皆悉解散。死已復活。極生怖畏。走避而去。墮於嶮岸。有炎觜鳥。炎口野干。而噉食之。復有別處。名忍苦處。取他婦女者。墮此受苦。謂獄卒懸之樹頭。頭面在下。足在於上。下然大炎。燒一切身。燒盡復生。唱喚開口。火從口入。燒其心肺生熟藏等。餘如經說。

河西本作江

廣説二字鎌本無西本亦同

地西本無

鈎上。又彼河中。有熱赤銅汁。漂彼罪人。或有身如日初出者。有身沈沒如重石者。有擧手向天而號哭者。有共相近而號哭者。久受大苦。無主無救。又復獄卒。取地獄人。置刀葉林。見彼樹頭。有好端正嚴飾婦女。如是見已即上彼樹。樹葉如刀。割其身肉。次割其筋。如是劈割一切處。已得上樹。已見彼婦女。復在於地。以欲媚眼。上看罪人。作如是言。念汝因緣。我到此處。汝今何故。不來近我。何不抱我。罪人見已。欲心熾盛。次第復下。刀葉向上。利如剃刀。如前遍割一切身分。既到地已。而彼婦女復在樹頭。罪人見已。而復上樹。如是無量百千億歲。自心所誑。彼地獄中。如是轉行。如是被燒。邪欲爲因。乃至（廣説）獄卒呵嘖罪人。説偈曰。非異人作惡。異人受苦報。自業自得果。衆生皆如是。（正法念經）以人間二百歲。爲夜摩天一日夜。其壽二千歲。以彼天壽。爲此地獄一日夜。其壽二千歲。殺生偸盜邪

岸準上崖下同

第四分字鎌本作別

中建本無引本亦同

原折依念經作打字是

原略抄當作意兩々鎌本西本一本作兩山驅下引本有非人二字

原挾註大論下當有意字大論下鎌本有等字挂建本作掛西本引本亦同

原江當作河字江下建長有河字

殺生偸盜、者。墮此、中。復有異處。名等喚受苦處。謂舉在嶮岸。無量由旬。熱炎、黑繩束縛繫已。然後推之。墮利鐵刀熱地之上。鐵炎、牙狗之所噉食。一切、身分。分々分離。唱聲吼喚。無有救者。昔說法依惡見論。一切不實。不顧一切。投岸自殺者。墮此、中。復有異處。名畏鷲處。謂獄卒怒杖急打。晝夜常走。手執火炎鐵刀。挽弓弩箭。隨後走逐。斫折射之。昔貪物故。殺人縛人奪食者。墮此、中。正法念經略抄。三衆合地獄者。在黑繩下。縱廣同前。多有鐵山。兩々相對。牛頭馬頭等、諸、獄卒。手執器杖。驅令入山間。是時兩山迫來合押。身體摧碎。血流滿地。或有鐵山。從空而落。打於罪人。碎如沙揣、或置石上。以巖押之。或入鐵臼。以鐵杵擣。極惡、獄鬼。并熱鐵、師子虎狼等、諸獸。烏鷲等、鳥。競來食噉。瑜伽論大論又鐵炎、觜鷲。取其腸已。挂在樹頭。而噉食之。彼有大江。中有鐵鈎。皆悉火燃。獄卒執罪人。擲彼、河中。墮鐵

一本註曰岸鈔作崖之一本無

(原)挾註自餘等八字贅又念經下當有意字

(原)挾註論下當有意字

(原)挾註經字下當有意字等上鎌本有復字別建本無引本亦然責鎌本作嘖建本亦然族眷二字鎌本無族屬二字建本引本無

此中、七極苦處。謂在嶮岸下。常爲鐵火所燒。昔放逸殺生之者。墮此中。已上。依正法念經。自餘九處ハ。經中不說。

二黑繩地獄者。在等活下。縱廣同前。獄卒執罪人。臥熱鐵地。以熱鐵繩。縱橫拼身。以熱鐵斧。隨繩切割。或以鋸解。或以刀屠。作百千段。處々散在。又懸熱鐵繩。交橫無數。驅罪人令入其中。惡風暴吹。交絡其身。燒肉焦骨。楚毒無極。已上。瑜伽論。智度論。又左右有大鐵山。山上各建鐵幢。幢頭張鐵繩。繩下多有熱鑊。驅罪人令負鐵山。從繩上行。遙落鐵鑊。摧煮無極。觀佛三昧經 等活地獄。及十六別處一切諸苦十倍重受。獄卒呵責罪人云。心是第一怨。此怨最爲惡。此怨能縛人。送到閻羅處。汝獨地獄燒。爲惡業所食。妻子兄弟等。親族眷屬不能救。乃至廣說。後五地獄。各以前々。一切地獄。所有之諸苦。十倍重受。例應知之。已上。正法念經ノ意也 以人間一百歲。爲忉利天一日夜。其壽一千歲。以忉利天壽。爲一日夜。此地獄壽。一千歲。也

下有字西本無
生之二字西本無
瓮西本作瓫以下同
(原)熟字本經作煮字一本作熱下同
之下者二字西本一本無
昔下西本有大火炎三字
(原)唵當作掩字今恐寫誤

骨髓。昔殺鹿殺鳥之者。墮此中。二刀輪處。謂鐵壁周匝。高十由旬。猛火熾然。常滿其中。人間之火。比此如雪。纔觸其身。碎如芥子。又雨熱鐵。猶如盛雨。復有刀林。其刃極利。復有雨刃。如雨而下。衆苦交至。不可堪忍。昔貪物殺生之者。墮此中。三瓮熟處。謂執罪人入鐵瓮中。煎熟如豆。昔殺生煮食之者。墮此中。四多苦處。謂此地獄。有十千億種。無量楚毒。不可具說。昔以繩縛人。以杖打人。驅人令行於遠路。從嶮處落人。薰煙惱人。令怖小兒。如是等。種々惱人者。皆墮此中。五闇冥處。謂在黑闇處。常爲闇火所燒。大力猛風。吹金剛山。合磨合碎。猶如散沙。熱風所吹。如利刀割。昔唵羊口鼻。二塼之中。置龜押殺者。墮此中。六不喜處。謂有大火炎。晝夜焚燒。熱炎嘴鳥。狗犬野干。其聲極惡。甚可怖畏。常來食噉。骨肉狼藉。金剛嘴蟲。骨中往來。而食其髓。昔吹貝打鼓。作可畏聲。殺害鳥獸者。墮

可還等活鎌本作可々還々等々活々

觜建本作宍西本引本亦同

六焦熱。七大焦熱。八無間。初等活地獄者。在於此閻浮提之下。一千由旬。縱廣一萬由旬。此中罪人。互常懷害心。若適相見。如獵者逢鹿。各以鐵爪。而互爴裂。血肉既盡唯有殘骨。或獄卒手執鐵杖鐵棒。從頭至足。遍皆打築身體。破碎猶如沙揣。或以極利刀。分々割肉。如厨者屠魚肉。凉風來吹。尋活如故。欻然復起如前受苦。或云。空中有聲云。此諸有情。可還等活。或云。獄卒以鐵叉打地。唱云活々。如是等苦。不可具述。已上。依智度論。瑜伽論。諸經要集撰之。以人間五十年。爲四天王天一日一夜。其壽五百歲。以四天王天壽。爲此地獄一日一夜。其壽五百歲。殺生之者。墮此中。已上。壽量ハ依倶舍。業因ハ依正法念經。下ノ六モ亦同之。優婆塞戒經。以初天一年。爲初地獄日夜。下去准之。此地獄四門之外。復有十六眷屬別處。一屎泥處。謂有極熱屎泥。其味最苦。金剛觜蟲。充滿其中。罪人在中。食此熱屎。諸蟲聚集。一時競食。破皮噉骨。折

建本無本字而有盡第四門半五字西本引本亦同

往生要集卷上 本

天台首楞嚴院沙門 源信 撰

夫往生極樂之教行。濁世末代之目足也。道俗貴賤。誰不歸者。但顯密教法。其文非一。事理業因。其行惟多。利智精進之人。未爲難。如予頑魯之者。豈敢矣。是故依念佛一門。聊集經論要文。披之修之。易覺易行。總有十門。分爲三卷。一厭離穢土。二欣求淨土。三極樂證據。四正修念佛。五助念方法。六別時念佛。七念佛利益。八念佛證據。九往生諸業。十問答料簡。置之座右。備於廢忘矣。

○大文第一。厭離穢土者。夫三界無安。最可厭離。今明其相。總有七種。一地獄。二餓鬼。三畜生。四阿修羅。五人。六天。七總結。

△第一。地獄亦分爲八。一等活。二黑繩。三衆合。四叫喚。五大叫喚。

惠心僧都全集第一目次















惠心僧都全集

第一

